目　次

1. ワードでアルバムを作る

皆さんは、デジカメで撮影した写真を、どのようにして印刷していますか？
ほとんどの方は、そのままプリンタでハガキサイズや L 版で印刷し、それをアルバムにはさんでいることと思います。
このテキストでは、撮った写真をそのまま印刷するのではなく、もうひとつステップアップして、ワードでアルバム作成まで行ってから印刷します。

先生。
デジカメで撮った写真をそのまま印刷するのと、ワードでアルバムを作るのとどう違うの？

そうねぇ。ひろしさんのいうとおり、具体的にどう違うのかがしりたいなぁ。

デジカメで撮った写真をそのまま印刷すれば、写真は四角いまま印刷されますよね？
ワードでアルバムを作れば、写真の形を変えたり、写真の周りにぼかしや影を付けたり、タイトルをつけたりできるんですよ。

ひろしさん 「ということは、デジカメで撮った同じ写真でも、カメラ屋さんで印刷してもらったり、プリンタでハガキサイズや L 版に印刷したりしたものと全く違ったものができるってことだよね？」

ひよこ先生 「その通りです。すみこさんは、どんなアルバムを作ってみたいですか？」

けいこさん 「やっぱり、孫の写真をアルバムにしてみたいわね。」

ひよこ先生 「ひろしさんは、どんなアルバムを作ってみたいですか？」

ひろしさん 「今度、旅行に行くから写真をいっぱい撮ってきて、ワードでアルバムを作成するのに挑戦するよ。まずは、このテキストをマスターすることだね。」

ひよこ先生 「難しいところもあるかとは思いますが、このテキストをマスターして、世界で雄一のオリジナルアルバムを作成してみてください。
ワードでアルバムを作った一例が次のようなものになります。」

（1）ワードで作成したいろいろなアルバム

(2)ワードでアルバムを作成する際の注意点

ワードでアルバムを作成する際の注意点は、写真の容量です。
このテキストでは、A4 用紙でアルバムを作成していきます。その中に、複数の写真を挿入するため、1枚の写真の容量が大きいと1ページの容量が相当大きくなってしまいます。そうすると、データの処理に時間がかかるため、ワードでアルバムの作成中や編集中にパソコンが動かなくなったり、作成したアルバムをメールで送信できなかったり、また送信できたとしても相手がなかなか受信できなかったりします。
このような理由から、ワードでアルバムを作成する際には、必ず、写真の容量を小さくしてから取り込むようにしてください。写真の容量を小さくする方法は、「JTrim」のテキストに記載しています。まだ「JTrim」のテキストを終わられていない方は、インストラクターの方に確認してください。

変更前

変更後

種類:JPEG イメージ
撮影日:2008/01/05 11:15
評価:評価なし
大きさ:2048×1536
サイズ:1.30 MB

容量変更前

種類:JPEG イメージ
撮影日:2008/01/05 11:15
評価:評価なし
大きさ:800×600
サイズ:272 KB

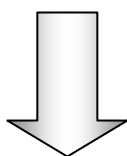
容量変更後

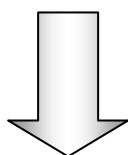
焦らず、ゆっくりと、一歩ずつ進みましょう。それが近道です。

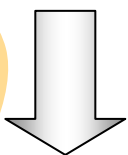
（3）テキストのあらすじ

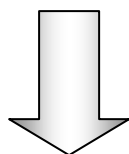
このテキストでは、表紙を含めて合計3ページのアルバムを作成していきます。
それぞれのページで難しいところがあると思いますが、このテキストを順に読み進めていただければ、皆さんが撮られた写真でアルバムを作成できるようになります。
このテキストは中高年の方のためにわかりやすく、やさしく書いていますから安心して読み進めていきましょう。
テキストを読み進めていただくうちに、どうしてこんな機能を覚えなければいけないの？と、わからなければ目次とともに、このあらすじも読み直してください。

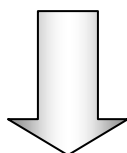
●テキストの流れ

2. アルバムの表紙を作る

2ページ目の作成方法や、
写真を Word の文書内に
挿入する方法、タイトルの
作成方法を学ぶのね。

3. 写真の形状を変更する

ここから2ページ目の作成だね。写真の形を変えたり、影やぼかしなどの効果を与えたり。撮った写真を普通に印刷するより見栄えがするね。

4. 図形を描いてその中に写真を入れる

3 ページ目は、2 ページ目と違う方法でアルバムを作るのね。いろいろな方法を覚えたほうが、自分で作る時に幅がひろがるってものね。

5. アルバム全体をより見栄えがするものに仕上げる

アルバムに背景を付けたり、写真にコメントを追加したりするんだね。改めて思うけど、普通に印刷するのと違ったものになるね。

6. 作成したアルバムを印刷する

へぇ～印刷するのに適した用紙があるのね。苦労して作ったアルバムがきれいに印刷できるように、ここもしっかりテキストを読んでマスターするわ！

7. 表の中に写真を挿入する

これまでとは、少し違った内容になるね。先に表で枠組みをしてから写真を挿入するのかぁ～！

2．アルバムの表紙を作る

ここから、実際にアルバム作成にチャレンジしていただくわけですが、このテキストでは、一冊のアルバムとして見た場合に、表紙があった方が見栄えがするため、アルバムの表紙を作成しています。

【表紙の完成例】

(1)2 ページ目の作成

なぜ、表紙もできていないのに2ページ目を作成するの？

ひろしさん「先生。まだ表紙も作っていないのに、なぜ先に 2 ページ目を作成するの？普通に考えれば、先に表紙を作って、次に 2 ページ目の作成だと思うんだけど…」

ひよこ先生「そうですね。先に写真などを入れて、表紙を作成してしまってから2ページ目を作成してもいいのですが、簡単にワードでアルバムを作成していただくためですよ。このテキストでは、簡単にワードでアルバムを作成していただくために 2 ページ目を先に作成しているんですよ。」

ひろしさん「そうなのかぁ～～～。簡単にワードでアルバムを作るための工夫だと考えればいいね。」

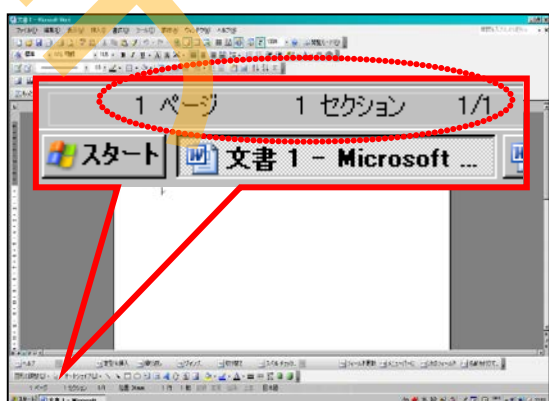
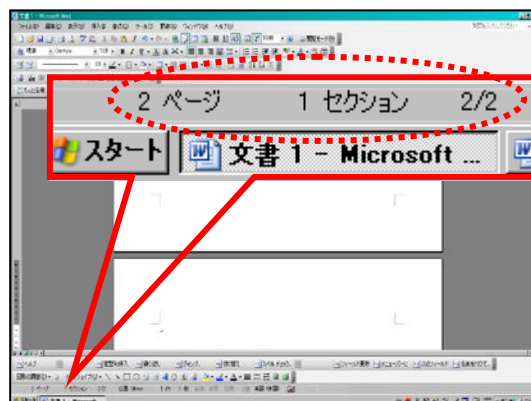
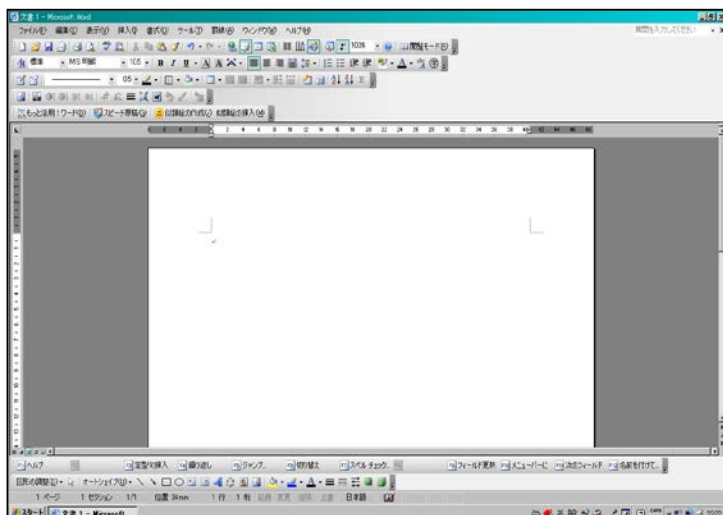
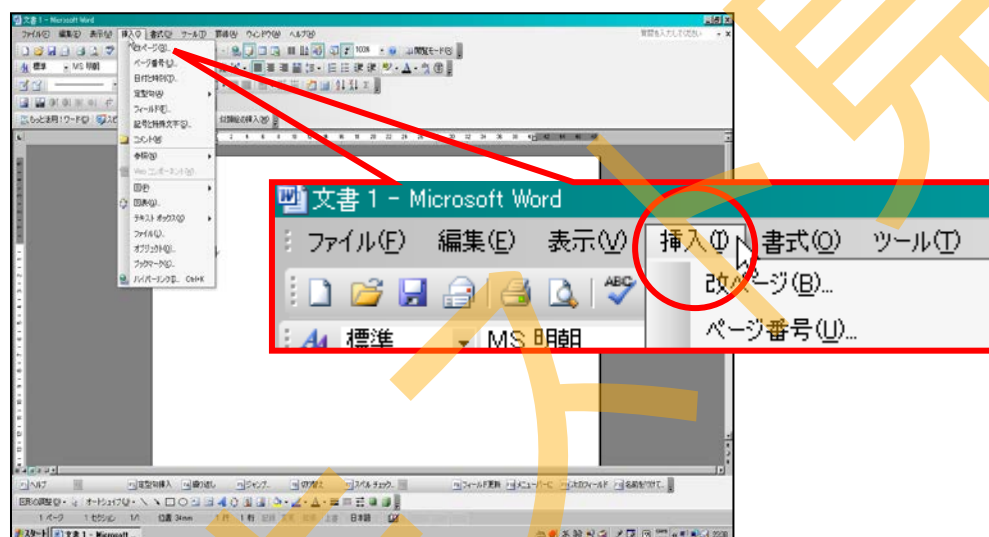
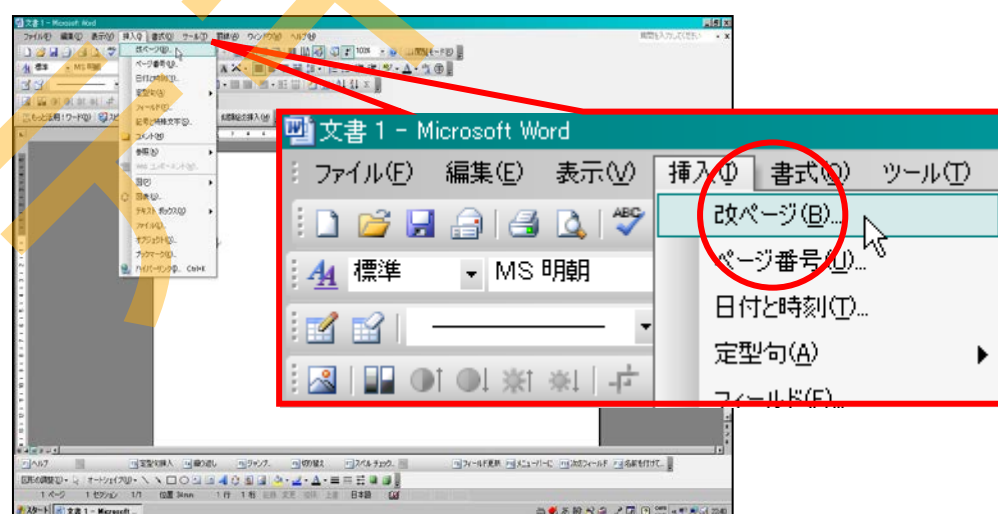
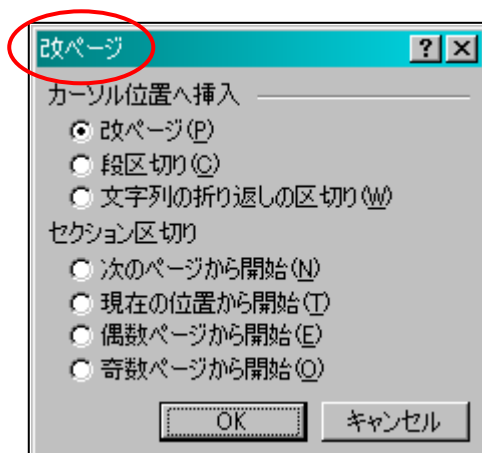
ひよこ先生「はい。簡単にワードでアルバムを作成するには、今から作成する次のページを先に作ることがいちばんいい方法ですよ。」

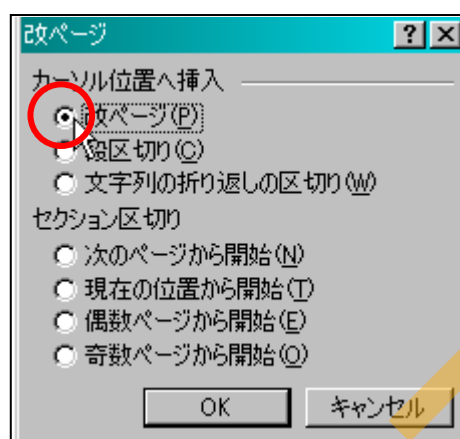
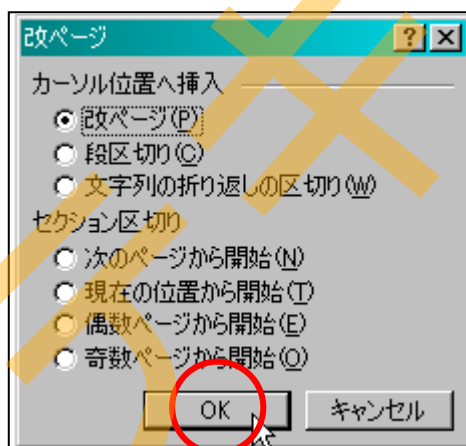
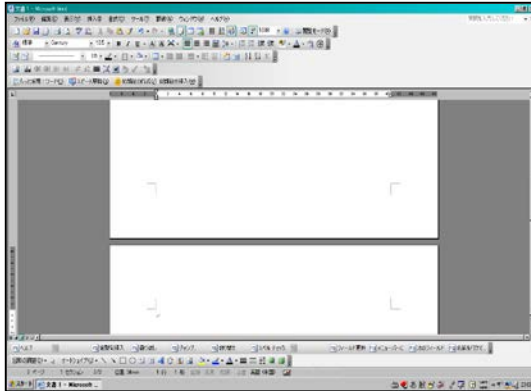
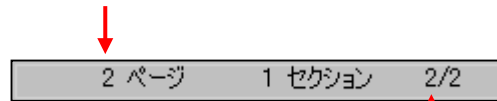
2ページ目を作成するには、何通りか方法がありますが、ここではメニューバーの[挿入]→[改ページ]から行います。

■　メニューバー

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　挿入(I)　書式(O)　ツール(T)　罫線(A)　ウィンドウ(W)　ヘルプ(H)

◆2 ページ目の作成方法をマスターしましょう。

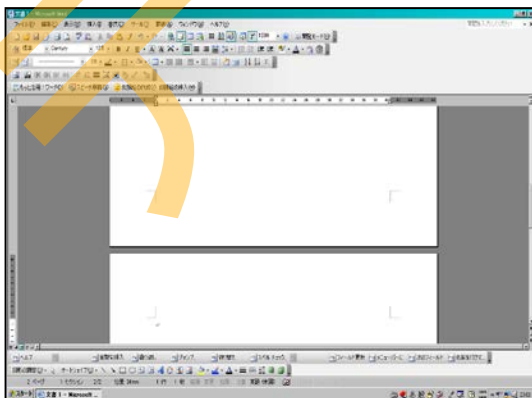
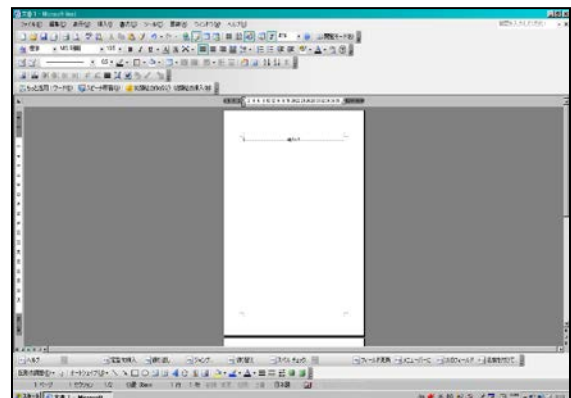
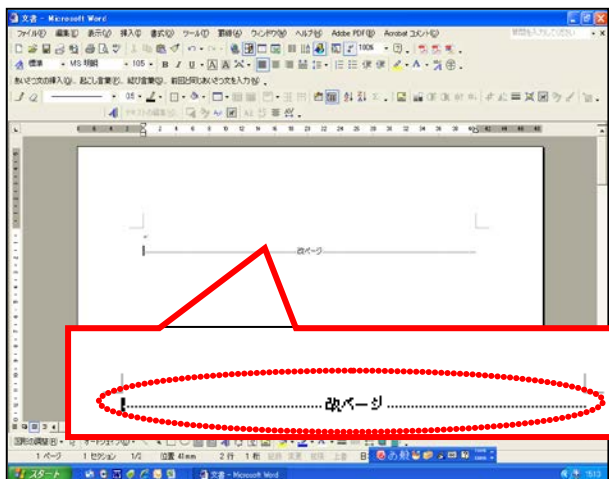
操作前の状態

操作後の状態

ワードを起動し、新規文書を用意します。

メニューバーの[挿入]タブをクリックします。

[改ページ]をクリックします

●改ページのダイアログボックスが表示されました。

カーソル位置への挿入の一覧から[改ページ(P)]をクリックします

[O K]をクリックします

［2ページ目］が作成できました。

● ページ数の確認は、ステータスバーの「○ページ」で確認できます。

画面上に表示されているページ番号／総ページ数

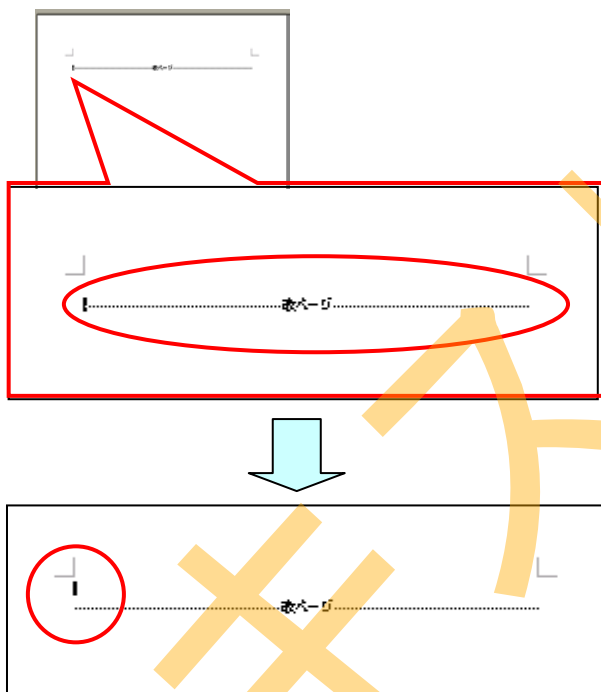
（2）表示倍率の変更

ワードでアルバムを作成する場合、バランスをとりやすいように全体的なイメージを確認しながら写真やイラストを配置します。
ここでは、ページ全体が表示されるように表示倍率を変更してみましょう。

◆表示倍率の変更方法をマスターしましょう。

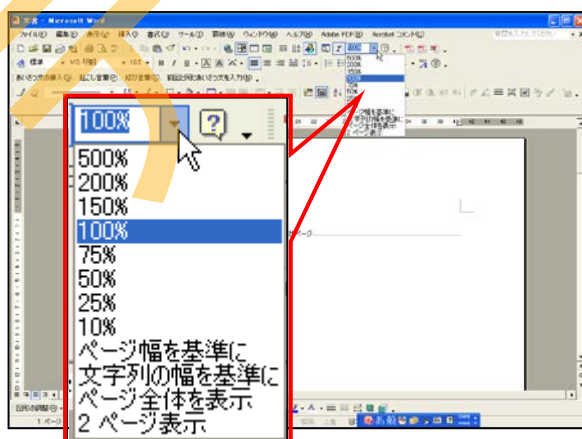
操作前の状態

操作後の状態

1ページ目にカーソルを移動します。

●前節で[改ページ]を挿入し 2 枚目を作成しました。その際に、1 ページ目の最終段落には、下図のような改ページマークが表示されます。

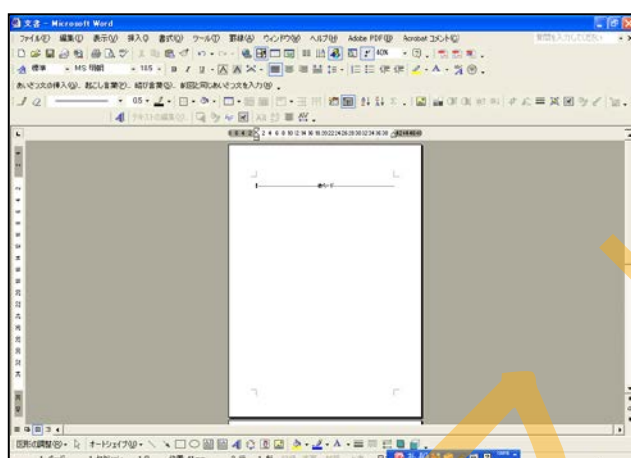
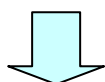
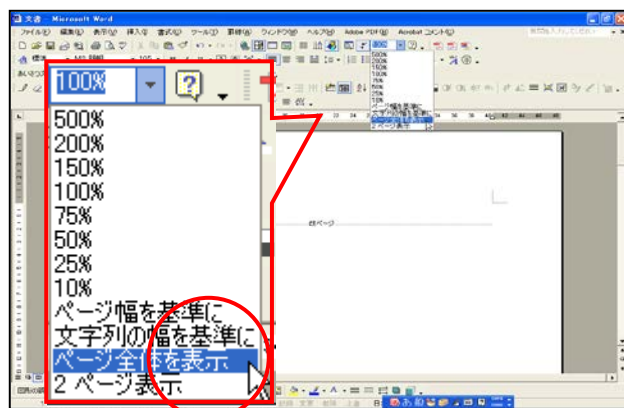
改ページマークが表示されない場合は、書式設定ツールバーの [編集記号の表示／非表示]ボタンをクリックします。

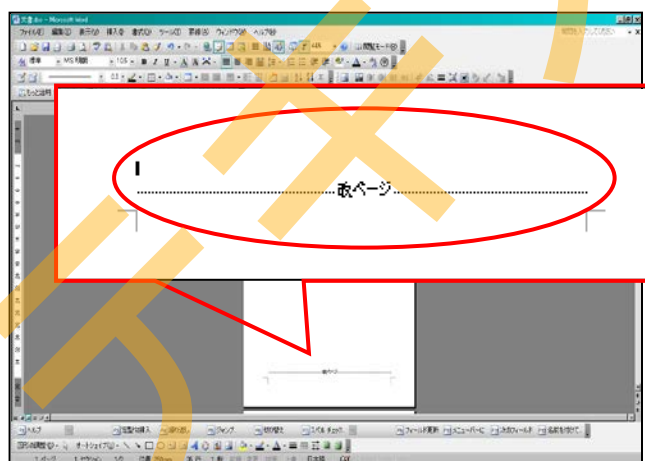
[Enter]キーを 1 回押します。

●｢Enter｣キーを 1 回押すと

[改ページマーク]が 1 段下がります。

●次に ↑ キーを 1 回押してカーソルを 1 行目に移動します。

メニューバーの[ズーム 100%]の▼をクリックします。

●[ズーム 100%]▼をクリックすると左のように[メニューの一覧]が表示されます。

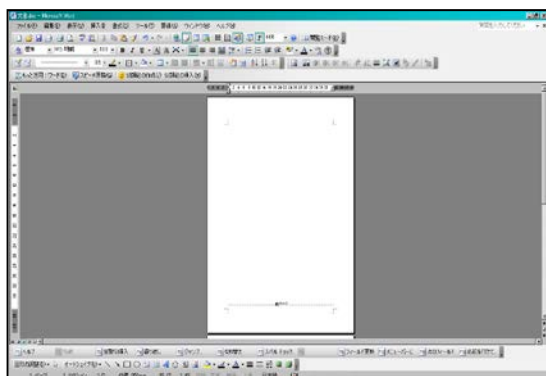
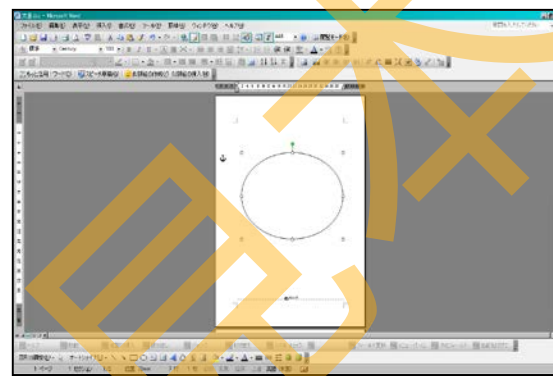
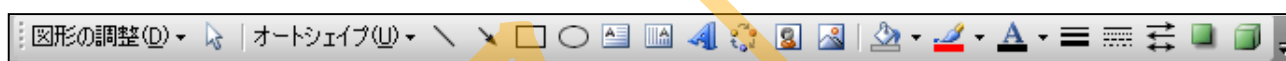
表示されたメニューの一覧から[ページ全体を表示]をクリックします。

●表示倍率が縮小されて、
ページ全体が表示されます。

挿入した改ページマークを[Enter]キーを押して 1 ページの最後の行まで移動します。

●改ページマークが最後の行に移動するまで[Enter]キーを押します。

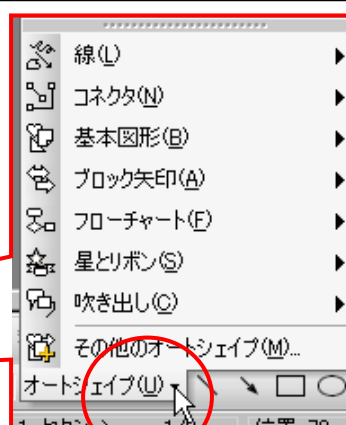
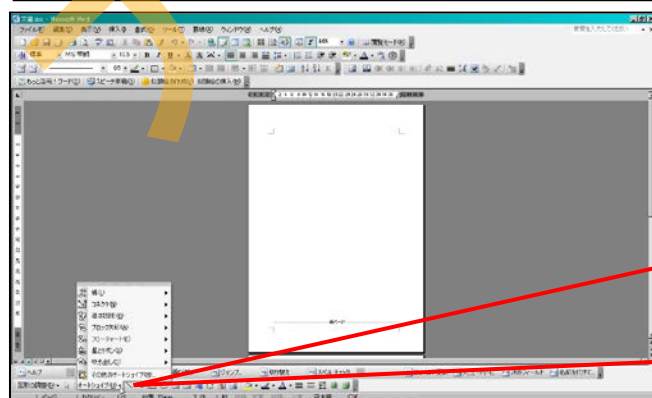
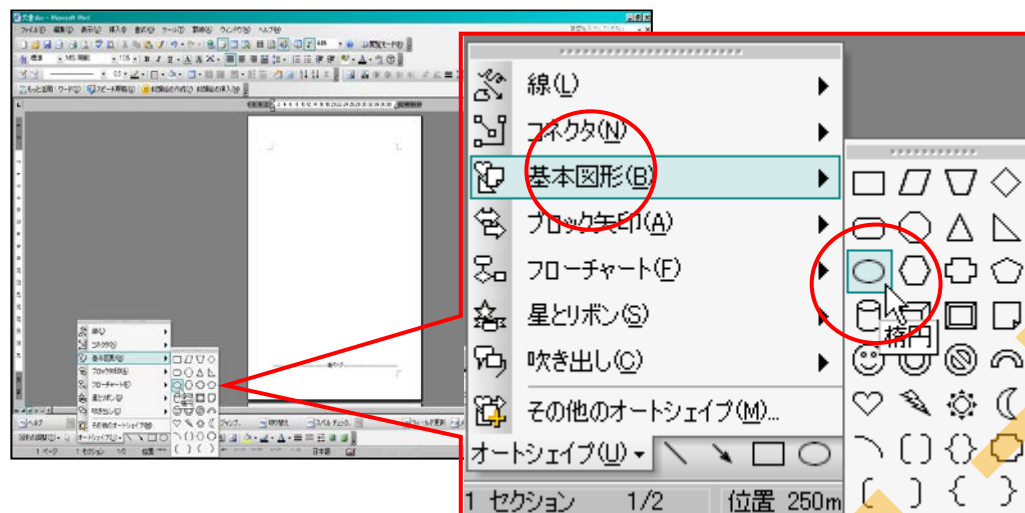
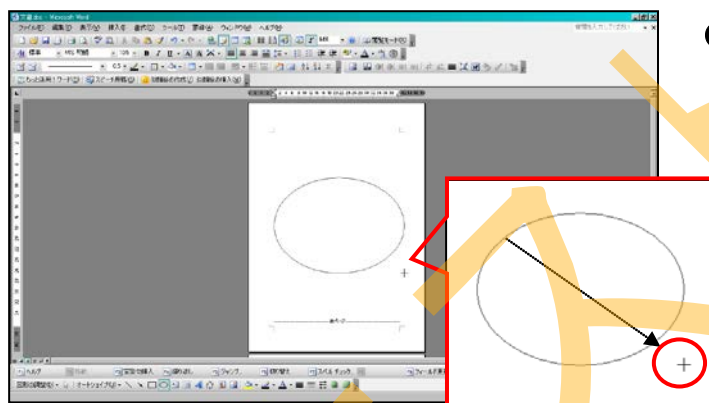
（3）オートシェイプの図形を使用する

2ページ目の作成、表示倍率の変更ができたところで、ここからは、写真やイラスト、ワードアートなどを挿入してアルバムを本格的に作成していきます。

◆オートシェイプで図形を描く方法をマスターしましょう。

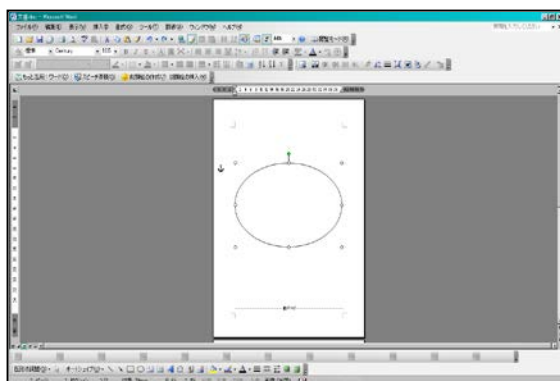
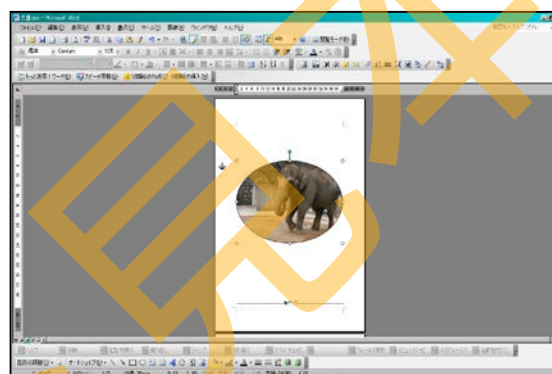
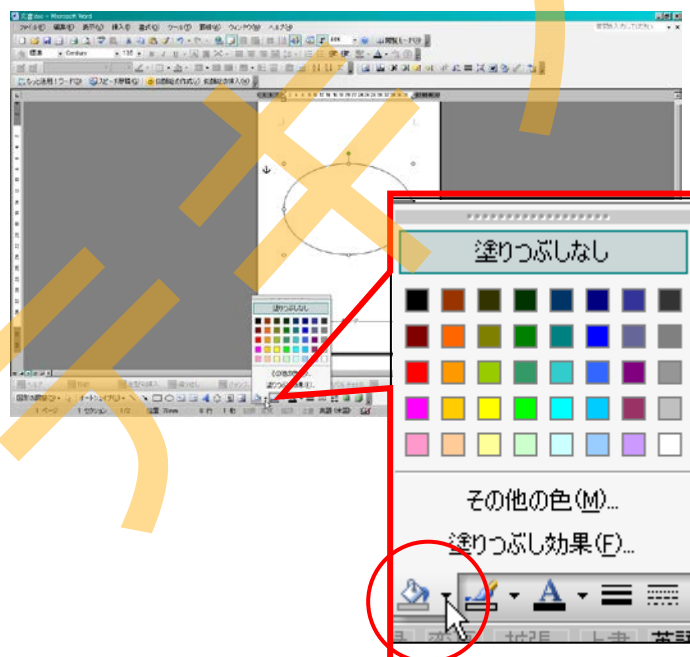
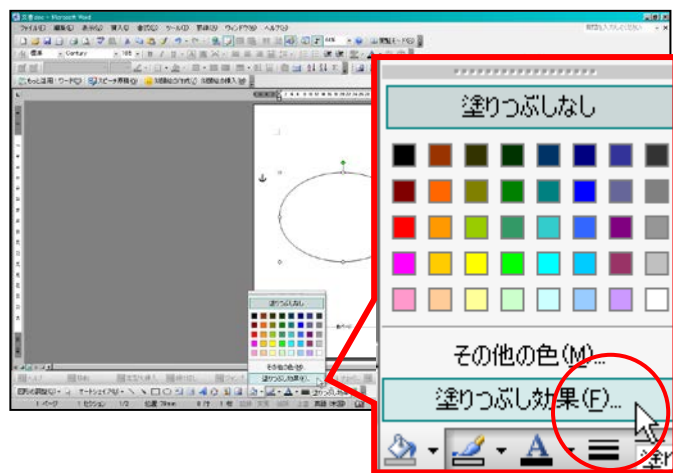
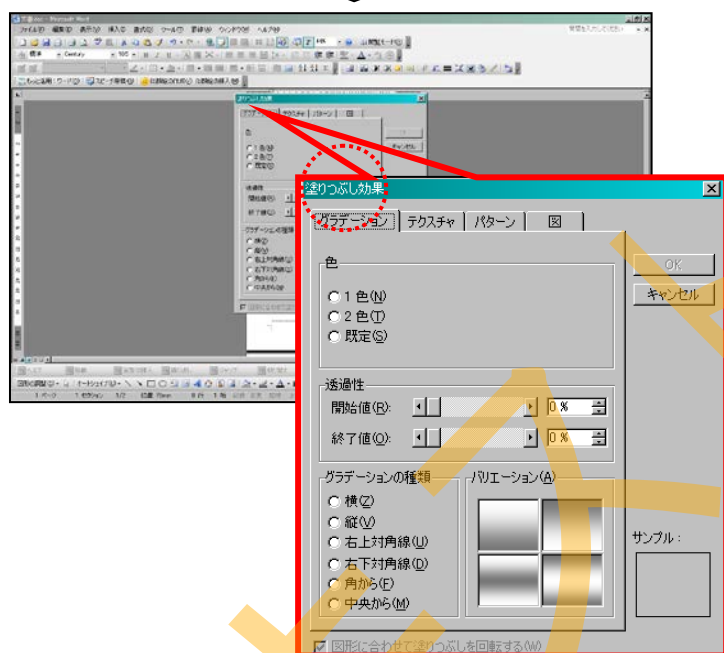
操作前の状態

操作後の状態

①図形描画ツールバー

標準ツールバー

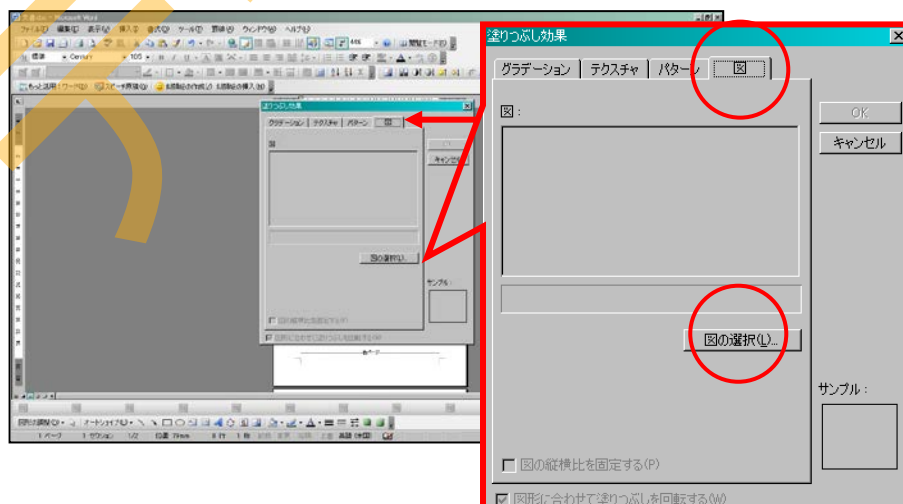
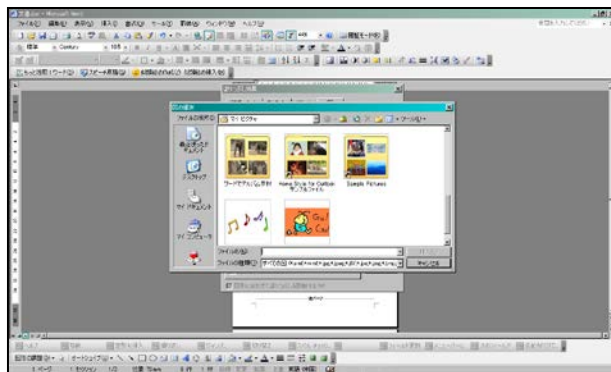
●図形描画のツールバーが表示されていない方は、標準ツールバーの図形描画をクリックします。

1 ページ目にカーソルがあることを確認し、図形描画ツールバーの[オートシェイプ(U)]をクリックします。

「基本図形(B)」にポイントし、[楕円]をクリックします。

1 枚目の用紙の上にマウスポインタを移動し、ドラッグして楕円を描きます。

●マウスポインタを用紙の上に移動すると ＋ の形に変わります。そのまま、対角線上に大きくドラッグしていきます。

(4)写真の挿入

写真の挿入

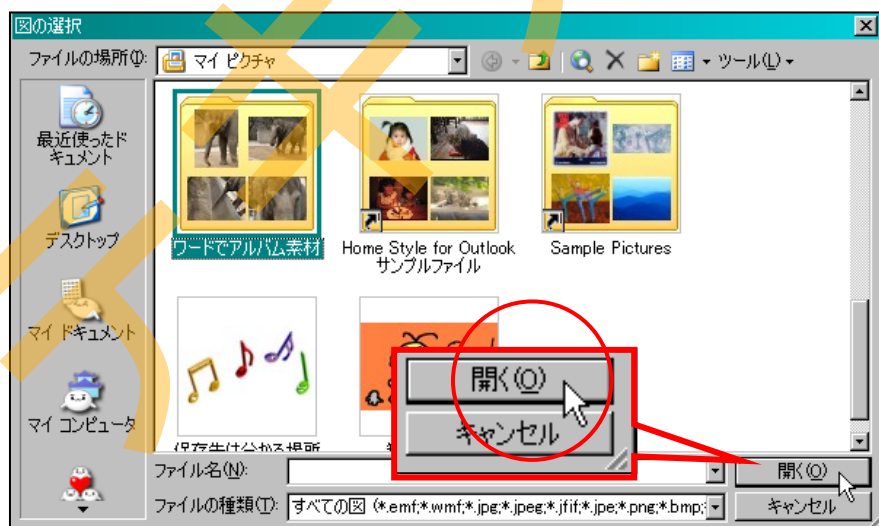
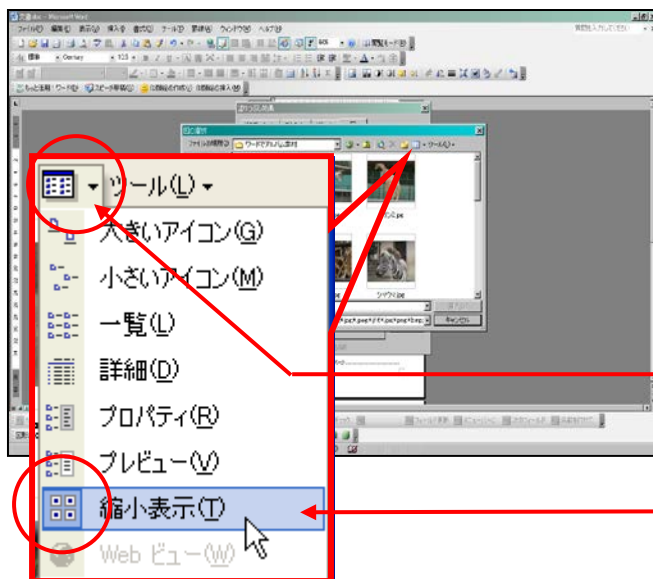
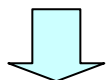
ここでは、表紙(1ページ目)に写真(象5)を挿入します。
写真を挿入する際に注意する点は、挿入した図形が選択されていることを確認することです。

オートシェイプの楕円がクリックされていることを確認して、図形描画ツールバーの[塗りつぶしの色]の▼をクリックします。

●色パレットの[塗りつぶし効果(F)]をクリックします。

●[塗りつぶし効果]ダイアログボックスが表示されます。

[塗りつぶし効果]ダイアログボックスの中から[図]のタブをクリックします。
次に[図の選択(L)]をクリックします。

●［図の選択］のダイアログボックスが表示されます。

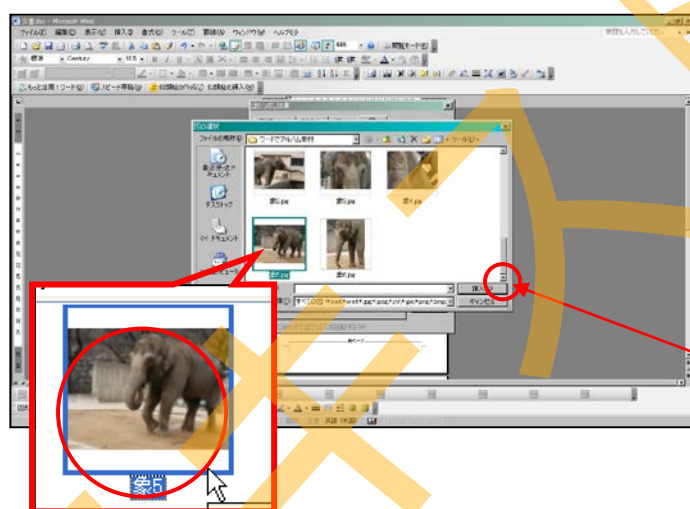
［ファイルの場所］ボックスが［マイピクチャ］になっていることを確認して、［ワードでアルバム素材］フォルダをクリックします。

注意！

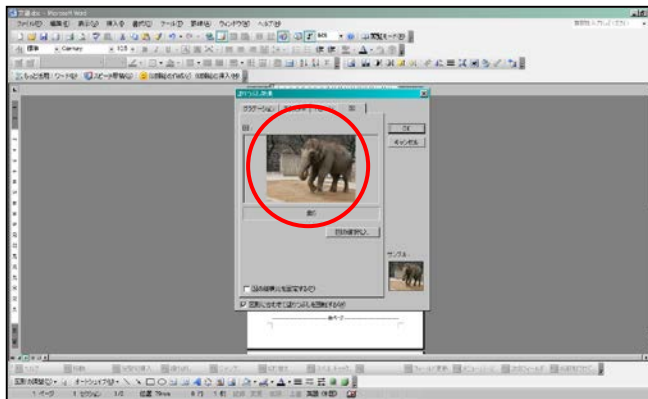
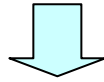
●このテキストで作成するアルバム素材は、［マイピクチャ］のフォルダの中の［ワードでアルバム素材］フォルダにすべて保存していますが、皆さんがオリジナルのアルバムを作成する場合、素材となる写真をどこに保存したかによってファイルの場所は変わってきます。

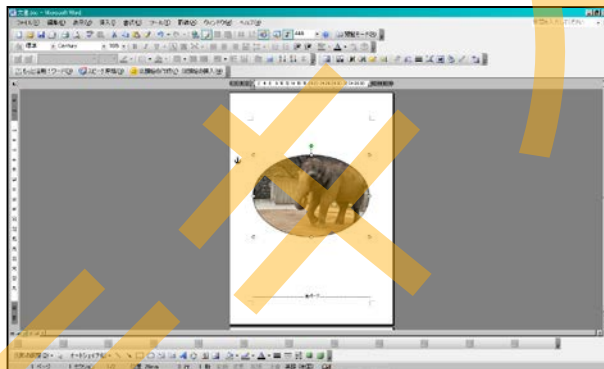
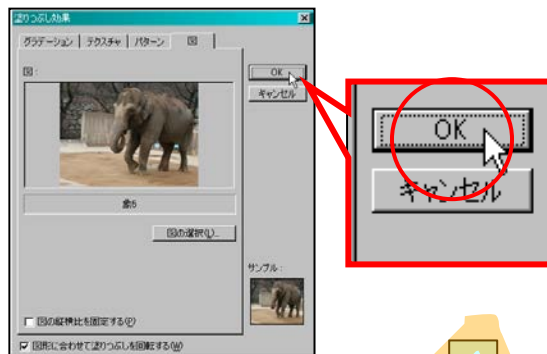
［図の選択］ダイアログボックス右下にある［開く(<u>O</u>)］ボタンをクリックします。

●[開く(O)]ボタンをクリックすると[ワードでアルバム素材]フォルダの中身が表示されます。

●[ワードでアルバム素材]フォルダの中身が左のように表示されない場合は、[図の挿入]ダイアログボックスの右上にある ボタンの▼をクリックして 縮小表示(T) をクリックしてください。

表示された一覧から「象5」をクリックします。

● 「象5」の写真を挿入するため、クリックして選択します。

● 「象5」の写真が表示されていない場合は[図の挿入]ダイアログボックスの右にあるスクロールバーの▼をクリックして、「象5」の写真を表示させてください。

[図の選択]ダイアログボックス右下にある[挿入(S)]ボタンをクリックします。

● [挿入(S)]ボタンをクリックすると[塗りつぶし効果]のダイアログボックスの図に[象5]の写真が挿入されます。

[塗りつぶし効果]ダイアログボックスの右上にある [挿入(S)]ボタンをクリックします。

● [挿入(S)]ボタンをクリックした時点でアルバムの表紙(1 ページ)に[象5]の写真が挿入されます。

ご参考までに

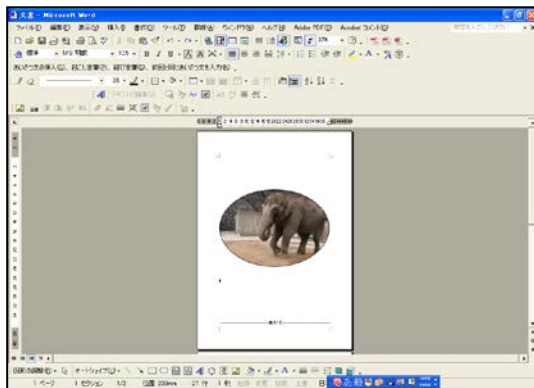
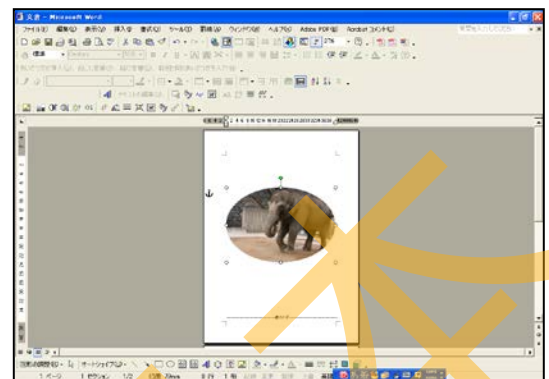
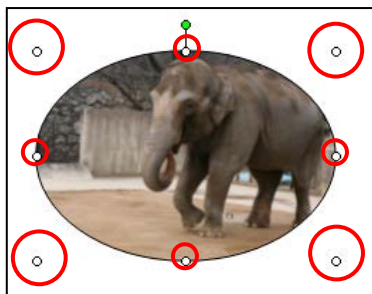
■挿入した写真の削除方法

挿入した写真が選択されている状態(削除したい写真の周りに ○ が表示されている状態)で[塗りつぶし効果]の▼をクリックし[塗りつぶしなし]をクリックします。写真だけが削除され図形は残ります。

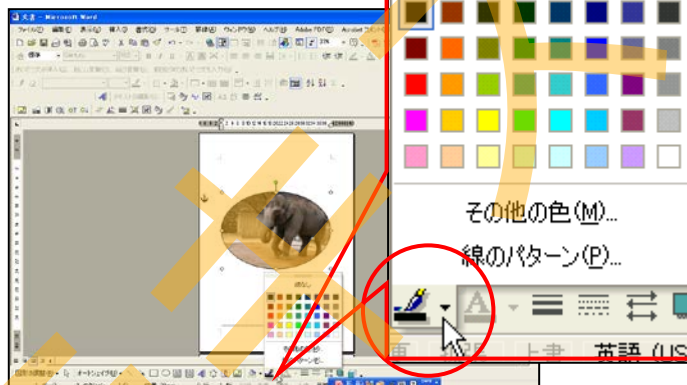
写真の周りに ○ が表示されていなければ、写真の中にポイントし、マウスポインタが の状態でクリックします。

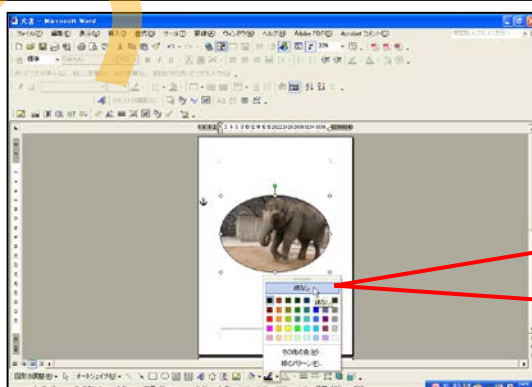
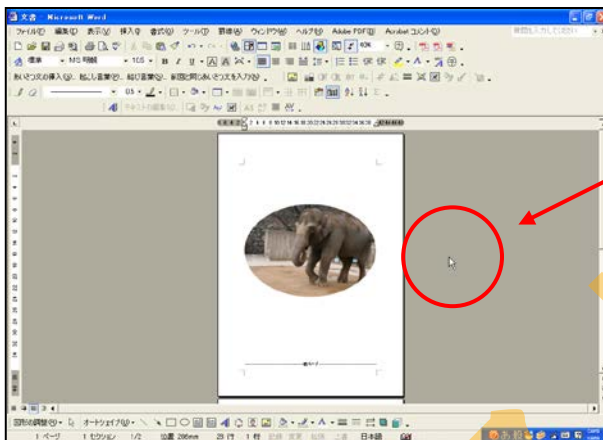
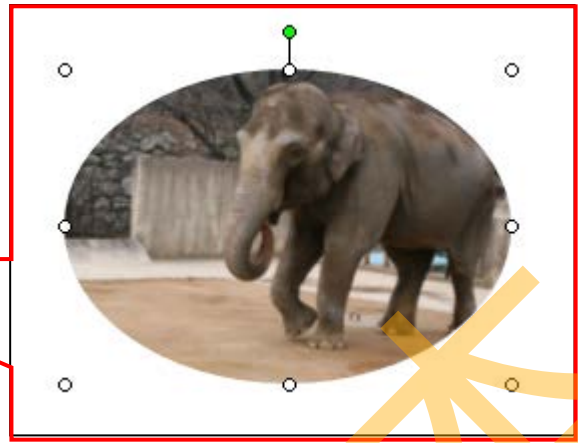
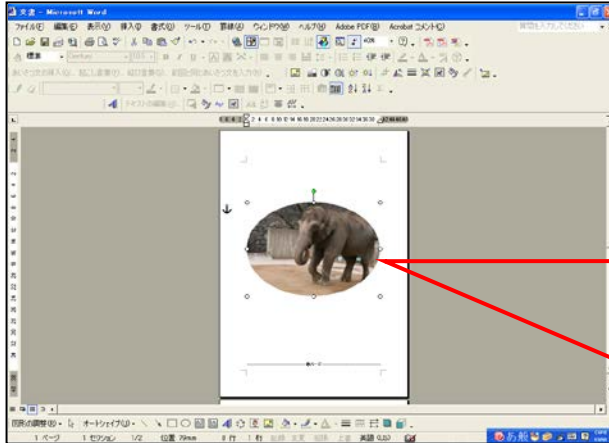
①写真の周りの線の色を消す

◆写真の周りの線の色を消す方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

挿入した写真の周りに ○ が表示されていることを確認し、図形描画ツールバーの [線の色]の▼をクリックします。

● ○や□が表示されていれば、挿入された写真が選択されています。表示されていなければ、挿入した写真にポイントし、左ボタンでクリックします。

● [線の色]の▼をクリックすると色パレットが表示されます。

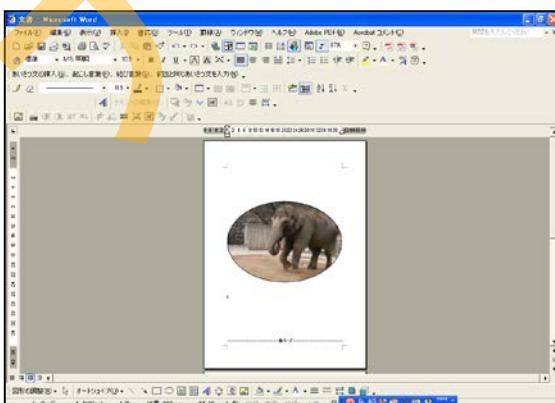
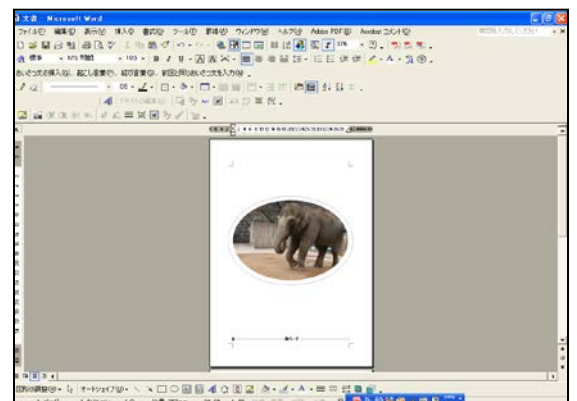
注意！

● [図形描画のツールバー]が表示されていない方は、標準ツールバーの 「図形描画」をクリックします。

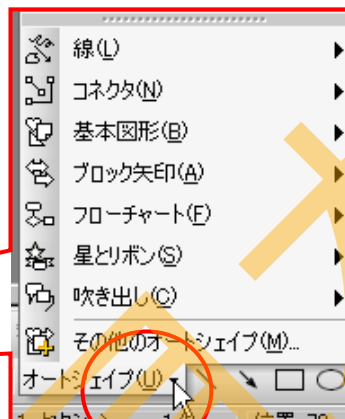
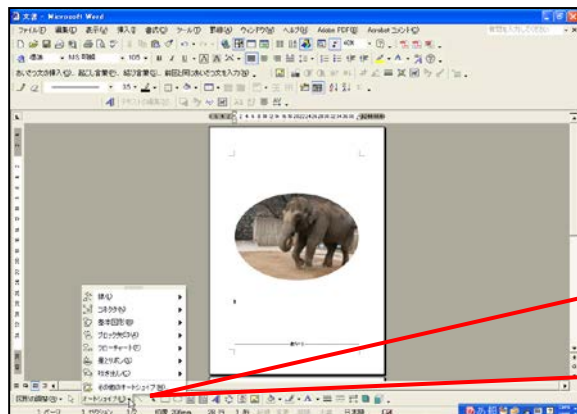
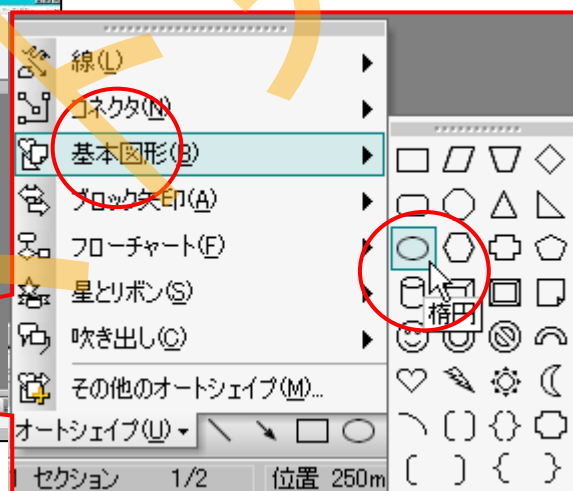
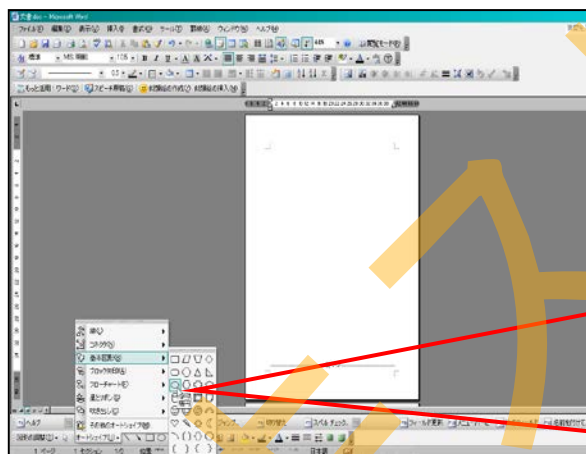
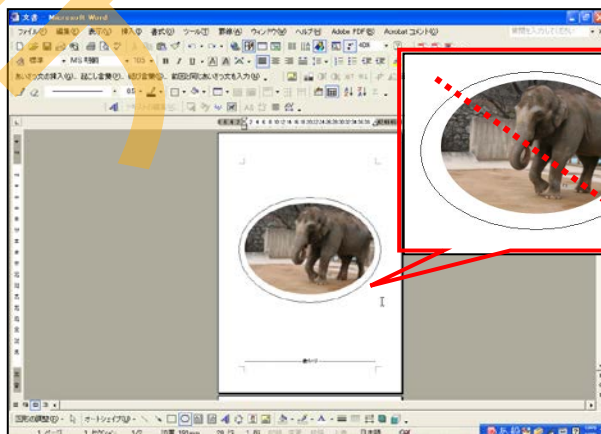
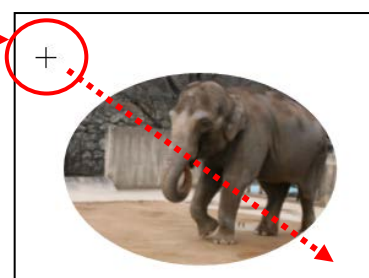
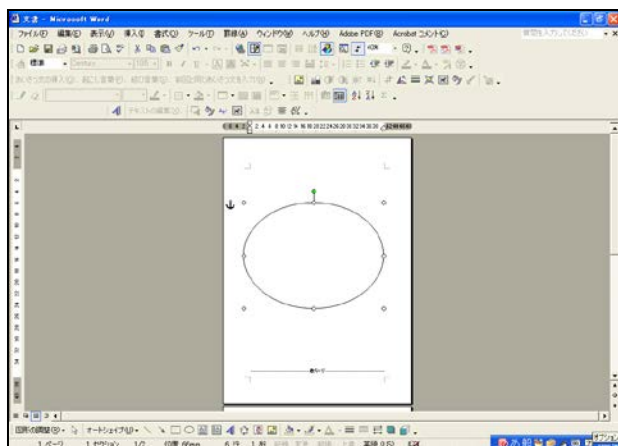
線の色の色パレットの中から[線なし]をクリックします。

写真の周りの線が消えました。

- 次の操作のため、グレーの部分にマウスポインタを移動し、クリックして写真のハンドルを解除しておきましょう。

②写真の周りに飾りを加える。

図形の中に写真が挿入されました。次は、その写真の周りに縁をつけていきます。
縁をつけることで見栄えがよくなります。

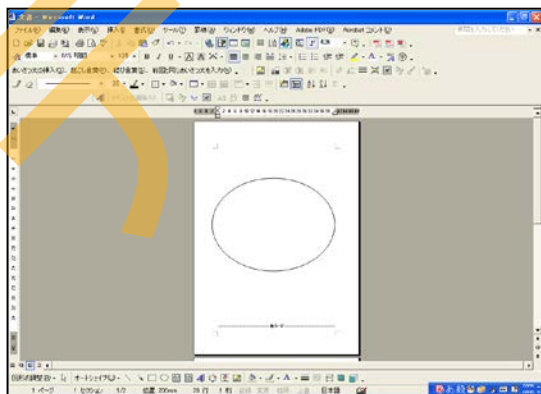
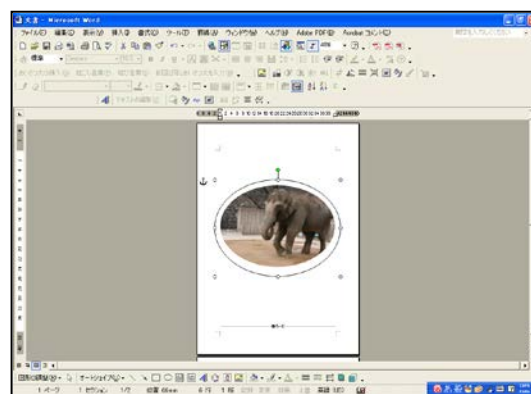
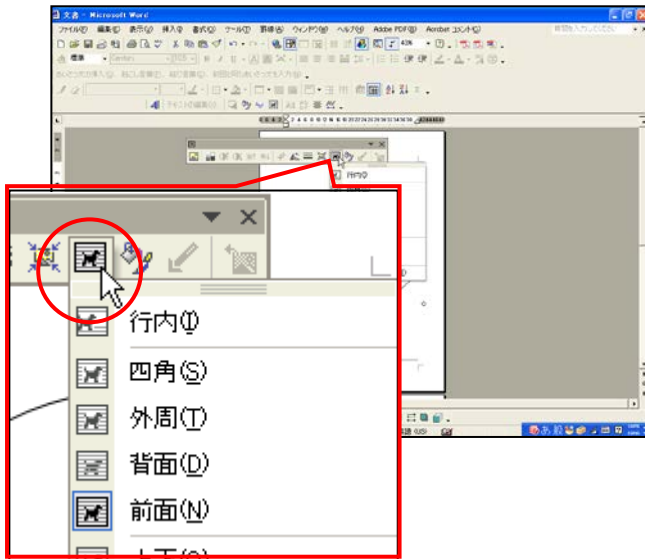
◆写真の周りに縁を付ける方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

写真の周りにハンドルが表示されていないことを確認し、図形描画ツールバーの[オートシェイプ(U)]をクリックします。

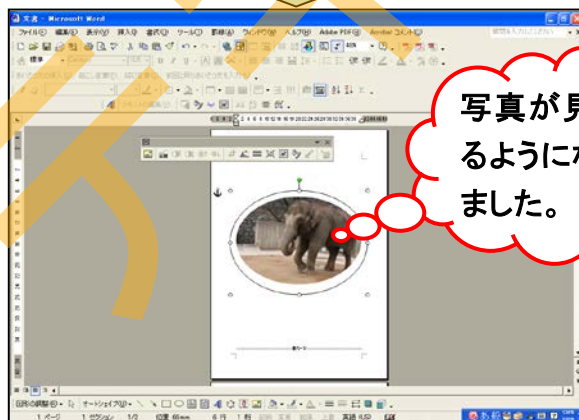
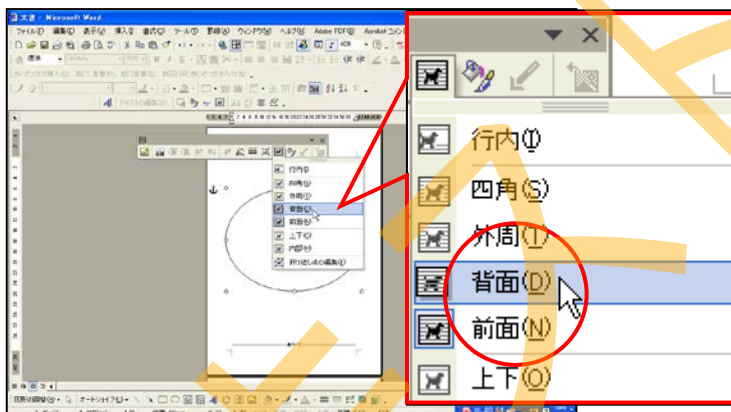
図形描画ツールバー

「基本図形(B)」にポイントし、[楕円]をクリックします。

写真の左上部にマウスポインタを移動し、ドラッグして写真よりも大きな楕円を描きます。

- **マウスポインタを用紙の上に移動すると ＋ の形に変わります。そのまま、対角線に大きくドラッグしていきます。**
- **ポイント**
  始点の位置

写真の上に白い楕円が重なって写真が見えなくなりました。

③ テキストの折り返しの設定(図の書式設定)

図形を挿入直後「前面」というレイアウトになっています。そのため、写真よりも後に挿入した楕円の図形がさらに「前面」になってしまい、写真が隠れてしまいました。ここでは、「白い楕円の図形」を「背面」に変更して写真が見えるようにレイアウトの設定を行っていきます。
レイアウトの設定は、次に示す「図のツールバー」を使って設定します。

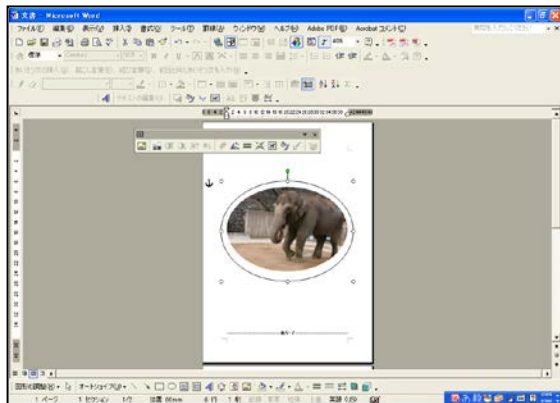
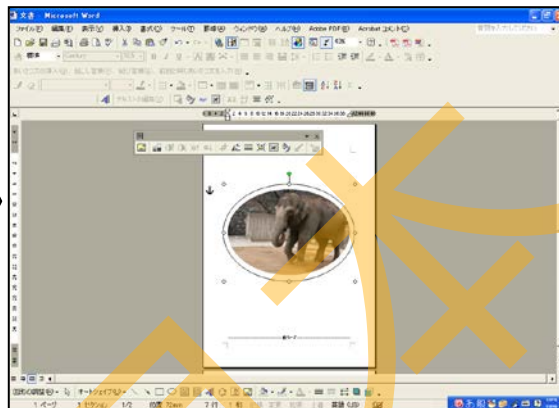
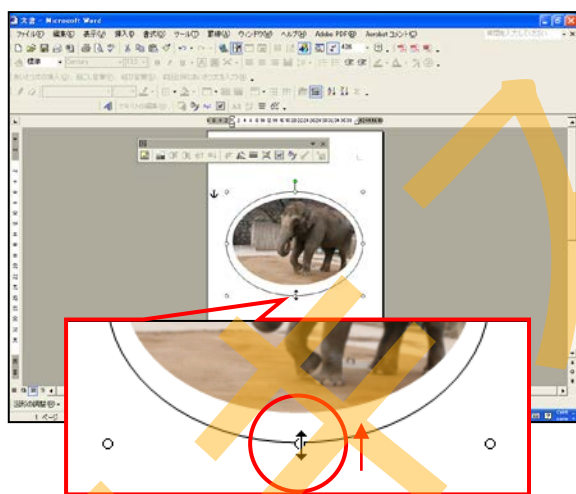
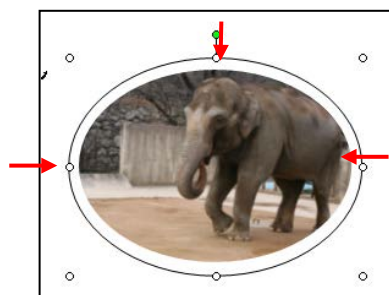
◆テキストの折り返しの設定方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

挿入した白い楕円の周りに ○が表示されていること、「図のツールバー」が表示されていることを確認し、[テキストの折り返し]ボタンをクリックします。

● ° が表示されていれば、挿入された写真が選択されています。表示されていなければ、挿入した写真をポイントし、左ボタンでクリックします。

● 図のツールバーが表示されていない方は、メニューバーの「表示」をクリックし、「ツールバー」にポイントして[図]をクリックします。

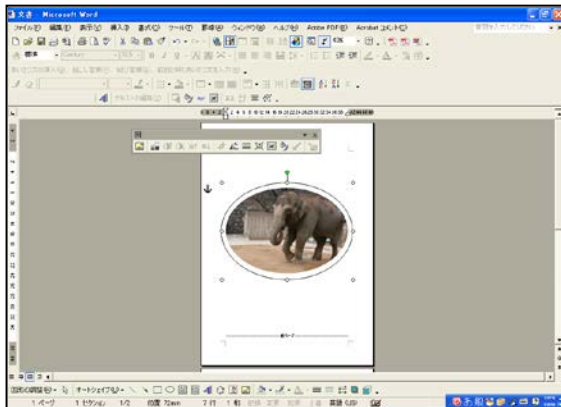
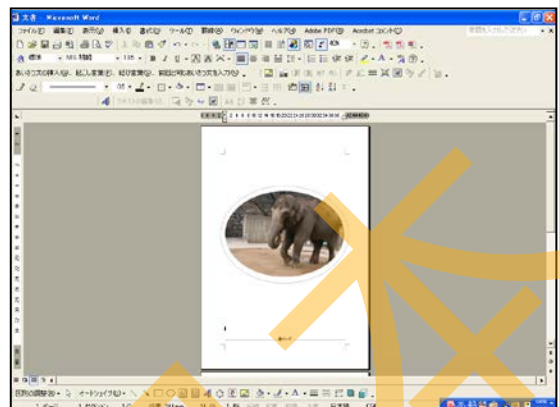
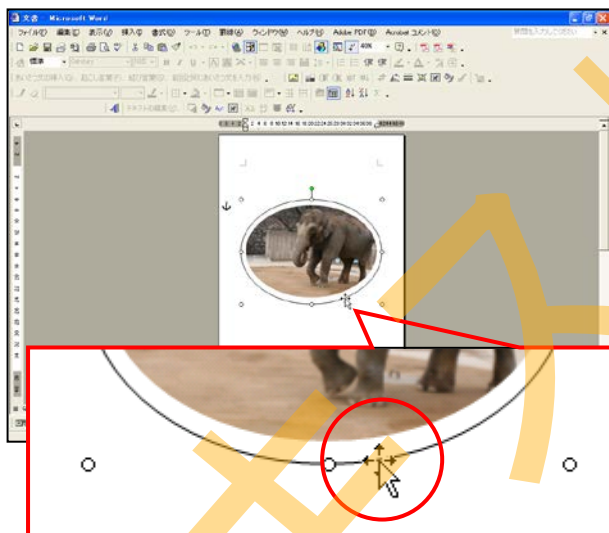
表示された折り返しの中から [背面(D)]をクリックします。

④白い楕円の図形を写真にそって形を整える

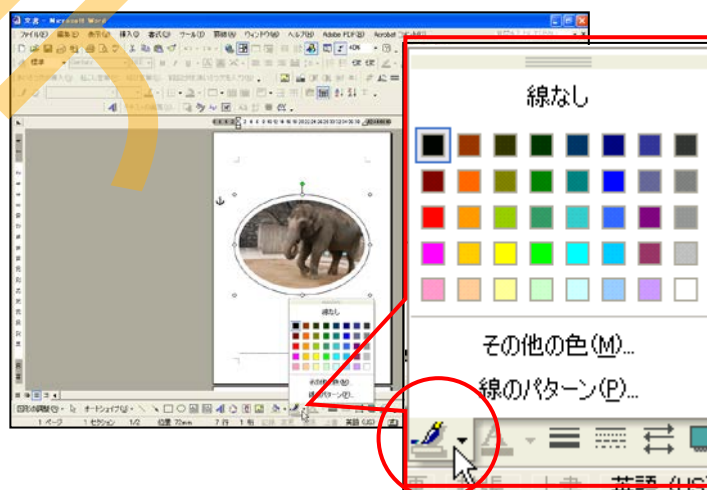
◆サイズ変更ハンドルで図形を整えていく方法をマスターしましょう。

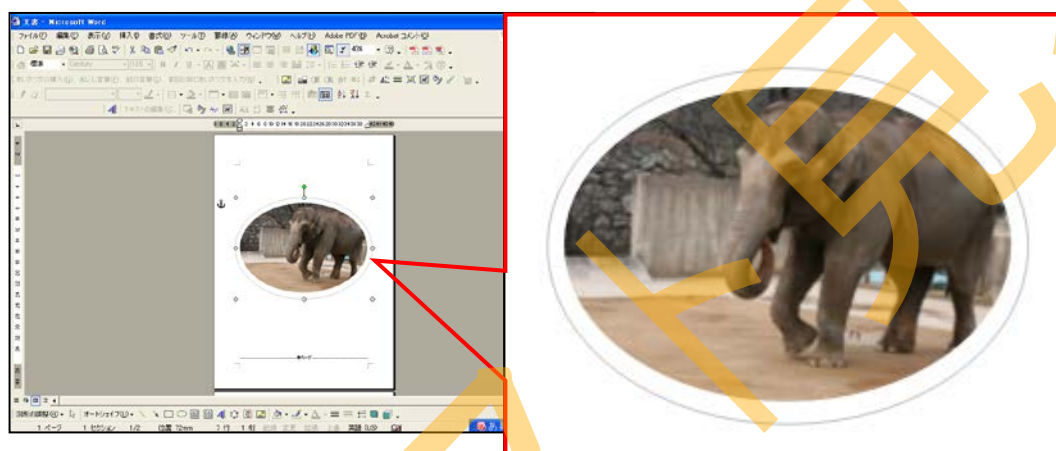
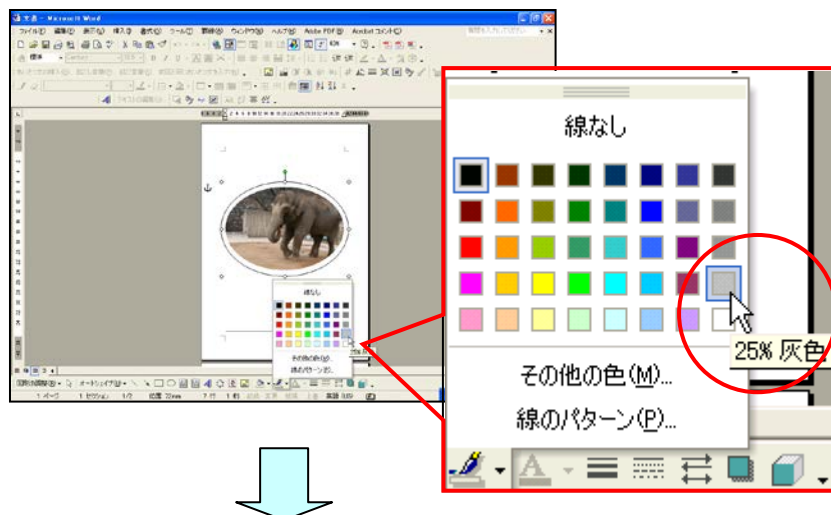
操作前の状態

操作後の状態

白い楕円の周りに ○「サイズ変更ハンドル」が表示されていることを確認してマウスポインタを ○ に重ねあわせ、写真の形に上下左右整えていきます。

● ○にマウスポインタを重ね合わせると の矢印に変わります。
そのままクリックして整える方向へドラッグしていきます。
ここでは、下から上にドラッグしています。上と左右も調整をしていきましょう。

■角の〇にマウスポインタを重ね合わせ対線にドラッグすると楕円の形が整います。

⑤オートシェイプの線に色を付ける

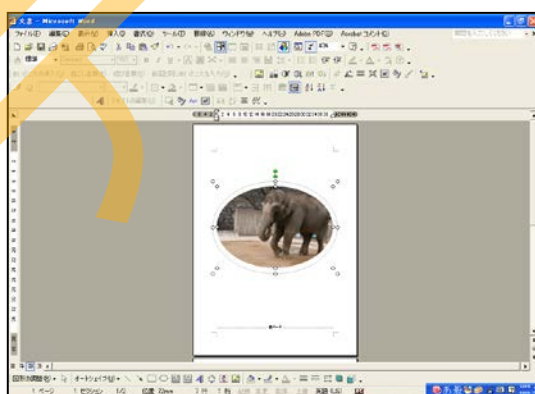
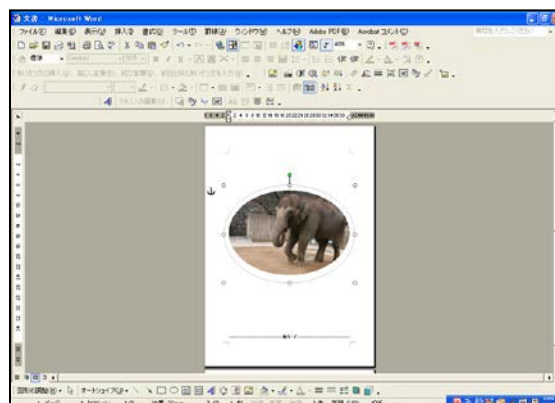
◆オートシェイプの線に色を付ける方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

白い楕円の線の上にマウスポインタを重ね合わせ、そのままクリックします。

● 白い楕円の黒い線の上にマウスポインタを重ね合わせると に変わります。そのままクリックするとサイズ調整ハンドルが表示されます。

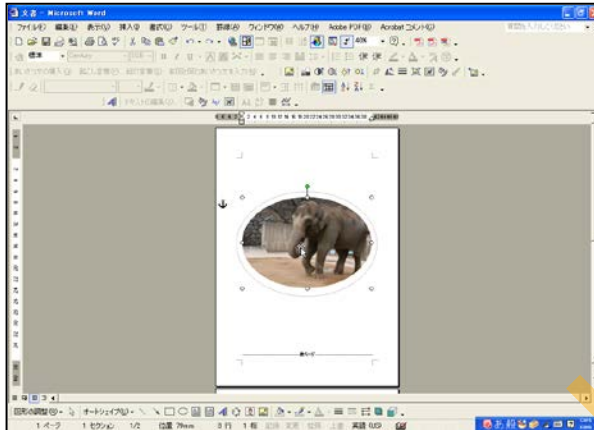
白い楕円の周りに ○［サイズ調整ハンドル］が付いていることを確認して、図形描画ツールバーの［線の色］の▼をクリックします。

● ［線の色］の▼をクリックすると色パレットが表示されます。

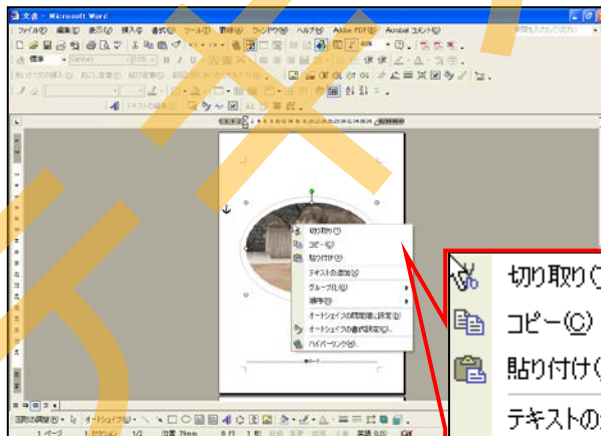
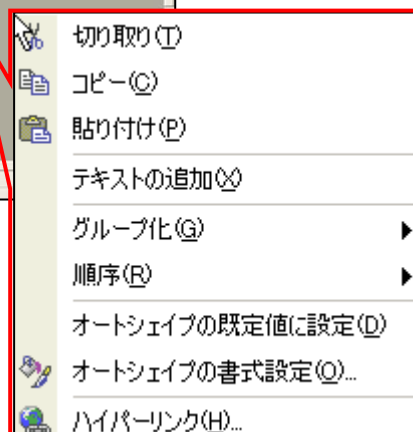
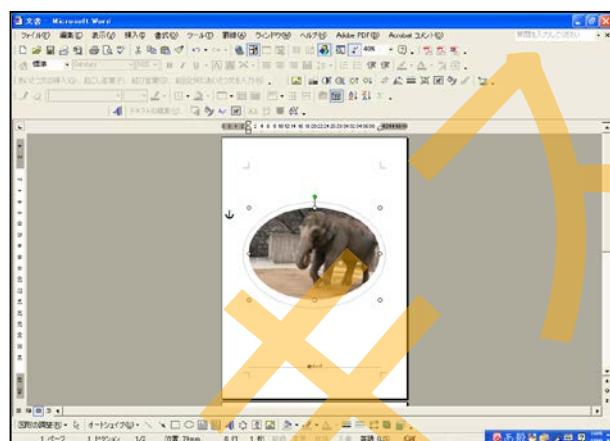
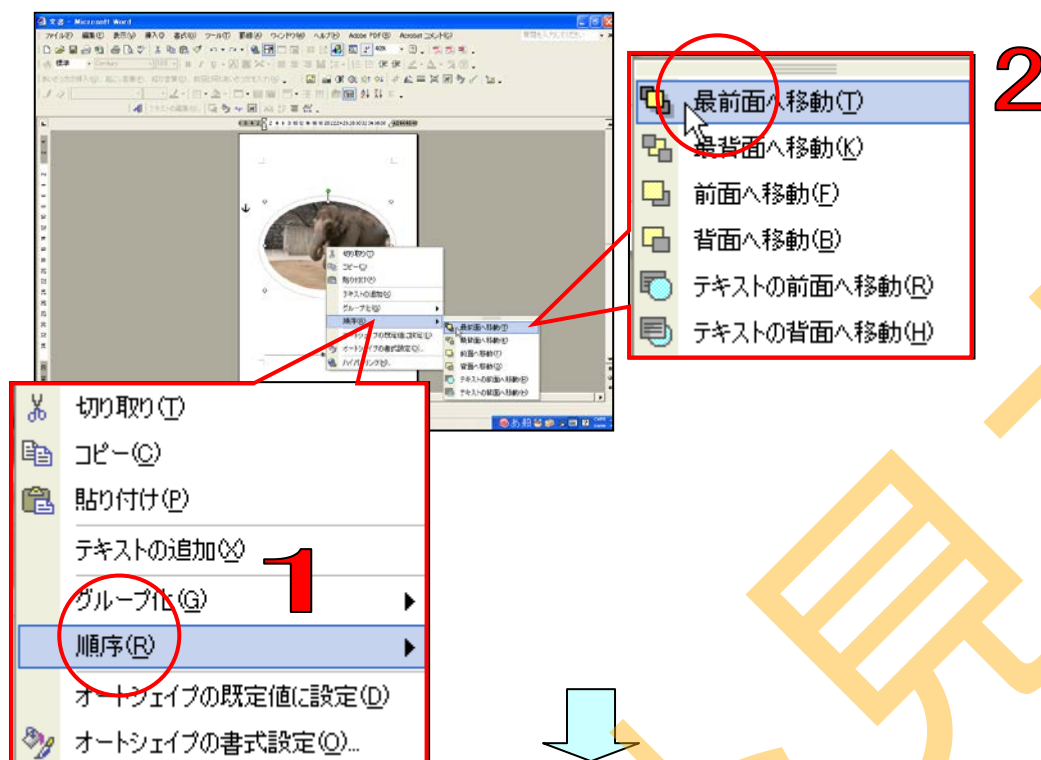
線の色の色パレットの中から、[25%灰色]をクリックします。

⑥写真と外枠をグループ化

◆写真と外枠をグループ化する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

■ グループ化の操作の前に

グループ化した時に写真が図形に隠れて見えなくならないように写真を[前面]から[最前面]に変更しておきます。

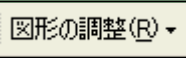
写真の上にマウスポインタを移動し、そのままクリックします。

- 写真の上にマウスを移動するとマウスポインタが ✥ の形に変わります。そのままクリックします。

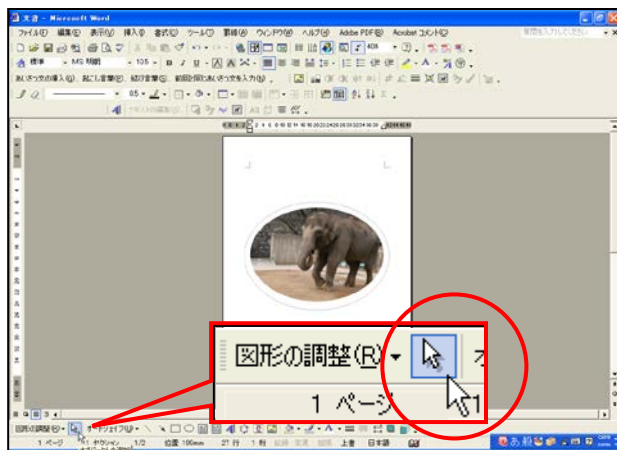
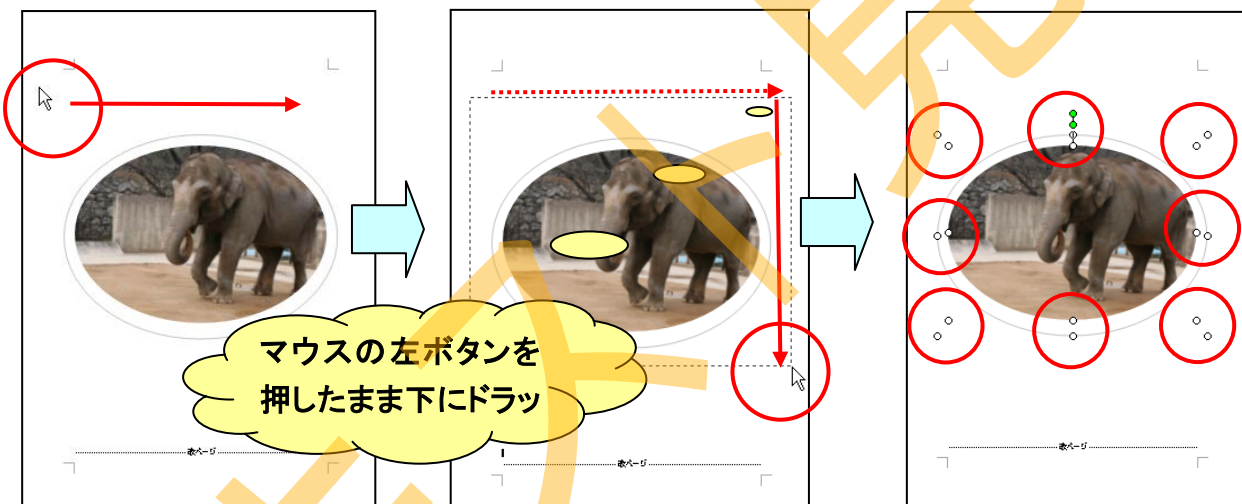
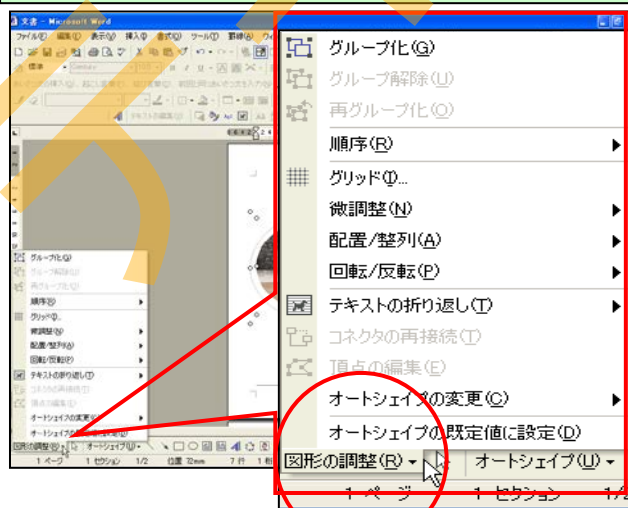
写真の周りに ○ [サイズ変更ハンドル]が付いたら、右ボタンをクリックします。

- 右ボタンをクリックするとショートメニューが表示されます。

ショートメニューの中から[順序(R)]にポイントし、マウスを[最前面へ移動(T)]に移動しそのままクリックします。

- **見た目は変わりませんが、写真が一番前に移動しました。**

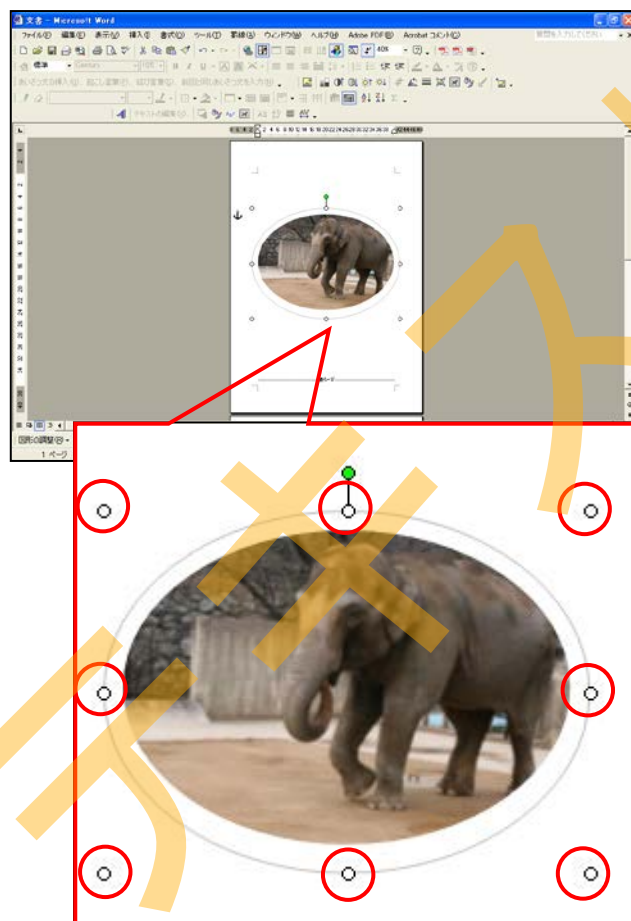
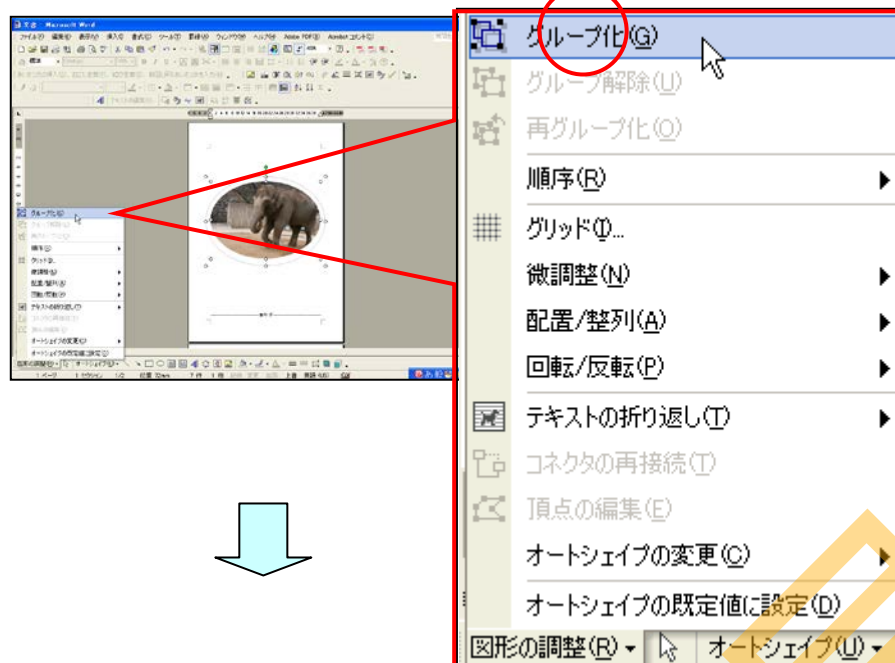
- **次の操作の為にサイズ変更ハンドルを解除しておきましょう。**

  グレーの部分にマウスポインタを移動しそのままクリックします。

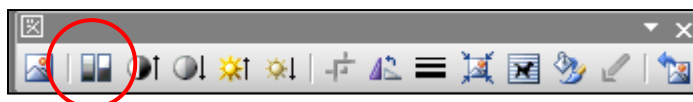
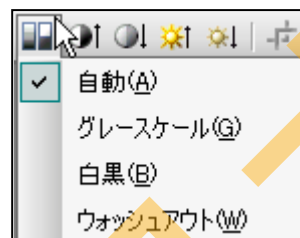
■図形描画ツールバー

図形の調整(R)・　オートシェイプ(U)・

次は、図形描画ツールバーの　　オブジェクトの選択を使って写真と外枠をグループ化にします。

図形描画ツールバーの [オブジェクトの選択]をクリックします。

写真と外枠の周りを大きくドラッグしながら囲んでいきます。

図形描画ツールバーの 図形の調整(R) の▼をクリックします。

●写真と外枠の周りにサイズ変更ハンドルが表示したことを確認して、図形の調整(R)の▼をクリックします。

[グループ化(G)]にマウスを移動しそのままクリックします。

●写真と外枠がグループ化され、サイズ変更ハンドルの表示が外枠にだけに表示されます。

ご参考までに

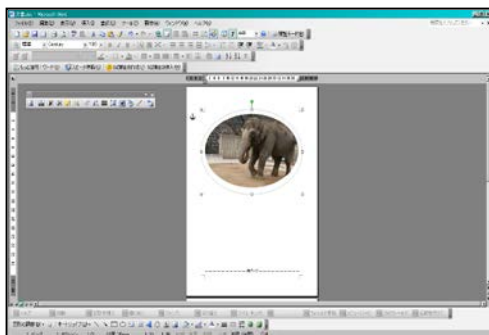
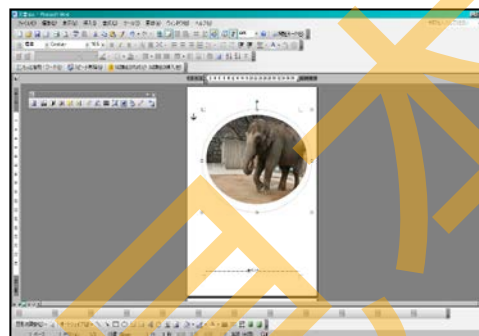
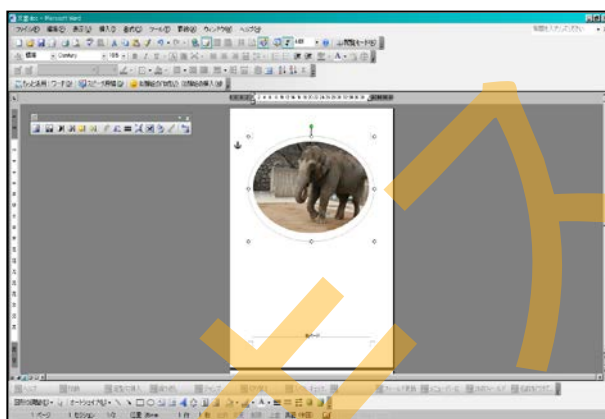
■挿入した写真の色調の変更方法

挿入した写真の白黒色や写真全体の色調を薄くするウォッシュアウトを設定する場合、以下のように操作します。
色調を変更したい写真を選択し、図のツールバーの[色]を左ボタンでクリックし左図のように表示される種類から選択します。
下図の例は、色調を「グレースケール」に変更したものになります。

変更前

変更後

⑦写真のサイズ変更

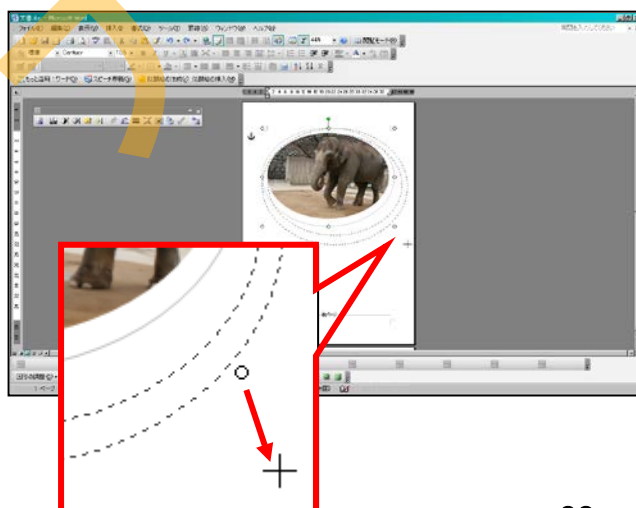
ここでは、現在挿入されている写真を、もう少し大きくしてみましょう。

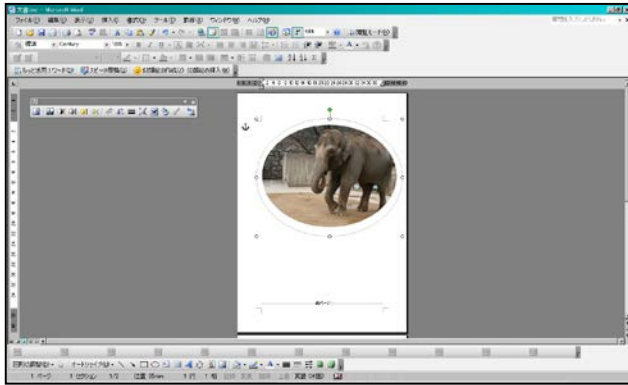
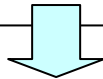
◆写真のサイズを変更する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

写真の周りに ○（サイズ変更ハンドル）が表示されていることを確認します。

余裕があれば読んでね

●写真中央上に表示された黄緑色のハンドル ● は、写真を回転させるためのハンドルです。

ポイントすると下図のようにマウスポインタが変わるので、ドラッグすると写真が左右に回転します。

写真の左右に表示された ○（サイズ変更ハンドル）にポイントし、マウスポインタが ⤡ に変わったところで右下に向かってドラッグします。

余裕があれば読んでね

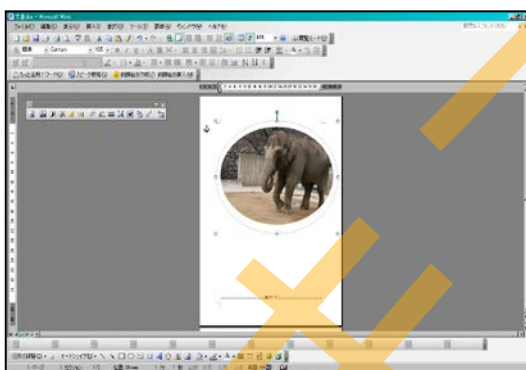
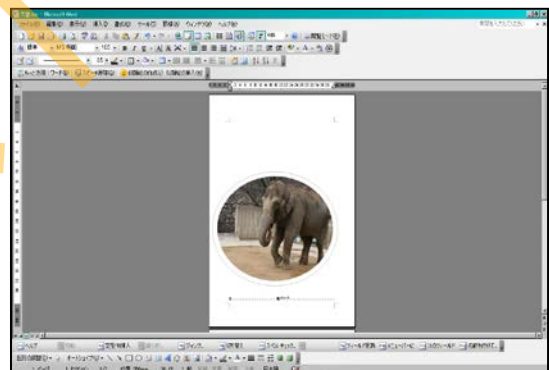
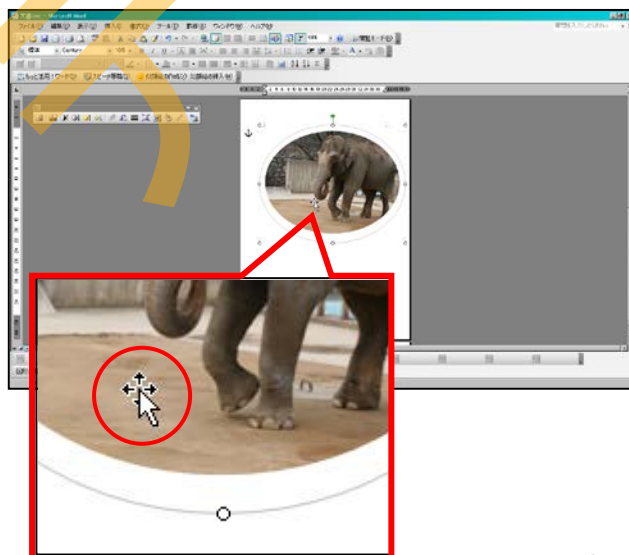
●ポイントするハンドルの位置によってマウスポインタは次のようにいろいろな形に変わります。

●マウスから指を離した時点で、写真のサイズが確定します。

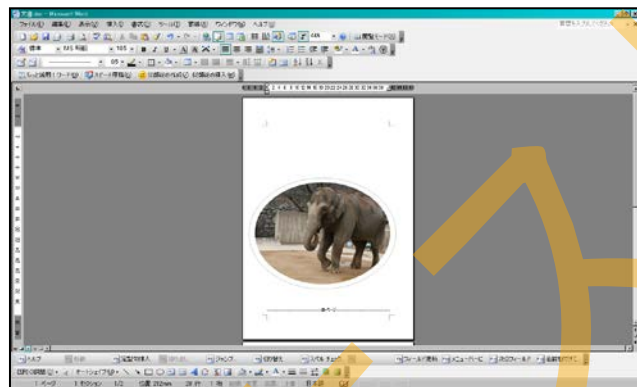
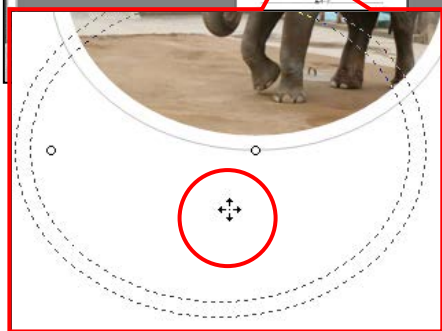
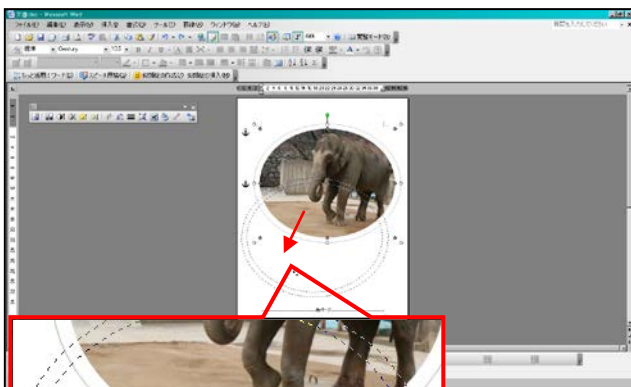
●ワード上で写真のサイズを変更しても、写真本来の大きさや容量は変更されません。画面上での大きさを変更するだけです。

⑧写真の移動

ここでは、写真を表紙の中央下辺りに移動してみましょう。

◆写真を移動する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

写真の中にマウスポインタを移動します。

●写真にポイントすると、マウスポインタの形が　　になります。

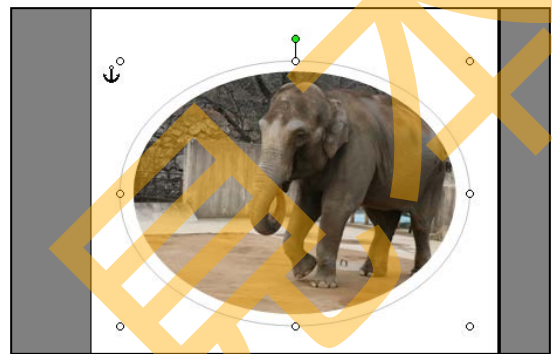
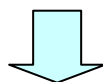
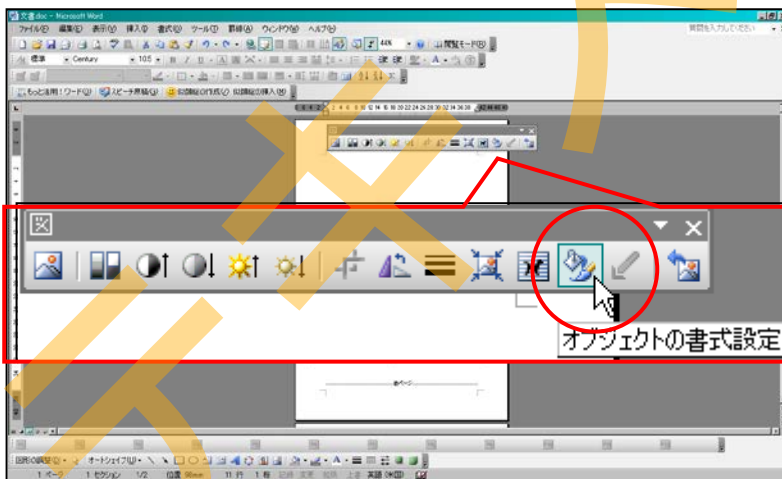
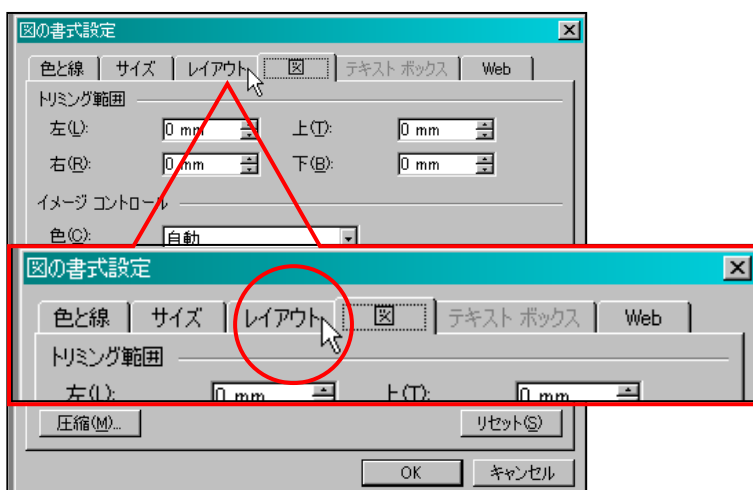
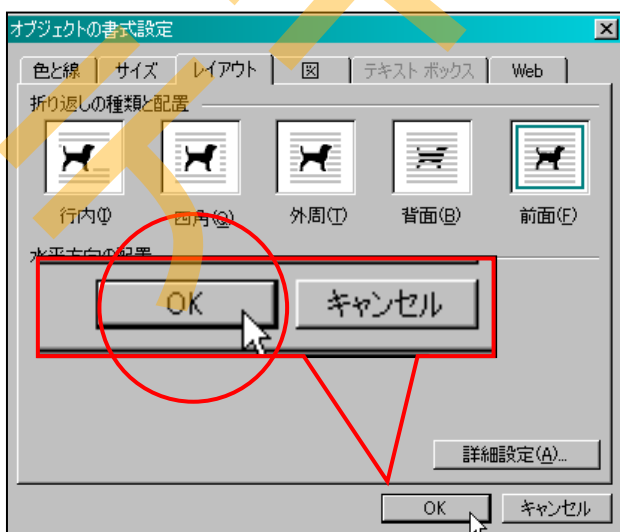
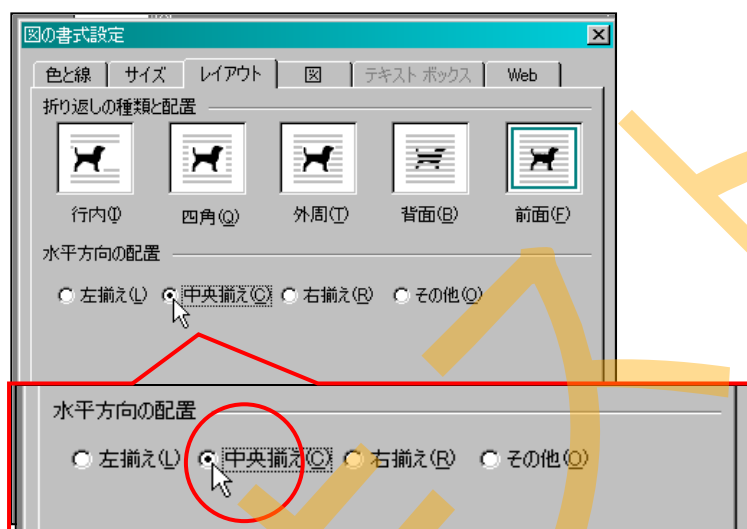
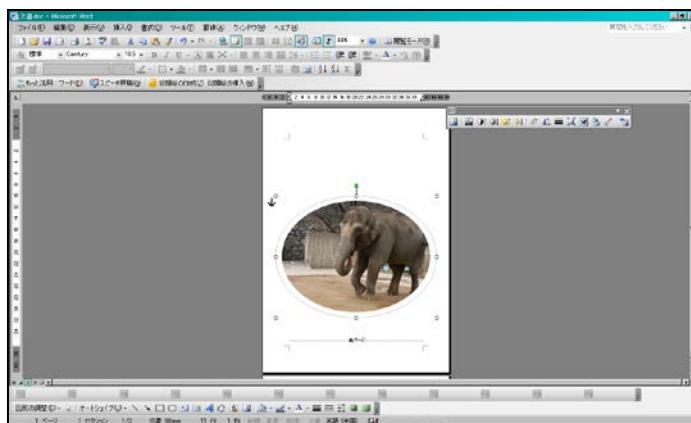
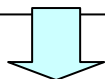
そのまま左下に向かってドラッグします。

●ドラッグ中のマウスポインタの形は ✣ の状態になっています。

余裕があれば読んでね

●写真を水平、垂直に移動したい場合は、[Shift]キーを押した状態でドラッグします。

●マウスから指を離した時点で、写真の位置が確定します。

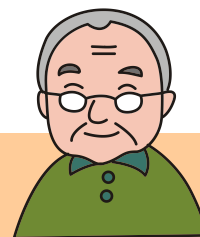
⑨写真を中央に配置

前ページでは、マウスを使って写真を移動しましたが、これでは自分量でしか中央に配置できません。ここでは、横位置をきっちりと左右中央に配置してみましょう。
写真の配置を変更する場合、図ツールバーの[オブジェクトの書式設定]で設定します。

写真の周りに ○ が表示されていることを確認し、図ツールバーの [オブジェクトの書式設定]をクリックします。

[オブジェクトの書式設定]のダイアログボックスが表示されます。[レイアウト]のタブをクリックします。

水平方向の配置の[中央揃え(C)]をクリックします。

●[OK]をクリックします。

●[OK]をクリックした時点で、写真が用紙の水平方向の中央に配置されます。

●写真を中央に配置した後は、ドラッグして写真を移動しないようにしてください。写真をドラッグして移動してしまうと、中央揃えの設定が解除されてしまいます。

（5）タイトルの作成

アルバムのタイトル作成

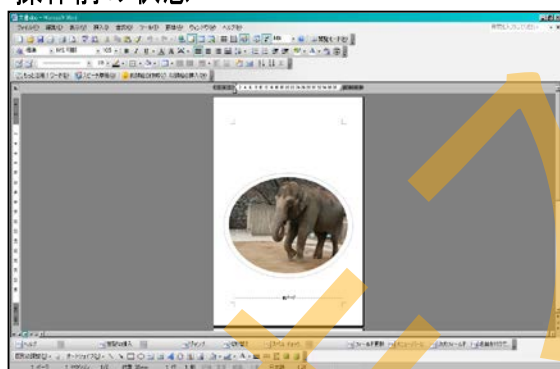
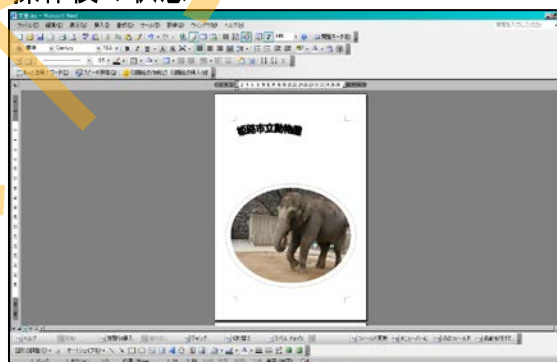
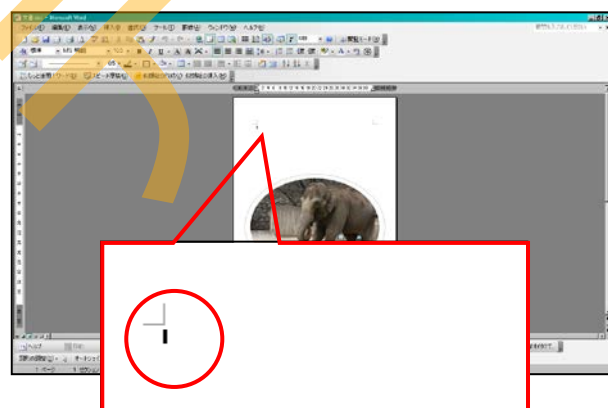
ひろしさん「ここからは、アルバムのタイトルを作るんだね。」

ひよこ先生「はい。ワードアートを使ってアルバムのタイトルを作ります。」

ひろしさん「ワードアート？なぜ、普通に文字を入力しないの？」

ひよこ先生「普通に文字を入力して、タイトルと作ってもいいのですが、色や形などの装飾ができるワードアートを使った方が、より見栄えのするタイトルが作れます。」

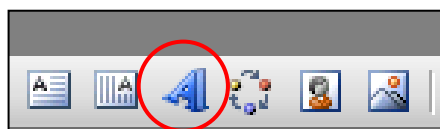
①ワードアートを挿入

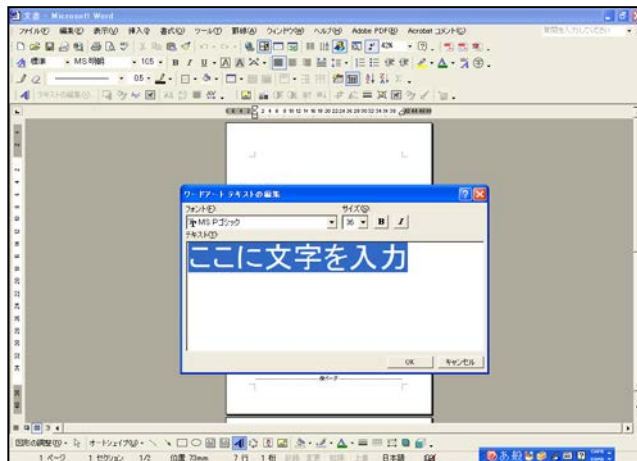
◆ワードアートを挿入する方法をマスターしましょう。

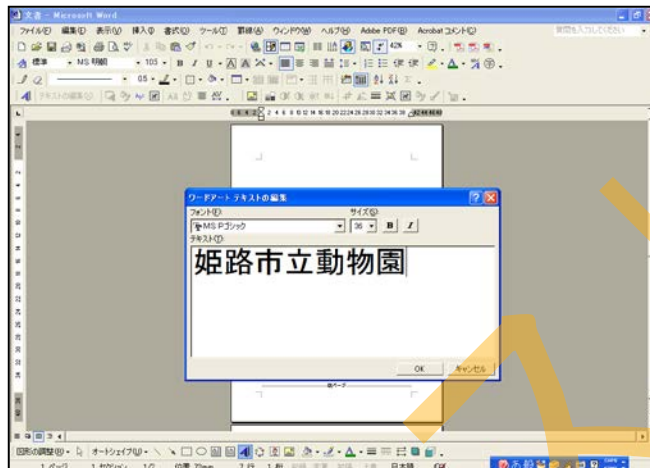
操作前の状態

操作後の状態

1ページ目の先頭にカーソルを移動します。

●画面を縮小表示しているためカーソルが小さく表示されます。

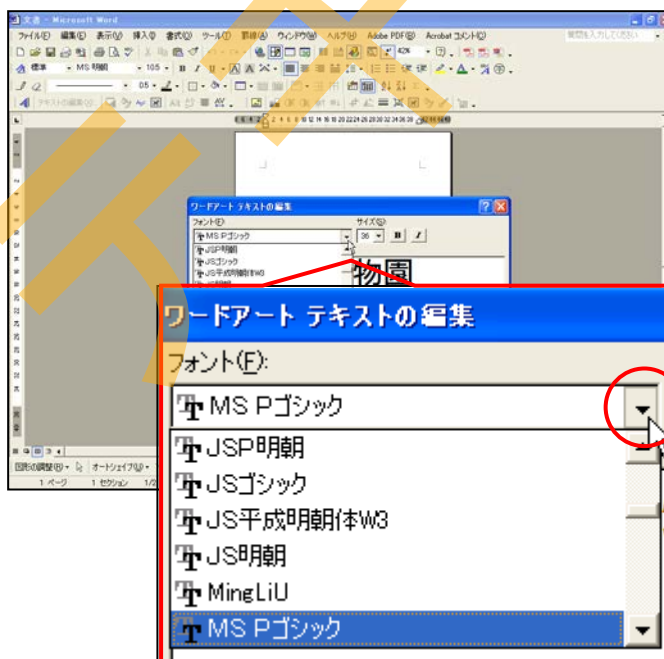
●「ワードアート」はカーソルがある行に挿入されるため、ワードアートを挿入したい行にカーソルを移動します。

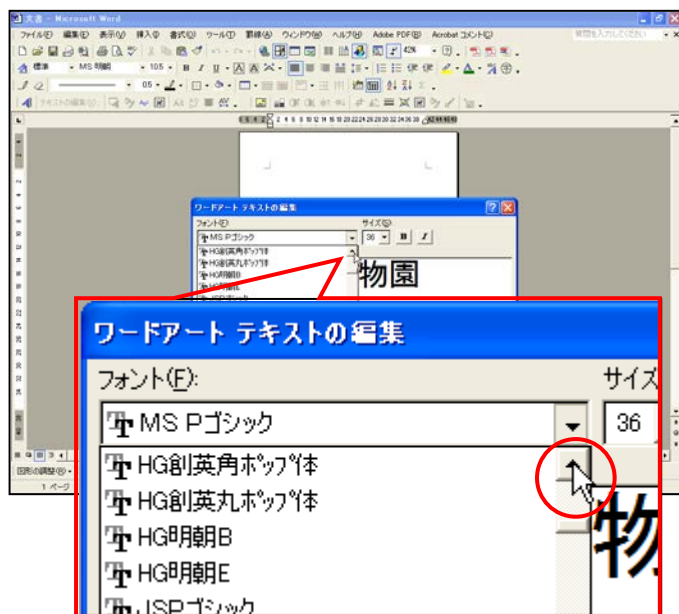
■図形描画ツールバー

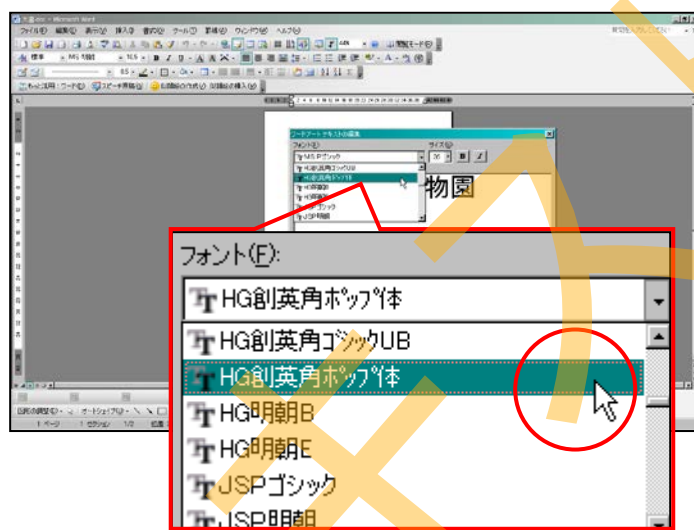
図形描画ツールバーの ワードアートをクリックします。

●ワードアートギャラリーが表示されます。

表示された[ワードアートギャラリー]の左から3列目の1行目をクリックします。
次に[OK]をクリックします。

●左のように[ワードアート　テキストの編集]ダイアログボックスが表示され、「ここに文字を入力」が選択された状態になっています。次の操作で文字を入力するため、クリックして選択を解除しないように注意しましょう。

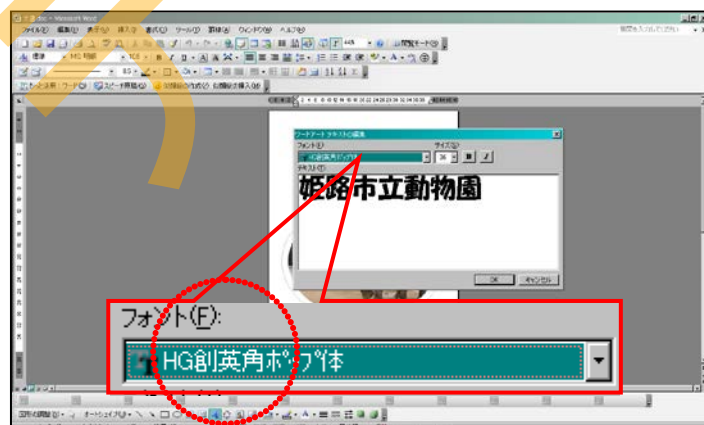
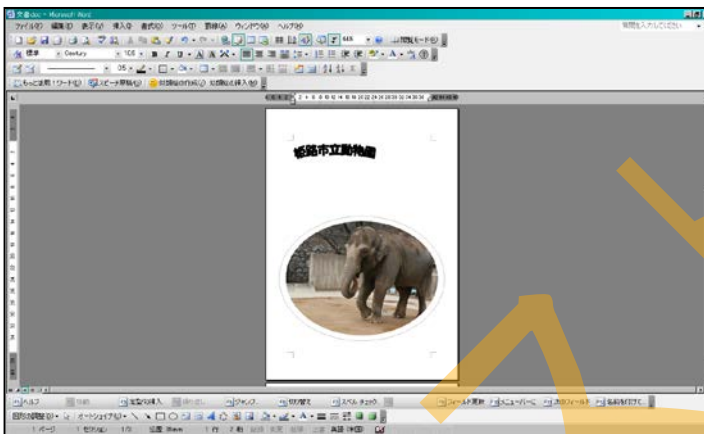
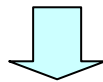
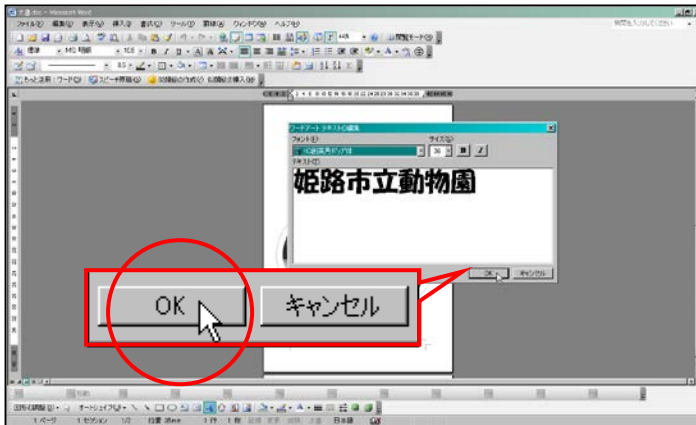
「姫路市立動物園」と入力します。

●「ここに文字を入力」が選択された状態で「姫路市立動物園」と入力すると、選択されていた文字列（「ここに文字を入力」）に上書きされます。

ワードアートの書体を変更するため、[フォント(F)ボックス右にある▼をクリックします。

●[フォント(F)]ボックス右にある▼をクリックすると、フォントの一覧が表示されます。

表示されたフォントの一覧の右にあるスクロールバーの▲「HG 創英角ポップ体」が表示されるまでクリックします。

●このテキストでは作成するアルバムのタイトルには「HG創英角ポップ体」の書体を使用します。

「HG創英角ポップ体」をクリックします。

余裕があれば読んでね

●書体以外に、ワードアートのスタイルを変更したい場合は、[ワードアートテキストの編集]ダイアログボックスの右上にあるB[太字]ボタン、I[斜体]ボタンをクリックします。

●「HG創英角ポップ体」をクリックすると、[テキスト(T)ボックスの「姫路市立動物園」の書体が「HG創英角ポップ体」に変更されます。

「ワードアート テキストの編集]ダイアログボックスの右下にある[OK]ボタンをクリックします。

●[OK]ボタンをクリックすると、アルバムの表紙にタイトルとなるワードアート(姫路市立動物園)が挿入されます。

ご参考までに

■ 挿入したワードアートの削除方法(挿入直後の場合)

挿入したワードアートが選択されている状態(削除したいワードアートの周りに ■ が表示されている状態)で[Delete]キー、または[Back Space]キーを押します。ワードアートの周りに ■が表示されていなければ、ワードアートの中にポイントし、マウスポインタが I の状態でクリックします。

②文字列の折り返しの設定（ワードアートの書式設定）

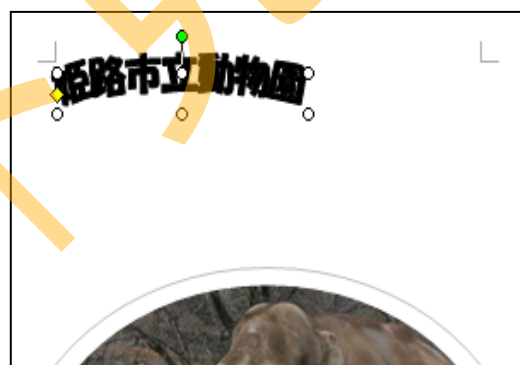
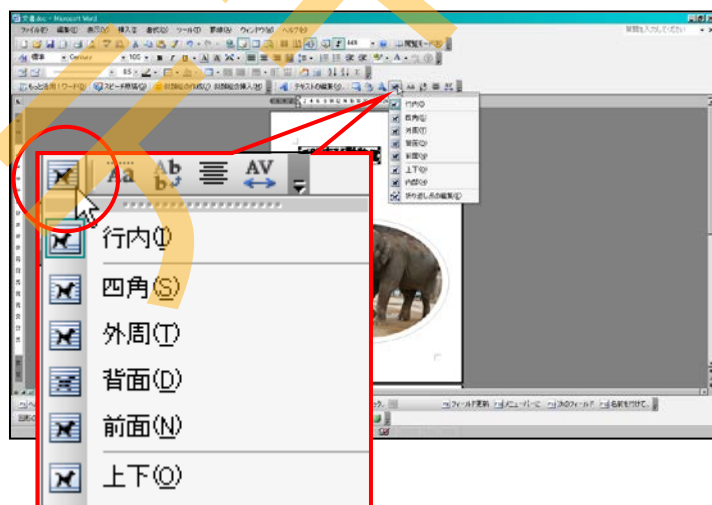
ワードアートも写真と同様に、挿入直後は「行内」というレイアウトになっており、このままでは自由にワードアートを移動することができません。そこで、ここではワードアートのレイアウトを[前面]に変更してみましょう。

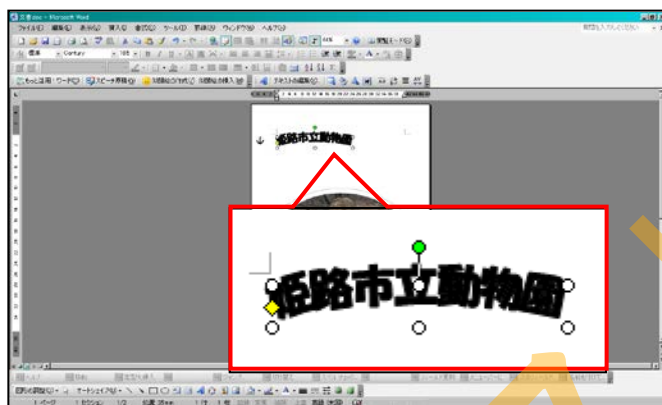
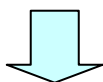
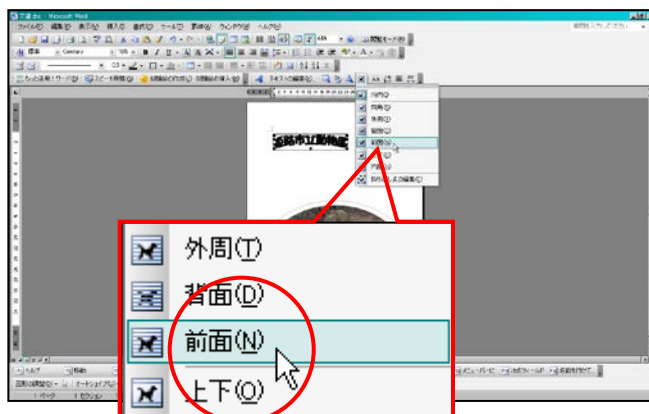
レイアウトの設定は、次に示すワードアートのツールバーの中から[テキストの折り返し]を使って設定します。ワードアートが選択されていればワードアートのツールバーが表示されます。

■ワードアートのツールバー

◆写真を移動する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

挿入したワードアートの周りに ■ が表示されていること、「ワードアートのツールバー」が表示されていることを確認し、[テキストの折り返し]ボタンをクリックします。

●ワードアートのツールバーが表示されていない場合は、ワードアートにポイントし、マウスポインタが になったところでクリックします。次にメニューバーの「表示(V)」をクリックします。一覧から「ツールバー(T)」にポイントして、マウスを「ワードアート」に移動し、そのままクリックします。

表示された折り返しの中から[前面(N)]をクリックします。

● [前面(N)]をクリックした時点で周りに表示されていた ▪（サイズ変更ハンドル）が ○ に変わります。

注意！

●ワードアートが図と違うところに表示された方もそのまま操作を続けてください。

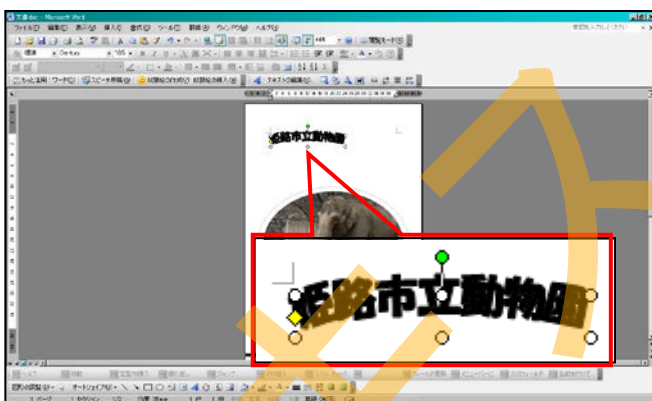
③ワードアートのサイズ変更

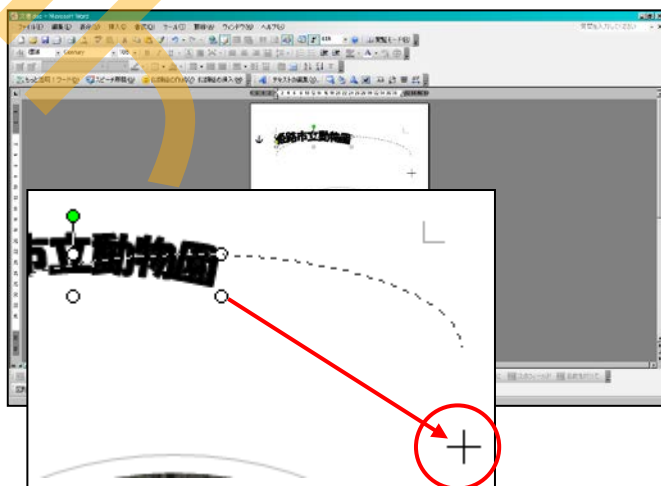
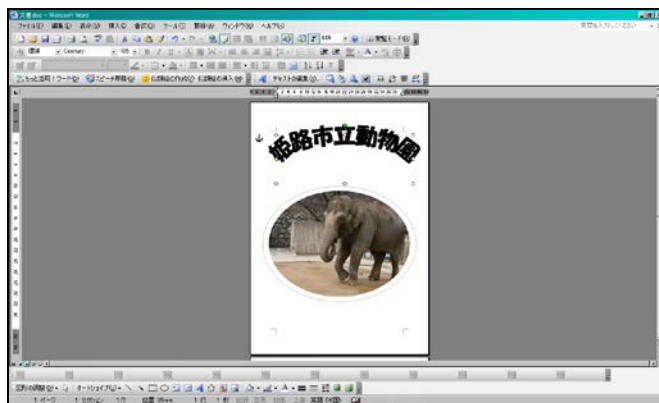
タイトルとして挿入したワードアートですが、サイズが小さすぎます。
ここでは、ワードアートのサイズを大きくしてみましょう。

◆ワードアートのサイズの変更方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

ワードアートの周りに ○（サイズ変更ハンドル）が表示されていることを確認します。

●周りに ○ が表示されていない場合は、ワードアートにポイントして、マウスポインタが ✥ の状態でクリックします。

ワードアートの右下に表示された ○（サイズ変更ハンドル）にポイントし、マウスポインタが ↘ に変わったところで右下に向かってドラッグします。

●ワードアートが用紙の右側に表示されている方は、左下に表示された ○（サイズ変更ハンドル）にポイントし、左下に向かってドラッグしてください。

●マウスから指を離した時点で、ワードアートのサイズが確定します。

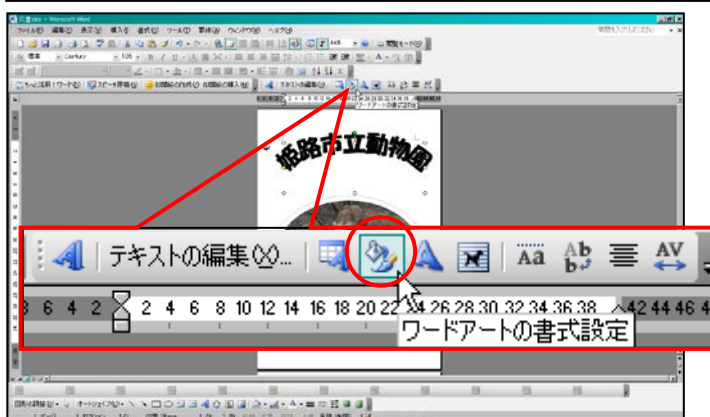
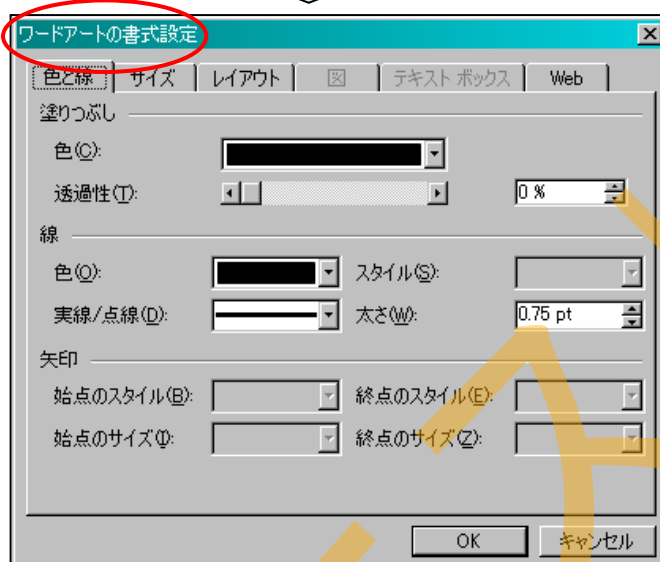
④ワードアートを中央に配置

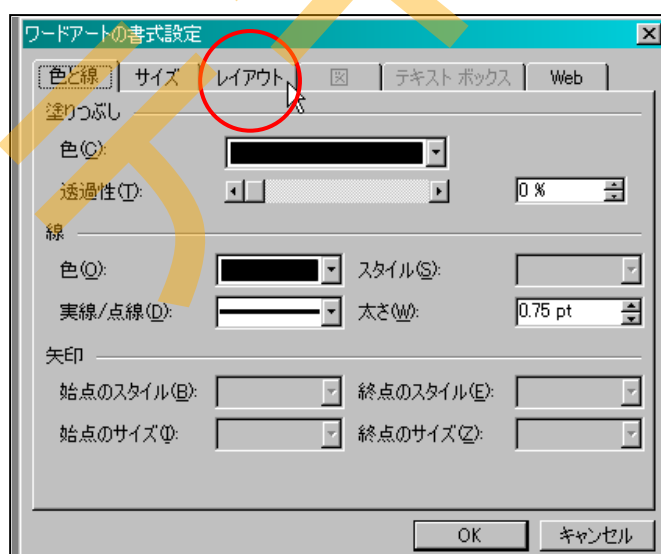
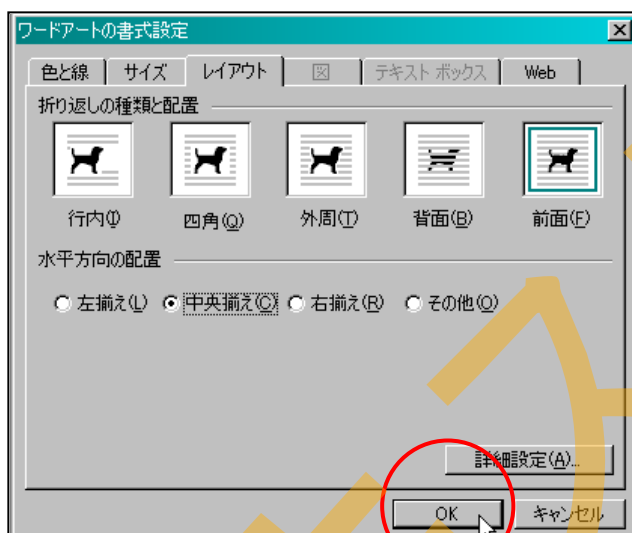
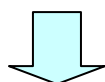
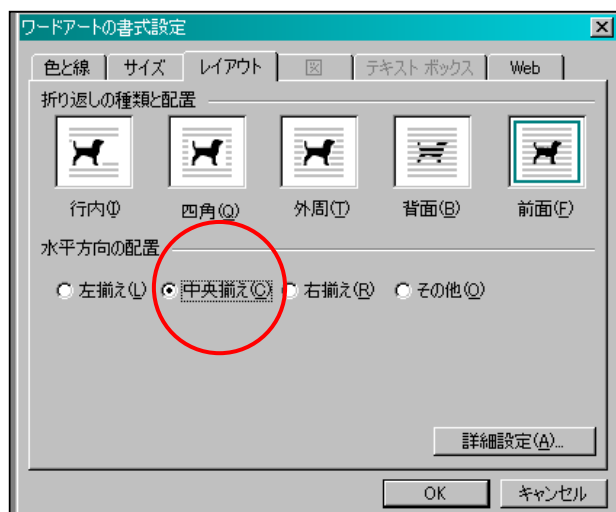
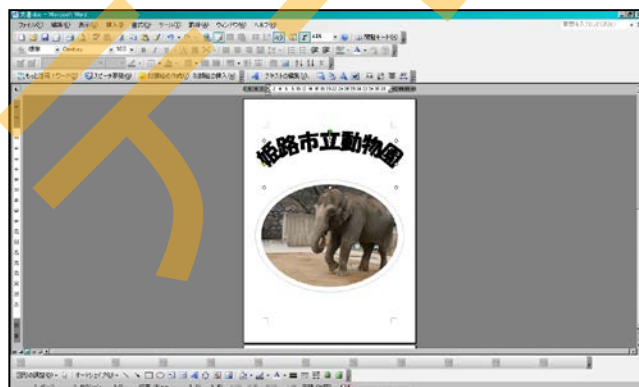
ワードアートの横位置を中央に配置してみましょう。
配置を変更する場合も、ワードアートのツールバーの[ワードアートの書式設定]を使って設定します。

◆ワードアートを中央に配置する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

ワードアートの周りに○が表示されていることを確認し、ワードアートのツールバーの中から［ワードアートの書式設定］をクリックします。

●ワードアートが選択された状態で操作を行ってください。

●［ワードアートの書式設定］のダイアログボックスが表示されます。

「レイアウト］のタブをクリックします。

水平方向の配置の中から「○中央揃え(C)」をクリックします。

●[OK]をクリックします。

●[OK]をクリックした時点で、ワードアートが用紙の水平方向の中央に配置されます。

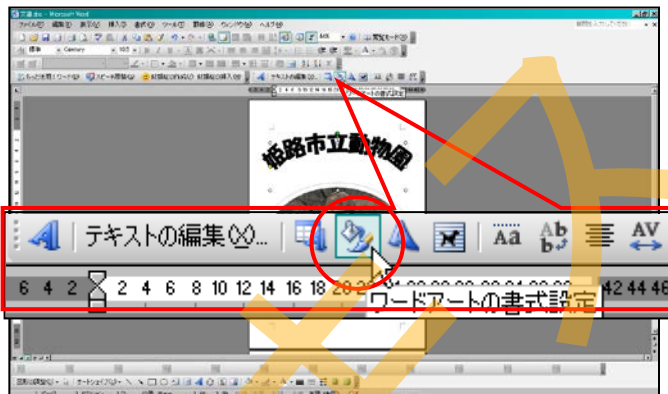
⑤ワードアートの塗りつぶしの色・線の色・線の太さの変更

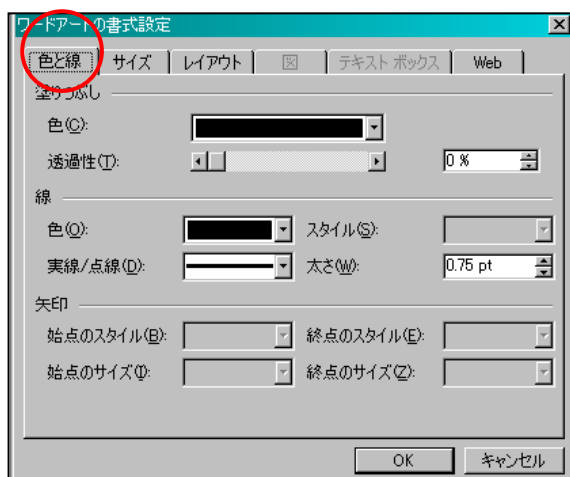
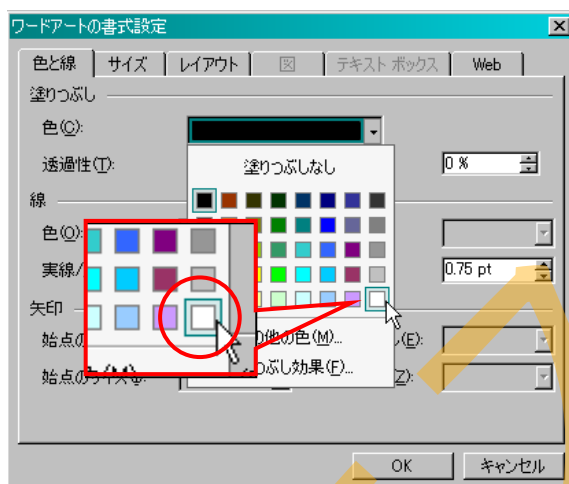
配置が決定したところで、ワードアートの塗りつぶしの色を変更しましょう。

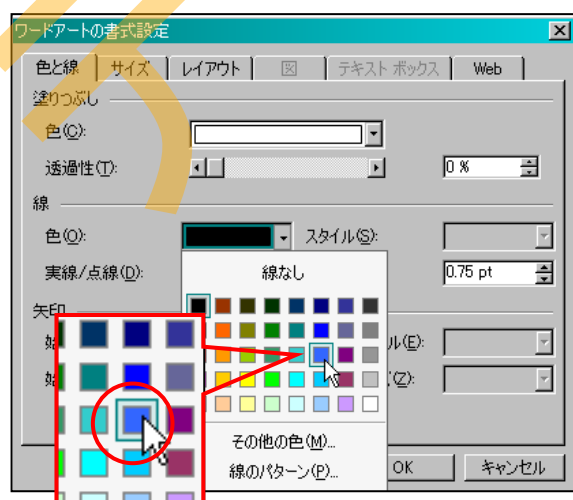
◆ワードアートの塗りつぶしの色の変更方法をマスターしましょう。

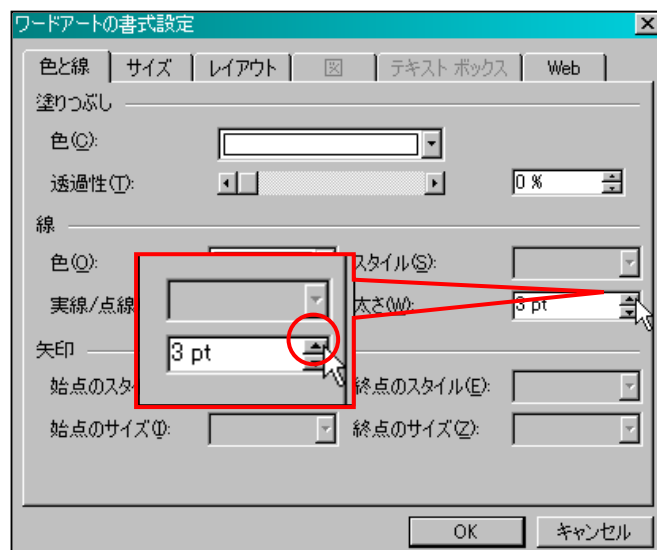
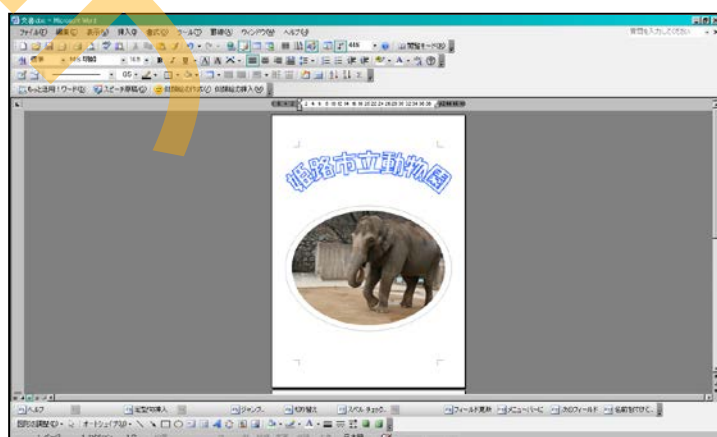
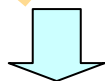
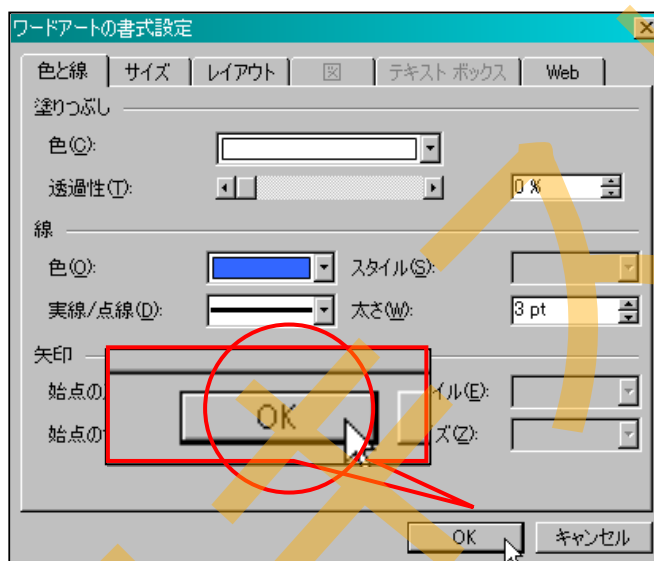
操作前の状態

操作後の状態

ワードアートの周りに ○ が表示されていることを確認し、ワードアートのツールバーの [ワードアートの書式設定]をクリックします。

●[ワードアートの書式設定]のダイアログボックスが表示されます。

［色と線］のタブをクリックします。

「塗りつぶし」の［色（C）］▼をクリックし、表示された色の中から［白］をクリックします。

次にワードアートの線の色を変更しましょう。

「線」の［色（O）］▼をクリックし、表示された色の中から［薄い青］をクリックします。

次にワードアートの線の太さを変更しましょう。

「線」の[太さ]の▲をクリックして[3pt]に変更します。

「OK」をクリックします。

●[OK]をクリックした時点でワードアートの[塗りつぶしの色][線の色][線の太さ]が変更されます。

⑥ワードアートに影を設定する

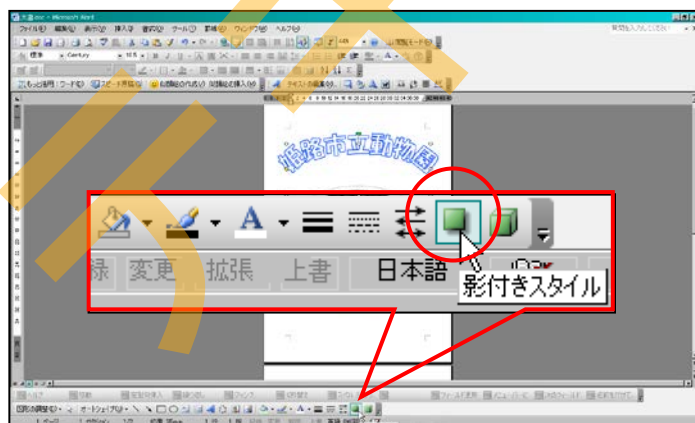
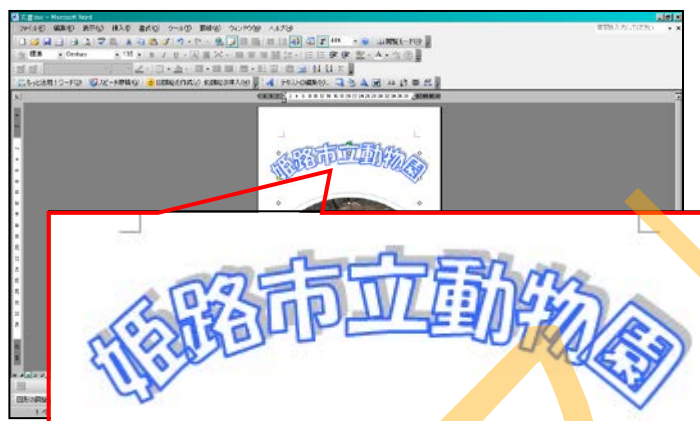
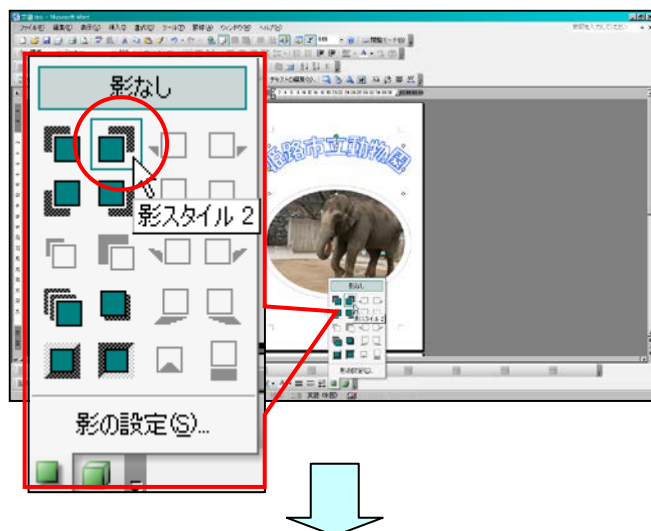
ワードアートに色がついたところで、ワードアートに影を設定しましょう。

■図形描画のツールバー

◆ワードアートに影を設定する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

ワードアートの周りに ○ が表示されていることを確認し、図形描画のツールバーの [影付きスタイル]をクリックします。

影スタイルの一覧から[影スタイル2]をクリックします。

●[影スタイル2]をクリックした時点でワードアートに影スタイルが設定されます。

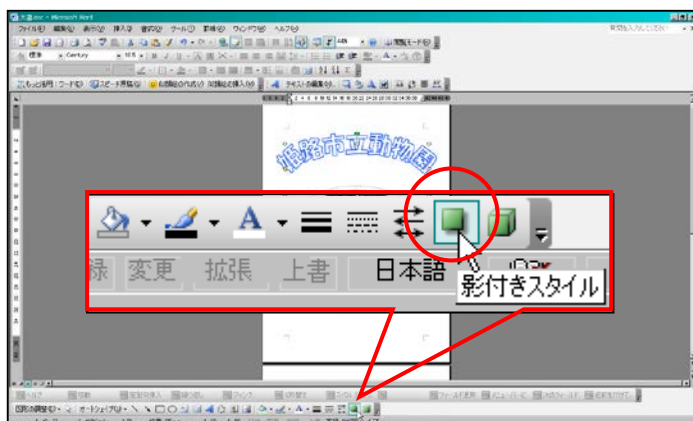
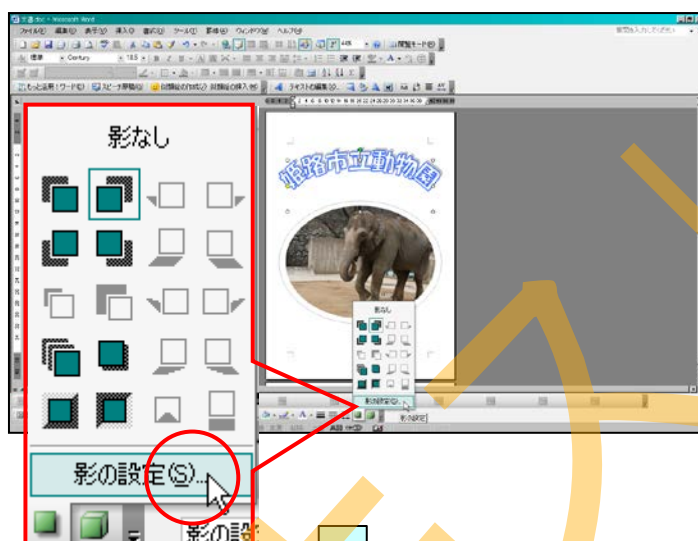
⑦ワードアートの影の色の変更

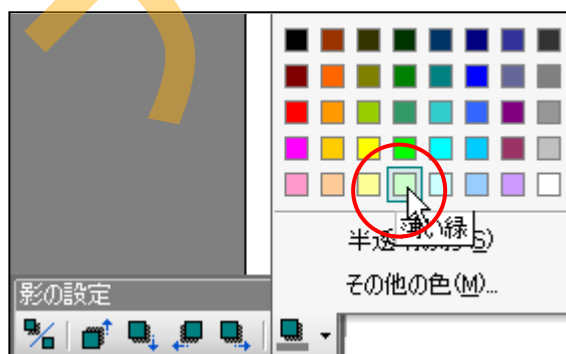
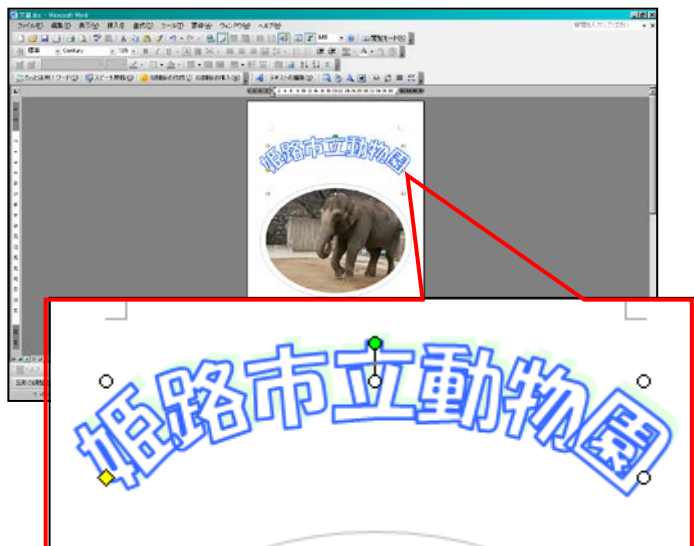
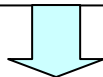
ワードアートに影を設定したところで、影の色を変更してみましょう。

◆写真を移動する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

ワードアートの周りに○が表示されていることを確認し、図形描画のツールバーの「影付きスタイル」をクリックします。

影スタイルの一覧の一番下にある[影の設定(S)]をクリックします。

●[影の設定]のツールバーが表示されます。

影の色の▼をクリックし、色の一覧から[薄い緑]をクリックします。

●[薄い緑]をクリックした時点で、ワードアートの影の色が変更されます。

⑧ ワードアートの移動

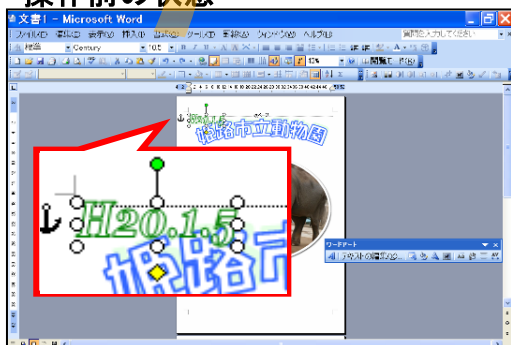
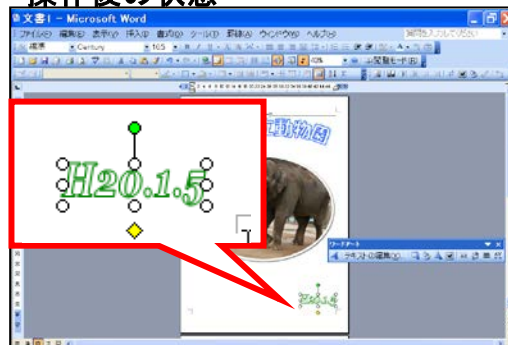
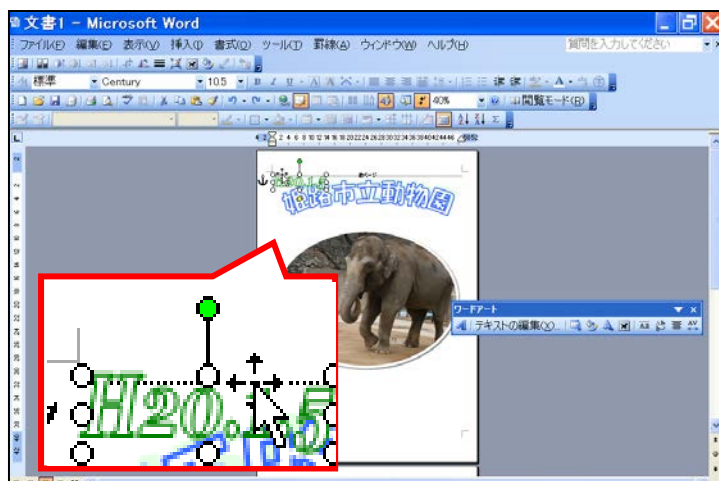
④でワードアートを中央に配置でワードアートを横位置の中央に配置しましたが、ここではご自分の好きな位置にワードアートを移動してみましょう。

まず、以下のような条件で新たなワードアートを挿入してください。

●挿入箇所	文頭（1 行目にカーソルを移動して挿入してください）
●ワードアートスタイル	左から 1 列目の 1 行目
●挿入文字	「H20.1.5」（必ず半角で入力してください）
●フォント	Georgia
●フォントのスタイル	太字、斜体
●テキストの折り返し	前面
●線の色	緑

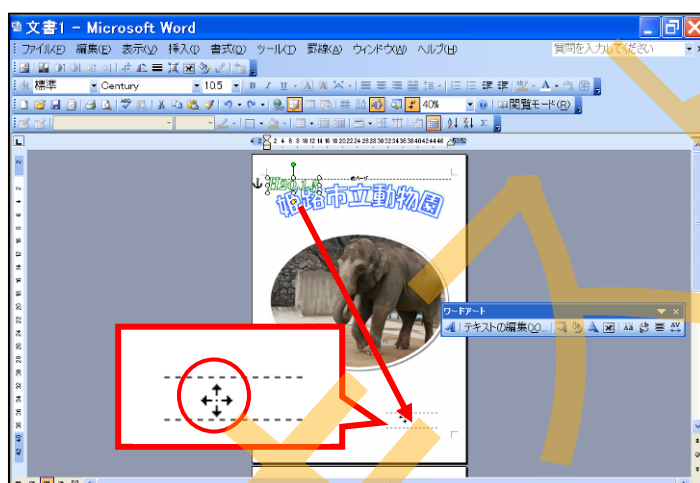
※大きさは、下図を参考にして下さい。

◆ワードアートを移動する方法をマスターしましょう。

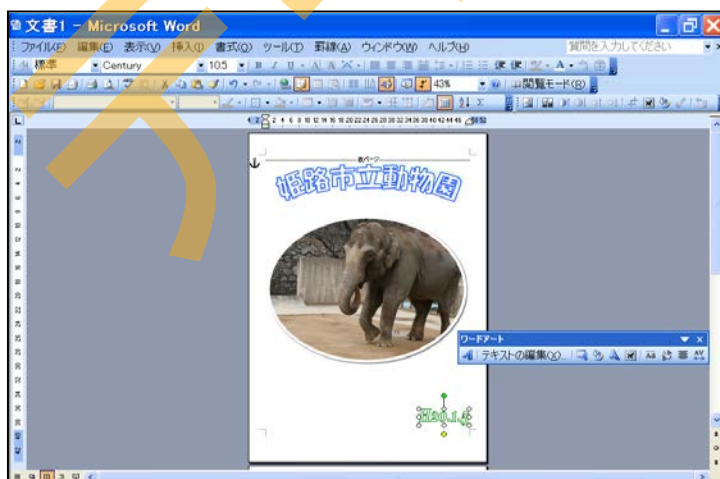
操作前の状態

操作後の状態

挿入した日付のワードアートにマウスポインタを移動します。

●日付のワードアートにポイントすると、マウスポインタの形が 　になります。

注意！

●ワードアート「姫路市立動物園」にポイントしないよう気をつけましょう。ポイントする位置を間違えると「姫路市立動物園」のワードアートが移動してしまいます。

そのまま下に向かってドラッグします。

●ドラッグ中の、マウスポインタの形は 　の状態になっています。

余裕があれば読んでね

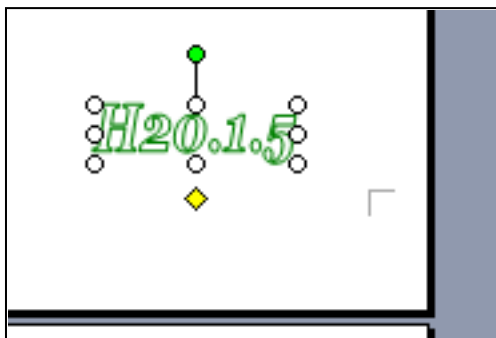
●ワードアートを水平、垂直に移動したい場合は、[Shift]キーを押した状態でドラッグします。

●マウスから指を離した時点で、ワードアートの位置が確定します。

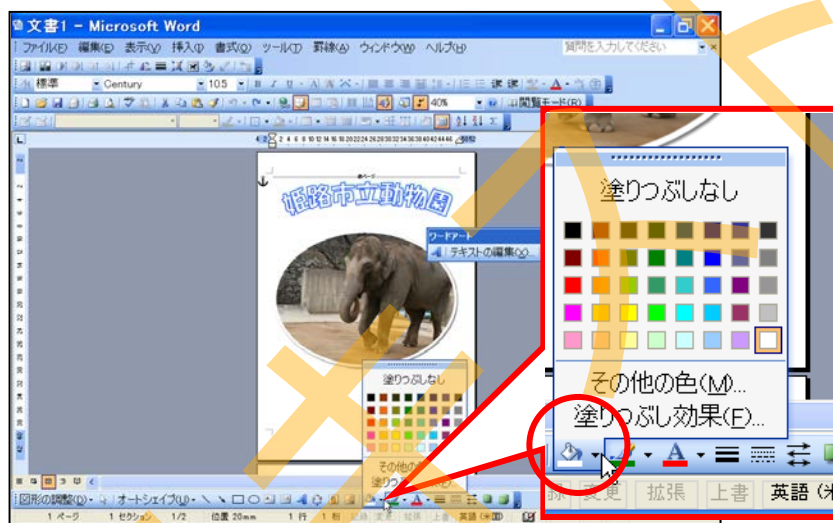
●ワードアートを微妙に移動したい場合は、ワードアートが選択された状態(ワードアートの周りに
○　が表示されている)で、キーボードの「→」キー、「←」キー、「↑」キー、「↓」キー、をそれぞれ押すと、ワードアートを微妙に移動させることができます。

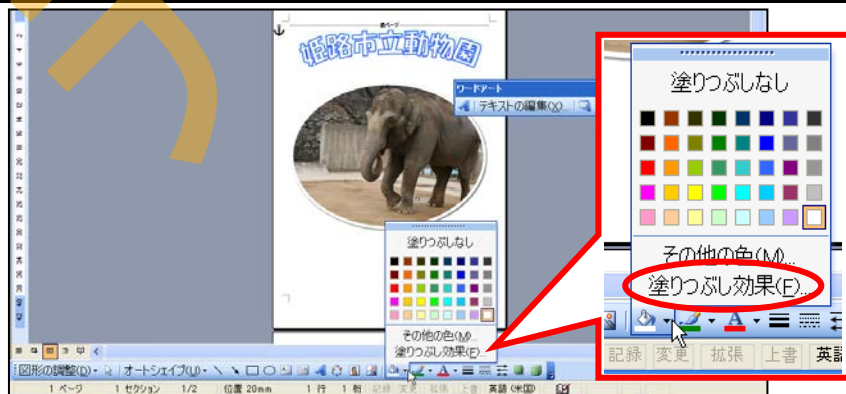
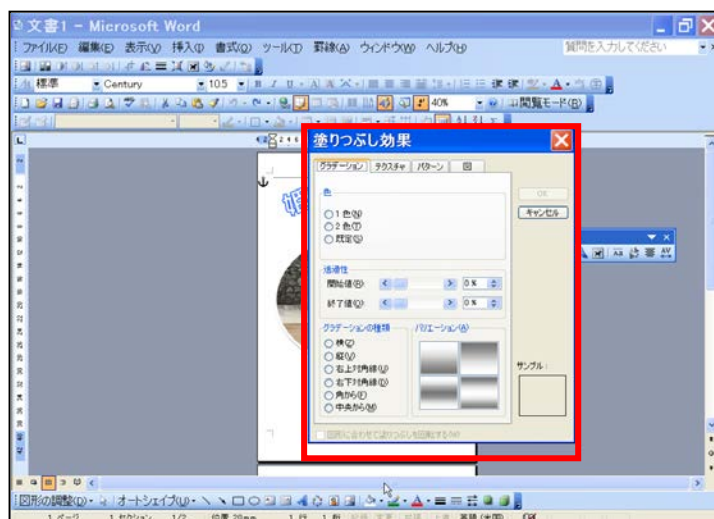
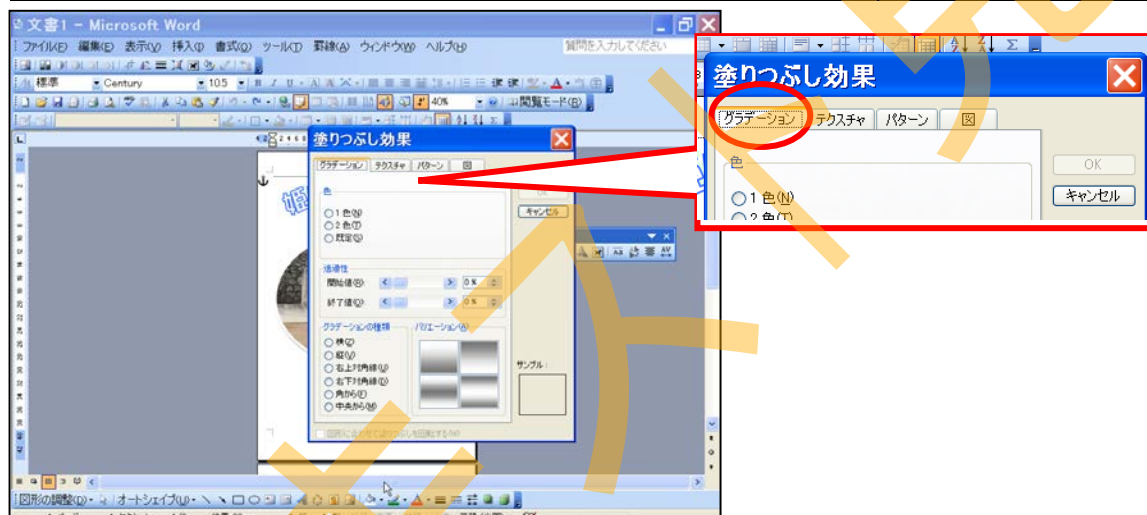
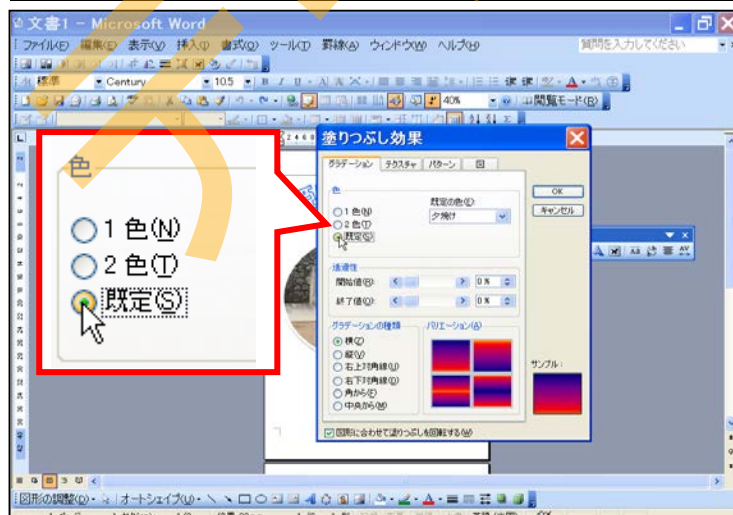
⑨ グラデーションの設定

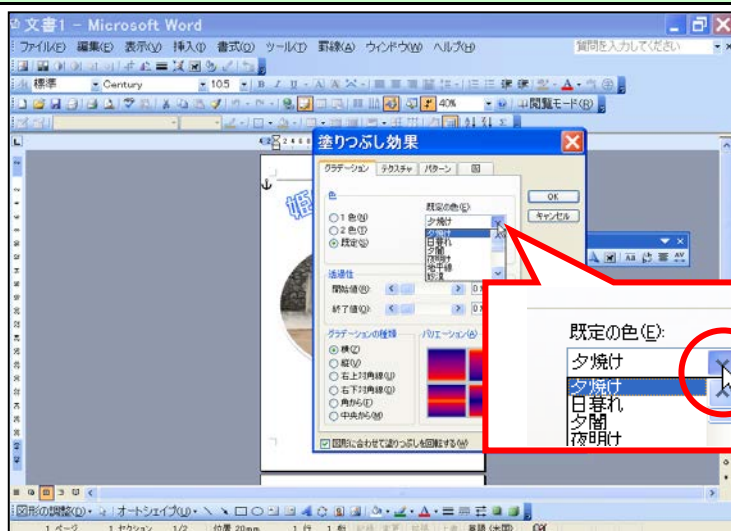
⑤でワードアートの塗りつぶしの色の変更でワードアートの塗りつぶしの色を変更しましたが、ここでは塗りつぶしの色にグラデーションを設定してみましょう。

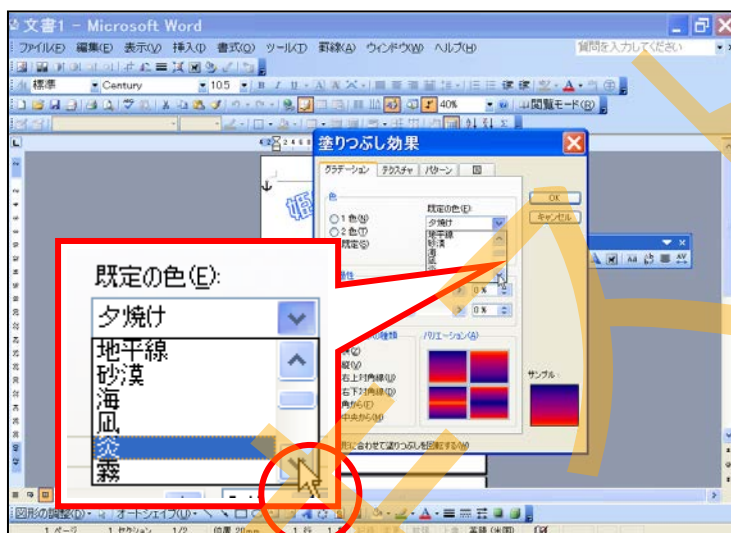
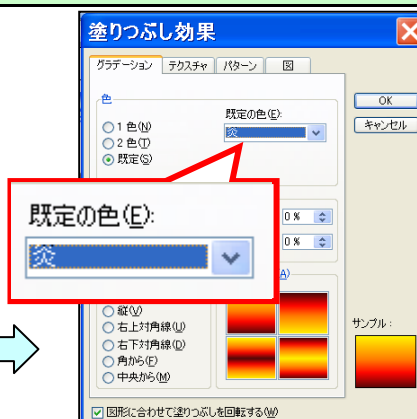
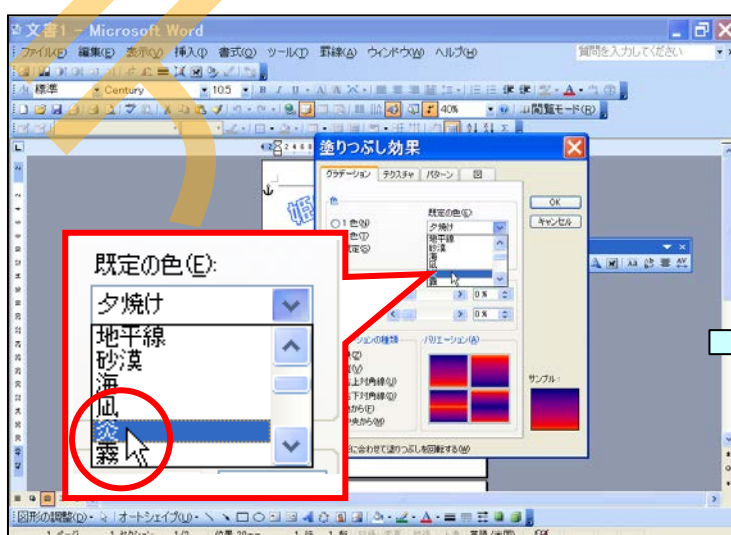
◆ワードアートの塗りつぶしの色にグラデーションを設定する方法をマスターしましょう。

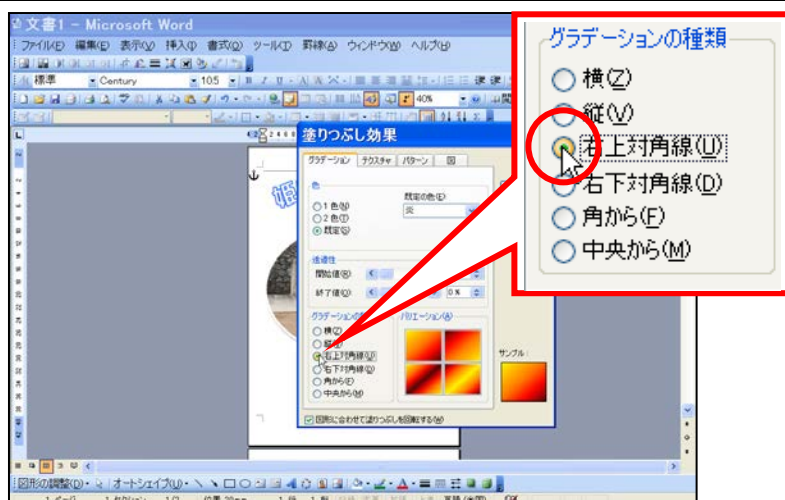
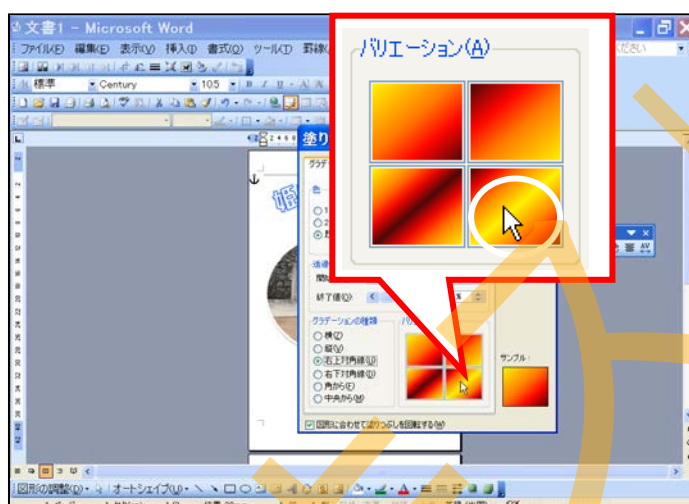
操作前の状態 **操作後の状態**

ワードアートの周りに ○ が表示されていることを確認し、[図形描画ツールバー]にある [塗りつぶしの色]ボタンの▼をクリックします。

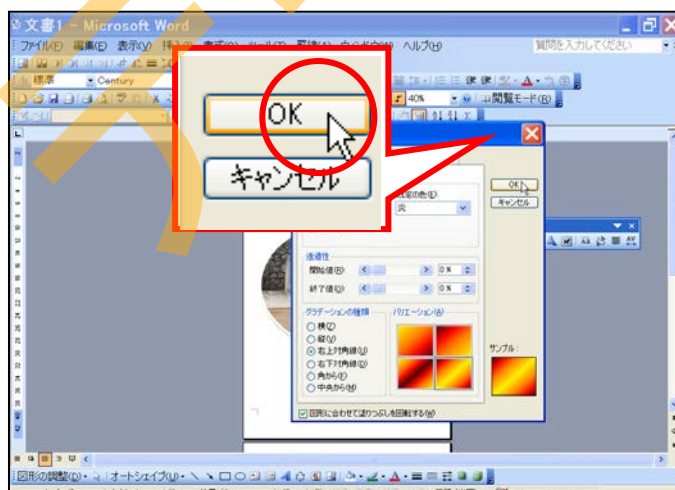
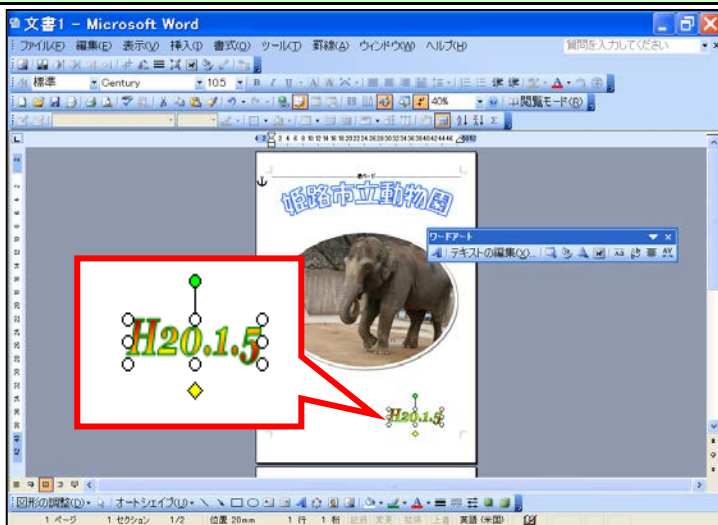
注意！

●ワードアート「H20.1.5」が選択された状態で操作を行ってください。

表示された色パレットの下部の[塗りつぶし効果]をクリックします。

[塗りつぶし効果]ダイアログボックスが表示されます。

[グラデーション]タブをクリックします。

[色]の[既定(S)]のチェックボックスをクリックします。

●[既定(S)]チェックボックスにクリックすると、右側に[既定の色(E)]ボックスが表示されます。

[既定の色(E)]ボックスの右にある ▼ をクリックします。

●[既定の色(E)]ボックスの右側にある ▼ をクリックすると、既定の色の一覧が表示されます。
既定の色は、初期では[夕焼け]になっています。

表示されたスクロールバーの ▼ を「炎」が表示されるまでクリックします。

「炎」をクリックします。

●「炎」をクリックすると、[既定の色(E)]ボックスに「炎」が表示されます。

「グラデーションの種類」で「右上対角線（U）」をクリックします。

[バリエーション(A)]で右下をクリックします。

●[バリエーション(A)]で右下を選択すると、[サンプル]が選択したバリエーションに変わります。

[塗りつぶし効果]ダイアログボックス右上にある[ＯＫ]ボタンをクリックします。

ワードアートの塗りつぶしの色が変更されます。

●[OK]ボタンをクリックした時点で、日付のワードアートが指定した色で塗りつぶされます。

ご参考までに

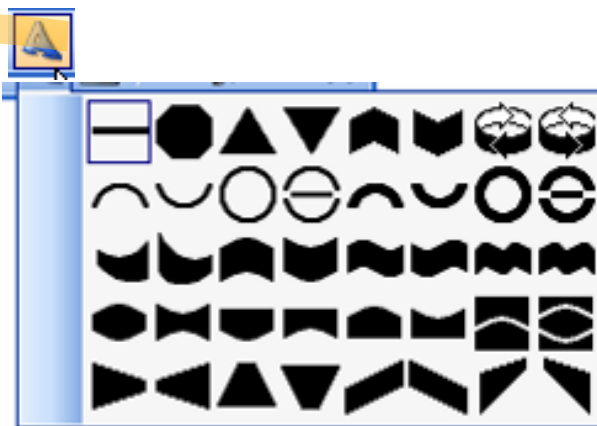
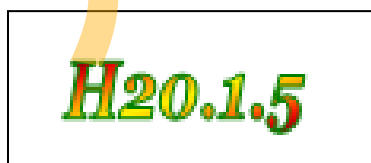
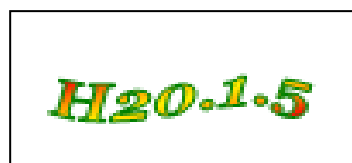
■ワードアートの形状の変更

ワードアートは、挿入した後でも形状を変更することができます。
形状を変更したいワードアートを選択し、ワードアートツールバーの[ワードアート:形状]ボタンをクリックし、右図のように表示される種類から選択します。
下図の例は、形状を「大波 2」に変更したものになります。

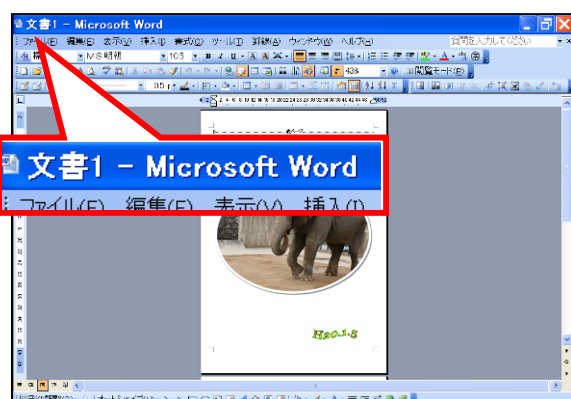
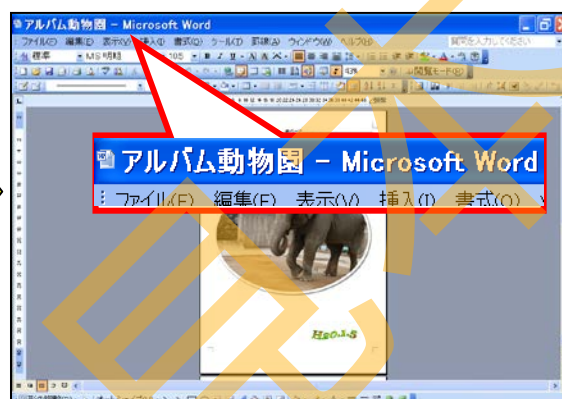
変更前

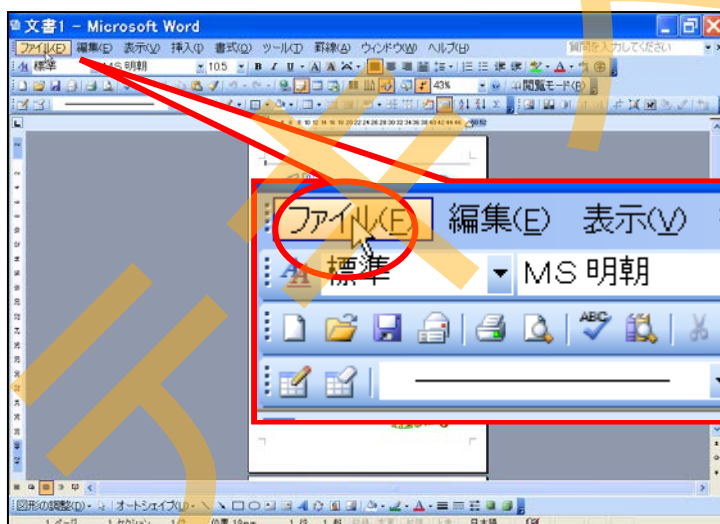
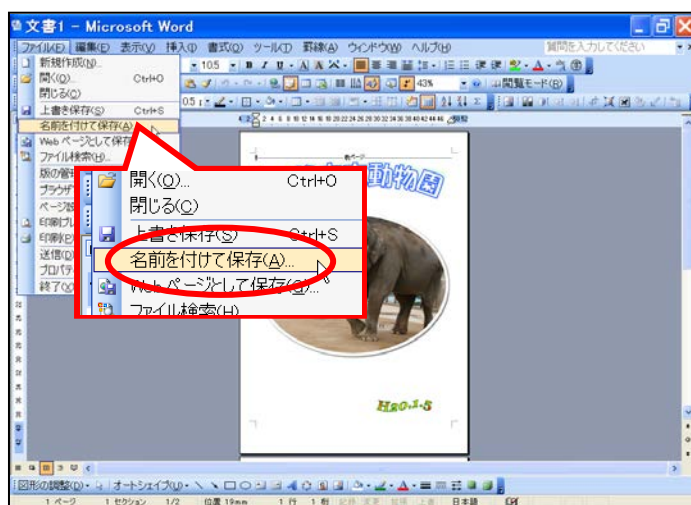
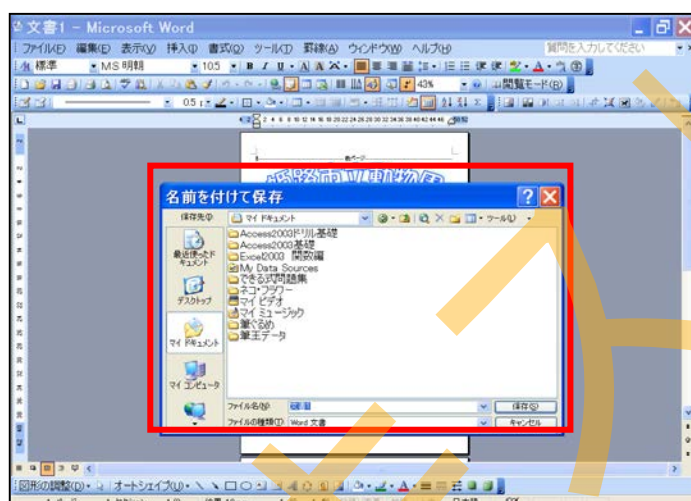
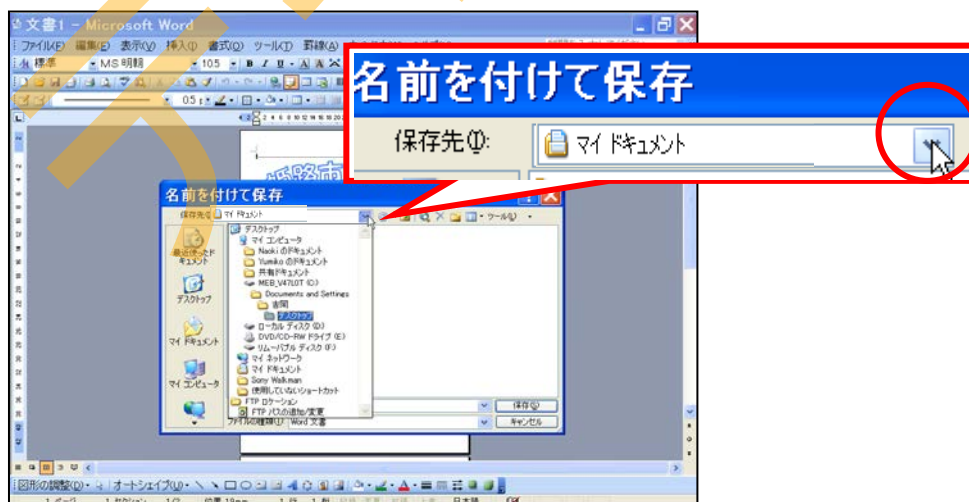
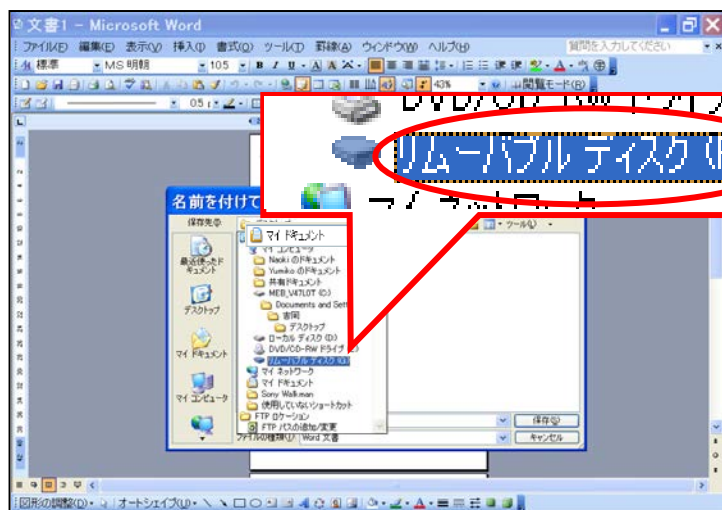
H20.1.5

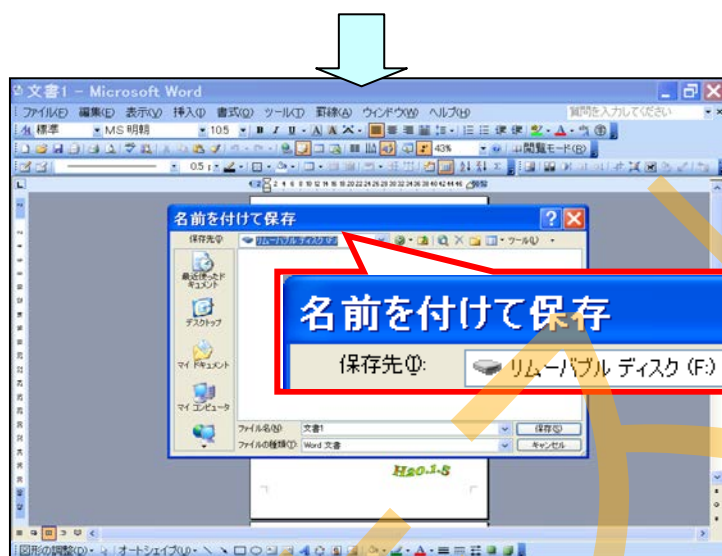
変更後

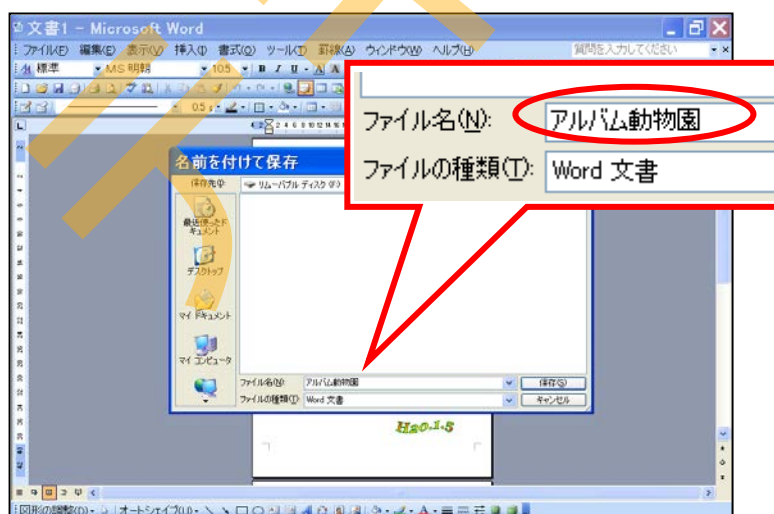
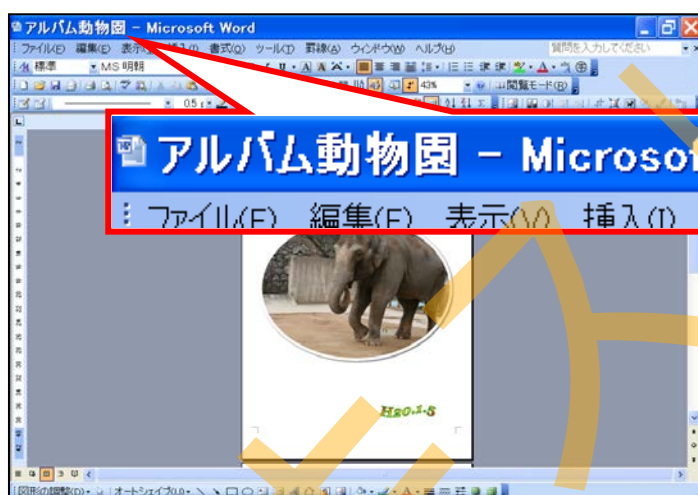
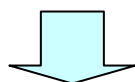
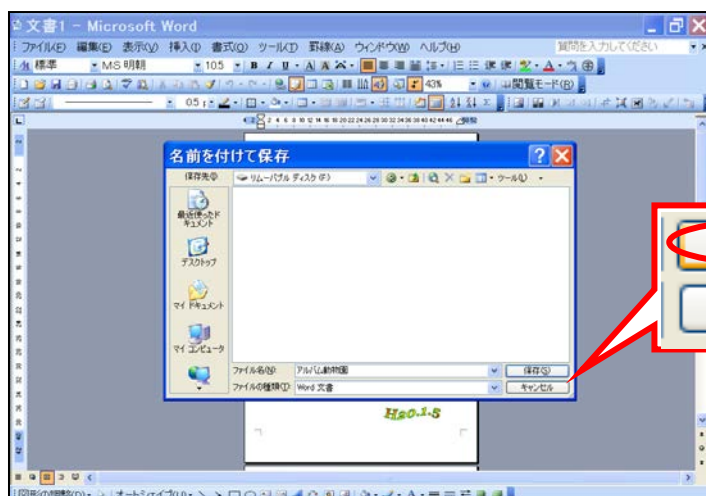
H20.1.5

(6)アルバムの保存

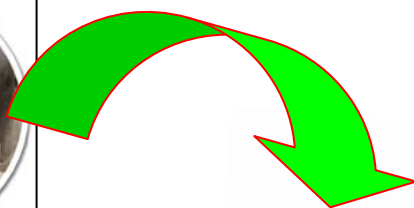
ここまで作成してきたアルバムを「アルバム動物園」という名前をつけてUSBメモリに保存してみましょう。

USBメモリは、パソコン内では、「リムーバブルディスク」と表示されます。

※操作に入る前に、USBメモリをパソコンに差し込んでください。

画面左上にある[スタート]ボタンをクリックします。

表示されたメニューから［名前をつけて保存（A)］をクリックします。

［名前をつけて保存］ダイアログボックスが表示されます。

［保存先］の［マイドキュメント］の横の をクリックします。

表示された一覧から「リムーバブルディスク」をクリックします。

注意！

●お使いのパソコンによって、リムーバブルディスクの後ろが「（E）」や「（G）」、「（F）」など、違ってきます。

●「リムーバブルディスク」をクリックすると、[保存先（I）:]ボックスに「リムーバブルディスク」が表示されます。ここまでの操作が、保存先の指定方法になります。

［ファイル名（N）:］ボックスに「アルバム動物園」と入力します。

［名前をつけて保存］ダイアログボックス右下にある［保存（S)］ボタンをクリックします。

●保存操作が完了すれば、タイトルバーに「アルバム動物園」と表示されます。

これで、表紙が完成しました。次からは、2 ページ目を作成していきましょう。

3. 写真の形状、効果を変更する

表紙が完成したところで、ここからは 2 ページ目を作成していきます。
2 ページ目は、写真の形状の変更や、さまざまな効果を設定していきます。
【2 ページ目の完成例】

2ページ目の作成

けいこさん「表紙が完成して、いよいよ 2 ページ目の作成に入るのね。
ここでは、どんなことを学ぶの？」

ひよこ先生「はい。基本的には、表紙を作成した方法と同じですが、前ページの完成例のように 2 ページ目では、もう一工夫加えて写真の形状を変更したり、影などの効果を設定したりして、より見栄えのするアルバムを作成していきます。」

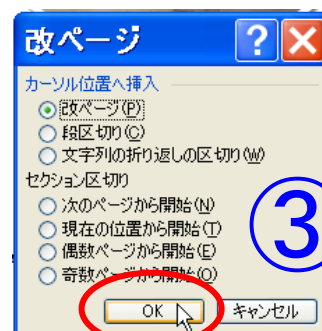
けいこさん「なるほど。写真がいろんな形になっているわね。それ以外にも、前ページの完成例を見ると、2 ページ目から複数枚写真が入っているようね。」

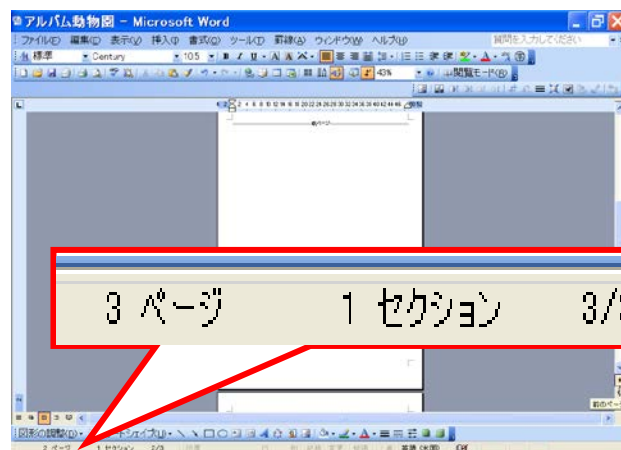
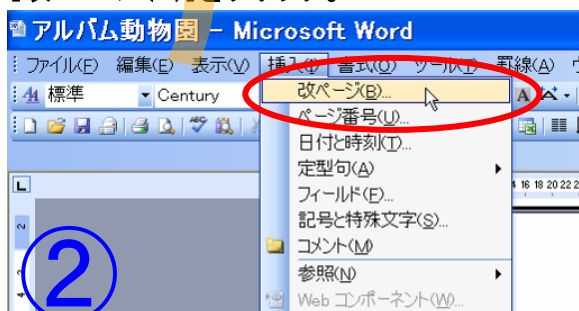
ひよこ先生「そのとおりです。2 ページ目からは、複数枚写真を挿入する方法も学んでいきます。」

2 ページ目作成の前に…

P8（1） 2 ページ目の作成でも説明しましたが、簡単にワードでアルバムを作成するために、今から作成する次のページを先に作成します。「2 ページ目を作成する前に、下図のように 3 ページ目を先に作成しておきましょう。

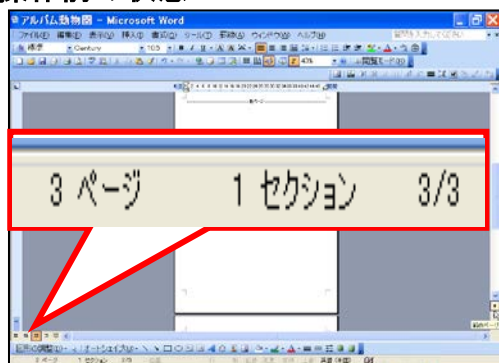
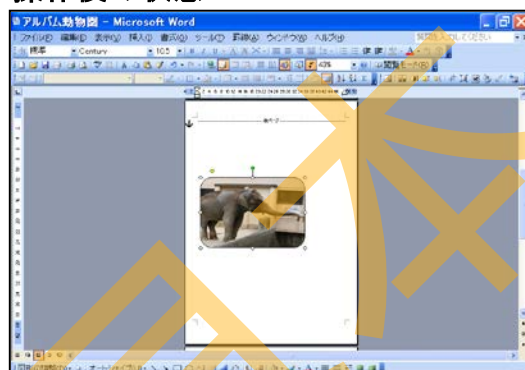
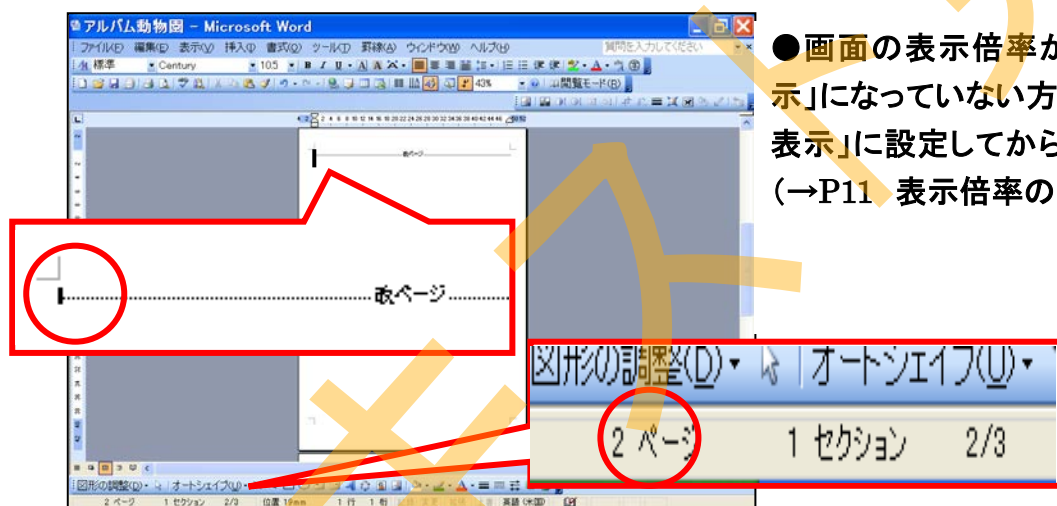
―操作方法―

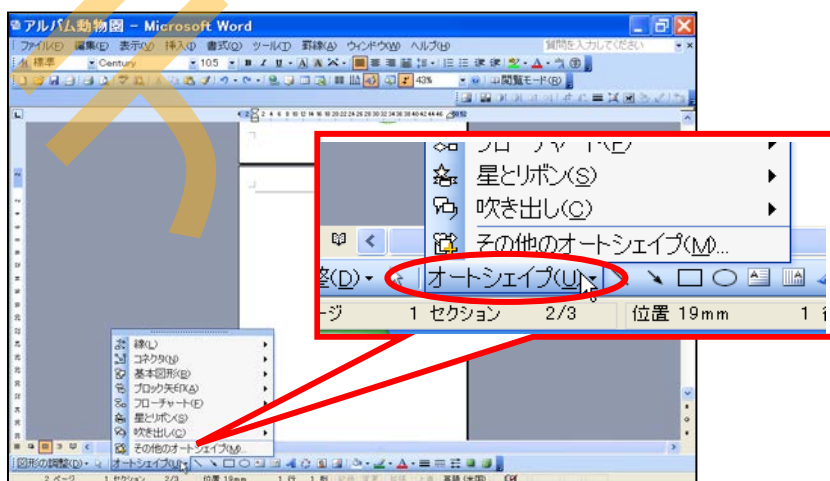
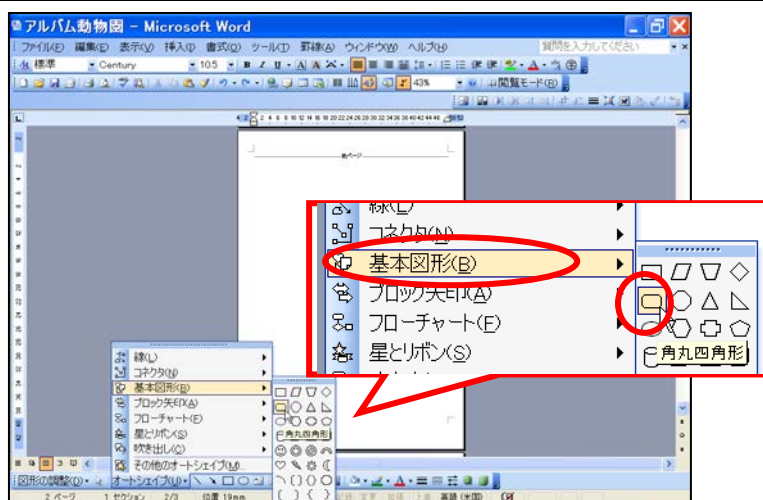
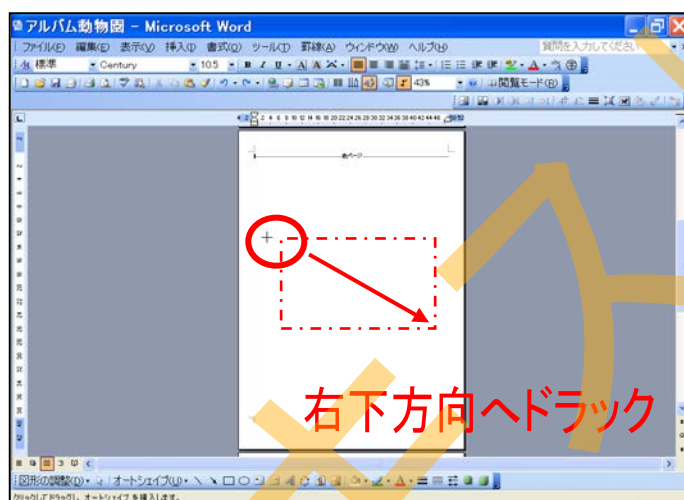
① 2 ページ目先頭にカーソルを移動。

②メニューバーの[挿入(I)]をクリックして、[改ページ(B)]をクリック。

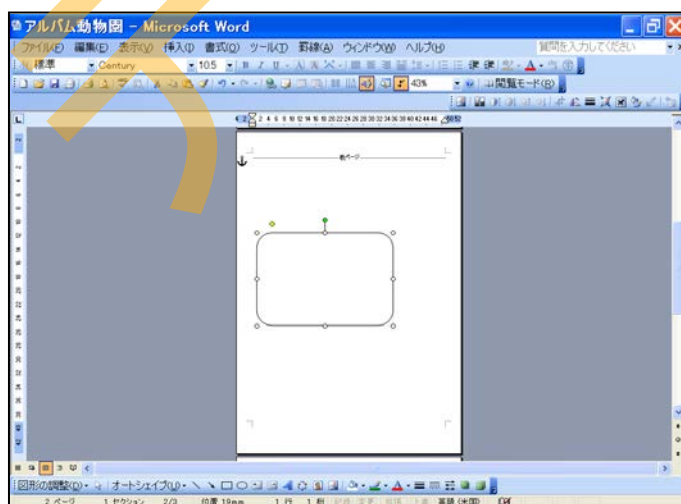
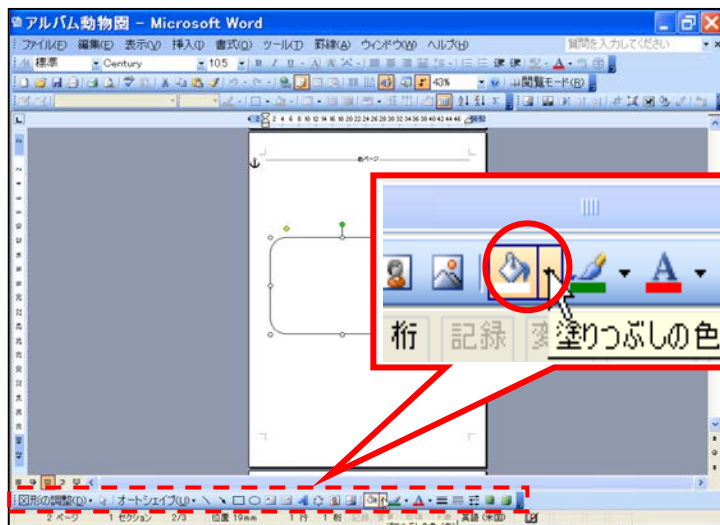
③「改ページ」ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリック。

（1）図形の中に写真を挿入する

通常、写真を挿入すると四角形ですが、図形を作成してその中に写真を挿入することで、八角形や円筒形など、様々な形に変更することができます。

◆図形の中に写真を挿入する方法をマスターしましょう。

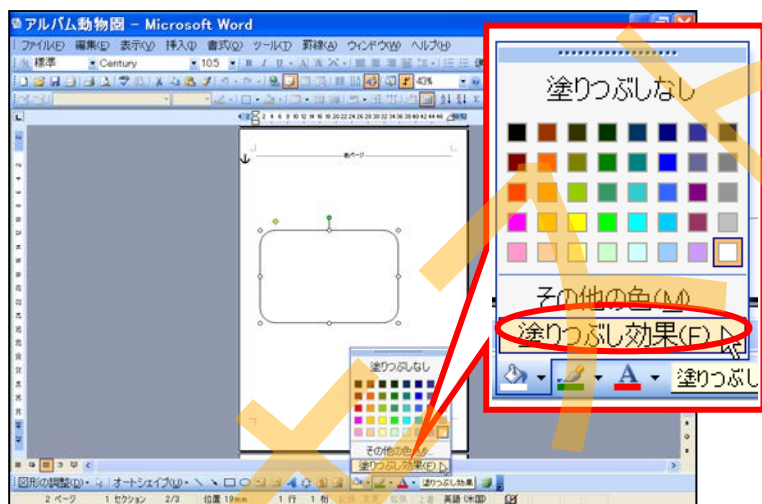
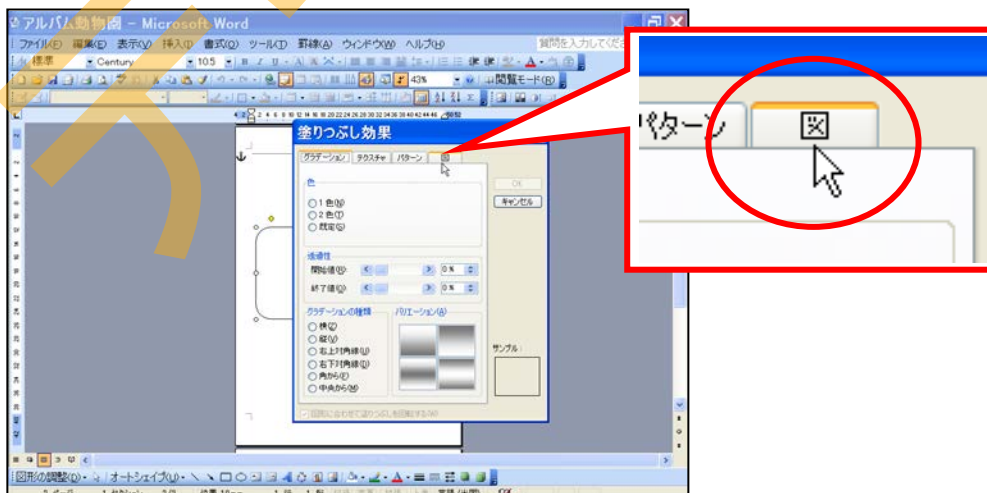
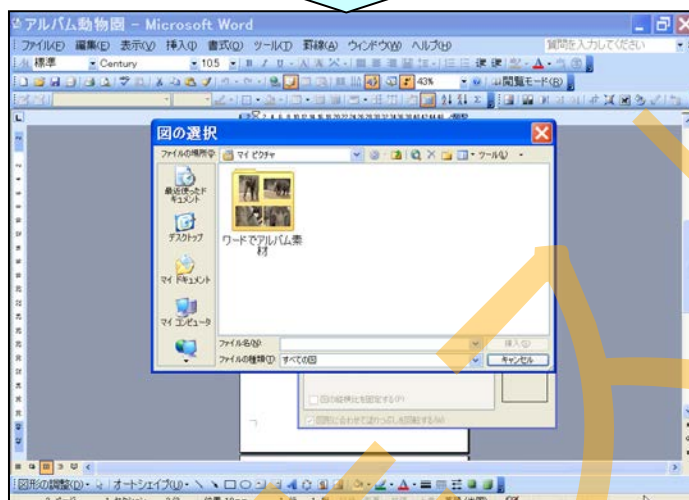
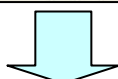
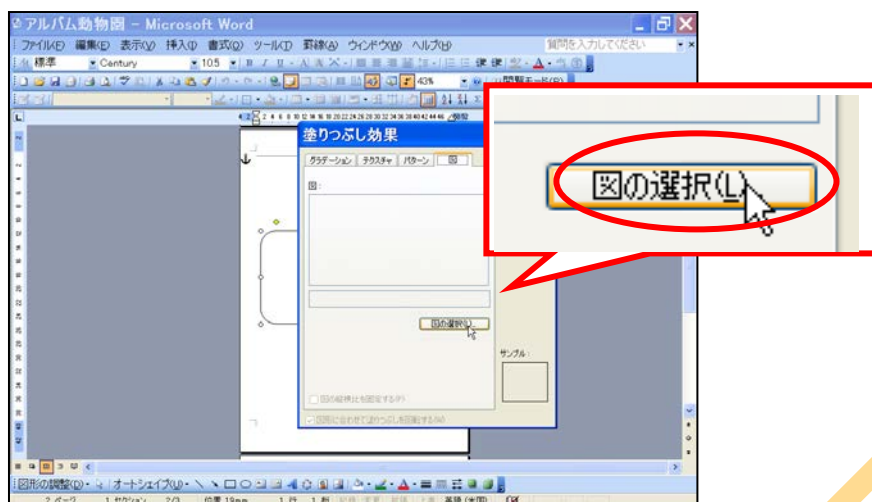
操作前の状態

操作後の状態

2 ページ目の先頭にカーソルを移動します。

●画面の表示倍率が「ページ全体を表示」になっていない方は、「ページ全体を表示」に設定してから操作してください。（→P11　表示倍率の変更）

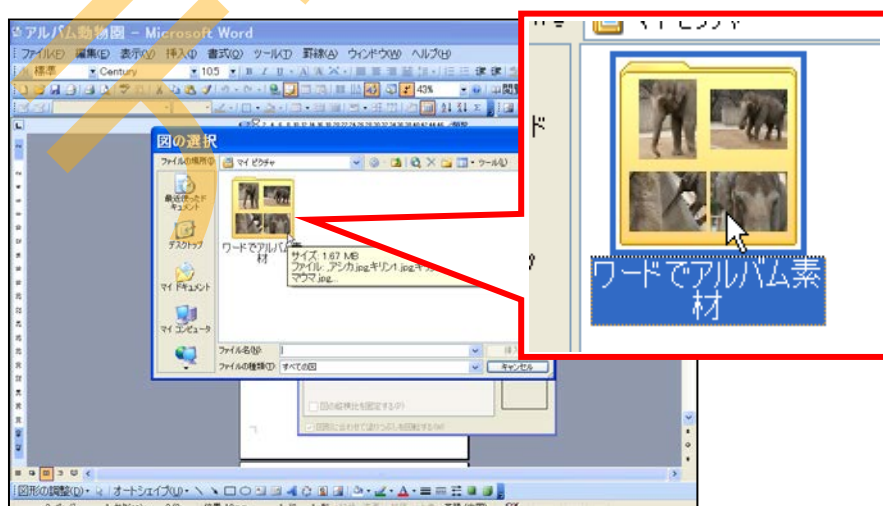
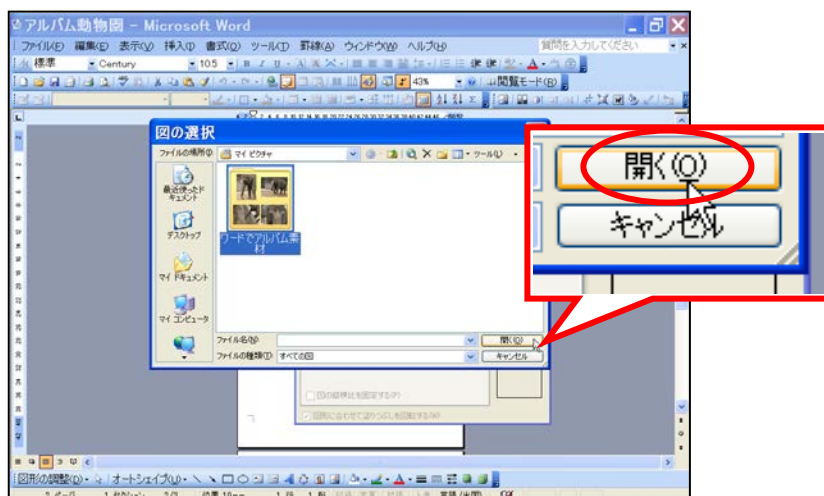
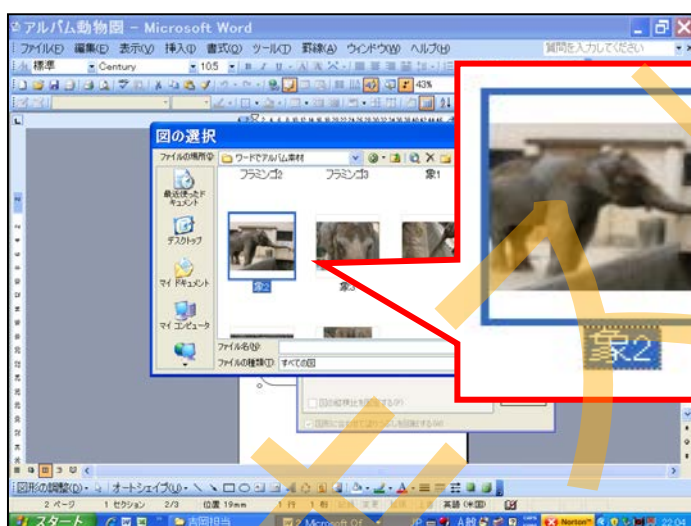
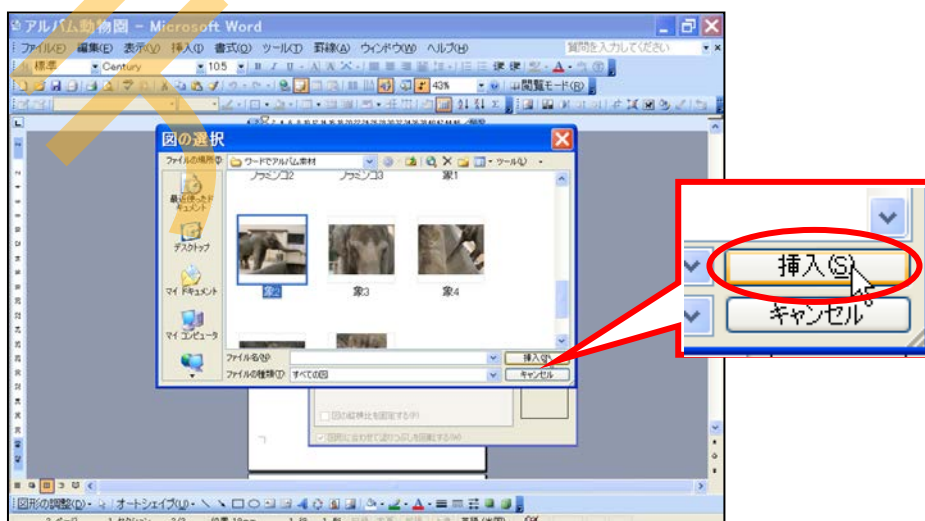
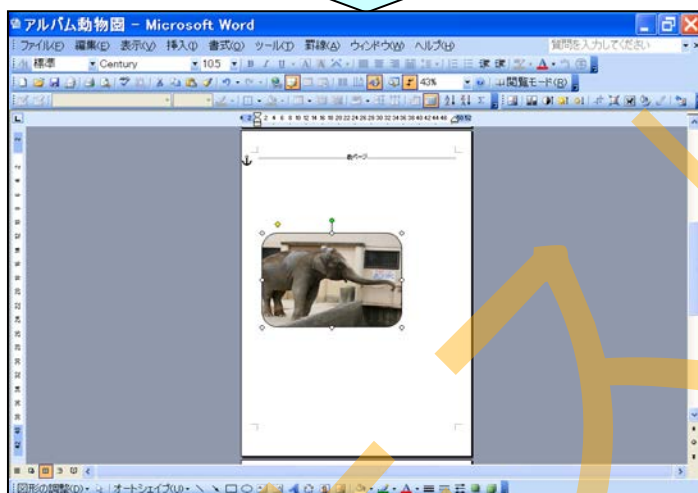
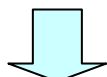
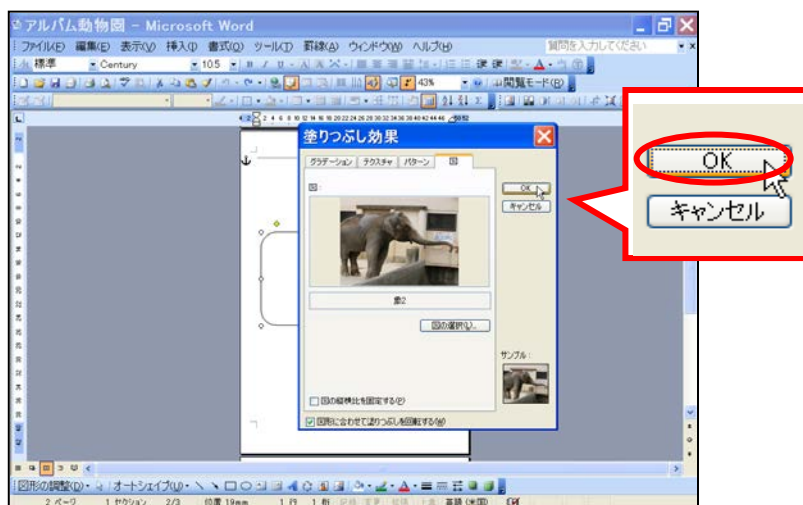
［オートシェイプ（U）］をクリックします。

［基本図形（B)］にポイントし、「角丸四角形」をクリックします。

マウスポインタを画面中央に移動し、右下に向かってドラッグして図形を作成します。

●マウスポインタが ＋ の形になります。右図の位置を参考にマウスポインタを移動させ、矢印の方向に向かってドラッグします。

図形が作成されました。

［図形描画ツールバー］の ［塗りつぶしの色］ボタンの▼をクリックします。

●［図形描画ツールバー］が表示されていない場合は、 「図形描画」ボタンをクリックしてください。

●［図形描画ツールバー］はお使いのパソコンによって、画面上部に表示されている場合もあります。

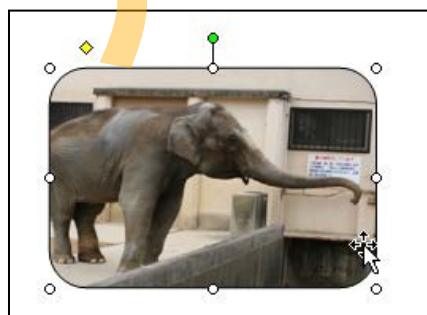
図形描画ツールバー

色パレットの下にある ［塗りつぶし効果(F)］をクリックします。

［塗りつぶし効果］ダイアログボックスが表示されます。「図」タブをクリックします。

［図の選択（L)］ボタンをクリックします。

●［図の選択］ボタンをクリックすると［図の選択］ダイアログボックスが表示されます。

［ファイルの場所（I）］が「マイピクチャ」になっていることを確認して、［ワードでアルバム素材］フォルダをクリックします。

［図の選択］ダイアログボックスの右下にある［開く（O)］ボタンをクリックします。

表示された一覧から「像 2」をクリックします。

「図の選択」ダイアログボックスの右下にある「挿入」ボタンをクリックします。

[塗りつぶし効果]ダイアログボックスの［OK］ボタンをクリックします

●図形に写真が挿入されました。

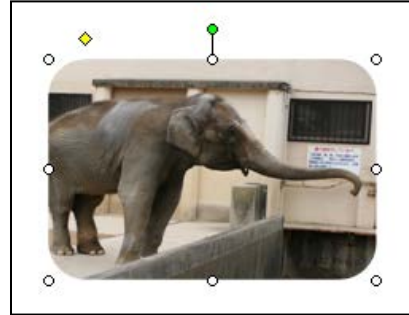
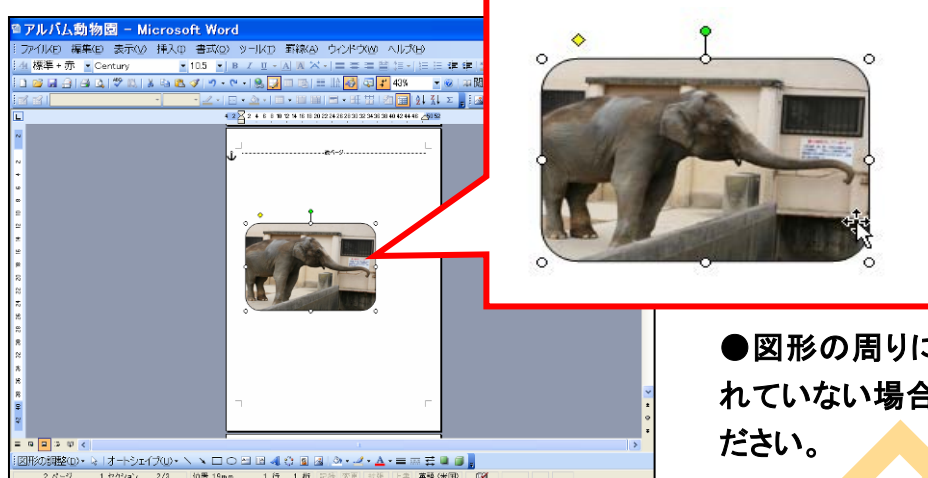
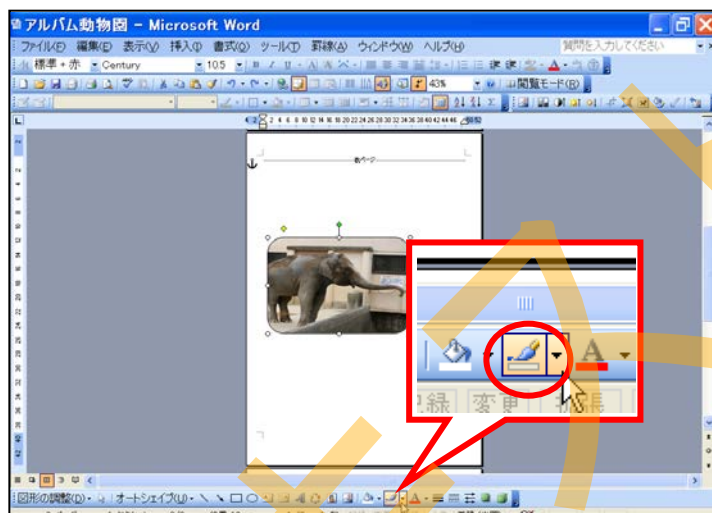
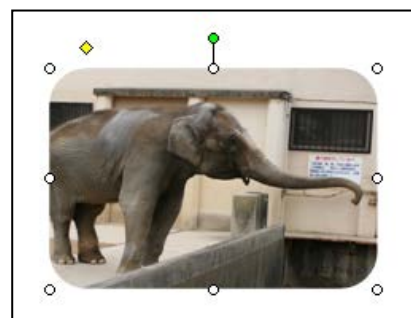
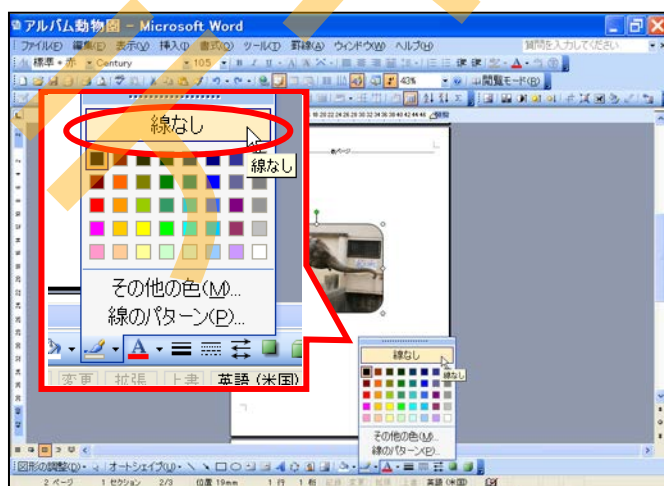
（2）図形の枠線を消す

オートシェイプで作成した図形には、最初は黒色で枠線が表示されています。この枠線は消すことができます。

図形の枠線を消す方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

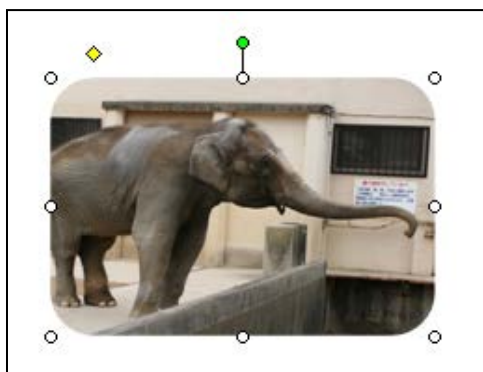
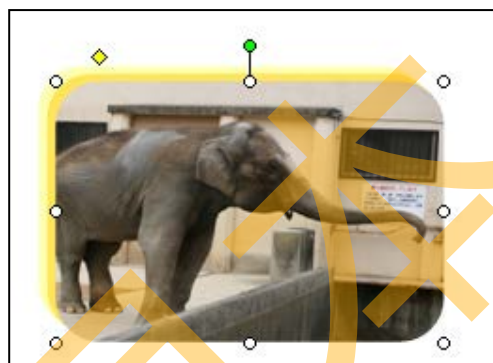
図形の周りに ○ のハンドルが表示されていることを確認します。

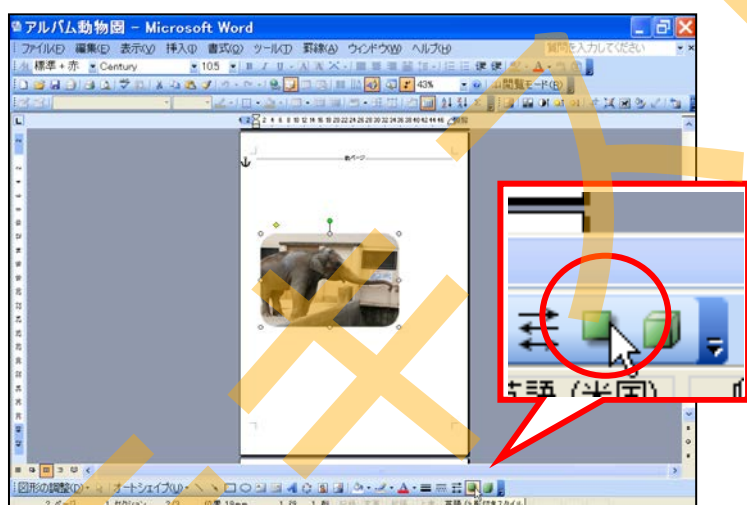
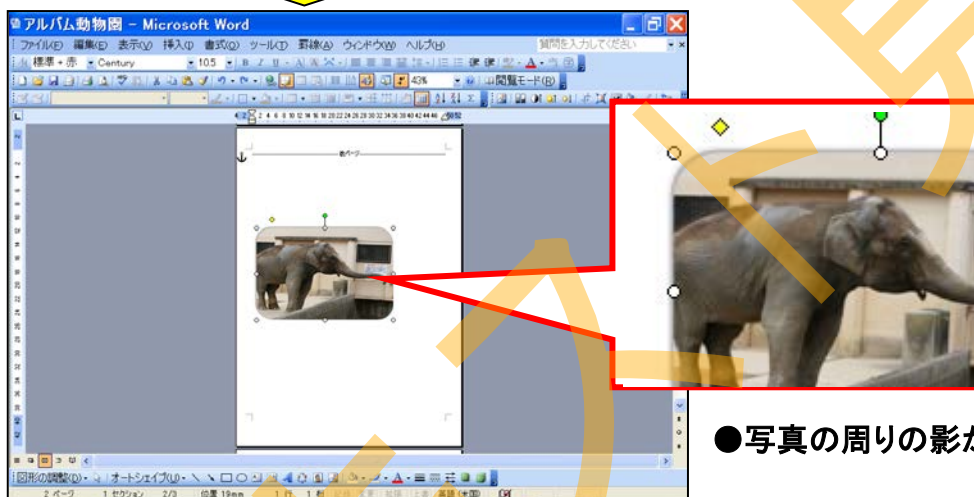
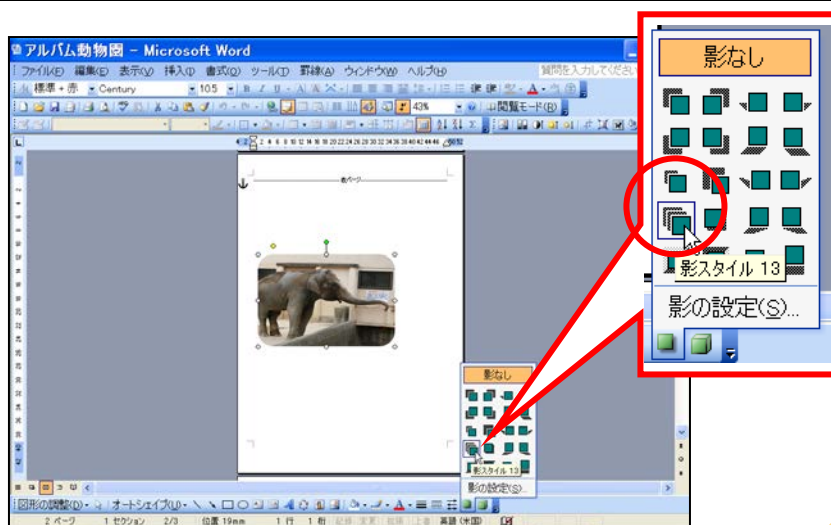
●図形の周りに ○のハンドルが表示されていない場合は、図形をクリックしてください。

［図形描画ツールバー］の ［線の色］ボタンの▼をクリックします。

「線なし」をクリックします。

●図形の枠線がなくなります。

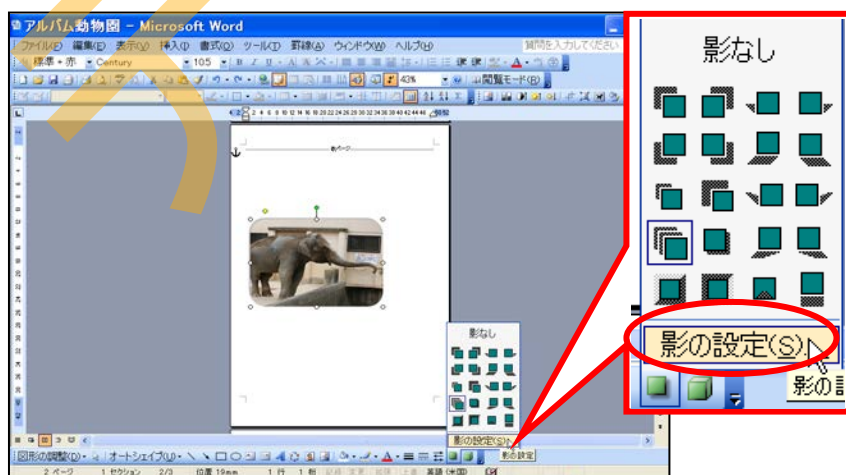
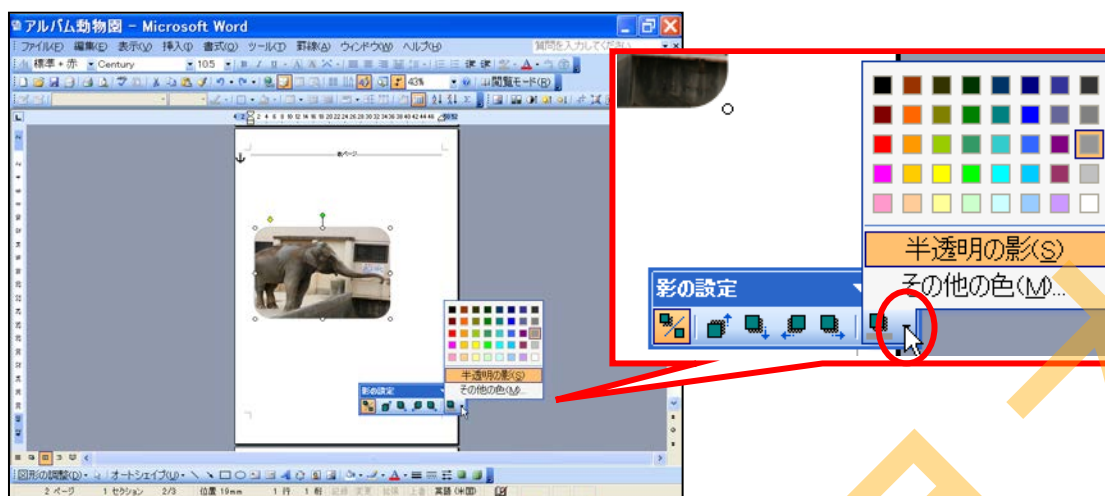
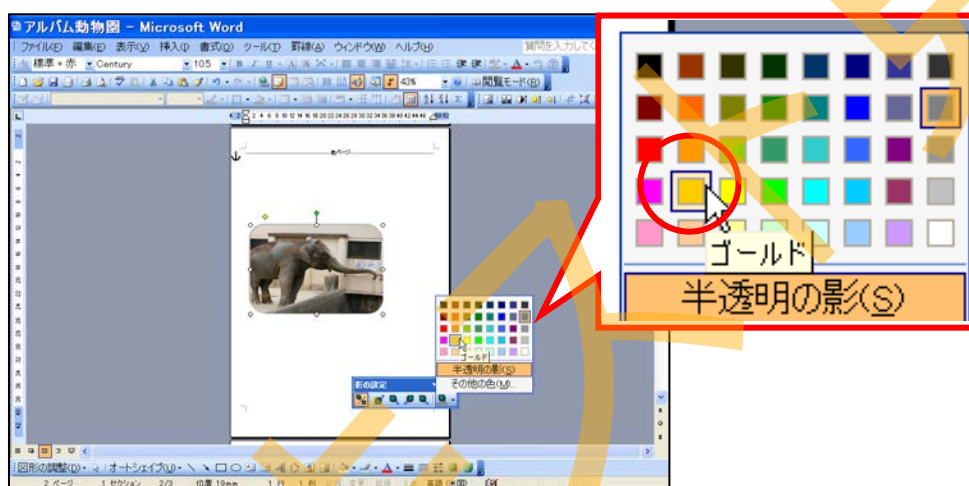
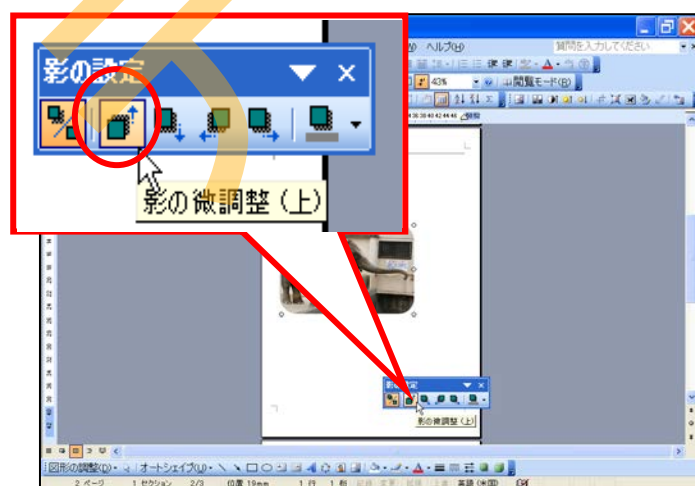
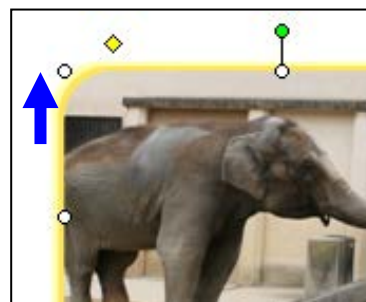
(3)写真に影付きスタイルを設定する

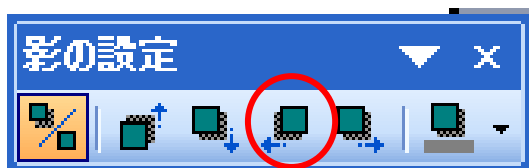
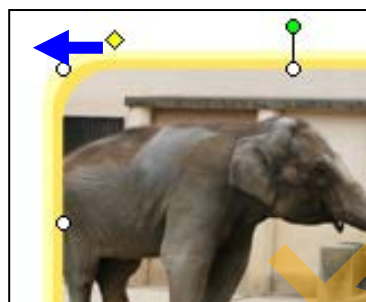
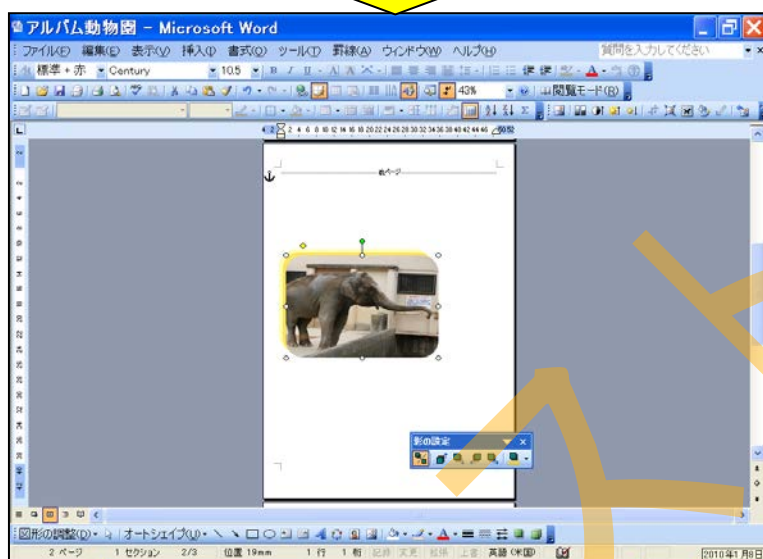
挿入した写真には影付きスタイルや3－D スタイルなど様々な効果を設定することができます。

◆写真に影付きスタイルを設定する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

※操作の前に図形の周りに〇のハンドルが表示されているか確認しましょう。
表示されていない場合は、図形をクリックして、ハンドルを表示させておきます。

［図形描画ツールバー］にある ［影付きスタイル］ボタンをクリックします。

[影スタイル 13]をクリックします。

●写真の周りの影が表示されます。

再度、[図形描画ツールバー] の [影付きスタイル] ボタンをクリックし、[影の設定] をクリックします。

［影の設定ツールバー］が表示されます。［影の色］ボタンの▼をクリックします。

［ゴールド］をクリックします。

［影の設定ツールバー］の［影の微調整（上)］ボタンをクリックします。

影が上へ少しずつ動きます

●何回かボタンをクリックして影を上へ動かしましょう。

［影の設定ツールバー］の ［影の微調整（左）］ボタンをクリックします。

●何回かボタンをクリックして影を左へ動かしましょう。

影が左へ少しずつ動きます

●［影の設定ツールバー］は ✕ をクリックして閉じておきましょう。

ご参考までに

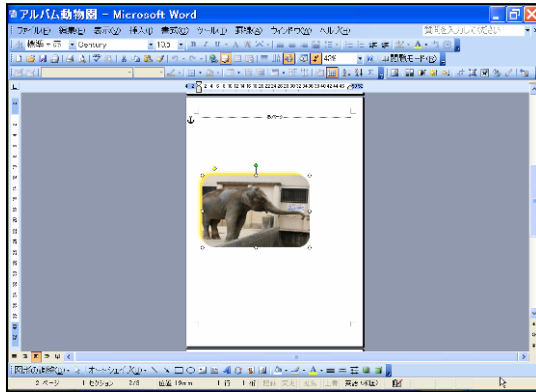
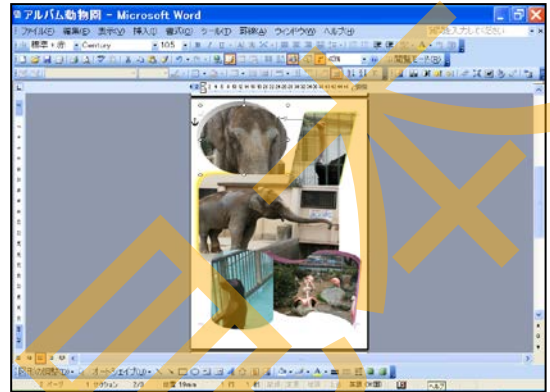
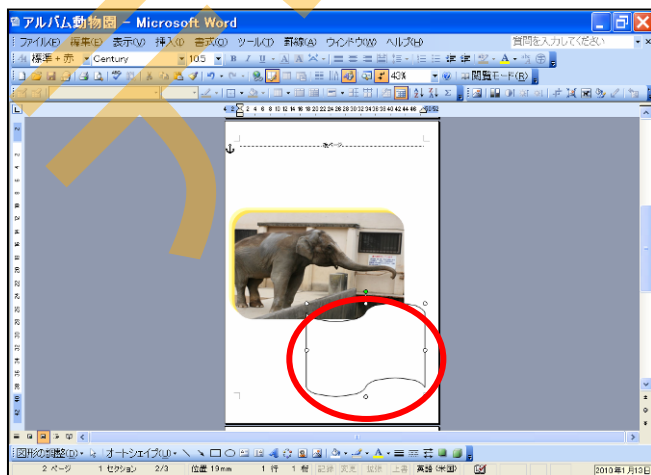
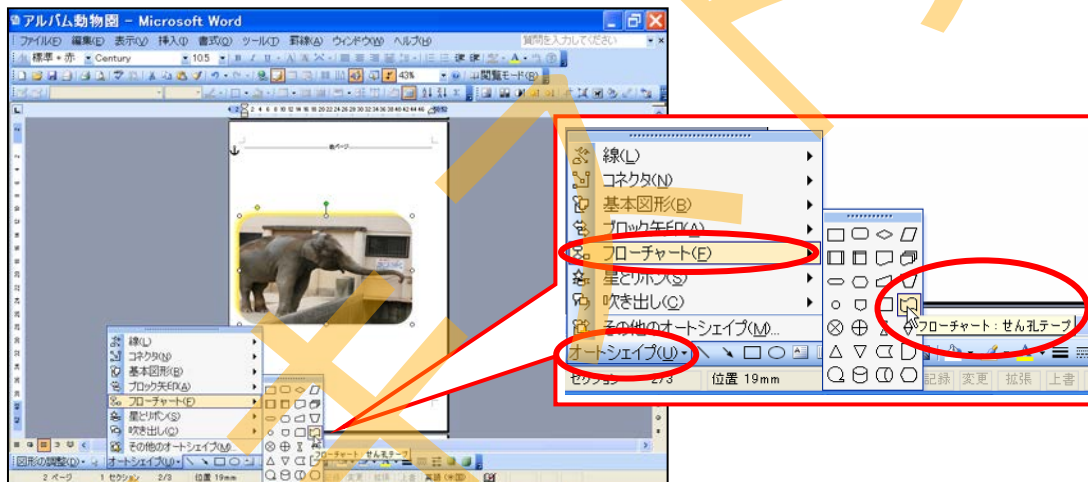
■図形の枠線の設定

挿入した写真の周りには、枠線を引くことができます。
枠線を設定したい写真を選択し、［図形描画ツールバー］の［線の色］ボタンをクリックし、右図のように表示される色の一覧から選択します。また、枠線の太さや線の種類も設定できます。

(4)2 枚目以降の写真を挿入する

表紙には、1 枚の写真しか挿入しませんでしたが、2 ページ目からは複数枚、写真を挿入していきます。

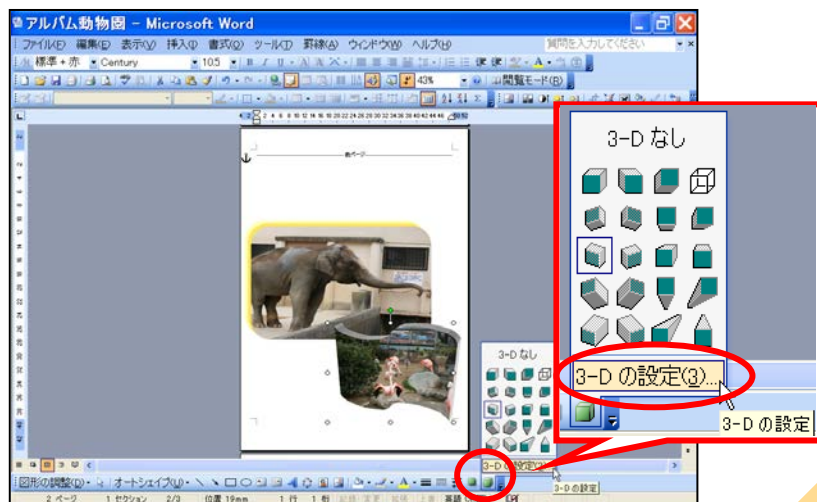
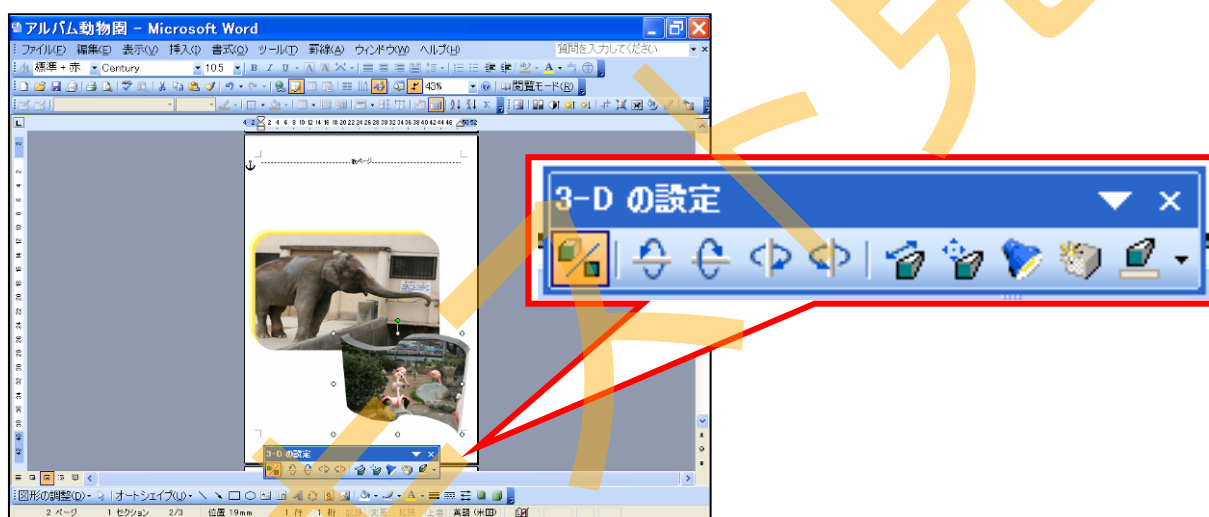
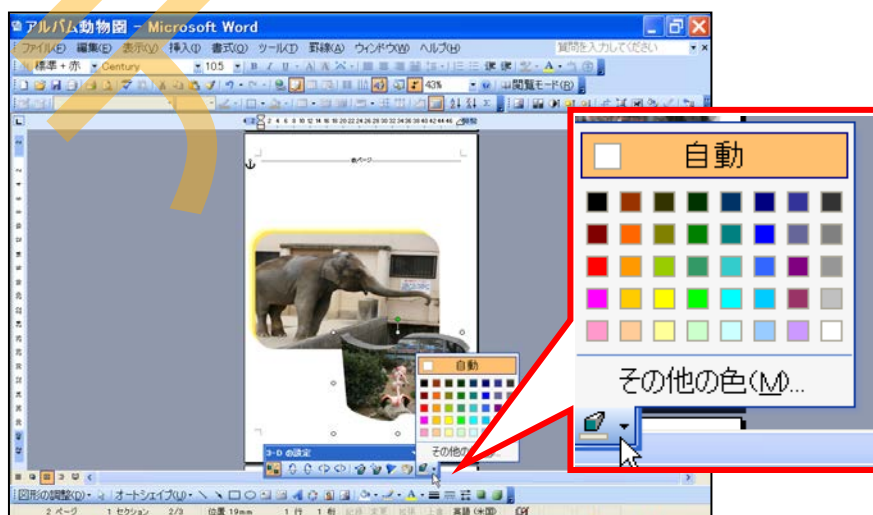
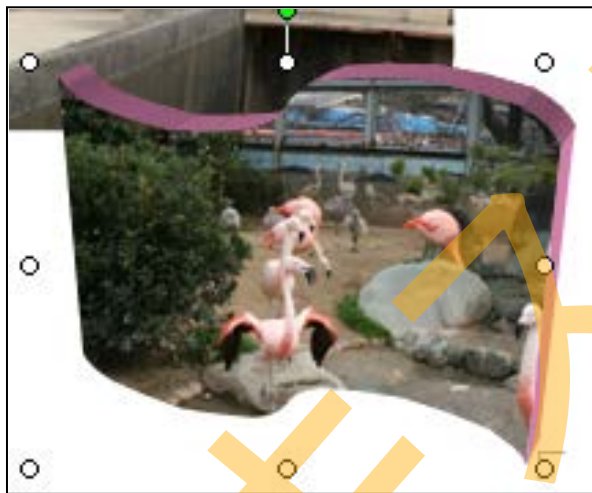
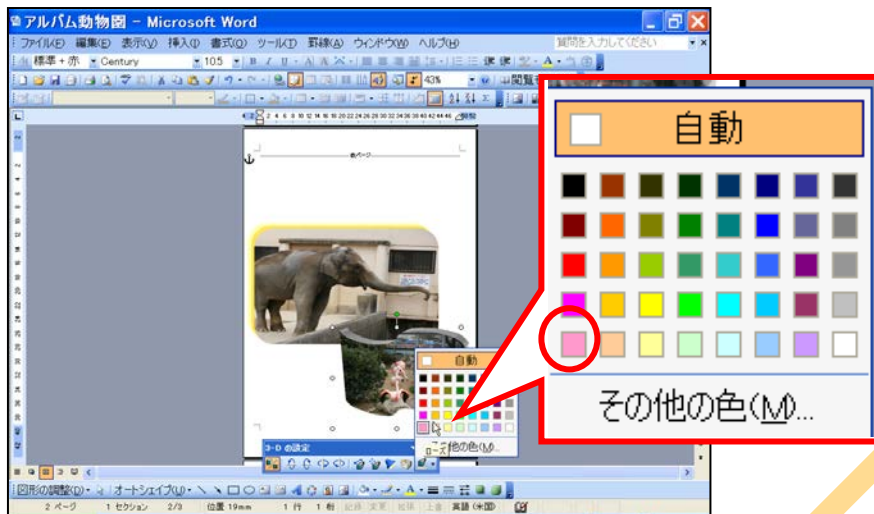
◆1 ページに複数枚野写真を挿入する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

2 ページ目に[オートシェイプ（U）]の[フローチャート]から、[せん孔テープ]で図形を作成します。

図形作成のやり方を忘れた方は P14 を参考にしましょう。

図形の中に「マイピクチャ」の「ワードアルバム素材」フォルダから「フラミンゴ１」の写真を挿入します。

[図形描画ツールバー」の[3ーD スタイル]をクリックします。

[3-D スタイル 9]をクリックします。

再度、[図形描画ツールバー]の[3-D スタイル]をクリックし、[3-D の設定]をクリックします。

[3－Dの設定ツールバー]が表示されます。

[3-Dの色]ボタンの▼をクリックします。

表示された色パレットの中から、「ローズ」をクリックします。

3－D(立体)効果が設定されました

ご参考までに

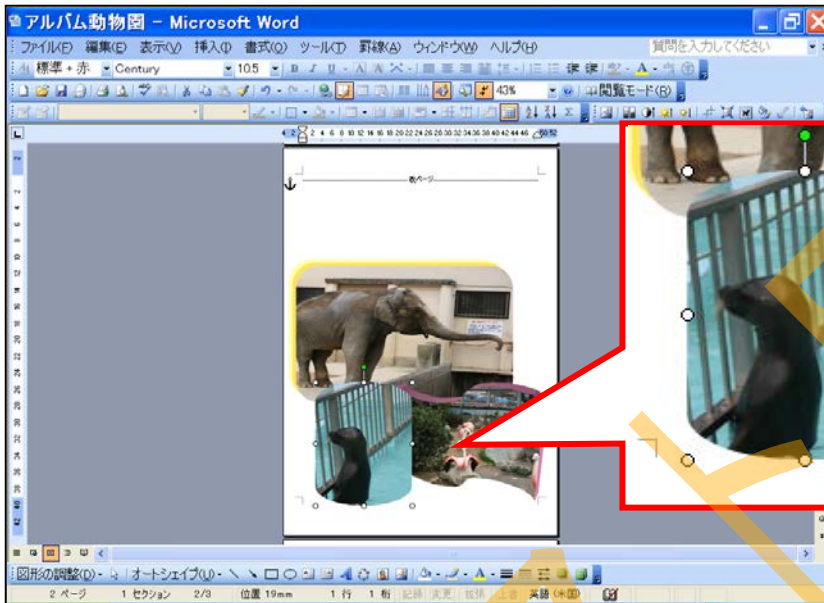
■3－Dの設定ツールバー

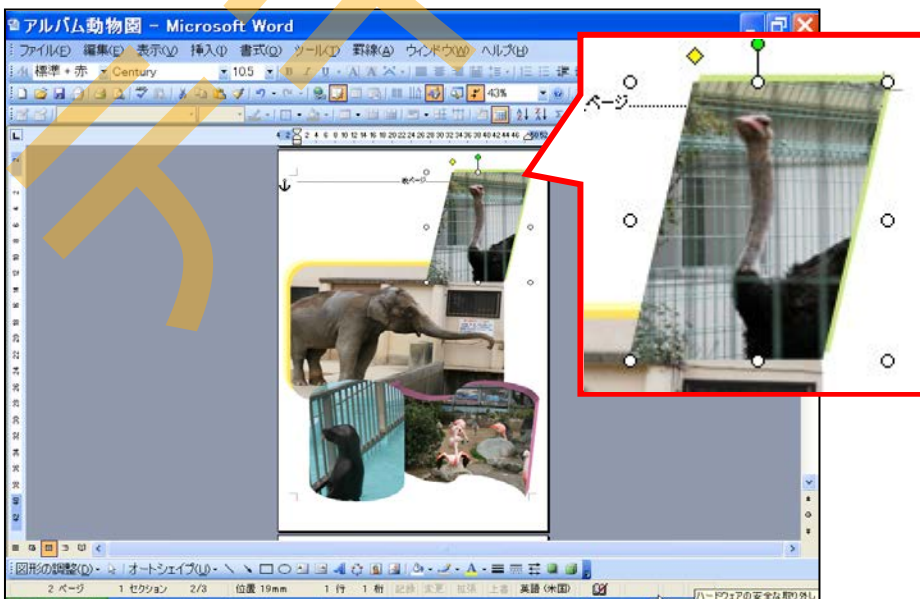
[3－Dの設定ツールバー]で、3－Dの奥行きや向き、質感などを設定することができます。

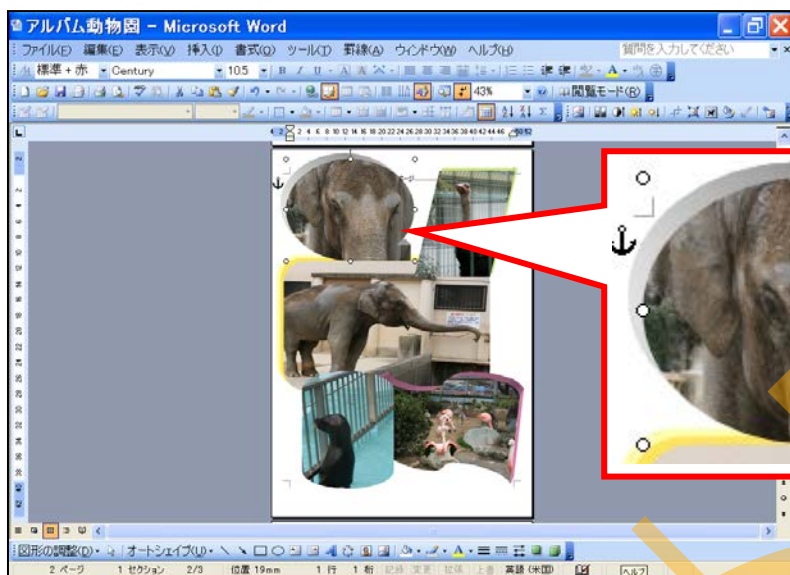
図形に3－Dスタイルを設定した後、図形を選択した状態で[3－Dスタイル]ボタンをクリックし、[3－Dの設定(3)]をクリックすると[3－Dの設定ツールバー」が表示されます。

2 枚目の写真が挿入、編集できたところで、これまでの操作を繰り返し、残りの写真を挿入、編集していきます。

下の図を参考に 3 枚目の写真を挿入します。

●オートシェイプ　フローチャート→磁気ディスク
●挿入写真　「アシカ」
●図形の枠線　線なし
※配置、大きさは、下図を参考にしてください。

下の図を参考に 4 枚目の写真を挿入します。

●オートシェイプ　基本図形→平行四辺形
●挿入写真　「ダチョウ 1」
●図形の枠線　線なし
●効果　影付きスタイル 2、影の色：ライム

下の図を参考に５枚目の写真を挿入します。

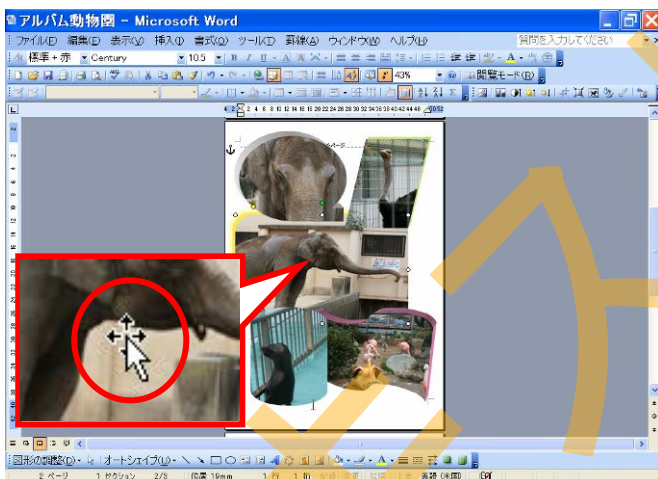
●オートシェイプ　フローチャート→順次アクセス記憶
●挿入写真　「象3」
●図形の枠線　線なし
●効果　３－Dスタイル２

(5)レイアウトの調整

ここからは、先ほどまで作成していた 2 ページ目全体のレイアウトを整えていきます。
レイアウトとは、どの写真をどの位置にどのような大きさで配置するかということです。前節までで、ある程度のレイアウトはできていますが、ここでは、写真の重なりの前面、背面を入れ替えたり、配置や大きさの微調整をしていきます。

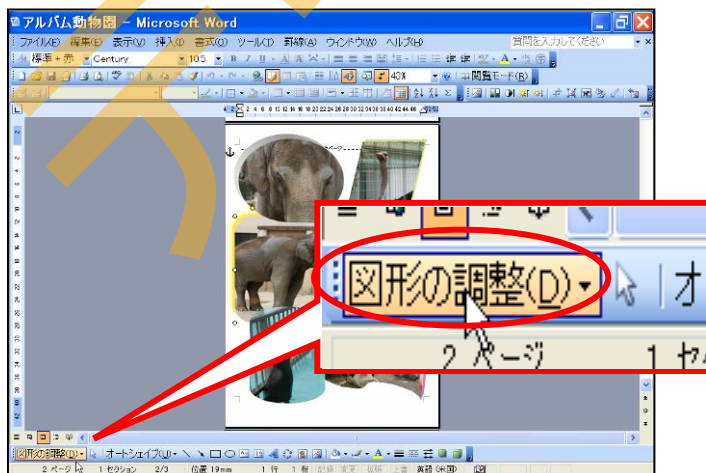
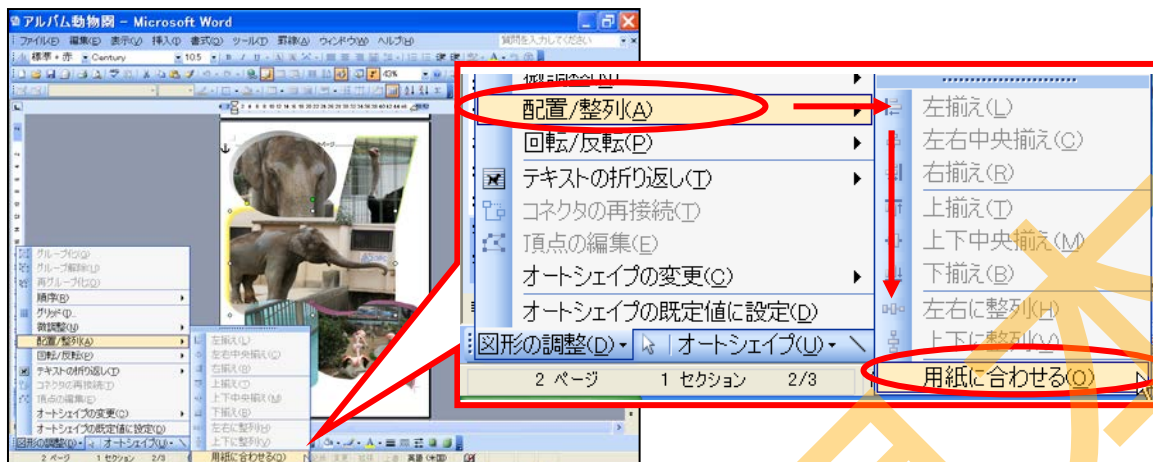
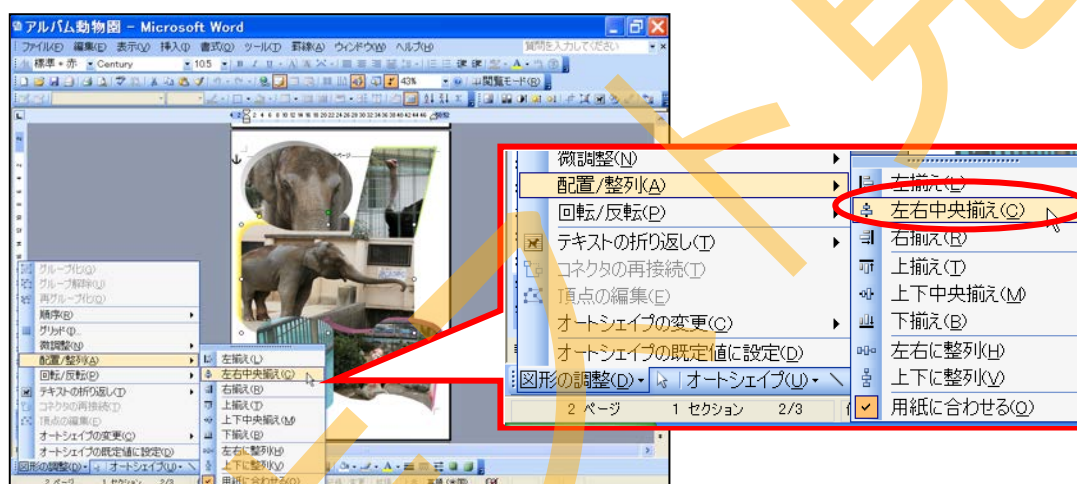
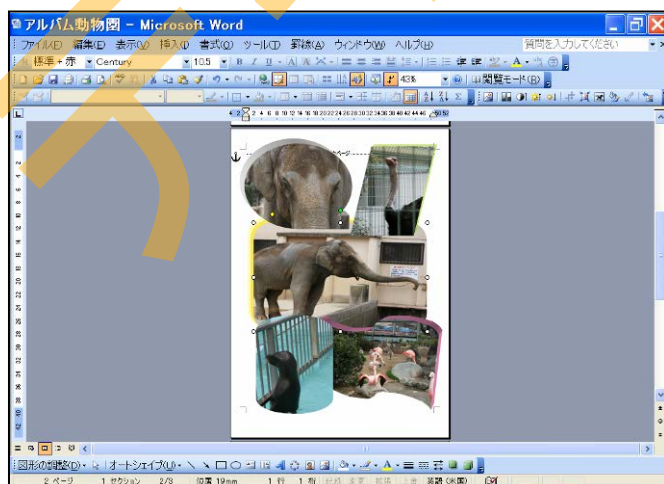
■変更、調整点
①中央の写真(象 2)の配置を左右中央揃えに設定する。
②右下の写真(フラミンゴ①)を最前面に設定する。
③大きさ、配置などの総合的な微調整。

①写真(象②)を中央に配置

写真を左右の中央に配置します。

中央の写真（象②）をクリックします。

●中央の写真(象②)にポイントすると、マウスポインタが ✥ の形になります。

●中央の写真(象②)をクリックすると、選択されたしるしとして周りに○ が表示されます。

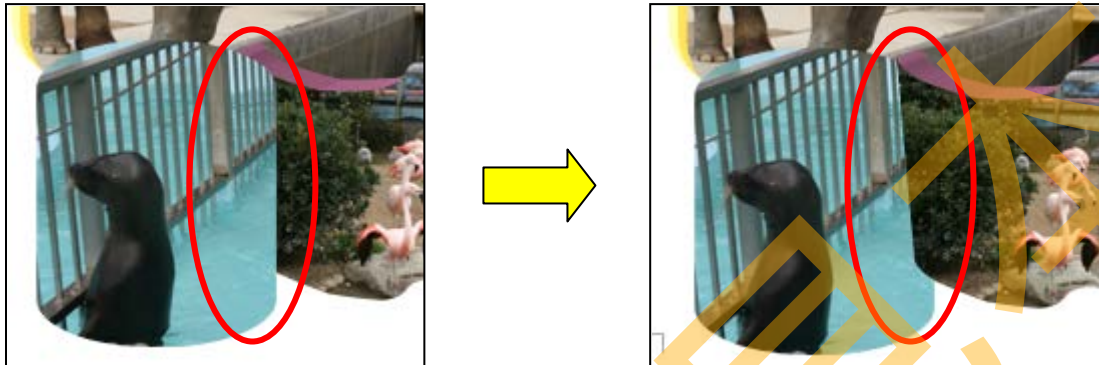
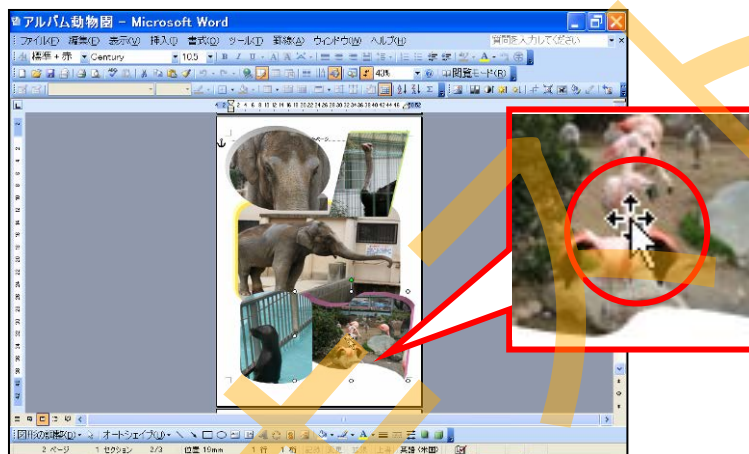
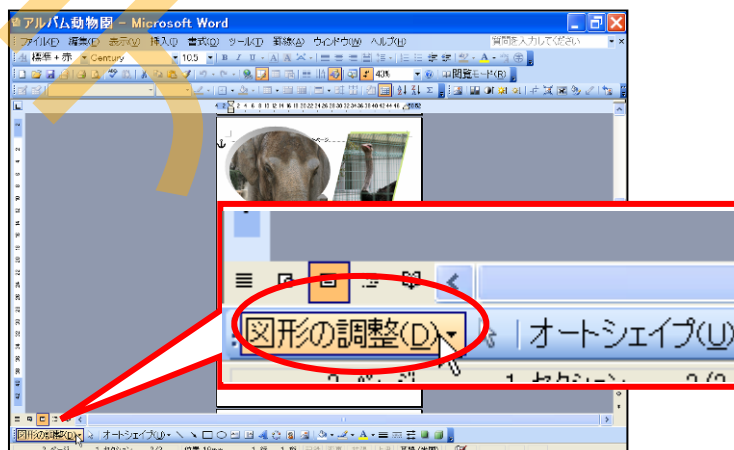
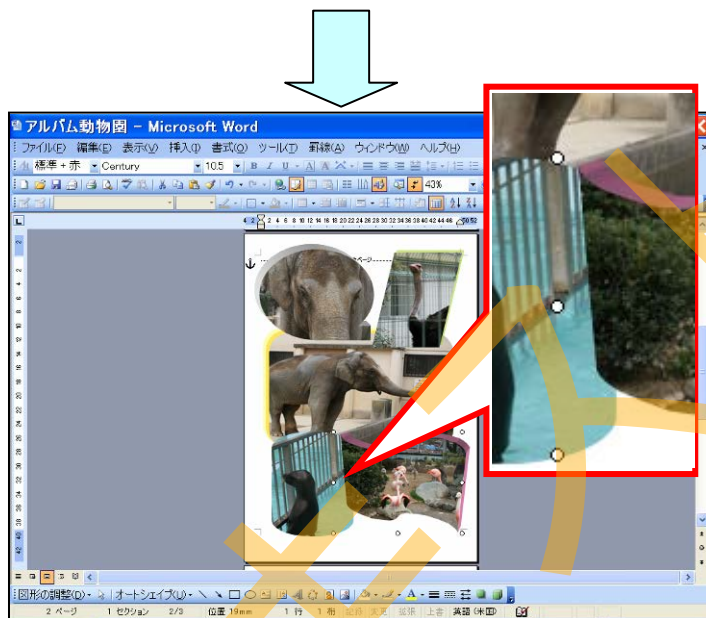
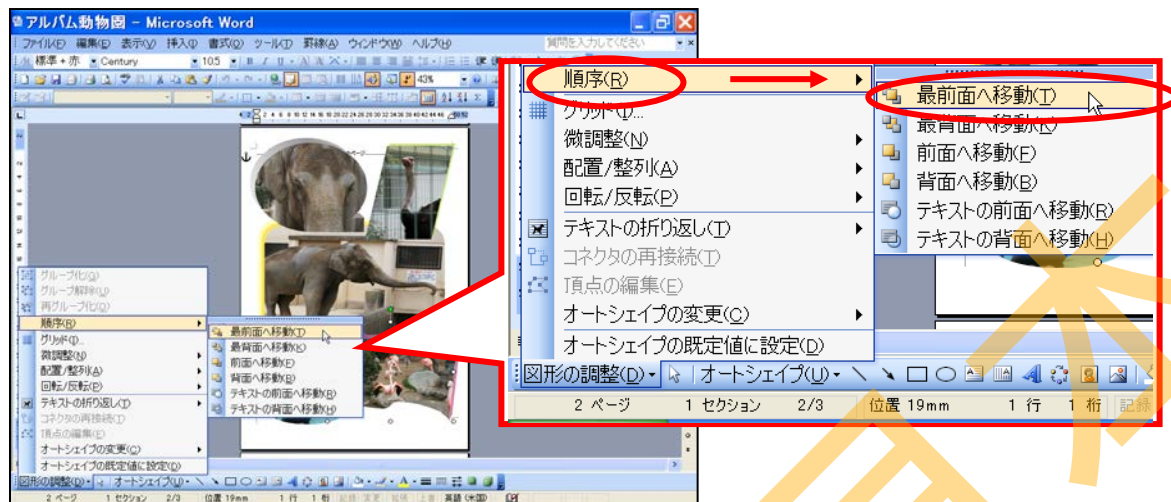
[図形描画ツールバー]の［図形の調整（D)］をクリックします。

[配置/整列（A）]にマウスポインタを移動し横に表示されたメニューから[用紙に合わせる（O）]をクリックします。

再度、[図形の調整（D）]をクリックし、[配置／整列（A）]から[左右中央揃え（C）]をクリックします。

●写真が用紙の水平方向の中央に配置されます。

注意！

●写真を中央に配置した後は、ドラッグして写真を移動しないようにしてください。写真をドラッグしてしまうと、中央揃えの設定が解除されてしまいます。

②写真の順序を入れ替える

現在は、下の「操作前の状態」のようにフラミンゴ 1（右下）がアシカ（左下）の背面にある状態です。この写真の順序を入れ替えて、「操作後の状態」のようにフラミンゴ 1（右下）がアシカ（左下）の前面に配置されるように設定してみましょう。

◆写真の順序を入れ替える方法をマスターしましょう。

操作前の状態　操作後の状態

フラミンゴ１（右下）をクリックします。

[図形描画ツールバー]にある 図形の調整(D)▾ [図形の調整（D）]ボタンをクリックします。

[順序（R）]にマウスポインタを移動し、横に表示されたメニューから 最前面へ移動(T) [最前面へ移動（T）]をクリックします。

● 最前面へ移動(T) [最前面へ移動]ボタンをクリックすると、写真の順番が入れ替わります。

③レイアウトの最終調整

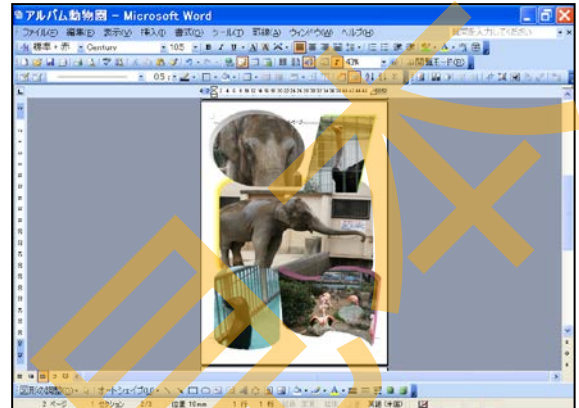
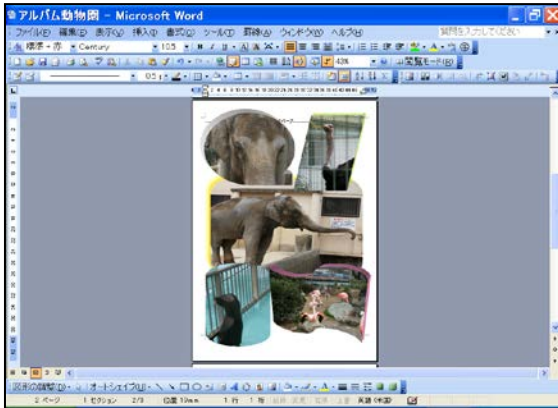
ここでは、2 ページ目の総仕上げとしてレイアウトの最終調整を行います。
大きさや配置の調整を今一度行い、2 ページ目を完成させます。

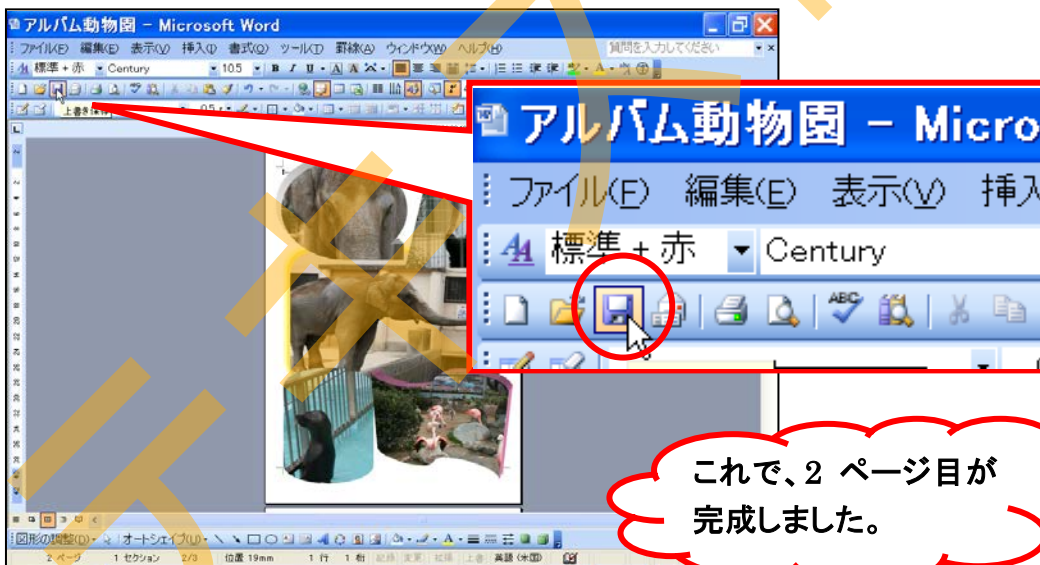
P69 の完成例を参考に 2 ページ目を完成させてください。

(6)アルバムの上書き保存

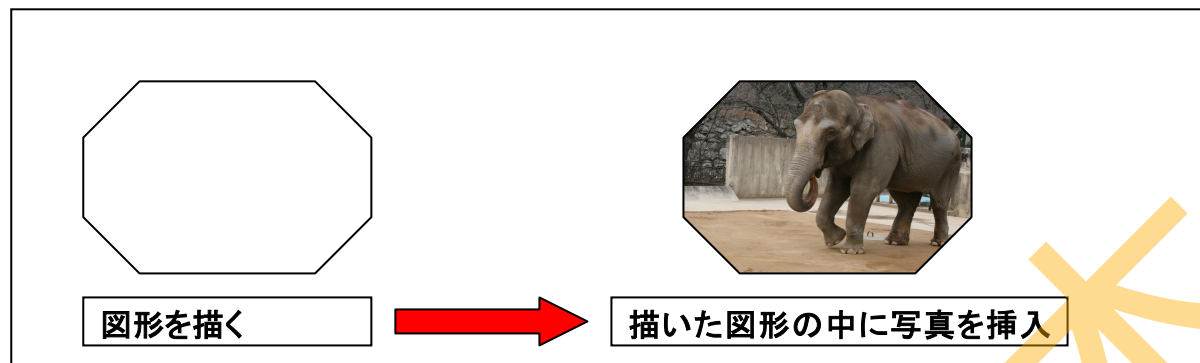
ここまで作成したアルバム(アルバム動物園)を上書き保存してみましょう。

◆アルバムを上書き保存する方法をマスターしましょう。

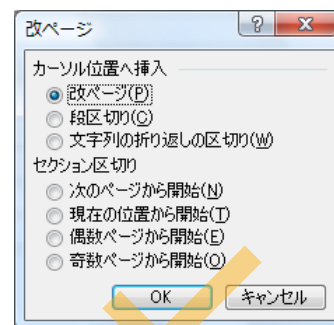
操作前の状態　操作後の状態

画面上は何も変わりません

[標準ツールバー]の　[上書き保存]ボタンをクリックします。

☆☆ここまでくれば、練習問題1で理解度を試して下さい。☆☆

4. 図形の比率を使用したサイズ変更、写真の変更、図形の調整をする

3 ページ目の作成工程

3ページ目の完成例

準備

3 ページを作成する前に「Ctrl」キー+「Enter」（エンター）キー、または「ファイル」メニューの「挿入」から「改ページ」、「カーソル位置へ挿入」の「改ページ（P）」をクリックし、「OK」ボタンをクリックして改ページを挿入しておきましょう。

（1）図形を描く

写真の形状となる図形は、「図形描画」ツールバーのオートシェイプから図形を挿入します。

①

②

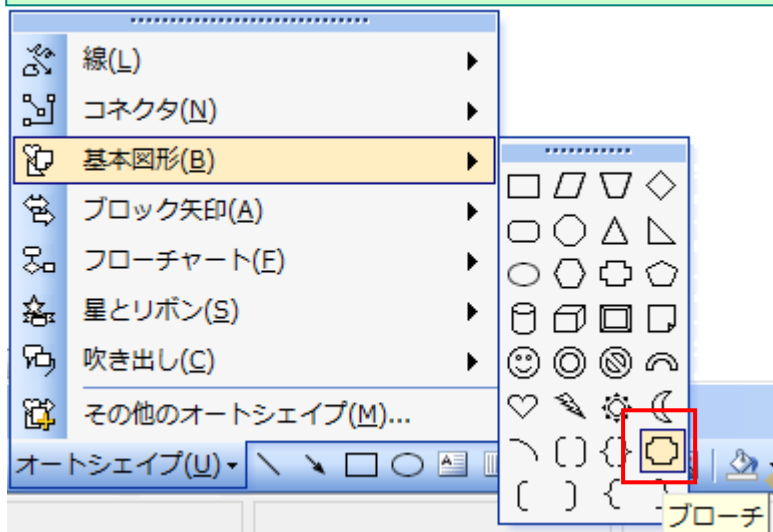
③

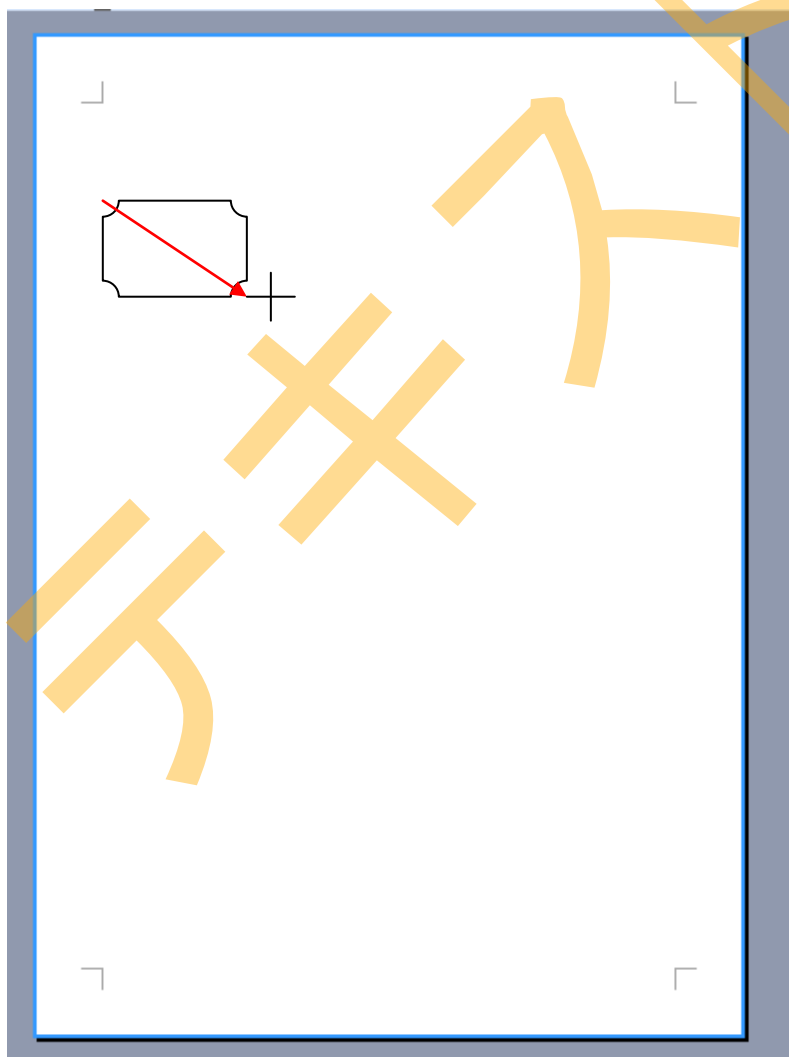
④

⑤

以上のように
①：基本図形
②：ブロック矢印
③：フローチャート
④：星とリボン
⑤：吹き出し
の中から選択します。線やコネクタは面積がありませんので①～⑤から選びます。

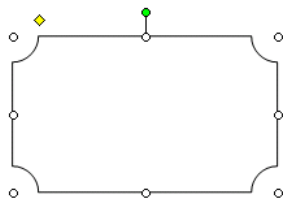
ここでは『基本図形』の「ブローチ」を描いてみましょう。

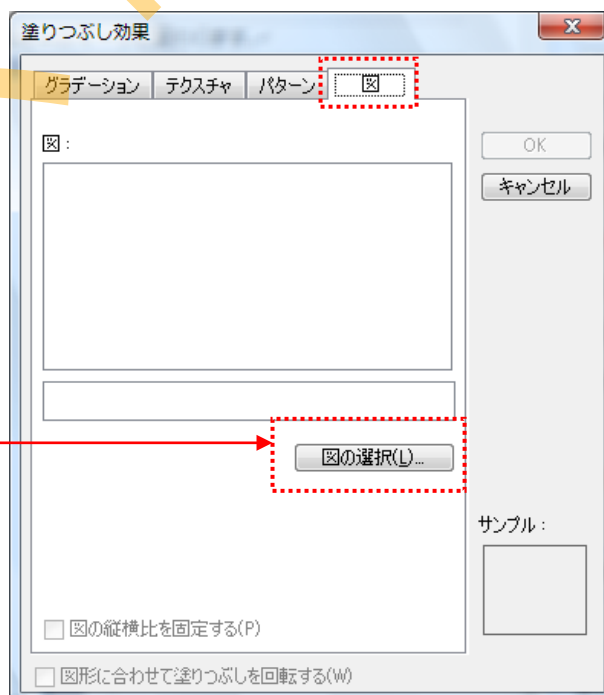
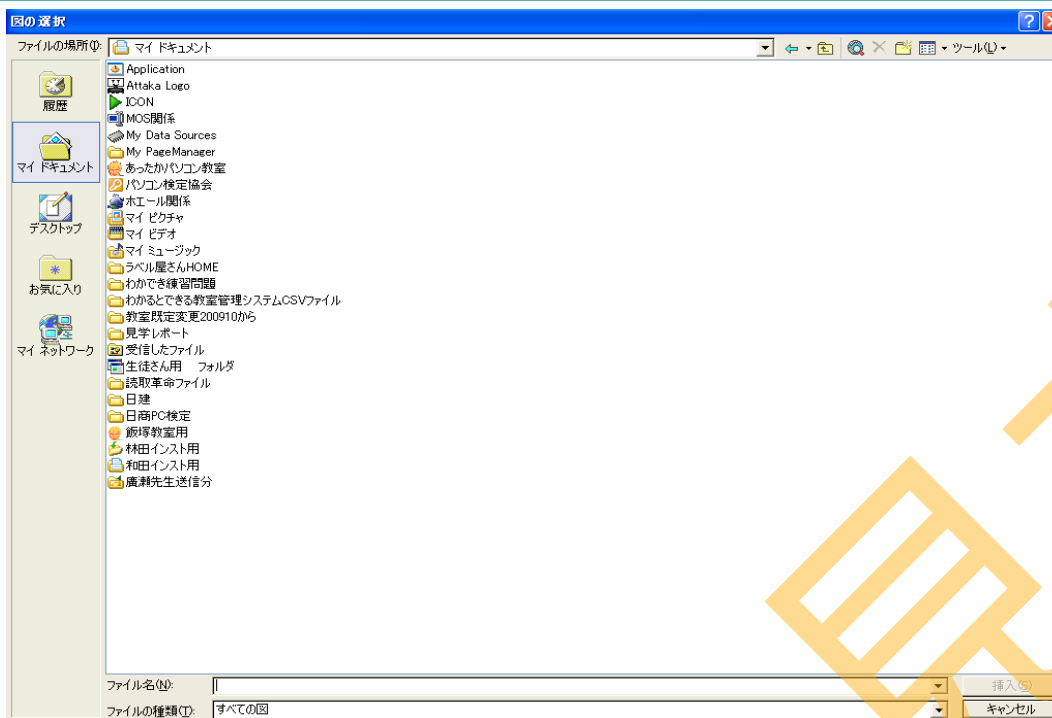
「図形描画」ツールバーの【オートシェイプ】にポイントし、そのままクリックします。

出てきた画面から「基本図形」にポイントすると右側に図の選択画面が現われますので右から1番目、上から7番目の「ブローチ」をクリックして選択します。

ポインタを編集画面上（文字を打っている範囲内）に移動すると＋のマークに変わります。

左上から右下にドラッグして図形を描きます。
（マウスの左ボタンを離した時点で大きさと形が決まります。）
図を挿入した後はサイズ調整ハンドルで大きさを整えます。

（２）図形の中に写真を挿入する

①図形が選択されていることを確認して【塗りつぶしの色】の▼ボタンにポイントし、そのままクリックします。

（図形を選択すると図形の周りにサイズ調整ハンドルや回転ハンドルなどが出ますので必ず確認します。）

カラーパレットが出てきますので、一番下の「塗りつぶし効果(F)」をクリックします。

「塗りつぶし効果」の設定画面が出てきますので
「図」のタブになっていることを確認したら「図の選択(L)」にポイントし、クリックします。

「図の選択」ダイアログボックスが表示されますので、用意された『ワードでアルバム素材』ファイルの場所を開きます。

表示された一覧から「キリン 1」をクリックし、「挿入」のボタンをクリックします。

図の選択

ファイルの場所(I): WordAlbumテキスト素材ファイル

アシカ　キリン1　キリン2　キリン3　キリン4　シマウマ　ダチョウ1

ダチョウ2　フラミンゴ1　フラミンゴ2　フラミンゴ3　象1　象2　象3

象4　象5　象6

右下にある「挿入」の
ボタンをクリックします。

挿入(S)
キャンセル

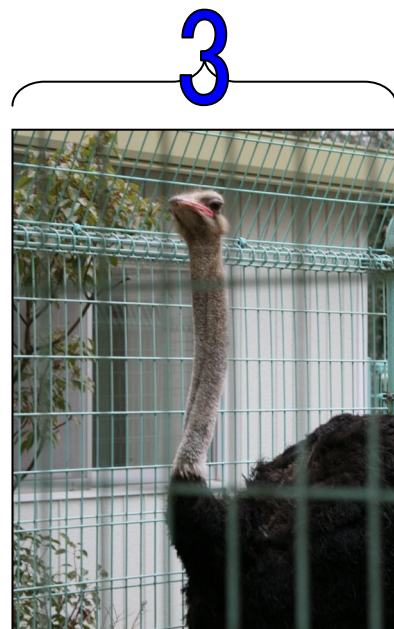
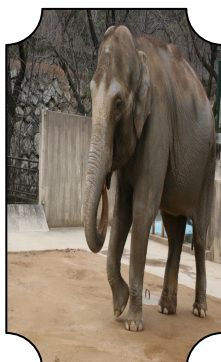
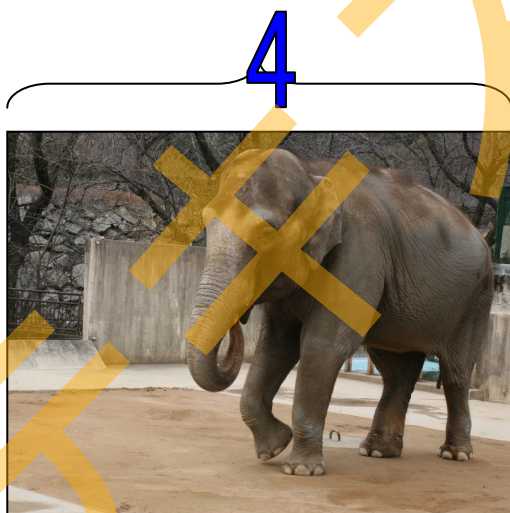
ファイル名(N):
ファイルの種類(T): すべての図

「挿入」ボタンをクリックした時点で、ブローチの図形の中に「キリン 1」の写真が挿入されます。

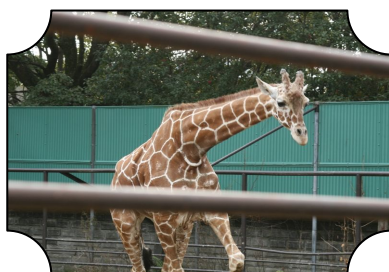
（３）図形のサイズ変更

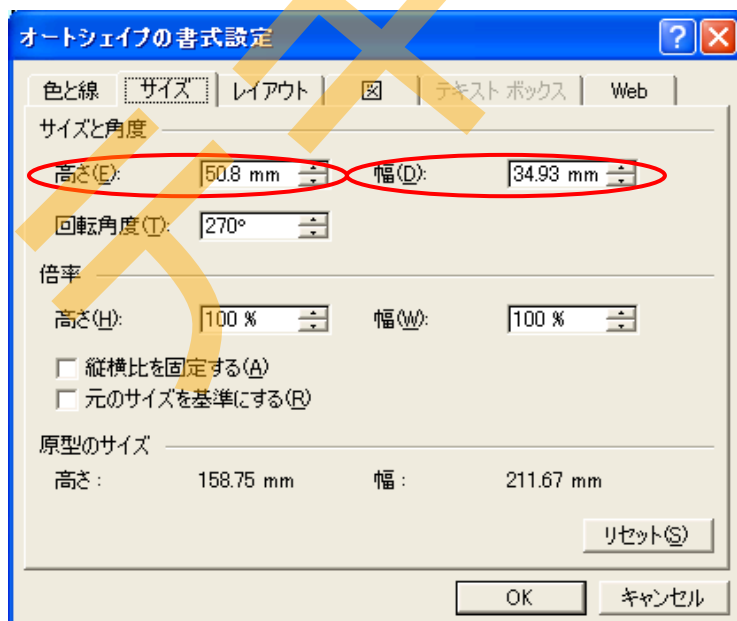
ブローチの図形の中に写真が挿入されたところで、ここからは図形のサイズ変更を行います。

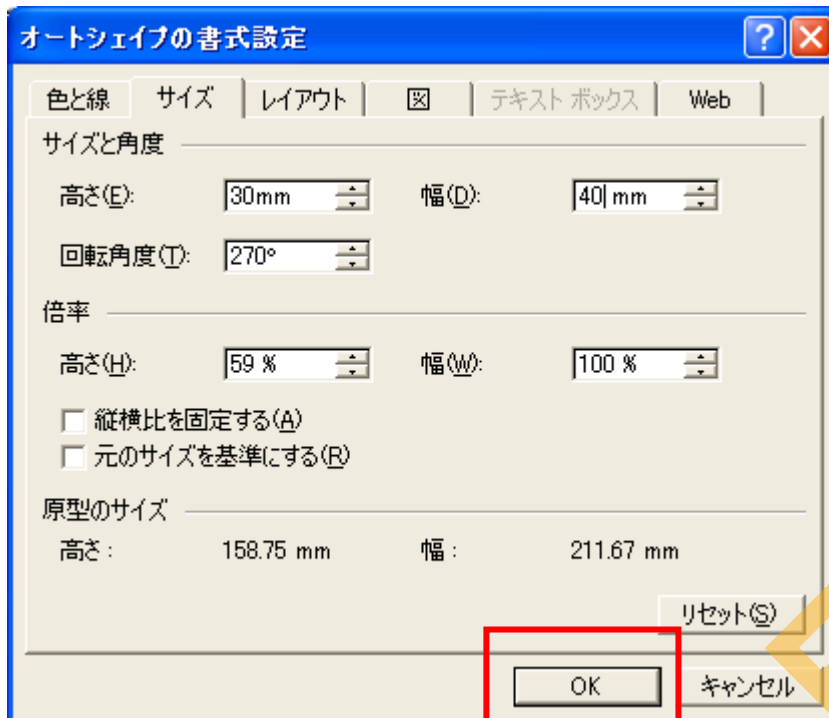
注意

◆サイズ変更を行う前に…
デジカメで写真を撮ると通常は約「4:3」のサイズ比になっています。
そのため図形のサイズを変更するときにこの比率を守らないと
縦や横に間延びした写真になってしまいます。
（デジタル 1 眼レフの場合は約「3:2」です）
また図形の中に挿入する写真が縦長なのか横長なのかも注意して見る必要があります。

①数値を入力して図形のサイズを変更する
どうやって 4:3 の比率を守るの？
デジカメで撮った写真の比率が 4:3 で、その比率を守らないと元の写真とは違ったものになるのは理解されたと思います。
では、どうやって 4:3 の比率を守ればよいのでしょうか…。

図形のサイズを変更する方法は、
大きく分けて「数値を入力してサイズを変更する」方法と「ドラッグでサイズを変更する」方法の 2 つの方法があります。
※図形を描いて写真を挿入した場合、4:3 に比率を守るため、まず「数値を入力してサイズを変更する」方法でサイズの変更を行います。

◆数値を入力して図形のサイズを変更する方法をマスターしましょう。

オートシェイプの書式設定のボタンにポイントしそのままクリックします。

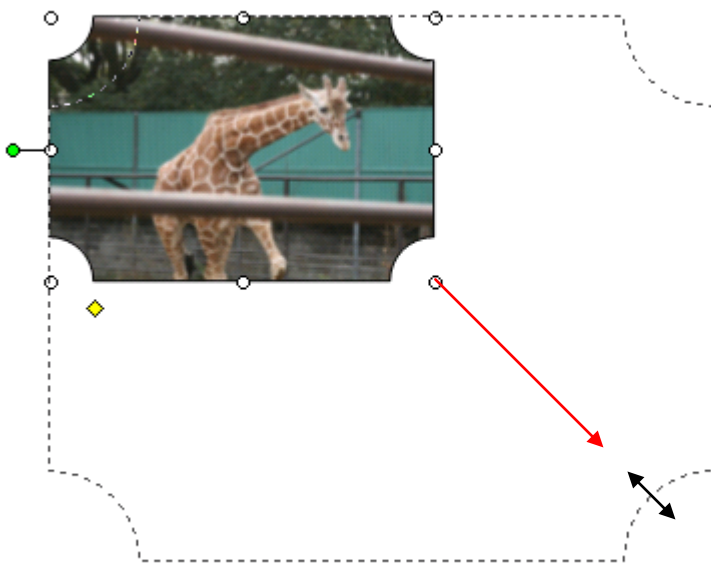
図形を選択すると「図のツールバー」があらわれます。
※出ていない場合は【ファイル】メニューの「表示」→「ツールバー」→「図」とたどってクリックしましょう。
「オートシェイプの書式設定」ボタンをクリックすると下の図のようにダイアログボックスがでてきます。

「サイズ」のタブをクリックします。
「サイズと角度」で「高さ」の数値を「30mm」に設定しましょう。
続けて「幅」を「40mm」に設定しましょう。
この数値はスピンボタンで変更するとぴったり合わないことがありますので数字を書き換えるとうまく入れることができます。

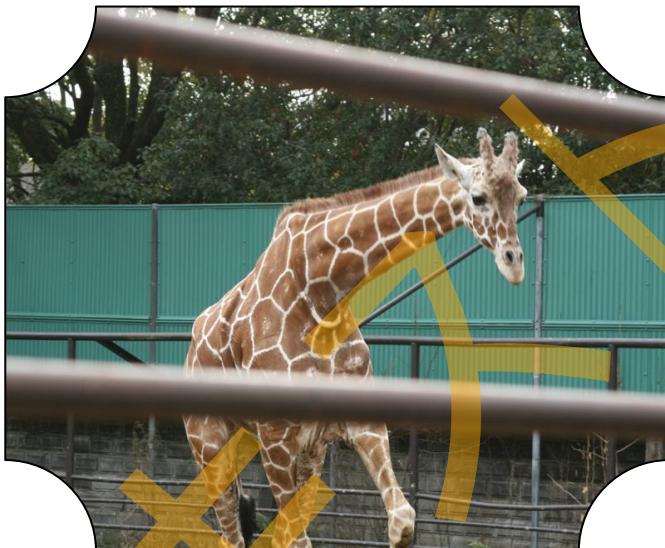
「OK」ボタンにポイントし、そのままクリックします。

上の図の場合は、回転させていますので縦の方が 40mmで横が 30mmとなっています。

◆ドラッグして図形のサイズを変更する方法をマスターしましょう。

図をクリックして選択すると、ブローチの周りに〇や口（サイズ調整ハンドル）が表示されていると思います。

ブローチの図形の右下に表示された〇（サイズ変更ハンドル）にポイントし、マウスポインタが ↖↘ に変わったことを確認します

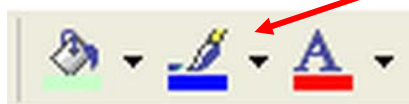
そのまま「Shift」キーを押した状態で右下に向かってドラッグします。

マウスから指を離します。

「Shift」キーから指を離します。

縦横の比率を
変えずにサイズを変更する時は
「Shift」キーを押したままドラッグするという方法をとります。

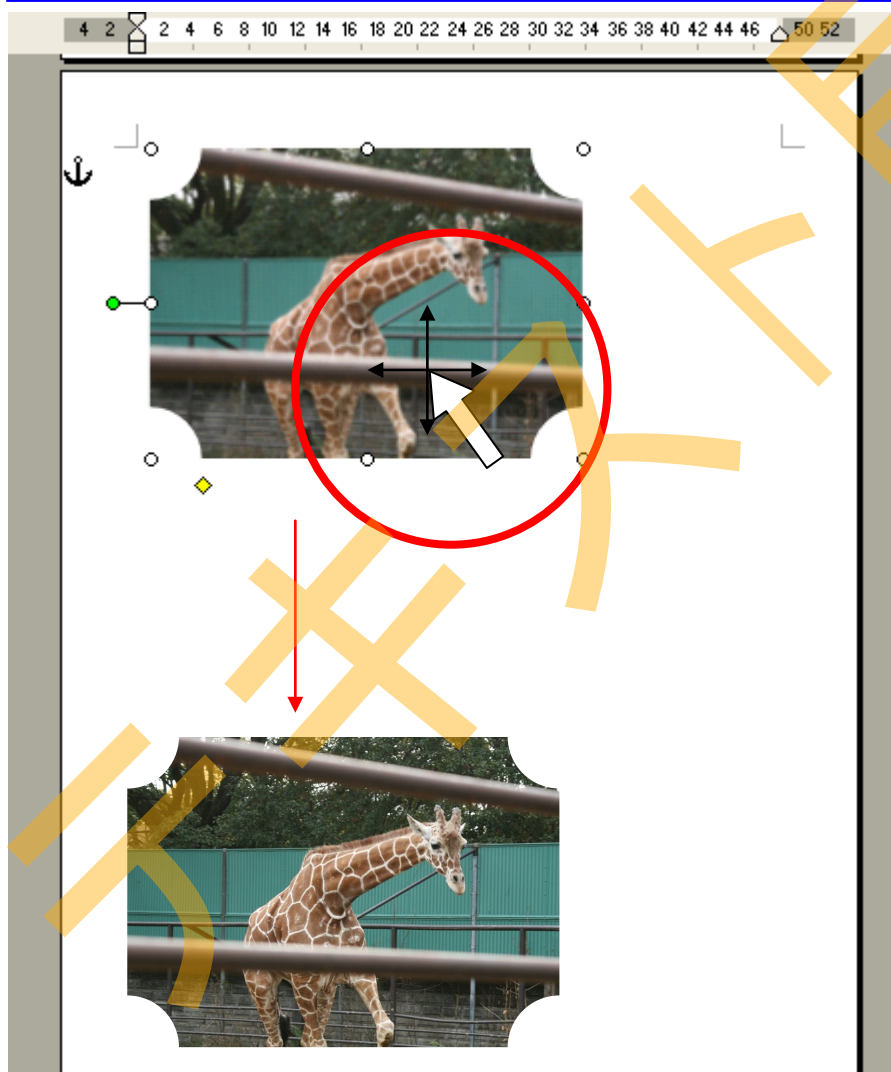
（４）図形の枠線を非表示にする

現在のブローチの図形には、黒い枠線が入った状態です。ここでは、ブローチの図形の枠線を非表示にして、写真を引き立たせましょう。
図形の枠線を非表示にするには、
「図形描画ツールバー」の「線の色」の▼ボタンをクリックして「線なし」を選択します。

図形描画ツールバー

図形の調整(R)▾　オートシェイプ(U)▾

（５） 図形の移動

ブローチの図形を 3 ページ目の中央やや左下あたりに移動してみましょう。

ブローチの図形の中にマウスポインタを移動します。

ブローチの図形の中にポインタを移動するとポインタの形が矢印の先端に十字の矢印がついた形に変わります。

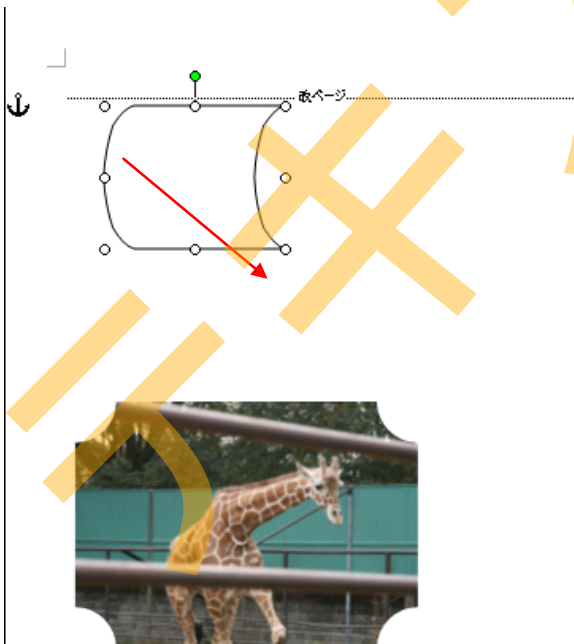
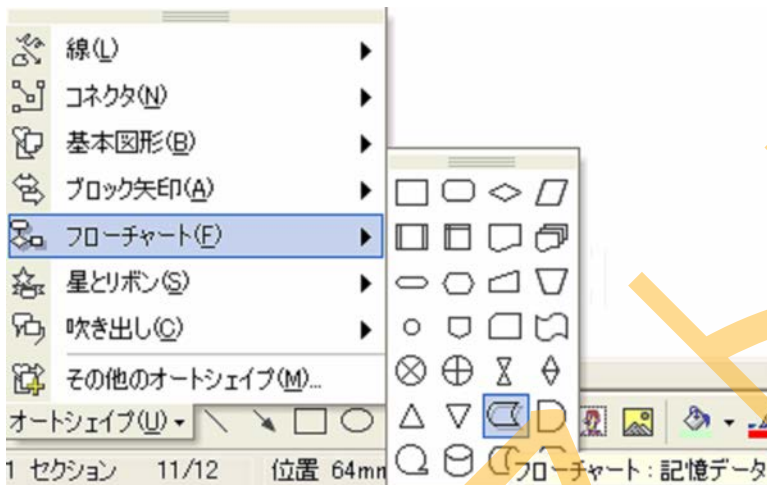
そのまま下に向かってドラッグします。

- **マウスを指から離した時点で、ブローチの図形の位置が確定します。**
- **図形を微妙に動かしたい場合は、図を選択した状態でキーボードの上下左右の矢印キー「→、←、↓、↑」のキーをそれぞれ押します。**

（6） 図形のコピー

◆図形をコピーする方法をマスターしましょう。

オートシェイプのフローチャートの「記憶データ」をつかって描いてみましょう。
図形描画【ツール】バーの「オートシェイプ」をクリックします。

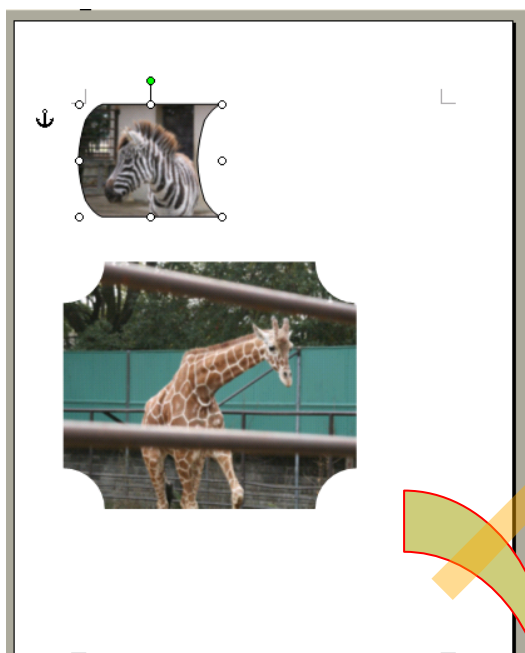
「フローチャート」にマウスをポイントすると、図形の一覧がでてきますので「記憶データ」にポイントしてそのままクリックします。

「フローチャート：記憶データ」をクリックすると
ポインタの形が+に変わりますので
ドラッグして図形を描きます。

「ワードでアルバム素材」のフォルダから
「シマウマ」の写真をフローチャート：記憶データの中に挿入します。

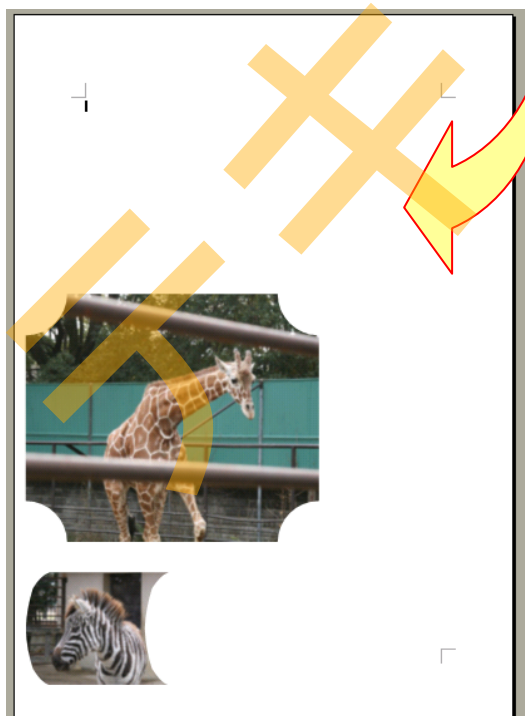
※わからない方は、P96の『（2）図形の中に写真を挿入する』に戻られて参考にしてください。

フローチャート：記憶データの中に写真が挿入されたところで、高さを「30」に、幅を「40」に設定します。

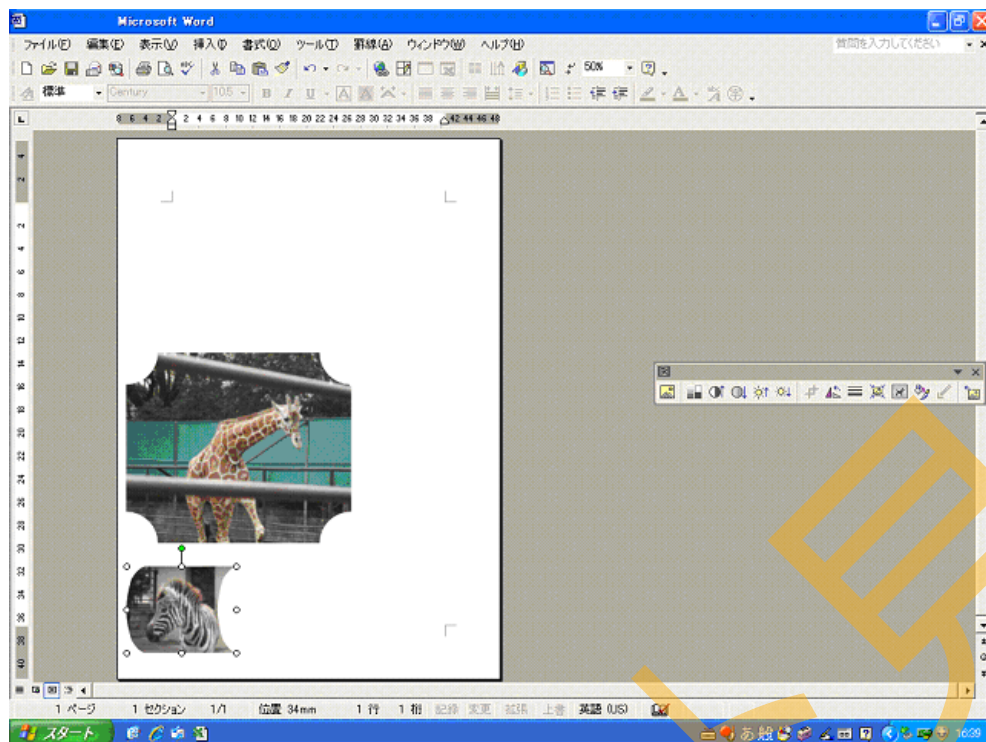
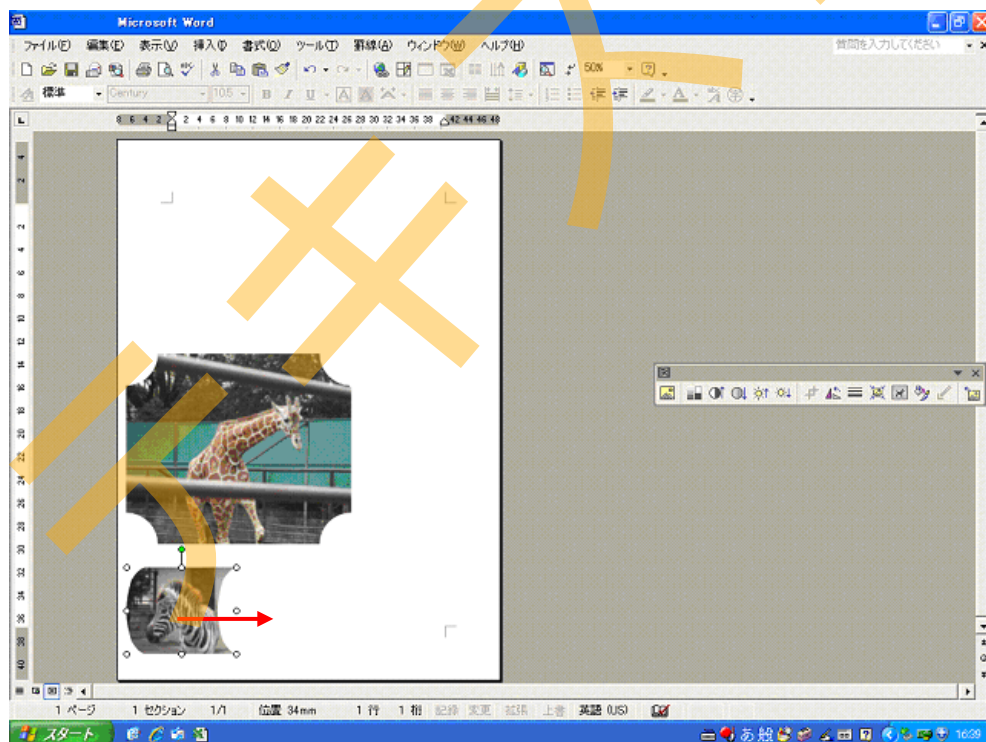
●［図形の幅］ボックスには、「40」を入力しても「40.01」などが表示されますが、写真の縦横比は「4：3」ですので、多少の誤差は気にしないようにしましょう・

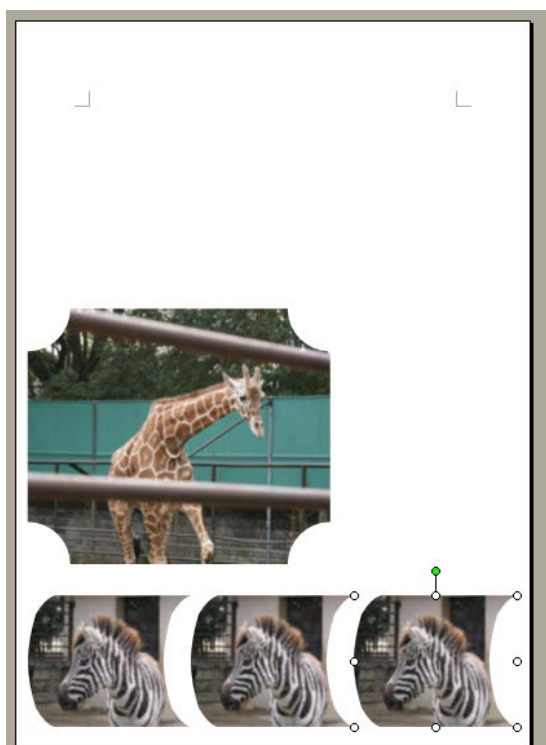
下の図を参考にドラッグして、フローチャート：記憶データのサイズを変更します。

●フローチャート：記憶データの縦、横の比率を守るため、必ず［Shift］キーを押した状態でドラッグしてください。

フローチャート：記憶データの枠線を非表示にします。

ヒント！「図形描画」ツールバーの線の色から非表示

左の図を参考にフローチャート：記憶データを移動します。

ここまでの設定ができれば、フローチャート：記憶データをコピーしていきます。

フローチャート：記憶データの中にマウスポインタを移動します。

そのまま「Ctrl」キーと「Shift」キーを同時に押した状態で右方向に向かってドラッグします。

マウスから指を離します。

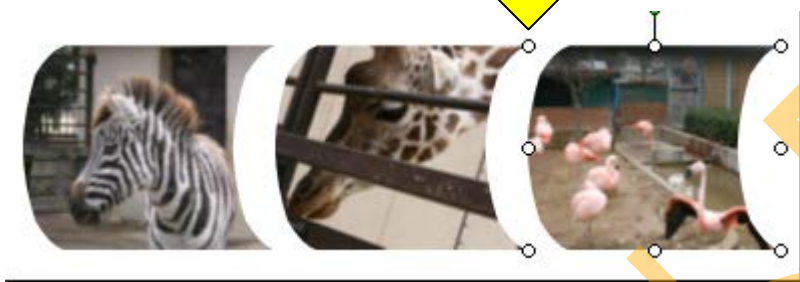
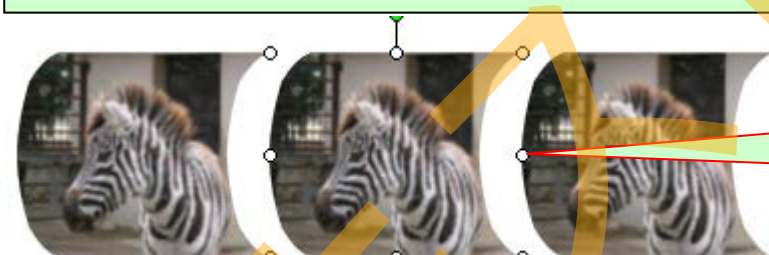
同じようにして図形を 3 つ配置します。

図形をコピーすると、図形の中に写真を挿入したり、枠線を非表示にしたり、移動したりといった操作は短縮できましたが、入っている写真が全部シマウマですね

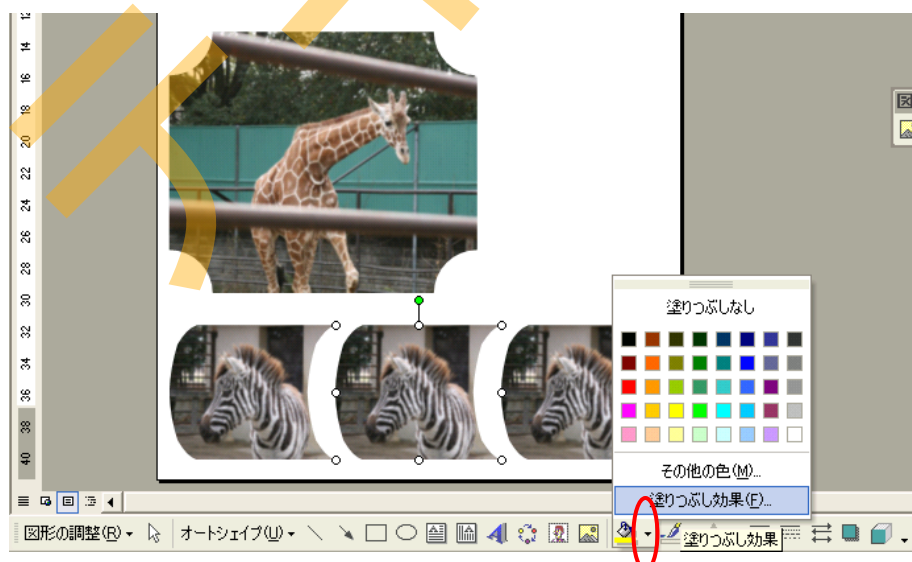
次の工程は図形の中に入っているシマウマの写真だけを変更していきます。

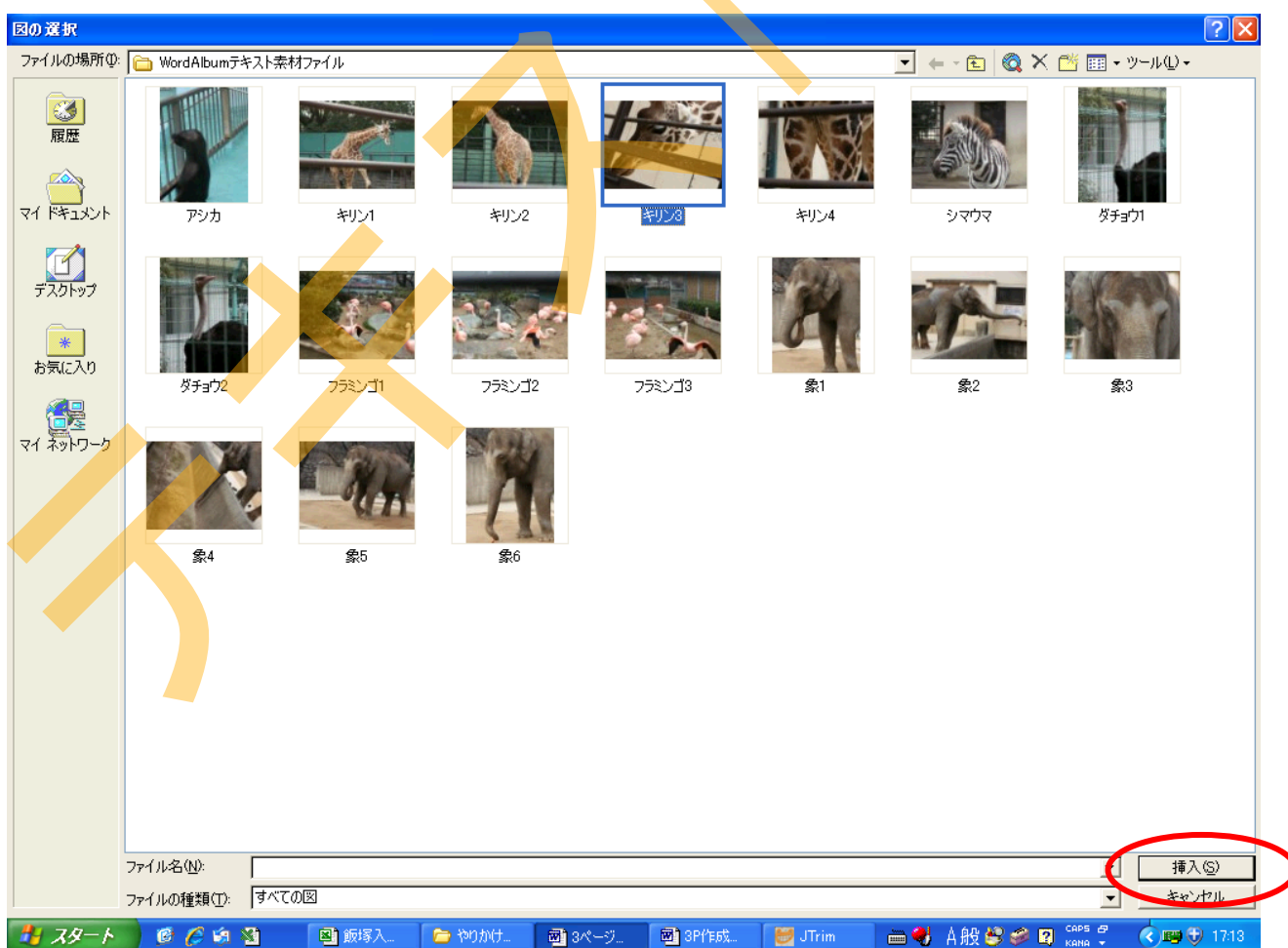
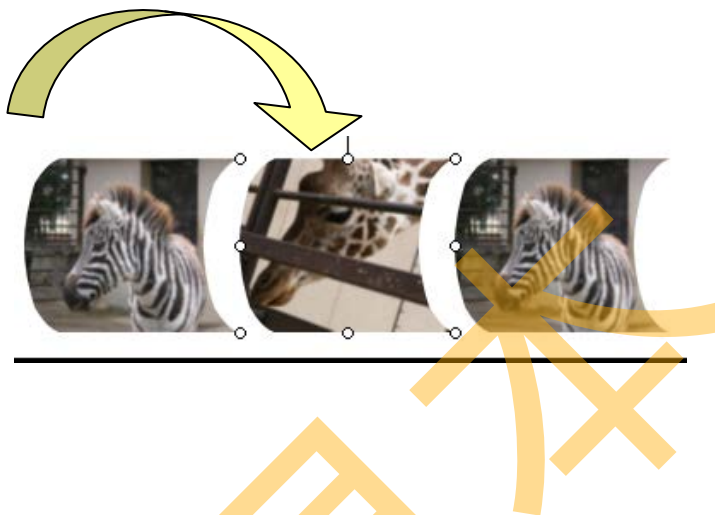
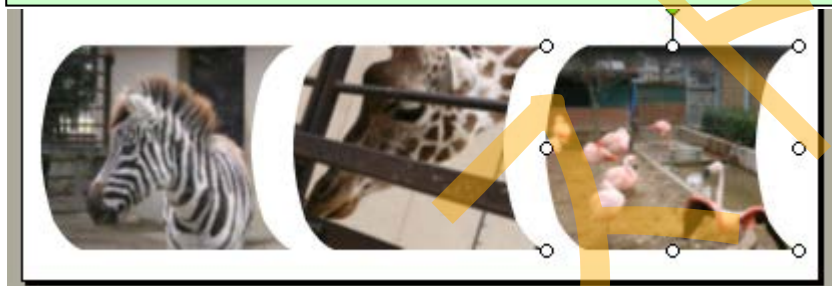
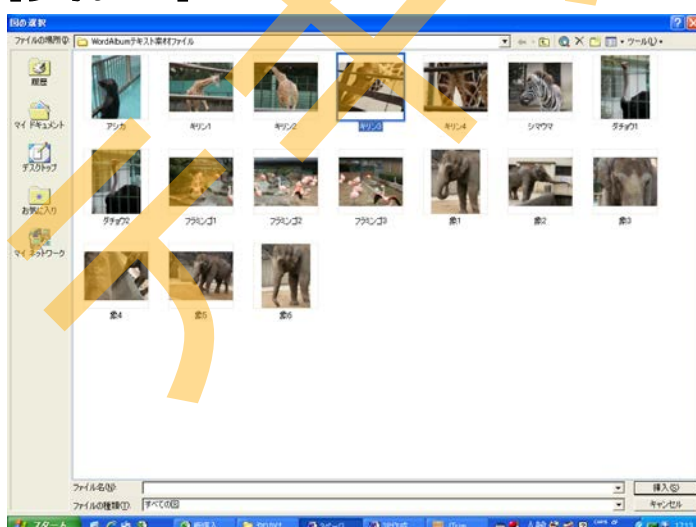
（7）写真の変更

◆写真を変更する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

真ん中の「シマウマ」の写真が挿入された図形をクリックします。

図形の周りに、ハンドルが表示された状態になります。

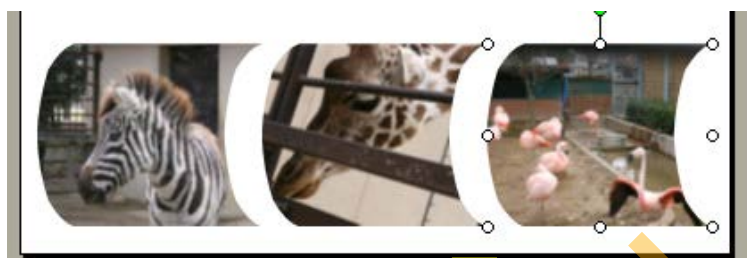
図形描画ツールバーの「塗りつぶしの色」の▼ボタンをクリックして「塗りつぶし効果（F）」をクリックます。

「塗りつぶし効果」のダイアログボックスが出てきますので、「図の選択(L)」のボタンをクリックします。

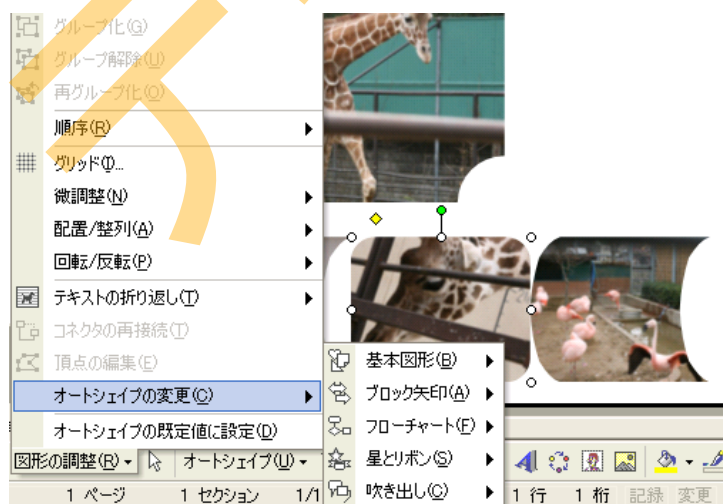
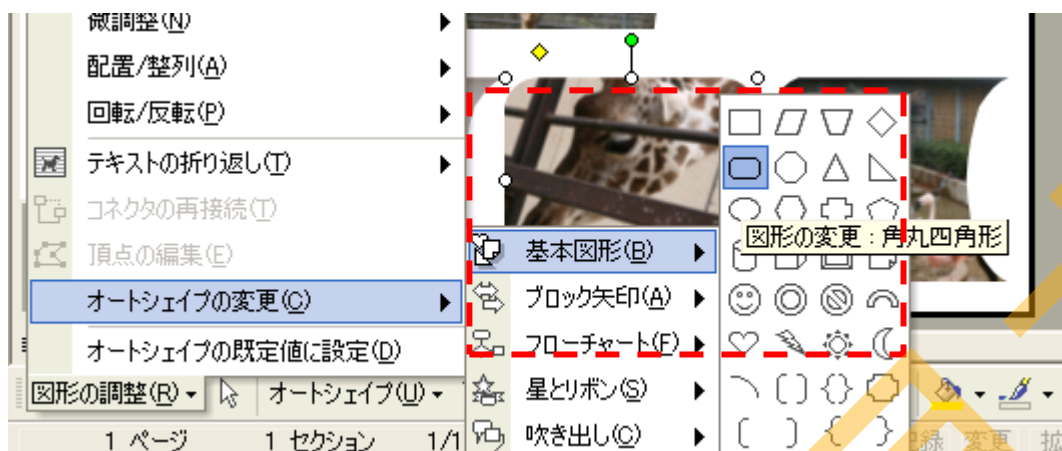
「キリン 3」をクリックして選択し、「挿入」のボタンをクリックしましょう。

「塗りつぶし効果」のダイアログボックスの画面に戻りますので「OK」ボタンをクリックします。

同じようにして右側のフローチャート：記憶データの写真を「フラミンゴ 3」に変更してみましょう。

【参考までに】

「図の選択」の画面で写真をダブルクリックすると、「挿入」のボタンを押さずに「塗りつぶし効果」の画面に戻ることができます。

（８）図形の変更

ここでは「キリン 3」に写真を変更したフローチャート：記憶データの図形を角丸四角形に変更します。
この操作には「一から図形を描かなくて済むというメリットがあります。
最初から図形を描くと、サイズ変更、写真の挿入、移動、図形の枠線の表示など設定しなくてはならない作業が数多くありますが「図形の変更」という操作をマスターすると、操作の短縮になります。

図形を変更する方法をマスターしましょう。

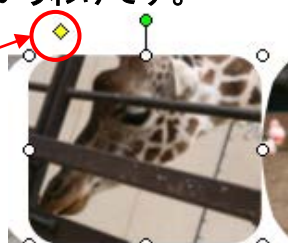
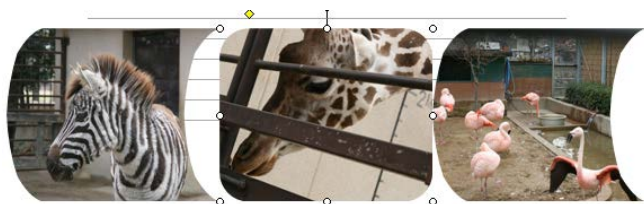
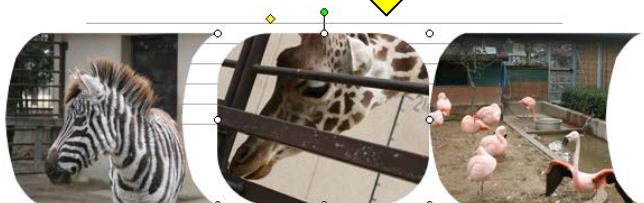
操作前の状態

操作後の状態

真ん中のフローチャート：記憶データが選択されていることを確認して、（周りにサイズ調整ハンドルが出ていなければ図形をクリックして選択します）図形描画ツールバーの「図形の調整」ボタンにポイントし、そのままクリックします。

出てきたメニューから「オートシェイプの変更（C）」にポイントし、そのまた右にでてきたメニューから「基本図形」にポイントします。
さらに出てきた選択画面から角丸四角形」をポイントし、そのままクリックします。

変更後

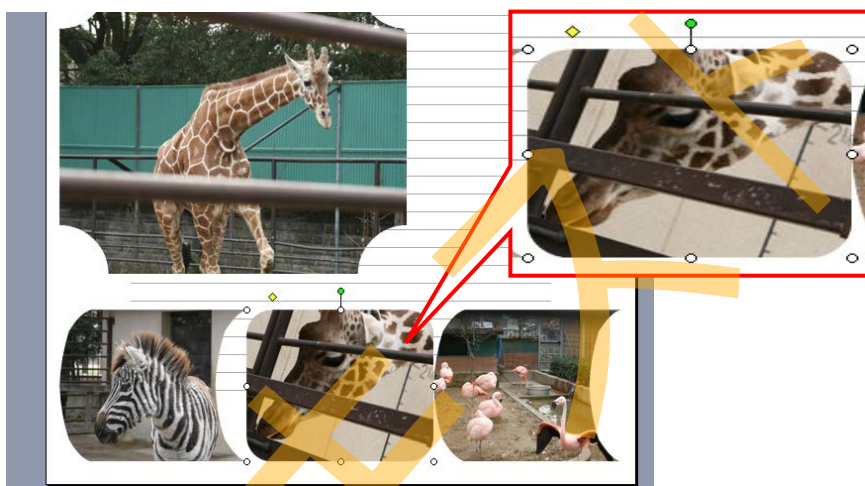
（９）図形の変形

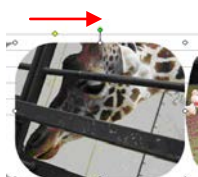
図形には描いた図形によっては変形することができます。

変形できる図形　変形できない図形

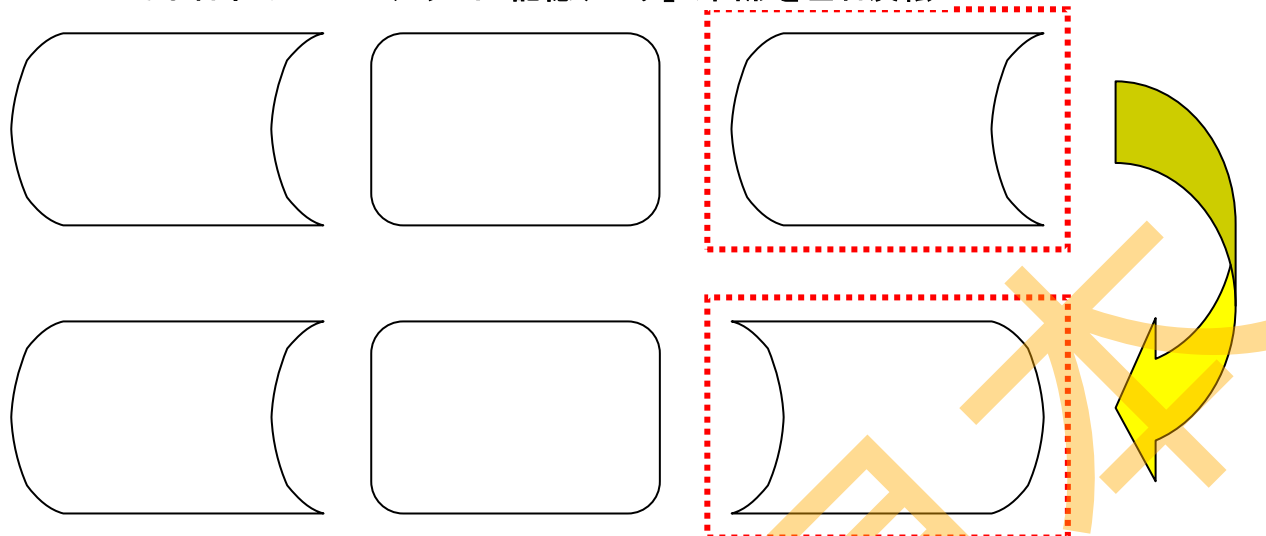
描いた図形によっては変形できる・変形できないというのは、
どこで見分けるかというと
図形を選択したときに図形の周りに○や■（サイズ調整ハンドル）が表示されます。
変形できる図形の場合、サイズ調整ハンドルに加え、◆の形が表示されます。
この◆は「変形ハンドル」といいます。
この黄色の◆が出てきた場合変形することができるというわけです。

◆図形を変形する方法をマスターしましょう

操作前の状態

操作後の状態

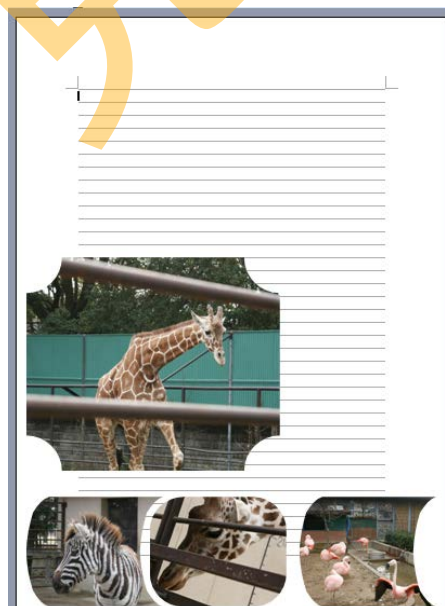
中央下の角丸四角形が選択されていることを確認します。

角丸四角形の左上に表示されている◆(変形ハンドル)にポイントし、
マウスポインタが ▷ に変わったことを確認します。

マウスの左ボタンを押したまま右方向へ 5mmくらいドラッグします。

より丸い形に変形されましたでしょうか。

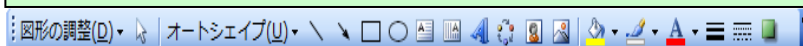
（10）図形を左右反転する

ここでは右下の「フローチャート：記憶データ」の図形を左右反転

◆図形を左右反転させる方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

右下のフローチャート：記憶データをクリックして選択します。

図形描画ツールバーが表示されていることを確認します。

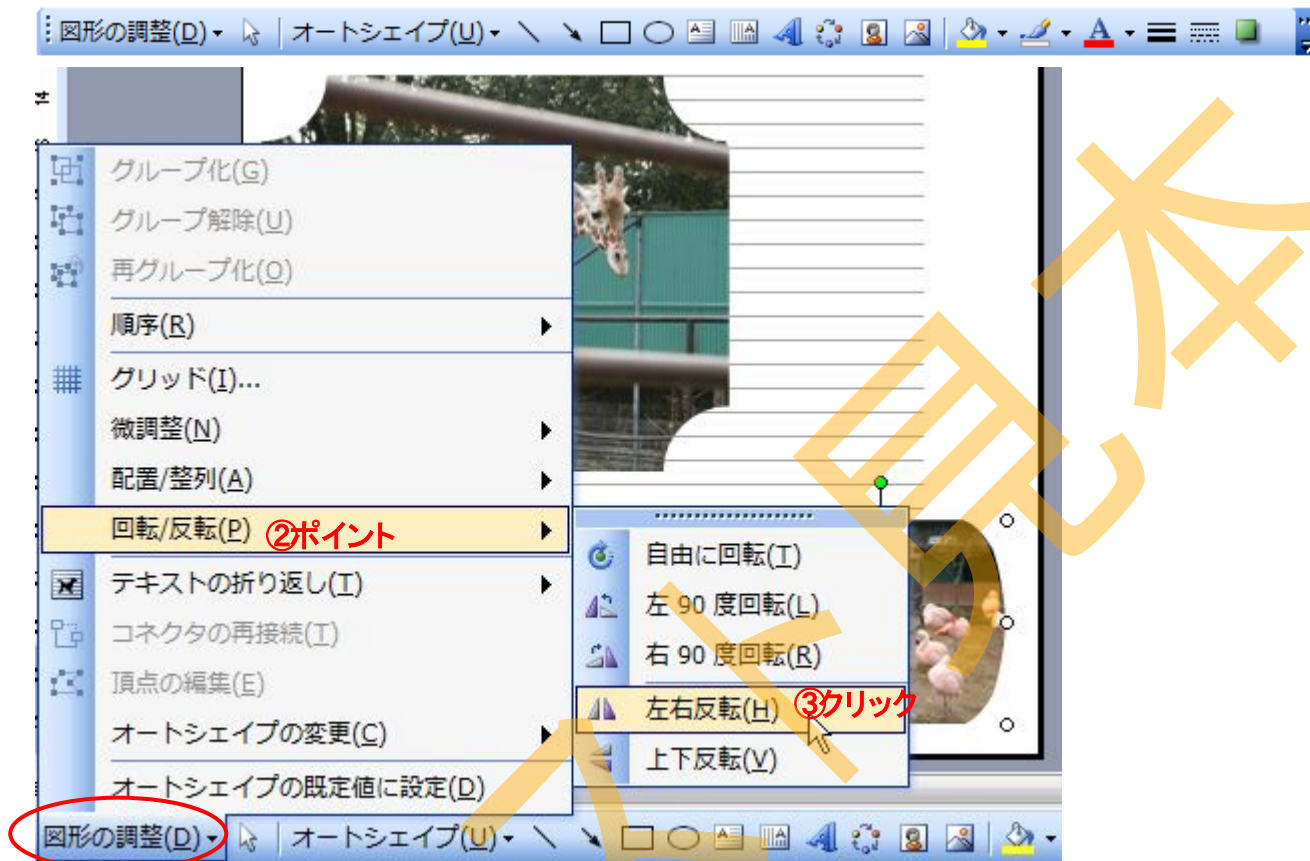
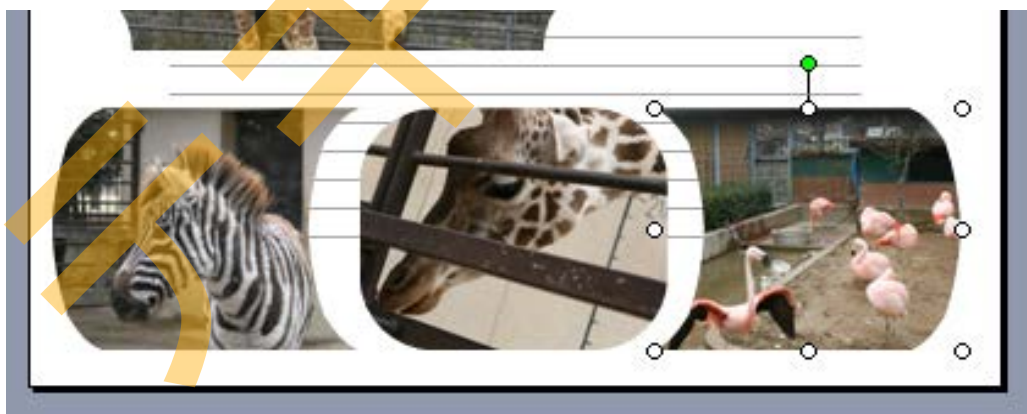
図形の調整(D)・ オートシェイプ(U)・

「図形描画」ツールバーの図形の調整」ボタンにポイントし、そのままクリックします。
出てきたメニューから「回転/反転」にポイントして、さらに右側に出てきたメニューから「左右反転」にポイントし、そのままクリックします。

図形描画ツールバ

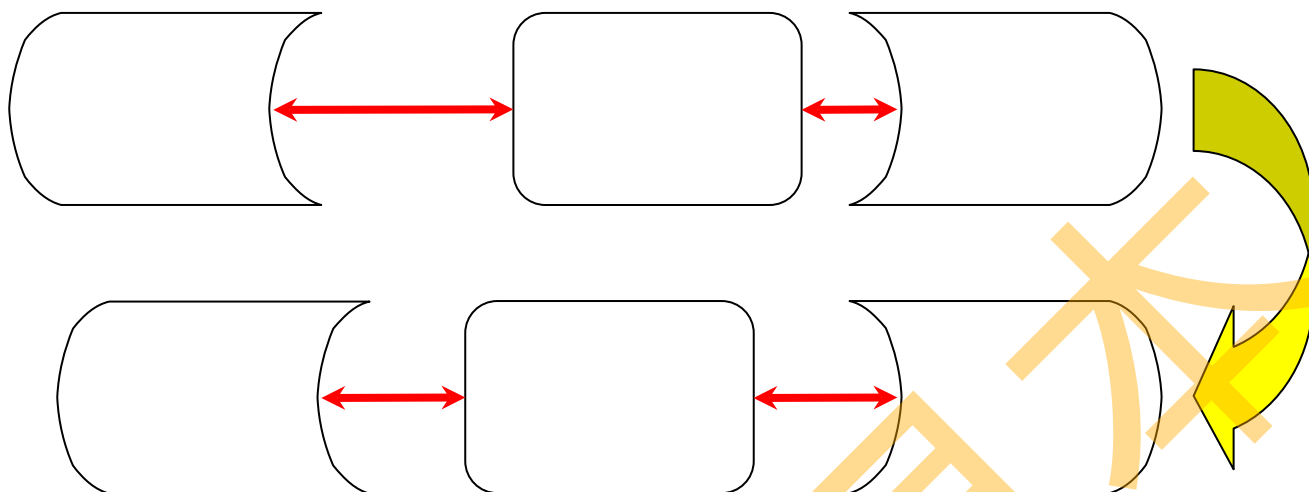
図形の調整(D)・ オートシェイプ(U)・

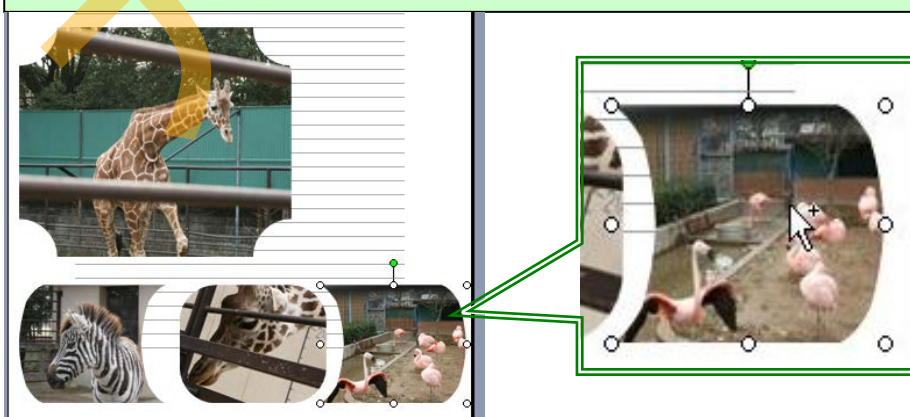
グループ化(G)
グループ解除(U)
再グループ化(O)
順序(R)
グリッド(I)...
微調整(N)
配置/整列(A)
回転/反転(P) ②ポイント
テキストの折り返し(T)
コネクタの再接続(T)
頂点の編集(E)
オートシェイプの変更(C)
オートシェイプの既定値に設定(D)

自由に回転(T)
左 90 度回転(L)
右 90 度回転(R)
左右反転(H) ③クリック
上下反転(V)

図形の調整(D)・ オートシェイプ(U)・

① クリック

●「左右反転」をクリックした時点で選択されていたフローチャート：記憶データが反転します。

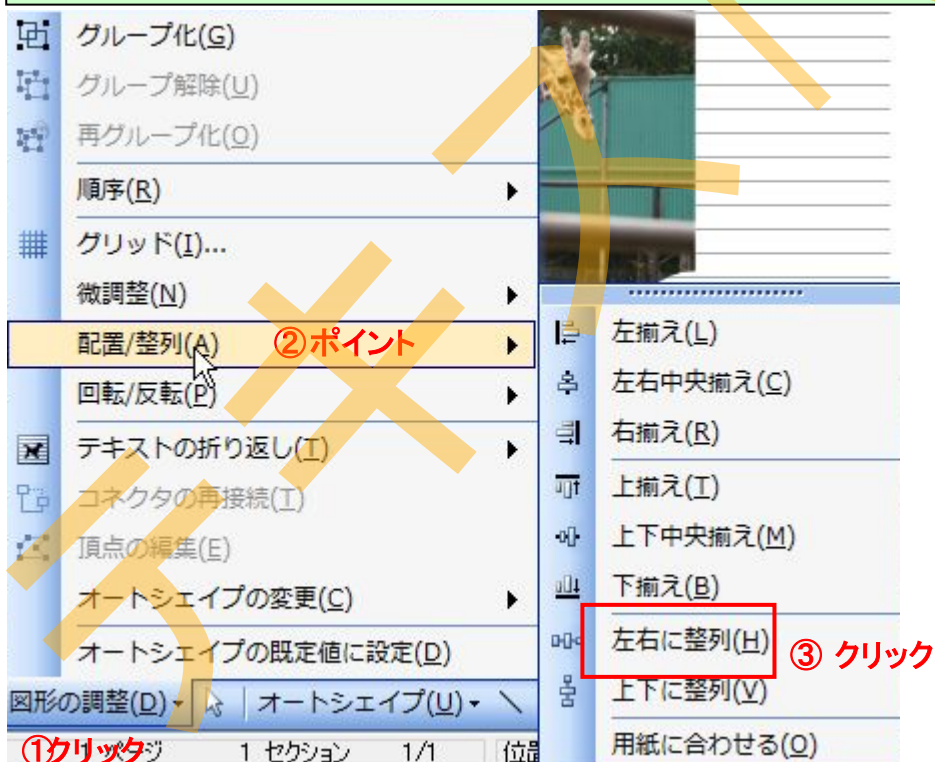
方法その 2
図形をクリックして選択し、四隅のサイズ調整ハンドルのどれかを反対方向のサイズ調整ハンドルを追い越してドラッグします。

（11）図形の整列

◆図形を整列する方法をマスターしましょう。

右下のフローチャート：記憶データをクリックして選択します。

[Shift]キーを押した状態で中央下の角丸四角形をクリックします。
([Ctrl]キーでもかまいません)

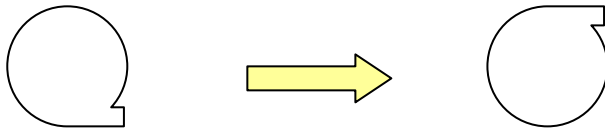
さらに[Shift]キーを押した状態で左下のフローチャート:記憶データをクリックします。
([Ctrl]キーでもかまいません)

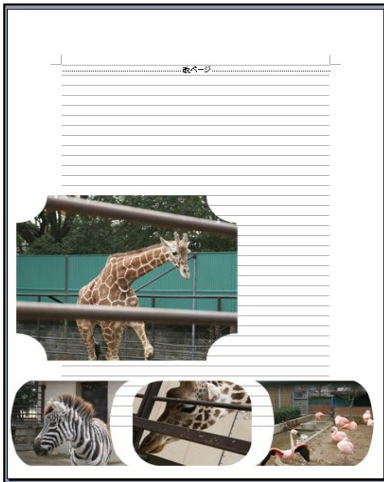
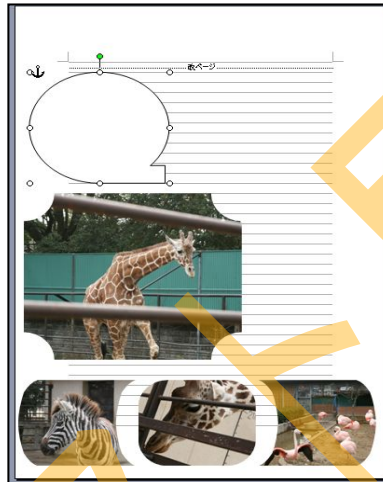
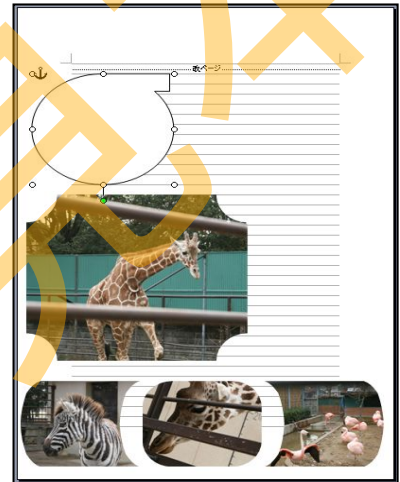
クリックした時点で、選択した図形にハンドルが表示されていることを確認します。

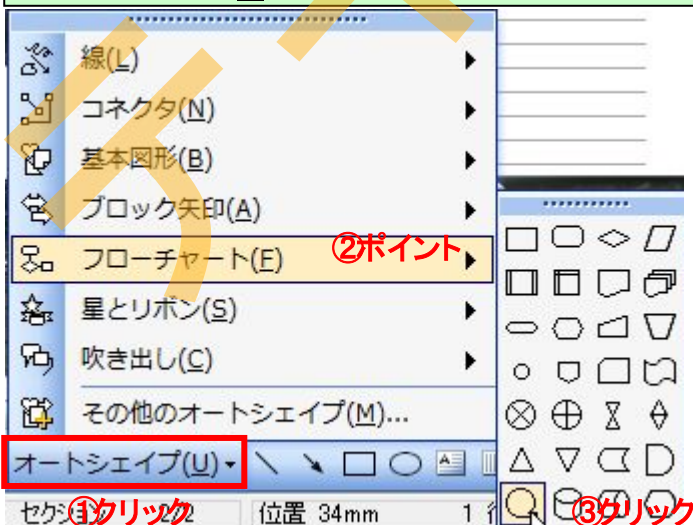
図形描画ツールバーの「図形の調整(D)」にポイントし、そのままクリックします。

「配置/整列(A)」にポイントし、右側にでてきたメニューから「左右に整列(H)」にポイントしそのままクリックします。

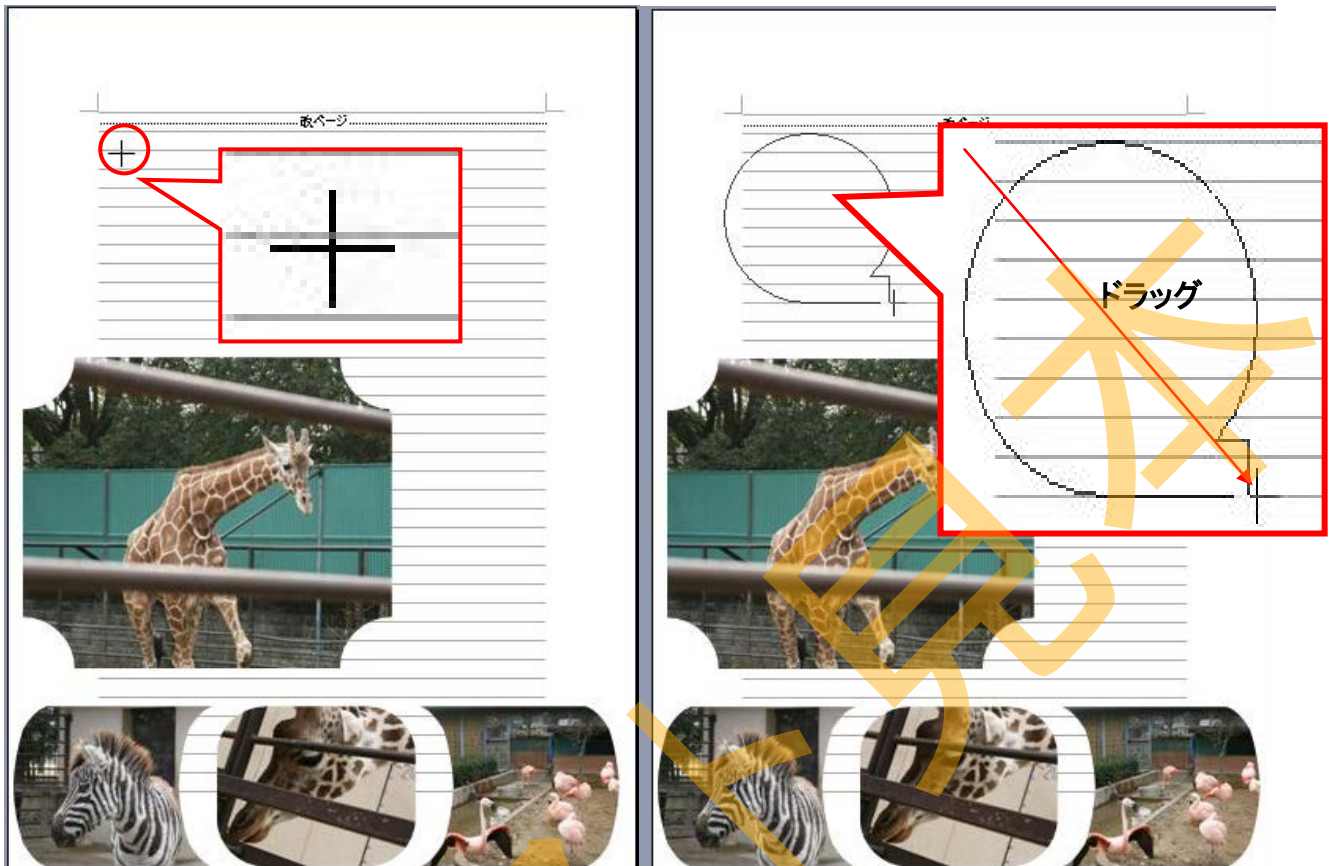
●「左右に整列(H)」をクリックした時点で、選択していた 3 つの図形の間隔が均等に配置されます。

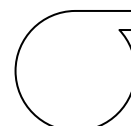
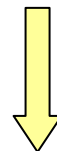
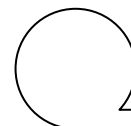
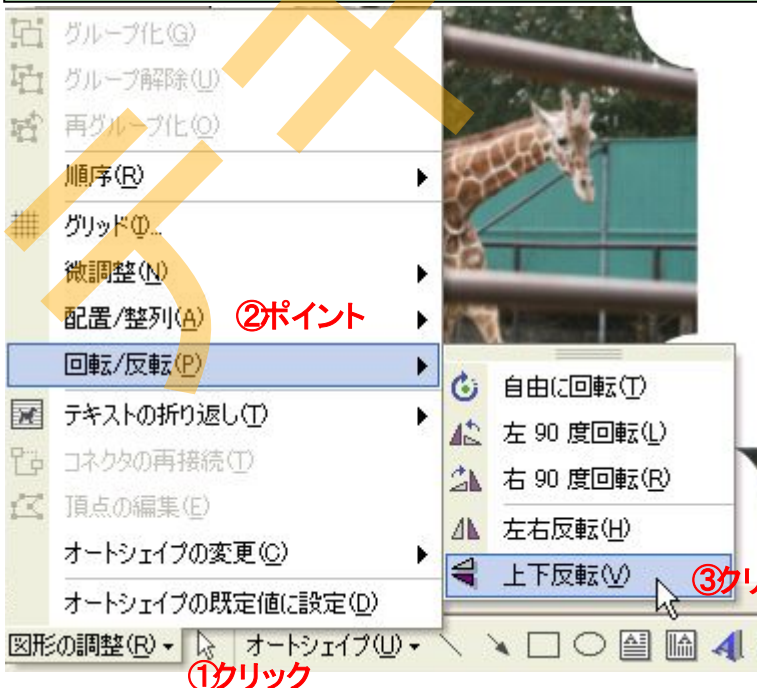
（12）図形を上下反転する

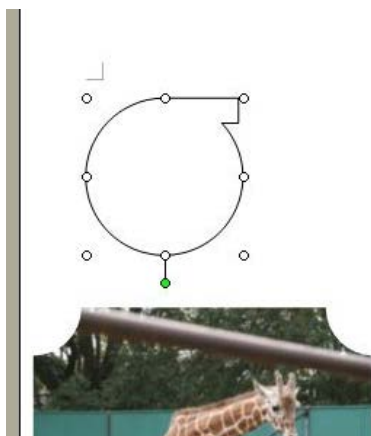
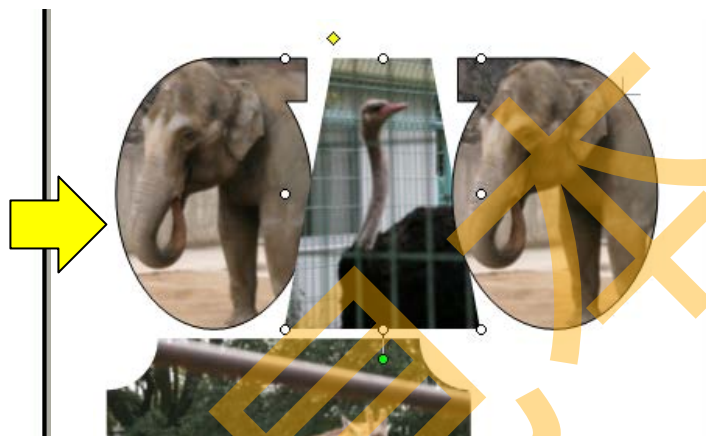
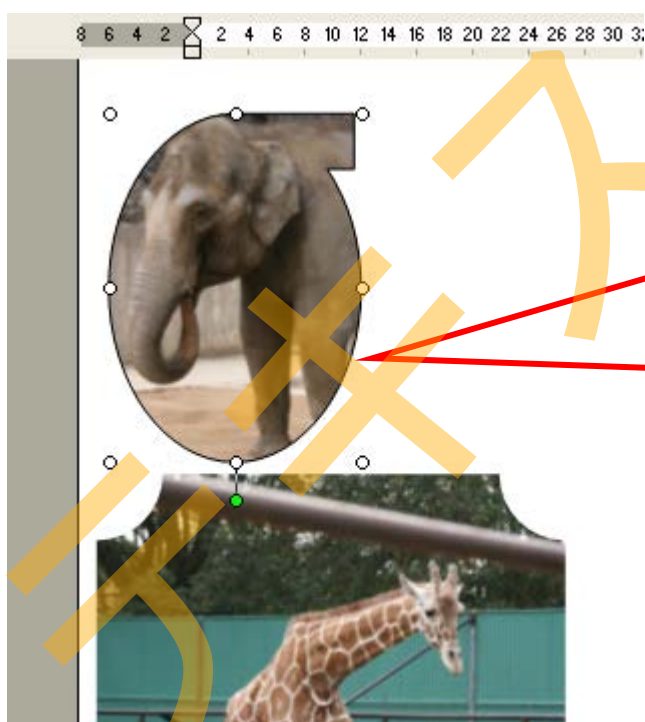
ここでは、図形の「フローチャート：順次アクセス記憶」を描いた後、上下反転させます。

この図形を挿入して　　上下反転します。

◆図形を上下反転する方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　図形を挿入した状態　　操作後の状態

図形描画ツールバーが表示されていることを確認します。

[オートシェイプ(U)]にポイントし、そのままクリックします。

フローチャート（F）にポイントし、出てきたオートシェイプの種類から「フローチャート：順次アクセス」をクリックします。

マウスポインタが ＋ になっていることを確認したら、下の図を参考に右下に向かってドラッグします。

★ここから、描いたフローチャート：順次アクセス記憶を上下反転する操作に入ります。

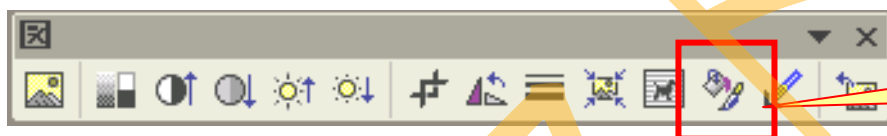
フローチャート：順次アクセスをクリックして選択してハンドルが表示されていることを確認しておきます。
図形描画ツールバーの「図形の調整」ボタンにポイントし、そのままクリックします。

（13）縦長の写真を挿入する

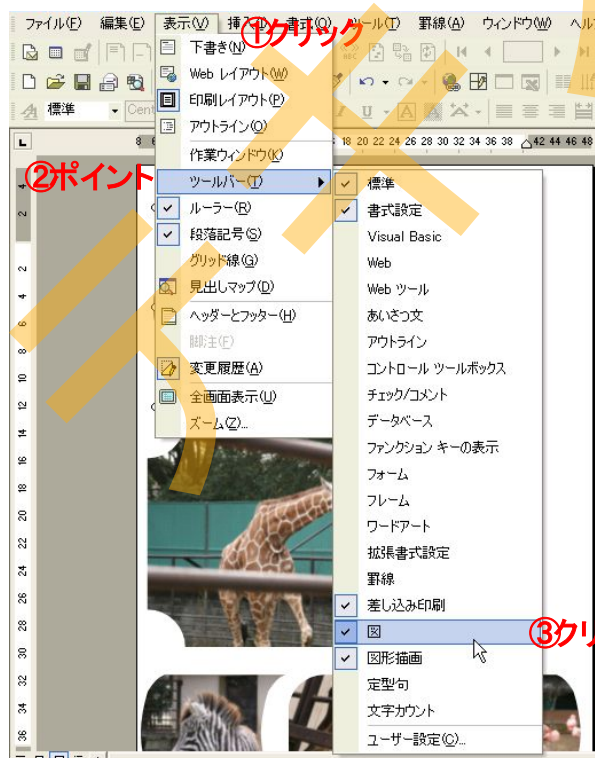
◆ ここまで写真の形状になる図形を描き、その中に写真を挿入してきましたが、挿入した写真はすべて横長でした。ここでは縦長の写真を挿入していく方法をマスターしましょう。

上下反転させたフローチャート：順次アクセス記憶が選択されていることを確認し、「象 1」の写真を挿入します。

●図形の中に写真を挿入する方法がわからない方は「Ｐ９６の（２）図形の中に写真を挿入する」を参照して下さい。

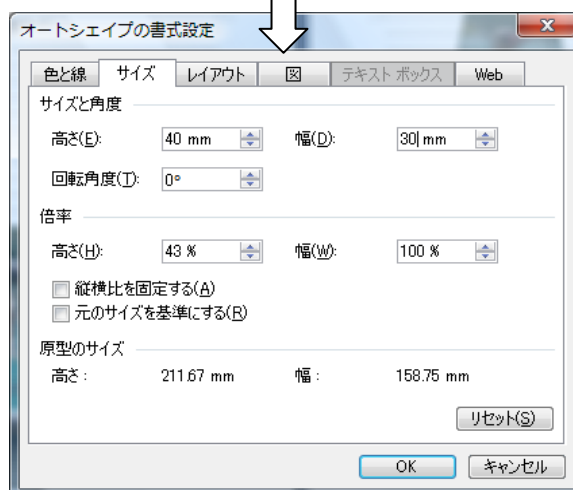
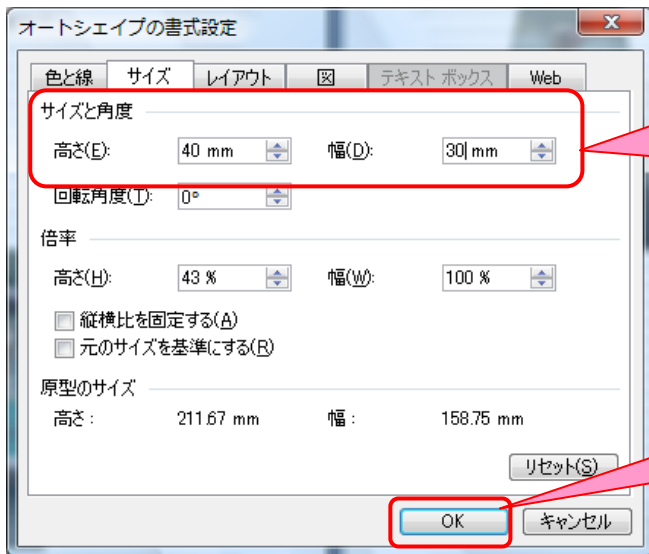
写真を挿入する時の注意点

反転させた図形にそのまま画像を挿入すると写真もそのまま反転してしまいます。
図を選択して「塗りつぶし効果」のダイアログボックスが表示されたら、一番下にある「図形に合わせて塗りつぶしを回転する(P)」の☑をクリックして外しておきます。

図が挿入されたら、縦横比を「4:3」にしたいので図ツールバーの「図の書式設定」のボタンをクリックします。

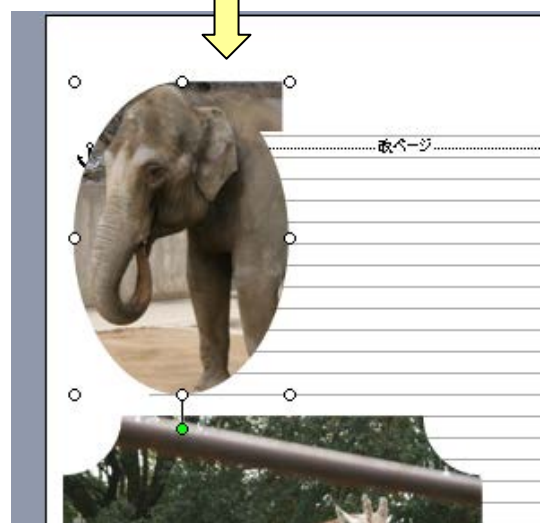
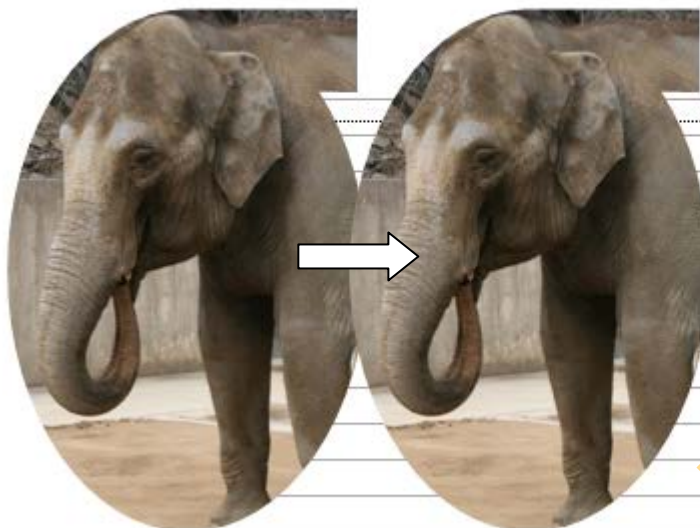
図ツールバー

図の書式設定

※　図ツールバーが出ていないときは
【ファイル】メニューの「表示」→「ツールバー」→「図」とたどってクリックします。

●フローチャート：順次アクセス記憶はオートシェイプですが中に図を挿入していますので「オートシェイプの書式設定画面が出てきます。

オートシェイプの書式設定			
色と線 / サイズ / レイアウト / 図 / テキスト ボックス / Web			
サイズと角度			
高さ(E):	40 mm	幅(D):	30 mm
回転角度(T):	0°		
倍率			
高さ(H):	43 %	幅(W):	100 %
☐ 縦横比を固定する(A)			
☐ 元のサイズを基準にする(R)			
原型のサイズ			
高さ：	211.67 mm	幅：	158.75 mm
リセット(S)	OK	キャンセル	

「4:3」の比率を守るため「オートシェイプの書式設定」ダイアログボックスの「サイズ」タブをクリックします。

「サイズと角度」のところの「高さ(E)」を40mm、
「幅(D)」を 30mm に設定します。

「OK」ボタンにポイントし、
そのままクリックします。

下の図を参考にフローチャート；順次アクセス記憶のサイズを、Shift キーを押したままドラッグして変更します。

「図形描画ツールバー」の線の色のボタンをクリックして「線なし」を設定し、図形の周りの線を消します。

フローチャート：順次アクセス記憶の中にマウスポインタを移動して、
「Ctrl」キーと「Shift」キーを同時に押したまま右に向かってドラッグします。

マウスから指を離します。（「Ctrl」キーと「Shift」キーはまだ押したままにしてください。）

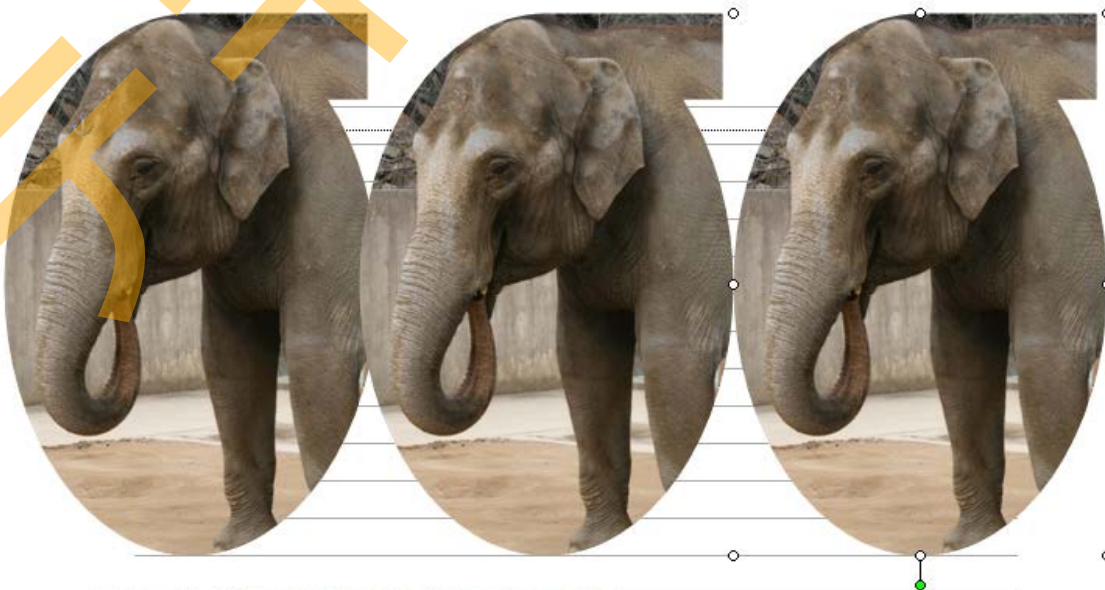
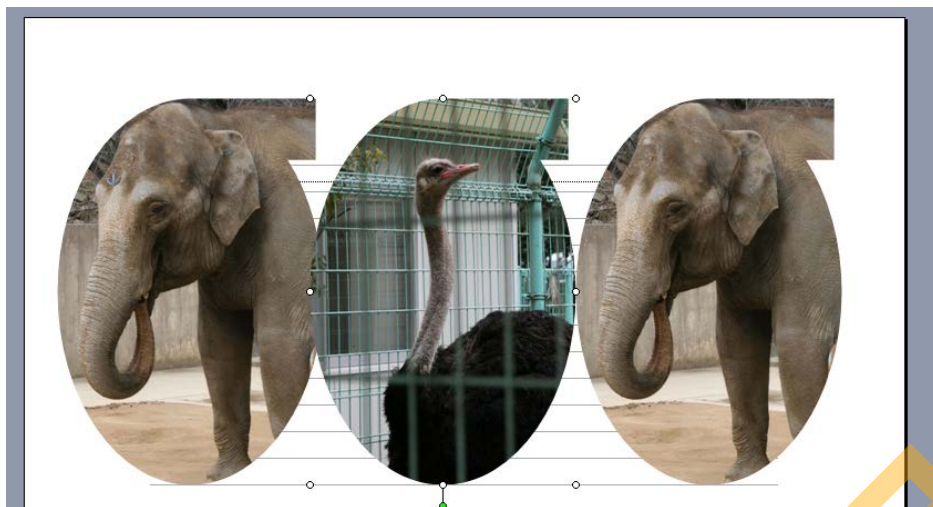
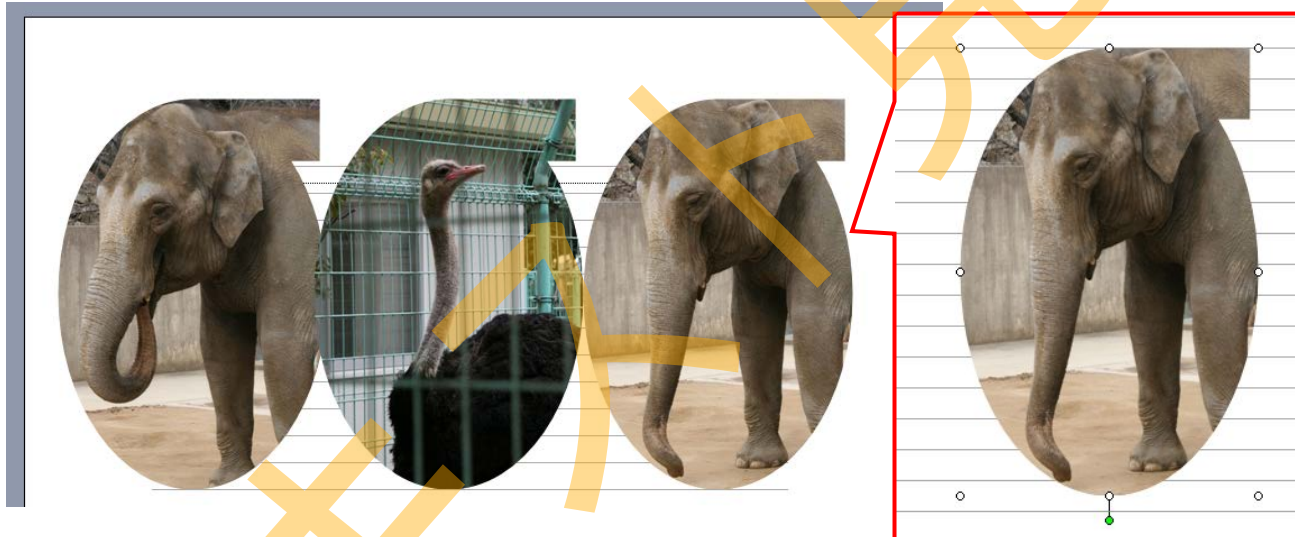
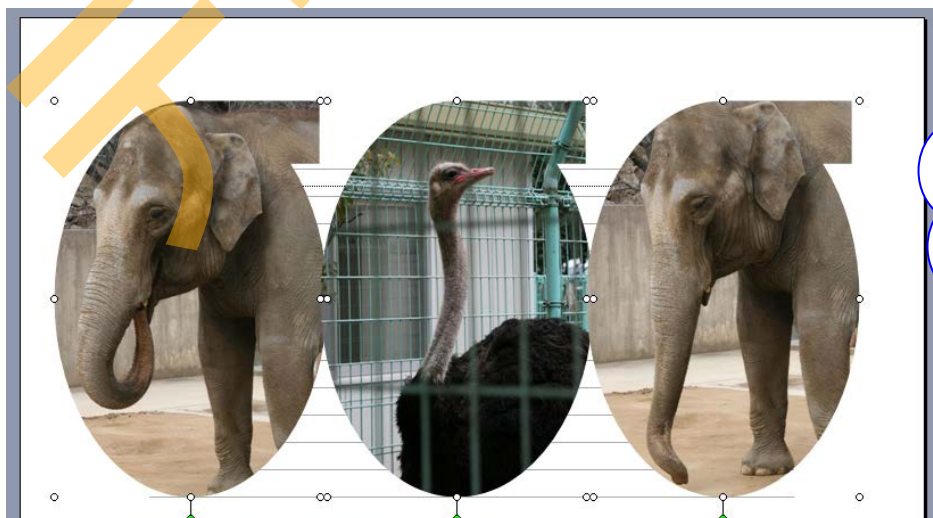
ポイント

「Ctrl」キーを押した状態で図形をドラッグすると図形がコピーされます。

「Shift」キーを押した状態で図形をドラッグすると水平・垂直に移動されます。

「Ctrl」キーと「Shift」キーを押した状態で図形をドラッグすると水平・垂直に移動しコピー

マウスの人差し指を離してから、「Ctrl」キーと「Shift」キーから指を離します。

同様にして、もう1つ右側にコピーします。

中央上のフローチャート：順次アクセス記憶をクリックして選択し、「ダチョウ 2」の写真に入れ替えます。

同様にして右上のフローチャート：順次アクセス記憶の写真を「象 6」に変更します。

3 つのフローチャート：順次アクセス記憶を均等に整列します。

図形を整列する方法を忘れた方は、P115 の（11）図形の整列を参照してください。

右上のフローチャート：順次アクセス記憶を左右反転します。

注意！

●3つの図形が選択されたままになっていますので、一度選択を解除してから、右上のフローチャートを選択して左右反転しましょう。

図形を反転する方法を忘れた方は、P113の「（10）図形を反転する」を参照してくださ

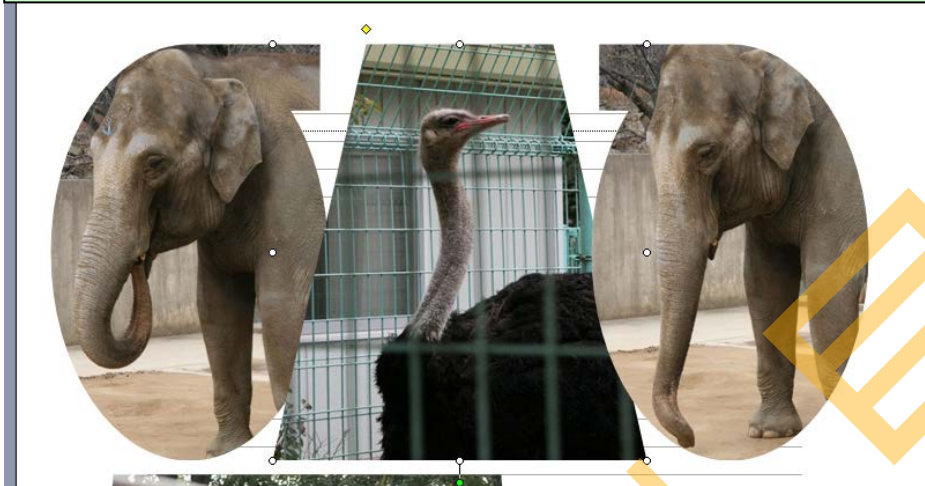
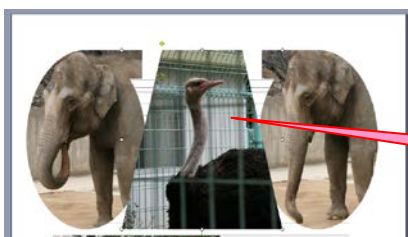
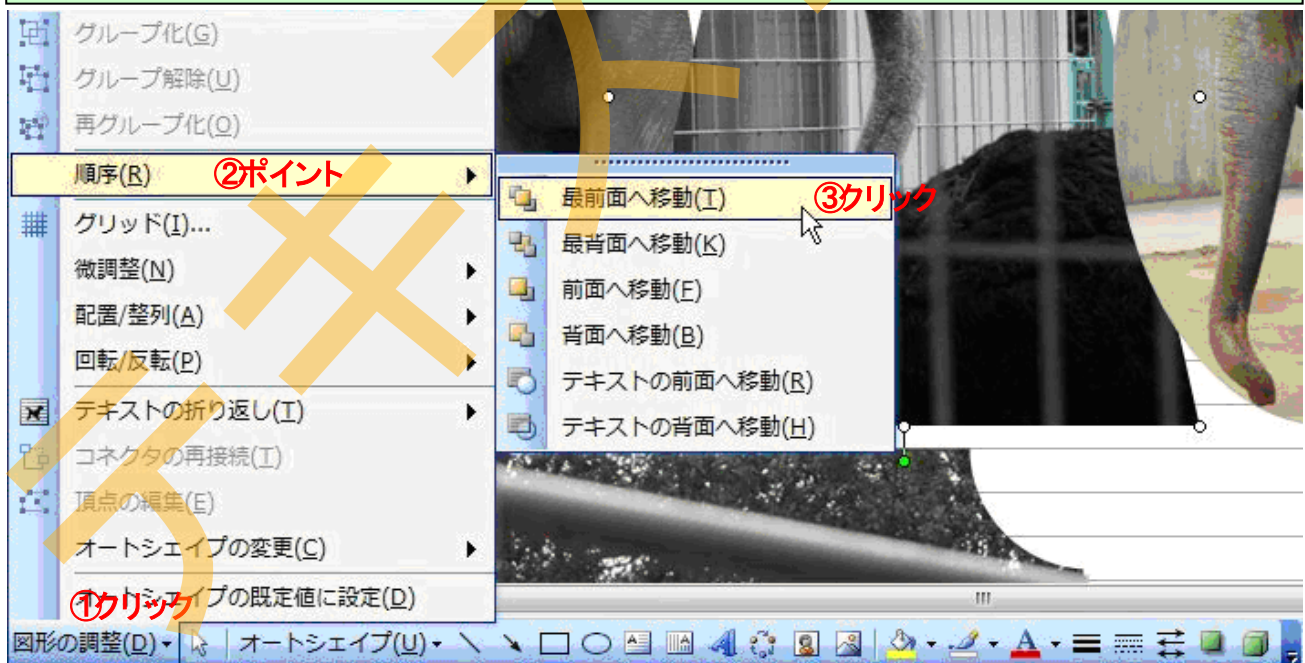
中央上のフローチャート：順次アクセス記憶を「基本図形」の「台形」に変更します。

図形を反転する方法を忘れた方は、P110の「(8)図形を変更する」を参照してください。

（14）図形の順序を入れ替える

◆図形の順序を入れ替える方法をマスターしましょう。

並んだ図形、重なった図形の前面や背面にするといった順序を入れ替える方法です。
ここでは、中央上にある台形を最前面に配置してみましょう。

中央の台形をクリックして選択しましょう。

「図形描画」ツールバーの「図形の調整（D）」をクリック、出てきたメニューから「順序」にポイントし、さらに出てきたメニューから「最前面に移動」にポイントし、そのままクリックします。

最前面に移動されました

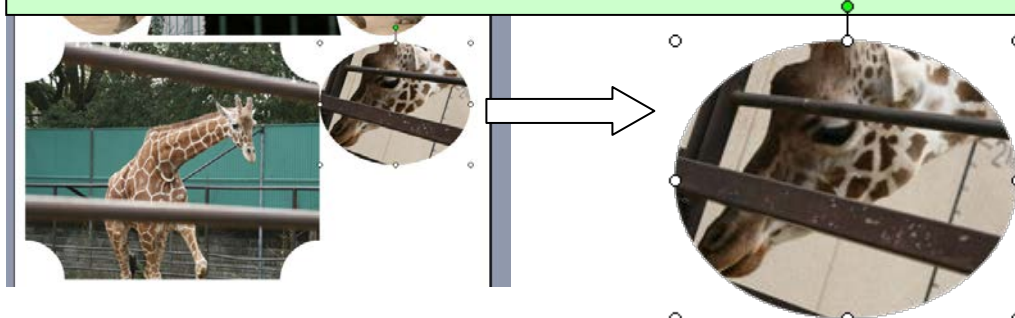
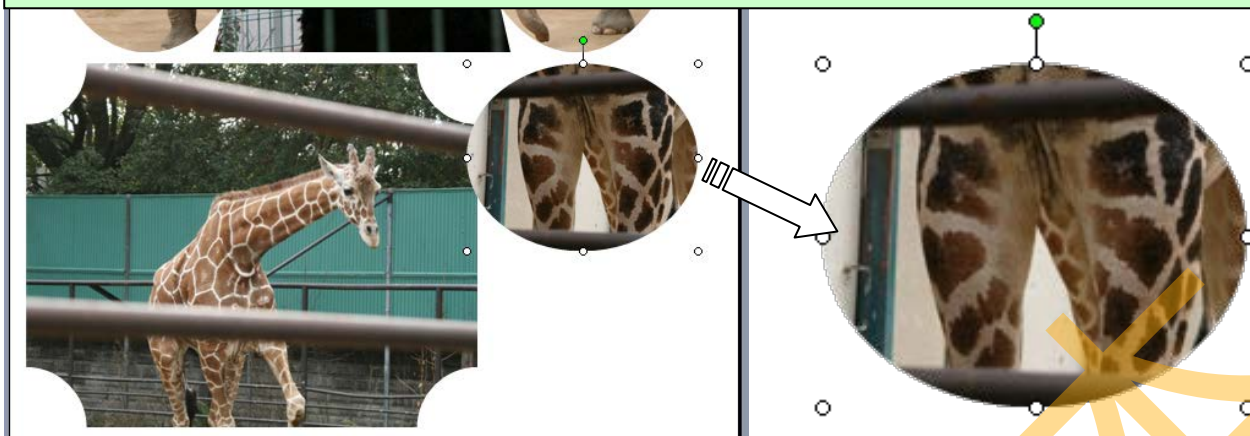
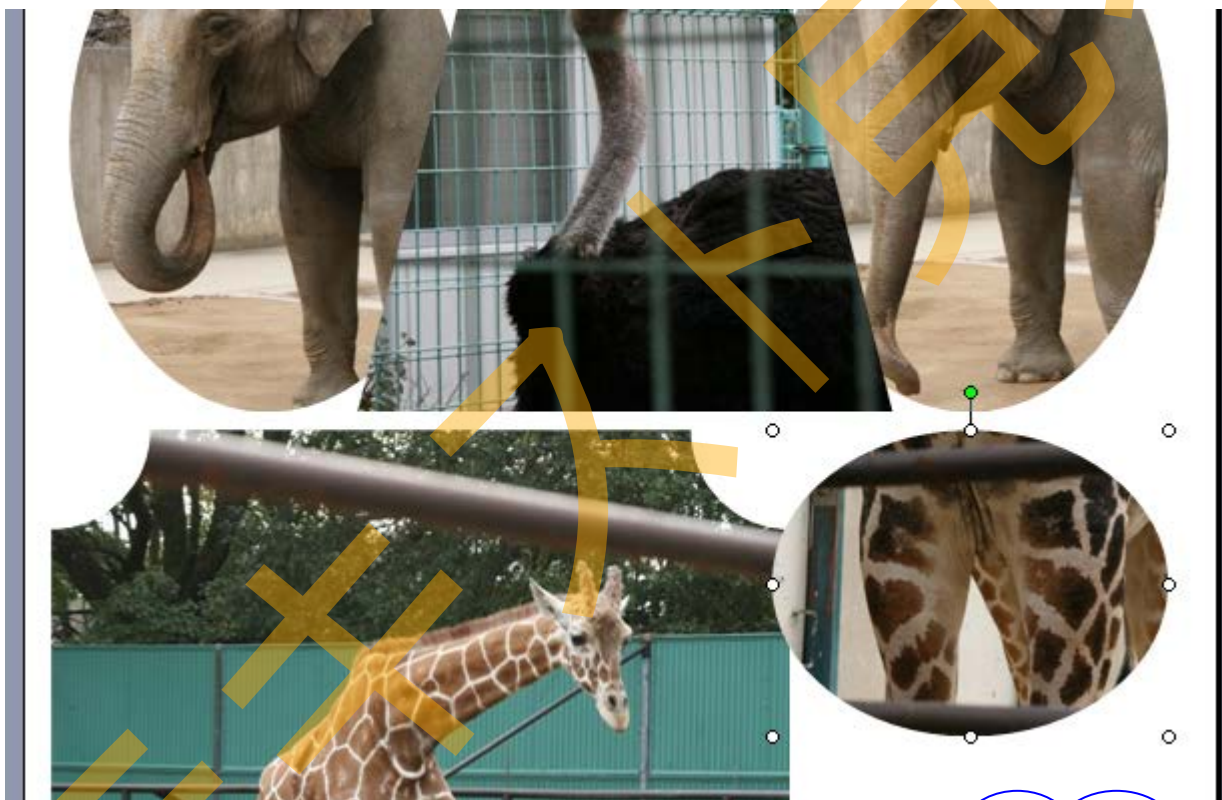
（15）残りの写真を挿入する

ここまでの復習を兼ねて、もう1つ図形をコピーし、図形の変更、挿入されている写真の変更、サイズ変更、さらに図形を移動して完成させましょう。

◆ 残りの写真を挿入する方法をマスターしましょう。

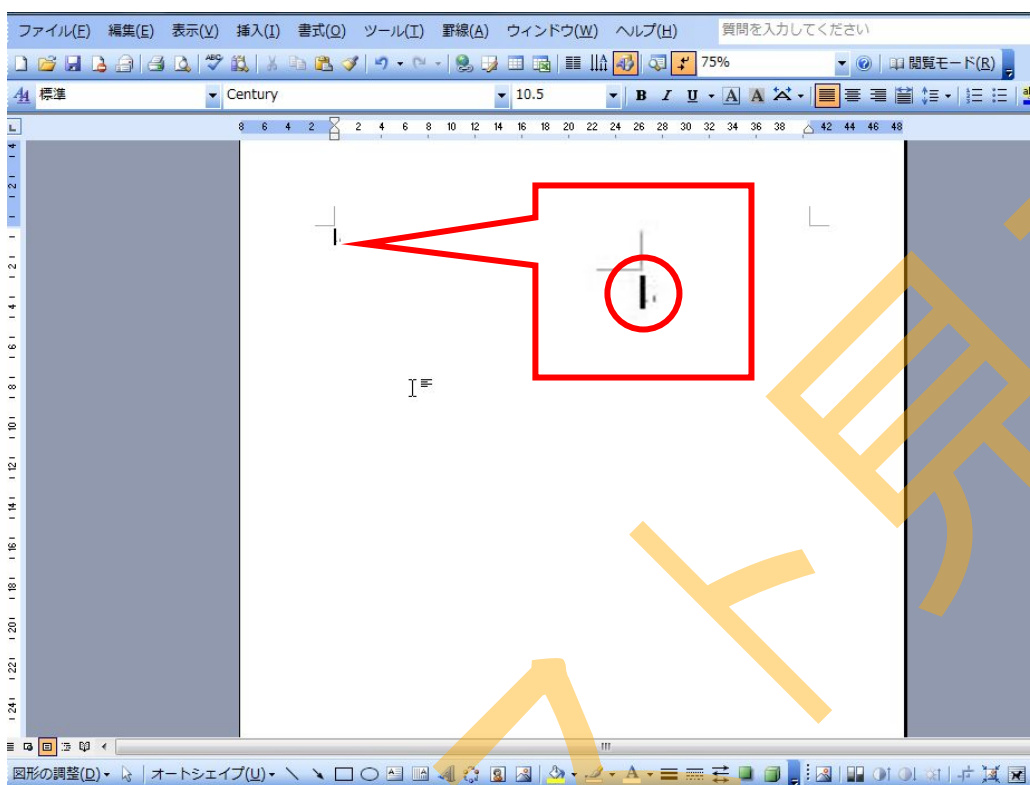
操作前　　操作後

下の図を参考に中央下の角丸四角形をコピーします。

コピーした図形を「楕円」に変更します。

「楕円」の中に挿入されている写真を「キリン 4」に変更します。

下の図を参考に楕円のサイズ、配置を変更します。

サイズを変更する場合、「4:3」の比率を保持するため必ず「Shift」キーを押した状態でドラッグします。

（16）不要なページを削除する

このテキストでは表紙を含めて3ページのアルバムを作成してきましたが、現在合計4ページあります。ここでは不要になった4ページ目（空白ページ）を削除しましょう。

4ページ目の先頭にカーソルを移動します。

[Back Space]キーを押します。

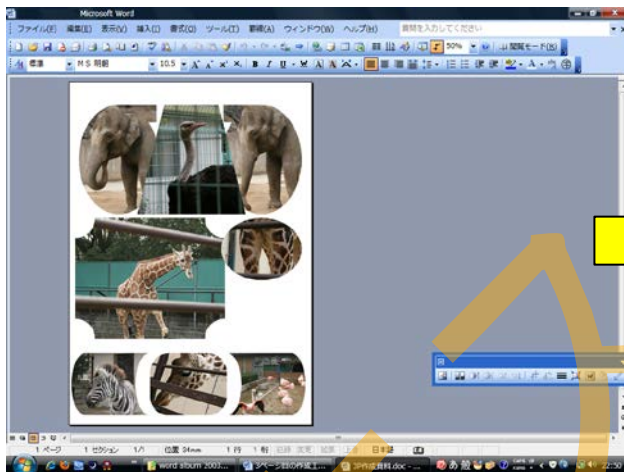
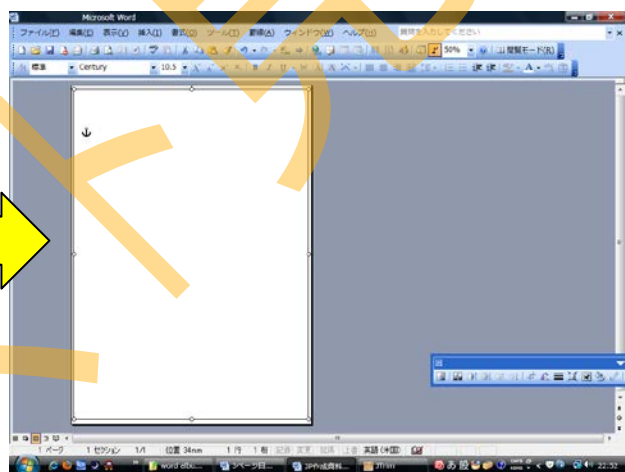
☆☆ここまでくれば、練習問題2で理解度を試して下さい☆☆

5.アルバムの装飾

これまでで、すべてのページに写真を挿入し終わりました。ここからはアルバムの背景に色をつけたり、コメントを挿入したりして、アルバムを装飾していきます。

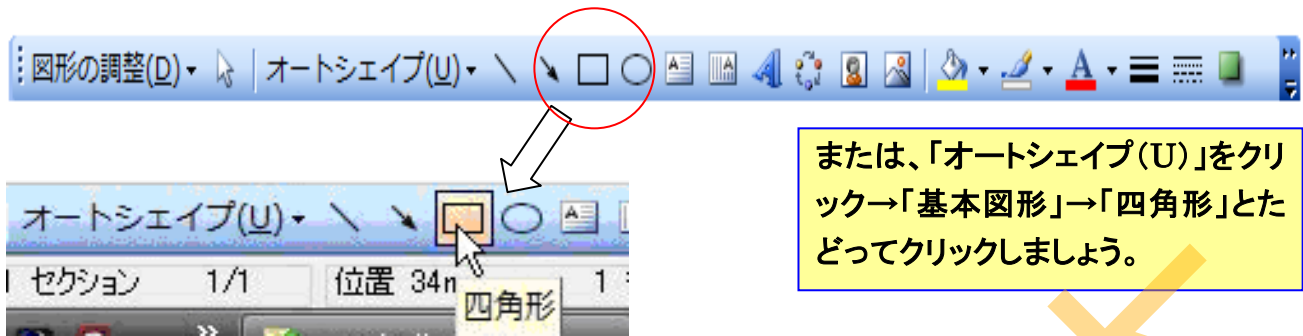
（１）アルバムの背景に色をつける

現在のアルバムの背景色は「白」です。
この背景に色を付けて、アルバムを引き立たせましょう。
①四角形を描く
アルバムの背景となる四角形を描いてみましょう。

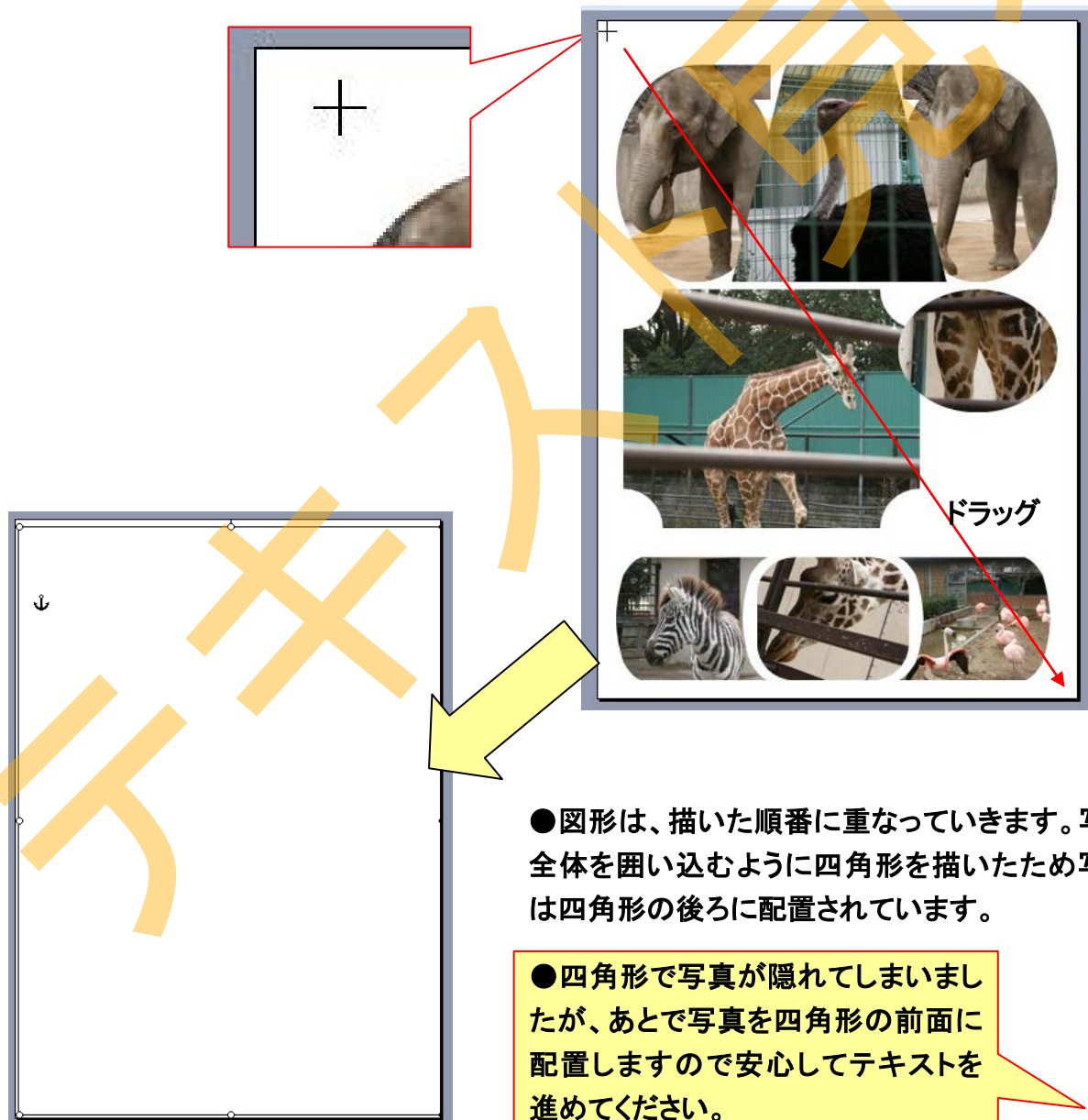
◆ 四角形を描く方法をマスターしましょう。

操作前の状態　操作後の状態

「アルバム動物園」を開き、3ページ目をスクロールして表示しましょう。

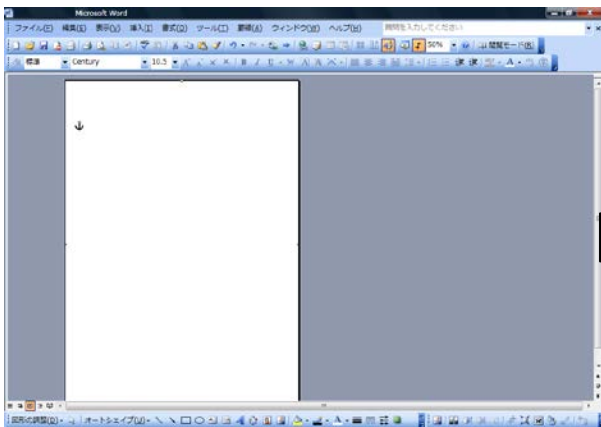
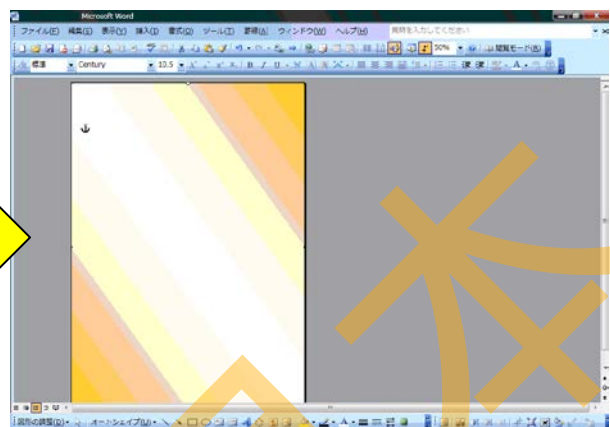
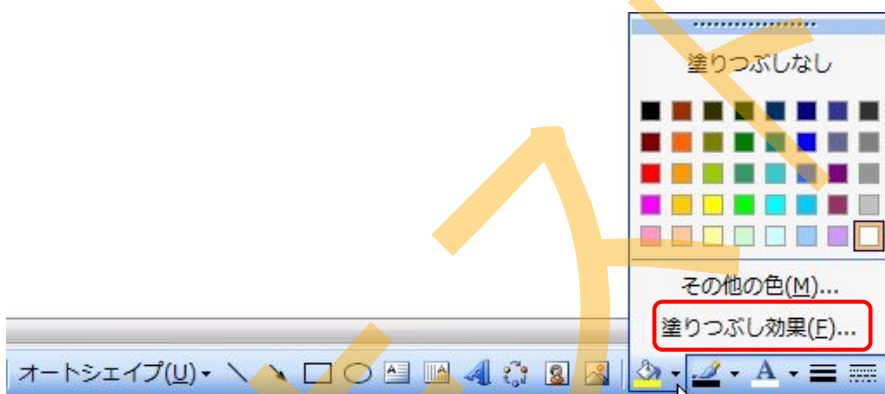
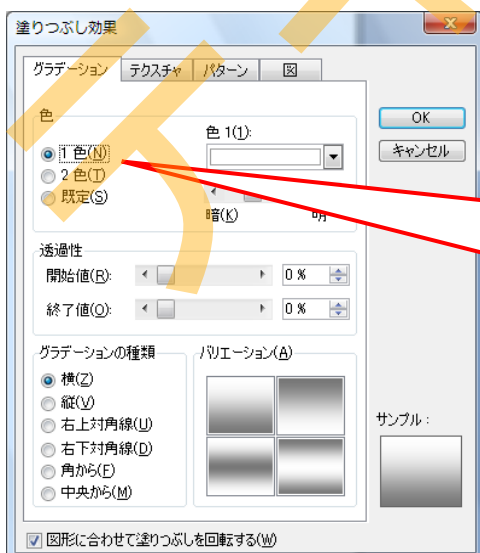
図形描画ツールバーの四角形をクリックします。

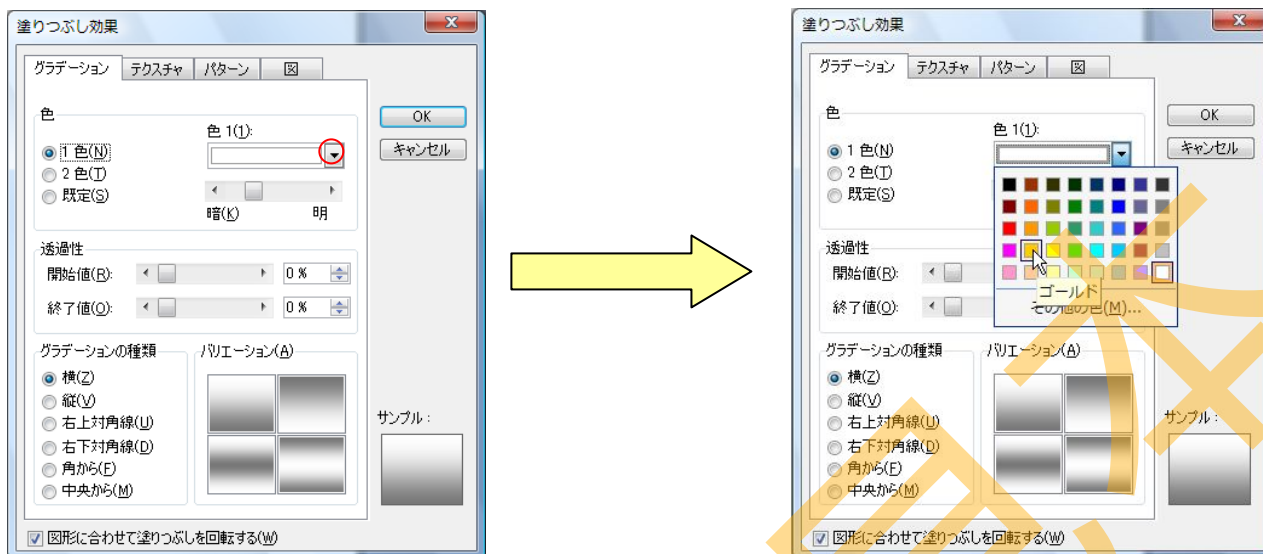
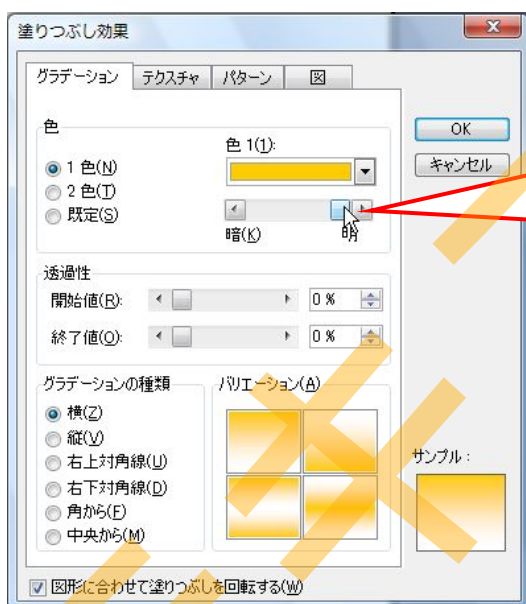
または、「オートシェイプ(U)」をクリック→「基本図形」→「四角形」とたどってクリックしましょう。

マウスポインタが十になっていることを確認して、
下の図を参考に右下方向へページ全体が隠れるようにドラッグします。

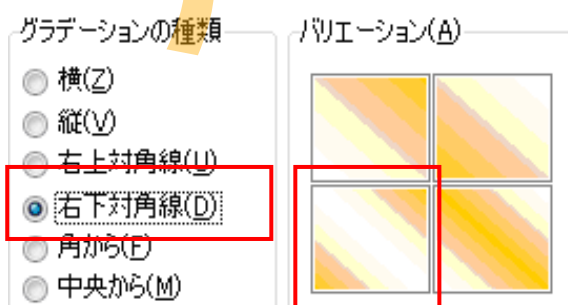
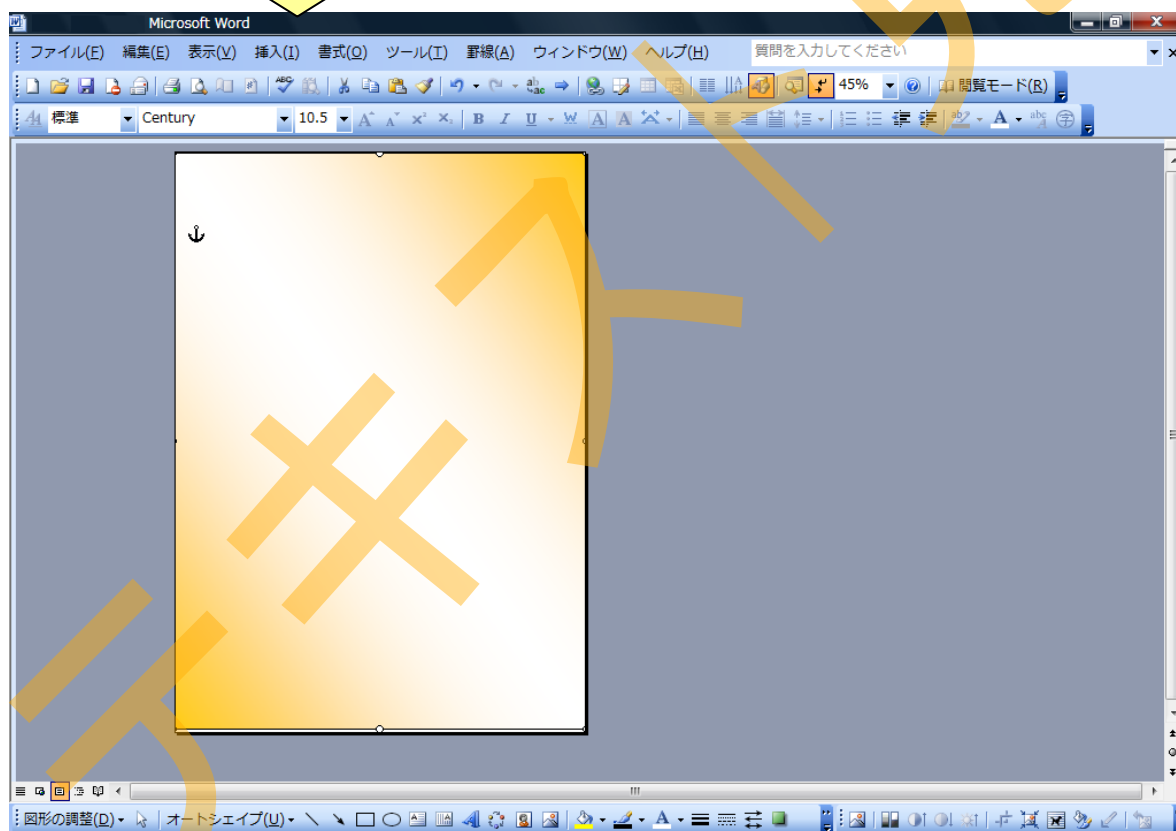
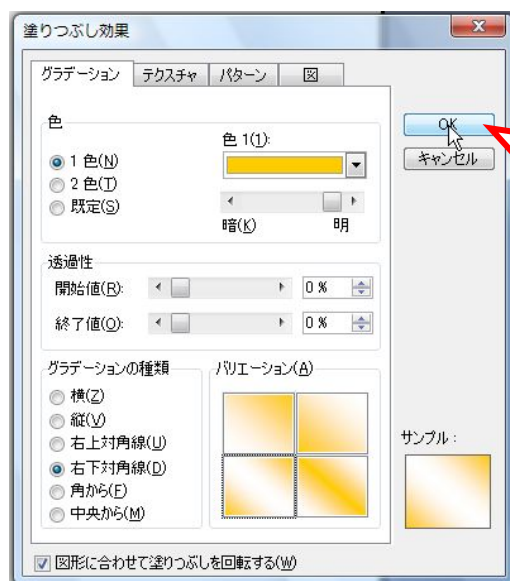
●図形は、描いた順番に重なっていきます。写真全体を囲い込むように四角形を描いたため写真は四角形の後ろに配置されています。

●四角形で写真が隠れてしまいましたが、あとで写真を四角形の前面に配置しますので安心してテキストを進めてください。

②四角形にグラデーションをかける

◆ 塗りつぶしのグラデーションを設定する方法をマスターしましょう。

操作前の状態 **操作後の状態**

四角形が選択されていることを確認して、
図形描画ツールバーの「塗りつぶしの色」の▼ボタンにポイントし、そのままクリックします。

「塗りつぶし効果(F)」にポイントし、そのままクリックします。

『塗りつぶし効果』のダイアログボックスが出てきますので色のところの「1 色」をクリックして選択します。

「色 1(1)」のボックスの▼ボタンにポイントし、そのままクリックします。
カラーパレットから、左から 2 列目、上から 4 番目の「ゴールド」にポイントして
そのままクリックします。

明るさのスライドバーを右方向にドラッグします。

●明るさの調整のボタンは、もう 1 色を黒くするか、白くするかのボタンです。一気に調整したい場合は中にあるスライダーを左右にドラッグします。
ここでは「暗」から「明」にドラッグすることで、もう 1 色を「白」に変更しています。

「グラデーションの種類」から「右下対角線(D)」のチェックボックスをクリックし、
「バリエーション(A)」で左下のバリエーションをクリックします。

「OK」ボタンをクリックします。

「OK」ボタンをクリックした時点で四角形の色がグラデーションに変更されます。

ご参考までに

■テクスチャ

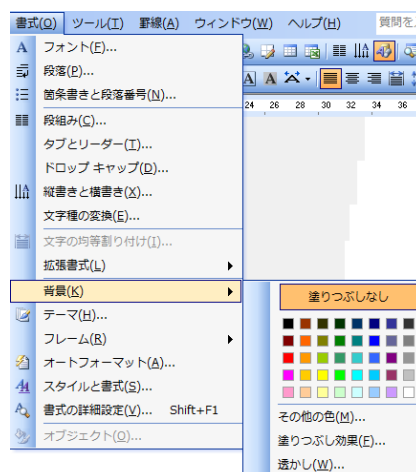
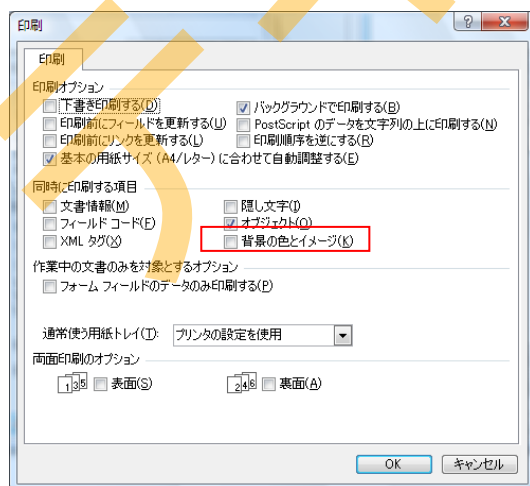
アルバムの背景として、グラデーション以外にもテクスチャと呼ばれるグラフィックスなどにおいて、図形につけられた模様や、質感を表すのに適した模様などが用意されています。

テクスチャを設定したい場合は、「図形描画」ツールバーの「塗りつぶしの色」の候補ボタン▼をクリックし、「塗りつぶし効果をクリックします。「塗りつぶし効果」ダイアログボックスからテクスチャのタブをクリックします。

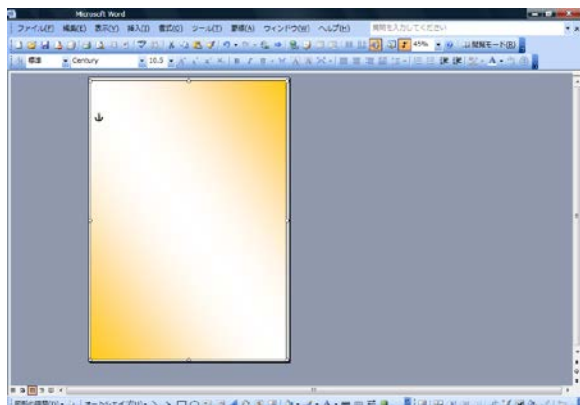
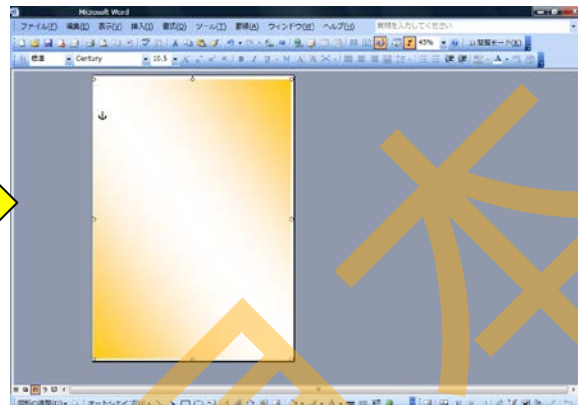
■アルバムの背景を単色（1 色）で設定する

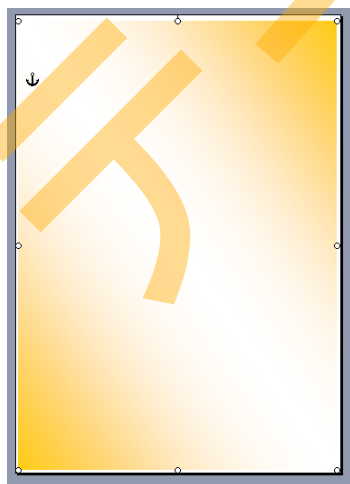
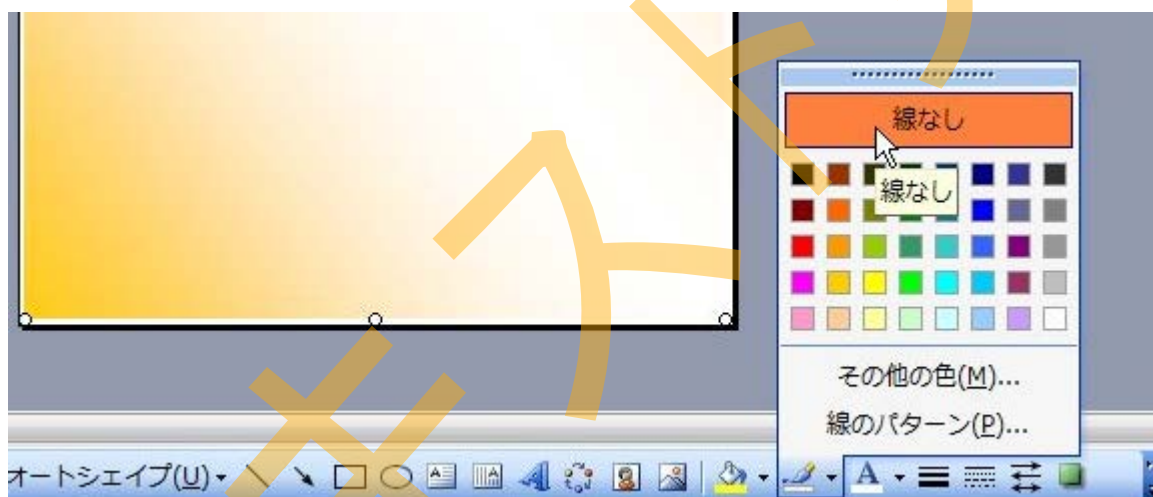
アルバムの背景を単色で設定する場合は、【ファイル】メニューの「書式（O）」から「背景（K）」からカラーパレットを表示させてから色を設定します。

この方法で背景色を設定する場合は四角形のオートシェイプを描く必要はありません。

また、この方法で背景を設定した場合、アルバムを印刷するときに「印刷」のオプションで、「同時に印刷する項目」の「背景の色とイメージ」にチェックを入れておく必要があります。

③四角形の線の色を非表示にする

四角形の線の色を非表示（線なし）に設定してみましょう。

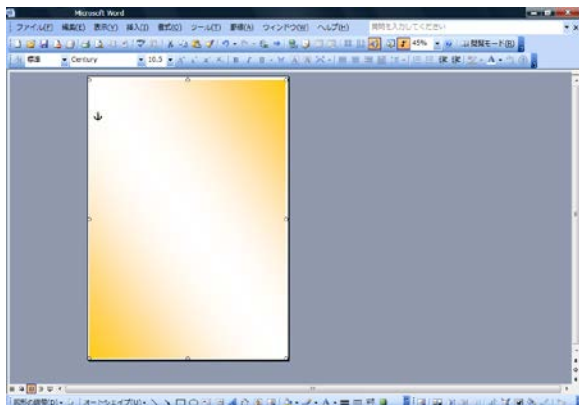
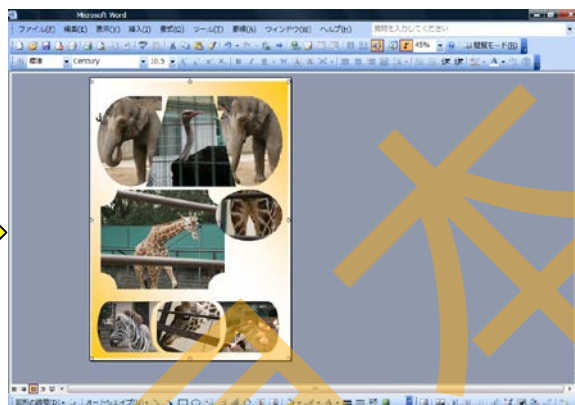
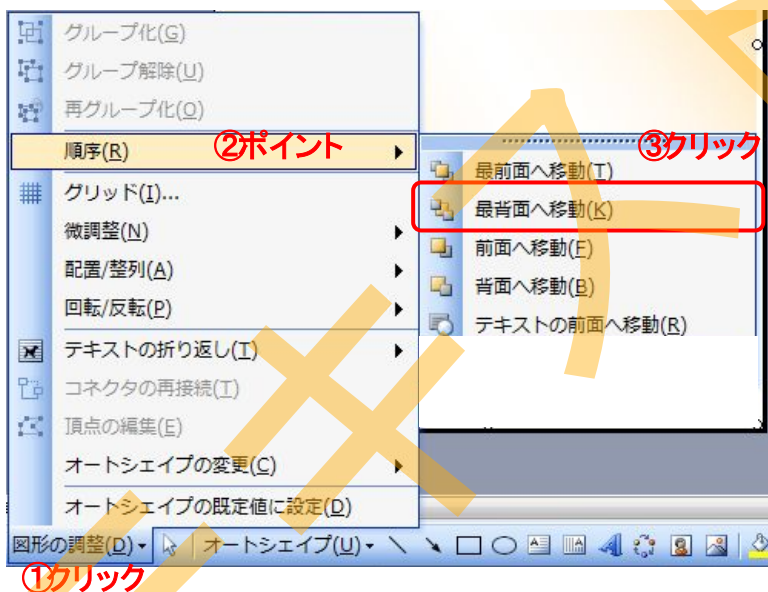
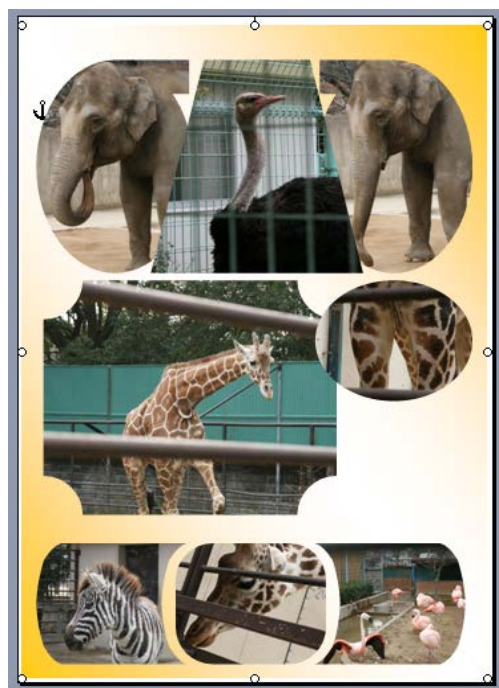
◆四角形の線の色を非表示（線なし）に設定する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

四角形をクリックして選択し、「図形描画」ツールバーの線の色の▼ボタンにポイントし、そのままクリックします。カラーパレットの一番上の「線なし」をクリックします。

●「線なし」をクリックした時点で四角形の枠線がなくなります。

④四角形を最背面に配置する

四角形が写真の背景になるように、最背面に配置してみましょう。

◆四角形を最背面に配置する方法をマスターしましょう。

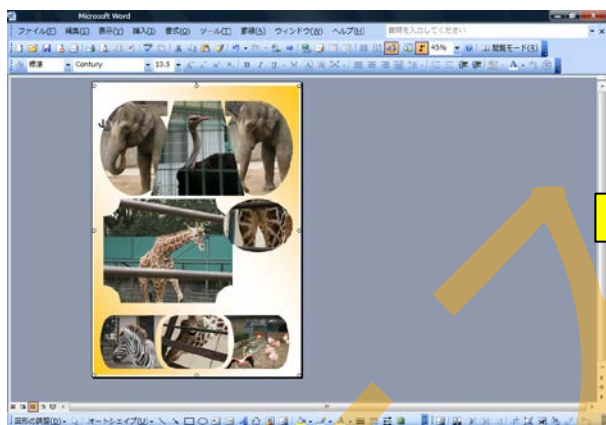
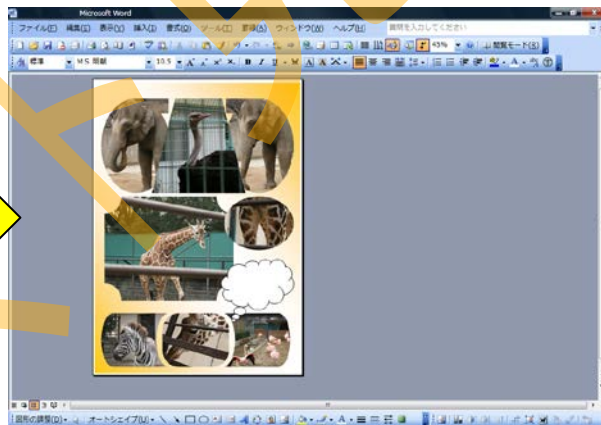
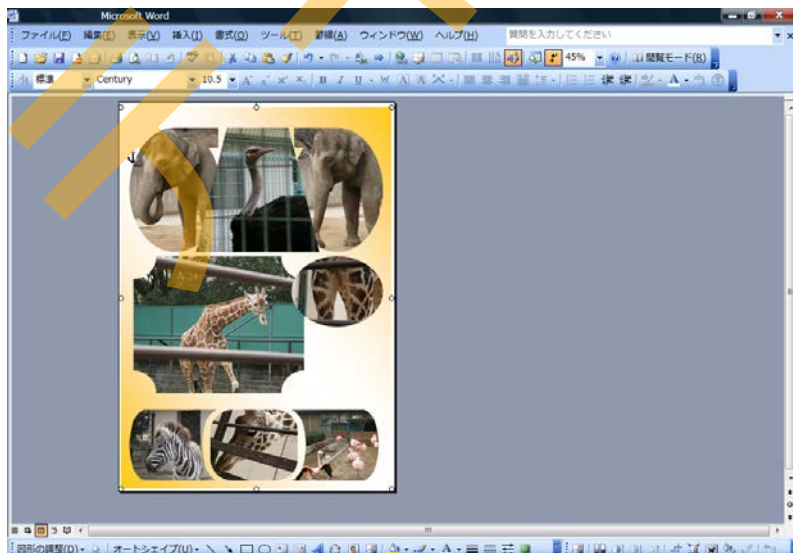
操作前の状態

操作後の状態

四角形が選択されていることを」確認し、「図形描画」ツールバーの「図形の調整（D）にポイントし、そのままクリックします。出てきたメニューから「順序」にポイントします。さらに出てきたメニューから「最背面に移動」にポイントし、クリックします。

●隠れていた写真が表示されました

同様にして表紙と2ページ目にもアルバムの背景を設定してください。

（２）コメントの挿入

よくサインペンやボールペンなどでアルバムの中に直接コメントを書かれているのを目にします。これでも十分美しいアルバムなのですが、ワードでアルバムを作成すると、パソコンでコメントを入力し、文字の大きさ、フォント（書体）、色など様々な書式を設定した状態で印刷することができます。
これもワードでアルバムを作成する大きな長所です。

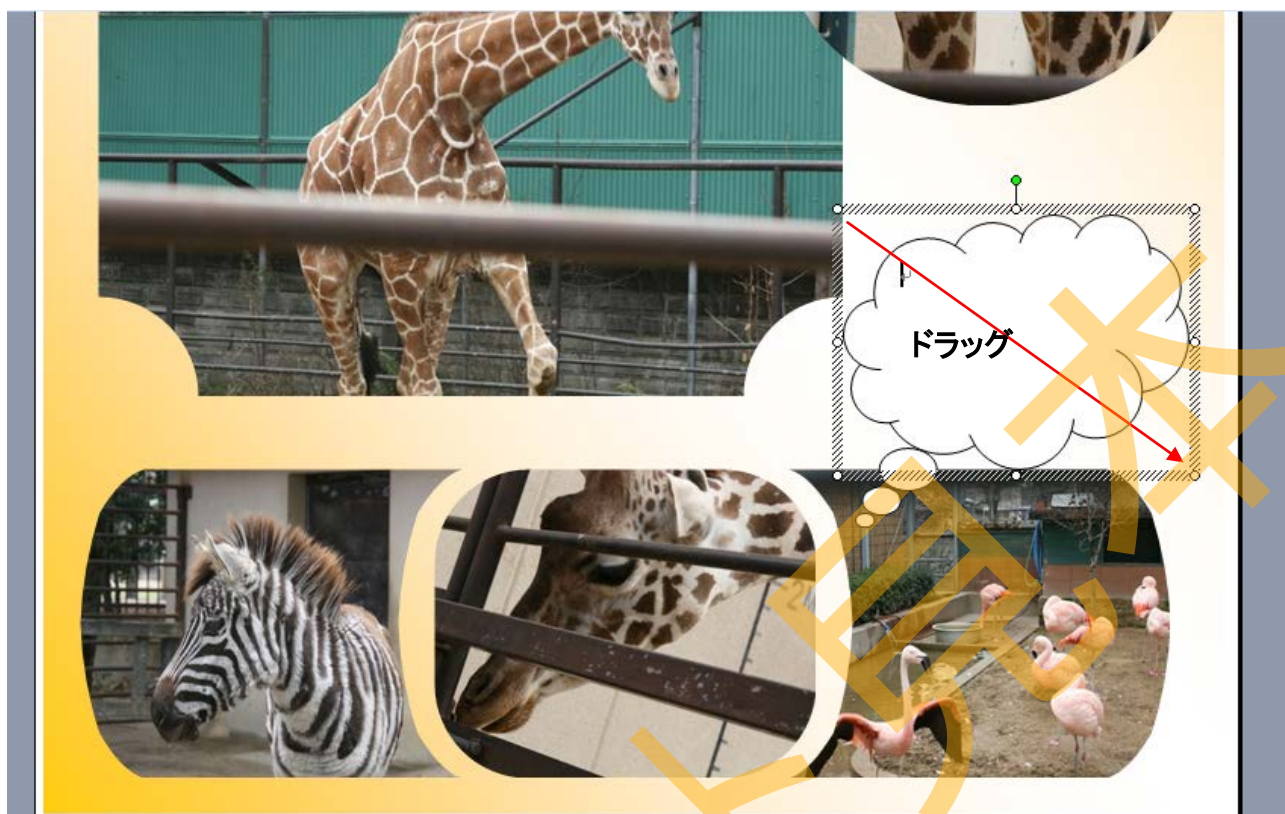
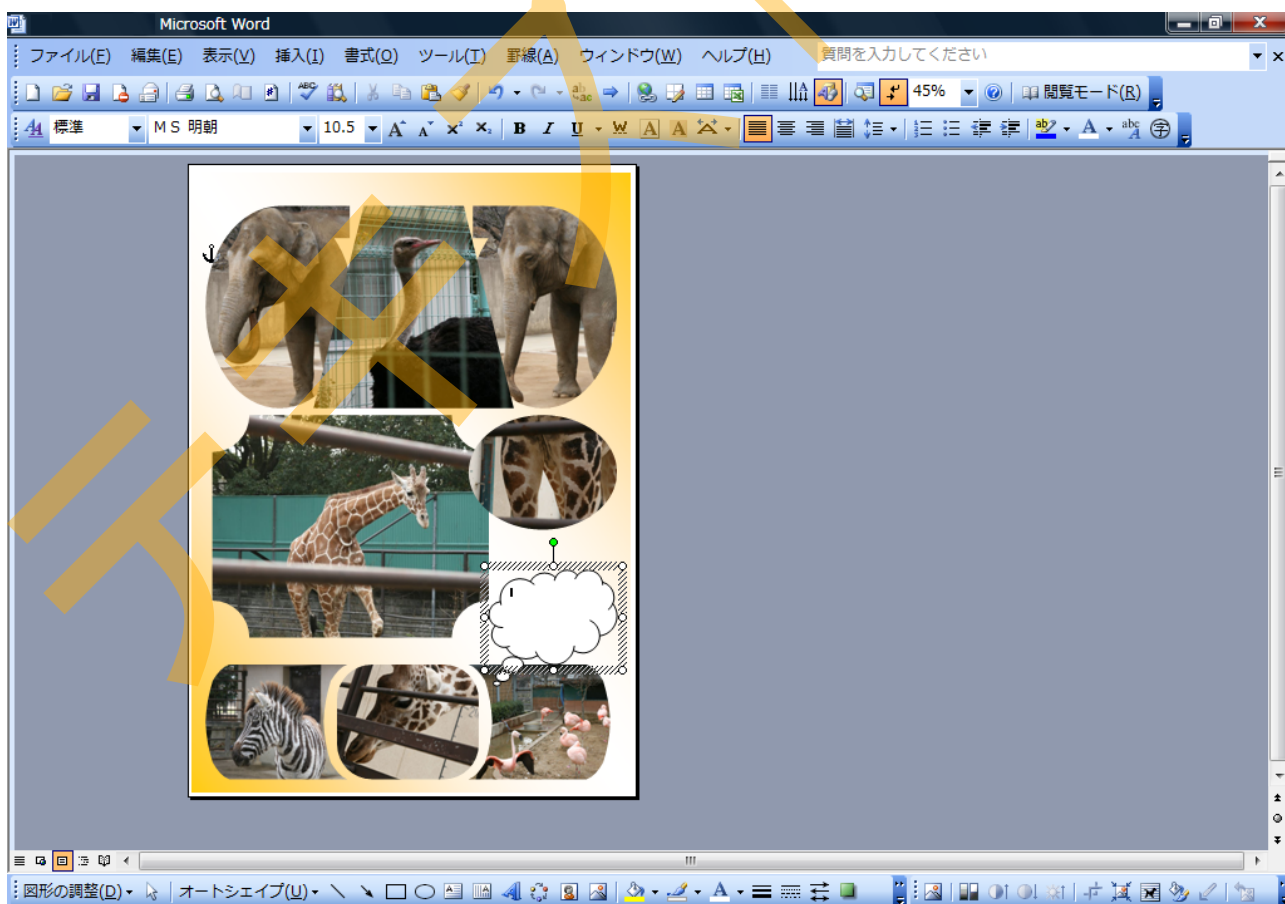
①吹き出しを描く

表紙には、ワードアートでタイトル、日付を挿入しましたが、ここでは 3 ページ目に図形の吹き出しを描き、コメントを挿入します。

◆吹き出しを描く方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　**操作後の状態**

コメントを挿入する 3 ページ目をスクロールして表示します。

「図形描画」ツールバーの「オートシェイプ(U)」にポイントし、
そのままクリックします。

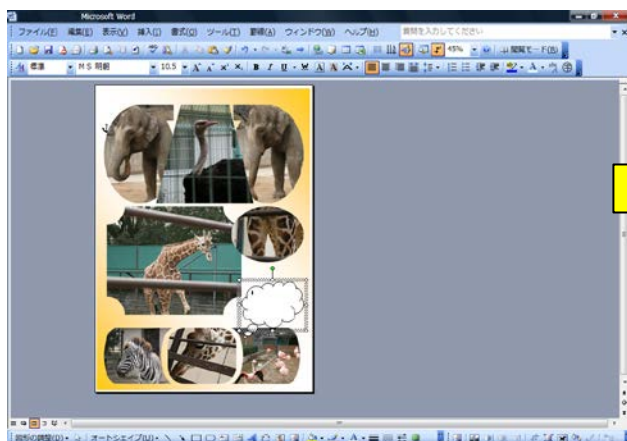
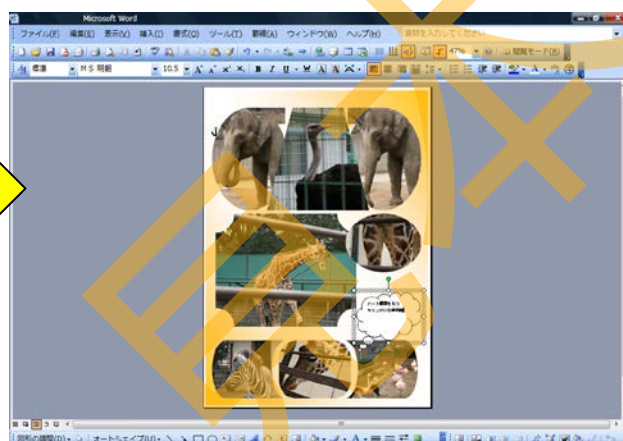
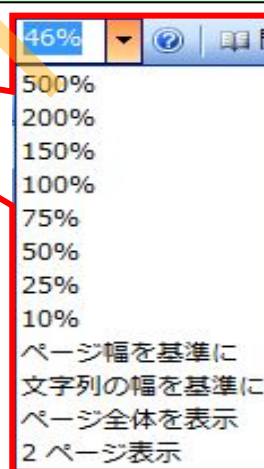
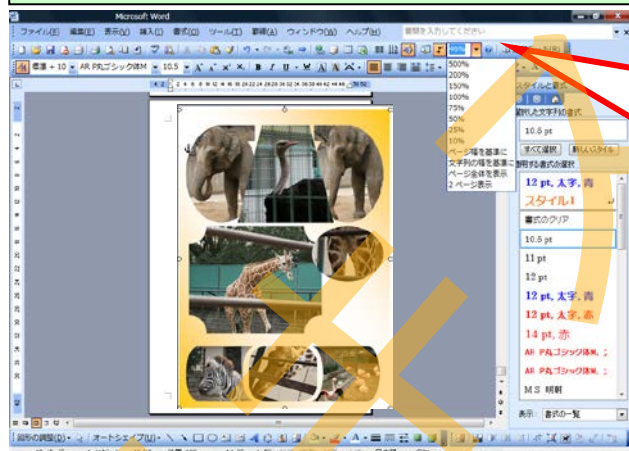
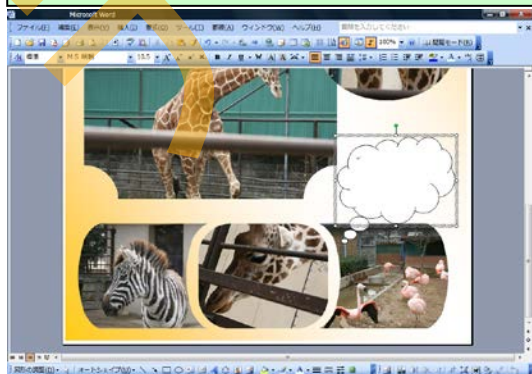
「吹き出し(C)」にポイントし、出てきた図形の選択画面から
「雲型吹き出し」をクリックします。

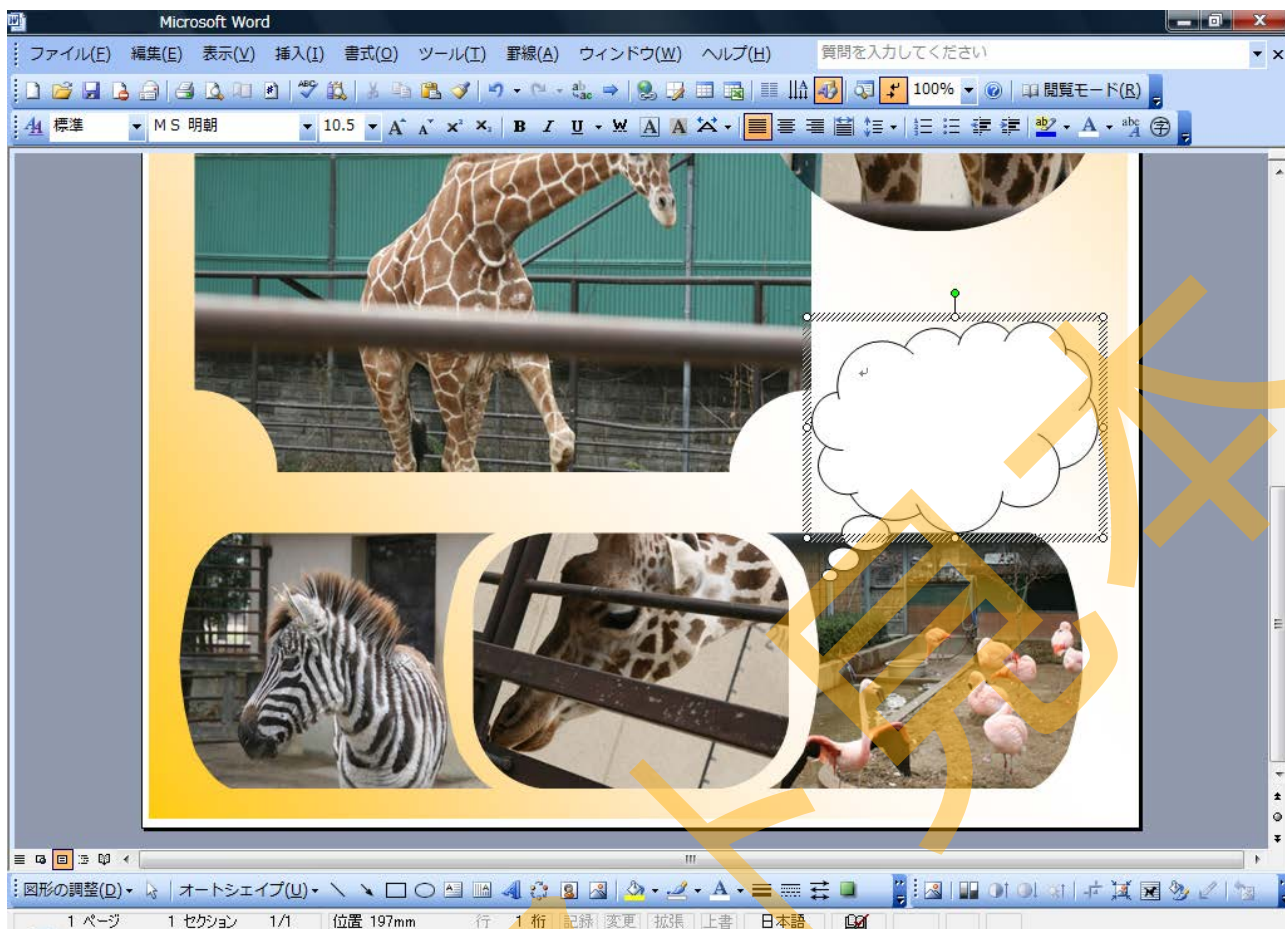
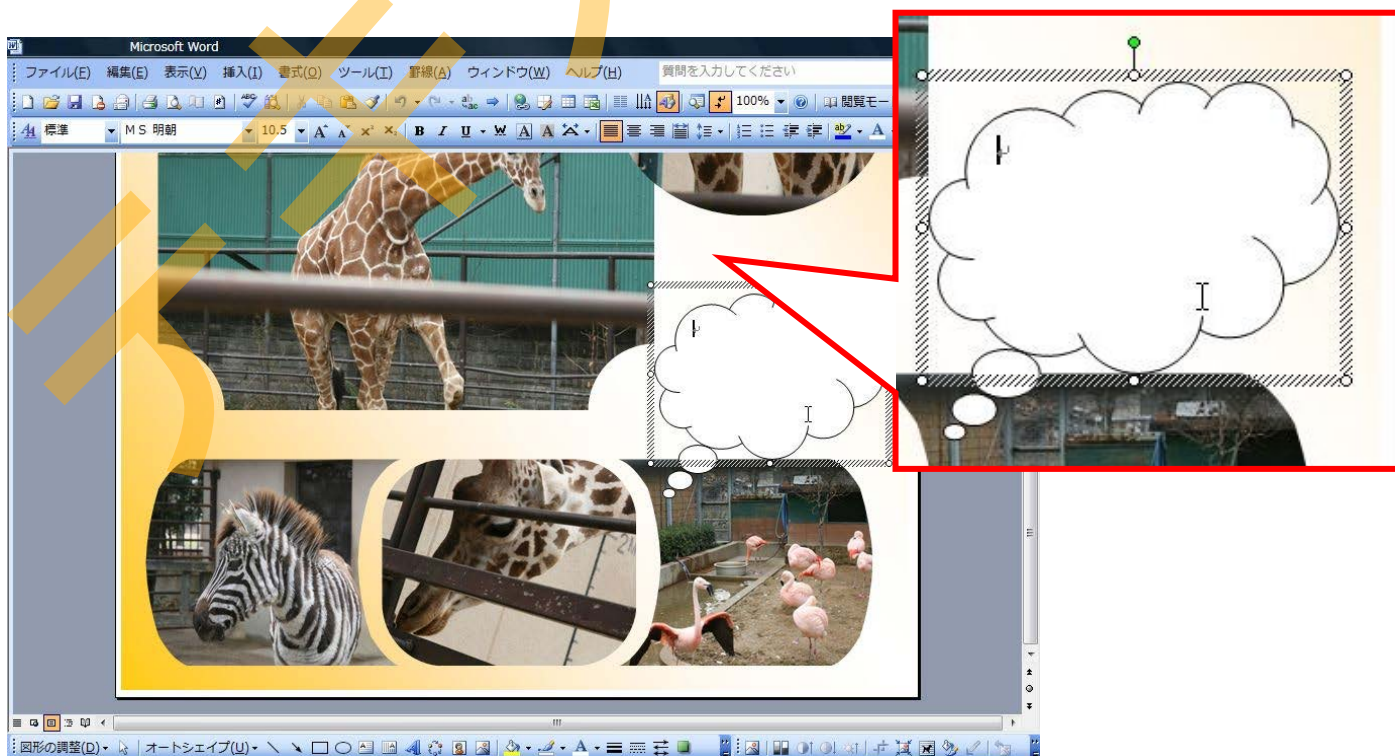
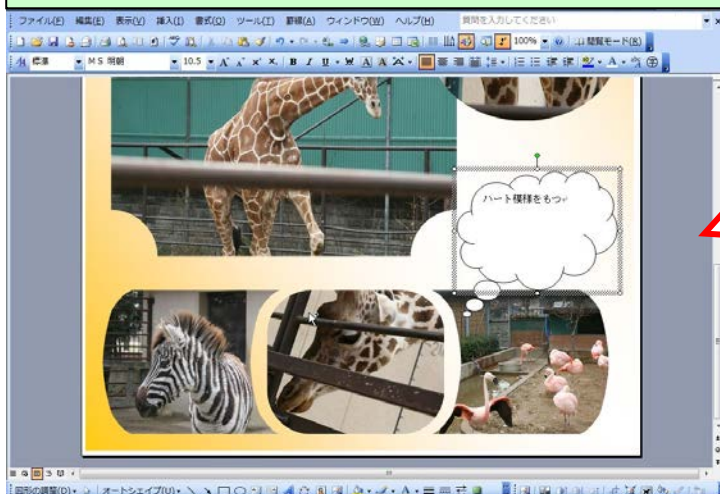
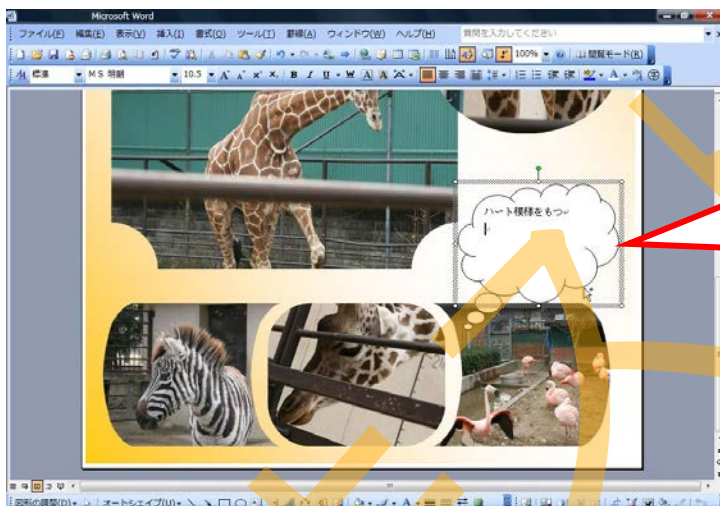
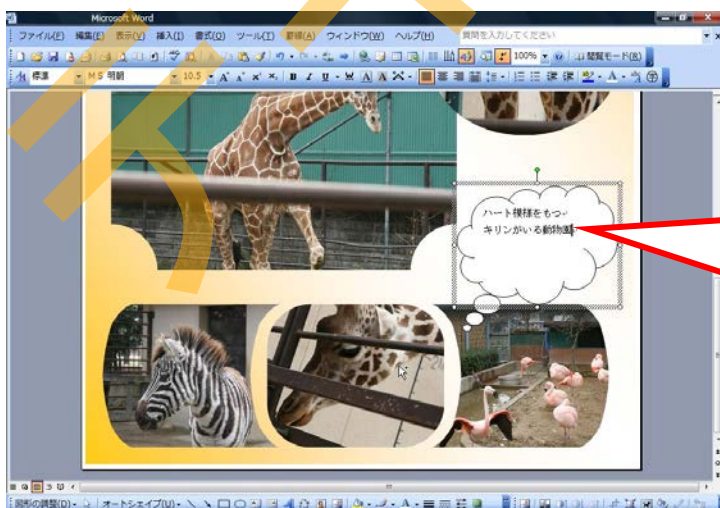
「雲型吹き出し」をクリックしてマウスポインタを用紙の中に移動すると
「十」の形に変わります。

マウスポインタが「十」になっていることを確認して、右下に向かってドラッグします。

●あとで雲型吹き出しを移動して配置を決めますので、ドラッグする位置は適当で結構です。

●マウスの左ボタンから指を離した時点で図形の大きさが決まります。

②吹き出しの中に文字を入力する

吹き出しが描けたところで文字を入力していきます。現在の表示のままでも文字は入力できますが、画面を縮小表示していますので、表示倍率を 100%～150%くらいにして見やすい表示に変更しましょう。

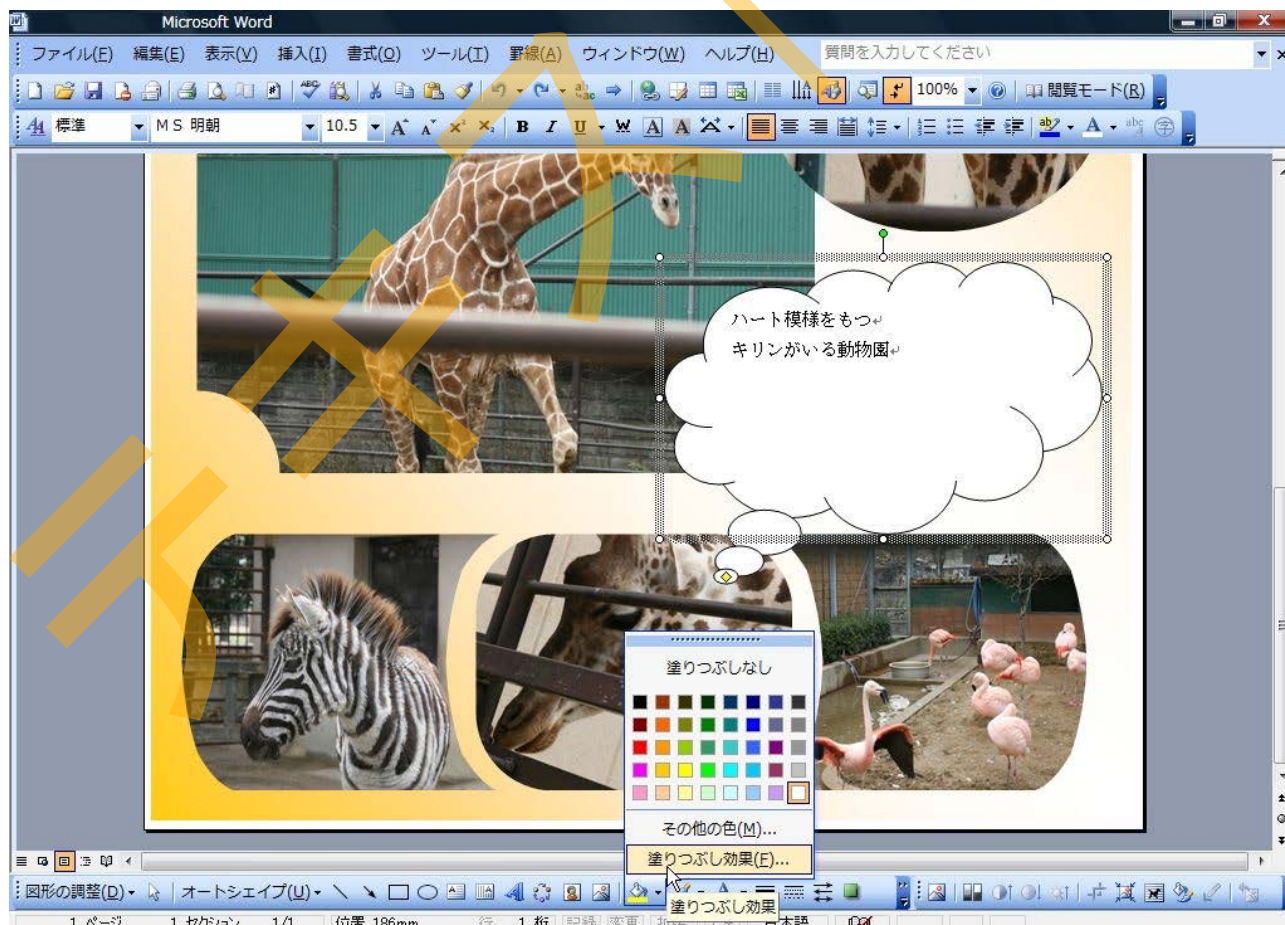
◆吹き出しに文字を入力する方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　　**操作後の状態**

「標準」ツールバーの「ズーム」のボタンの▼ボタンにポイントし、そのままクリックします。

ここでは 100%に設定してみましょう。「100%」の文字の上でクリックします。

●表示倍率が 100%に変更されたところで、文字を入力していきます。

吹き出しが見える位置まで画面をスクロールします。

吹き出しの中にカーソルが表示されていることを確認します。
カーソルが出ていなければ雲型吹き出しの中にマウスを移動してクリックします。

「ハート模様をもつ」と入力します。

「ハート模様をもつ」の「つ」の後ろにカーソルがあることを確認して
【Enter】キーを押して改行します。

「キリンがいる動物園」と入力します。

③吹き出しにスタイルを適用する

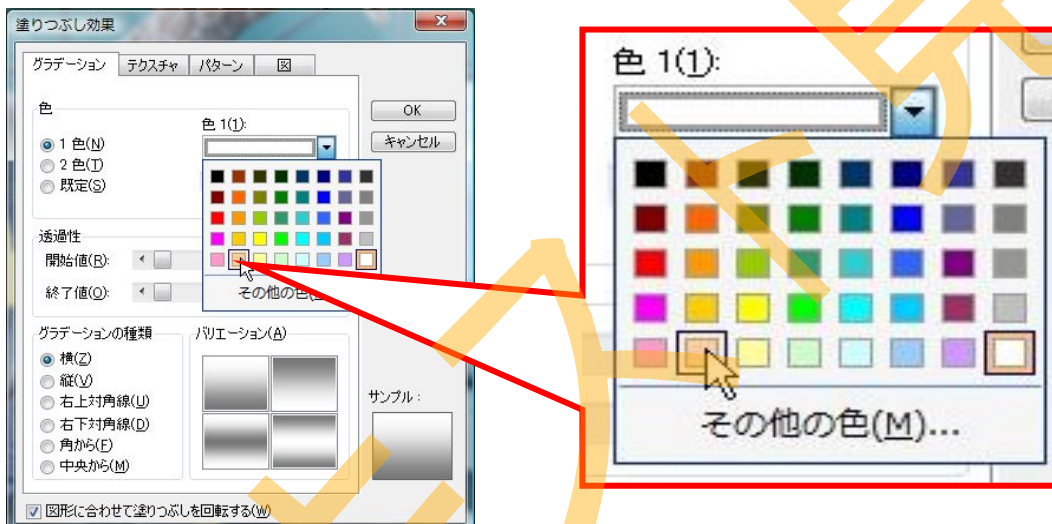
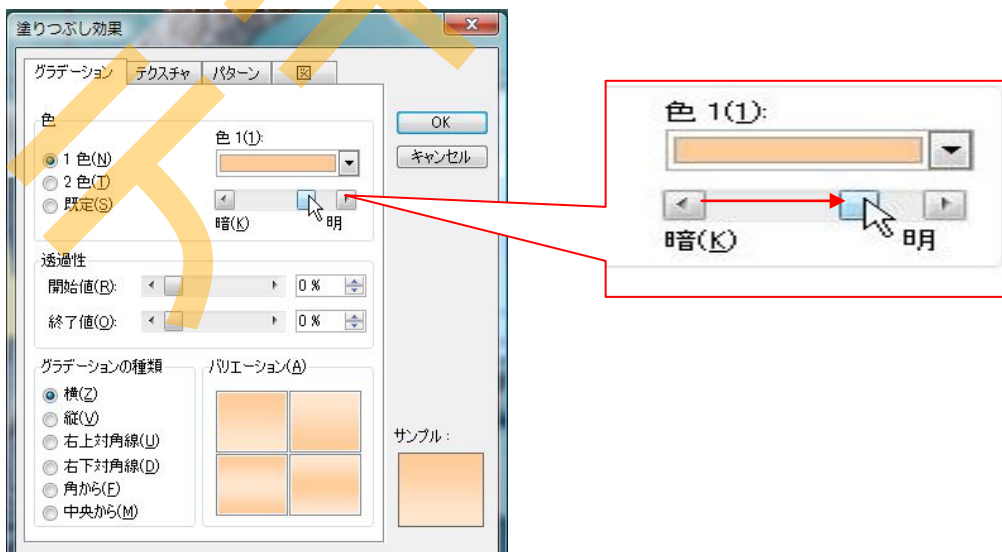
吹き出しに、ワードに組み込まれているスタイルを設定します。
ワードに組み込まれているスタイルを設定すると、線の色や塗りつぶしの色を一度に設定することができます。

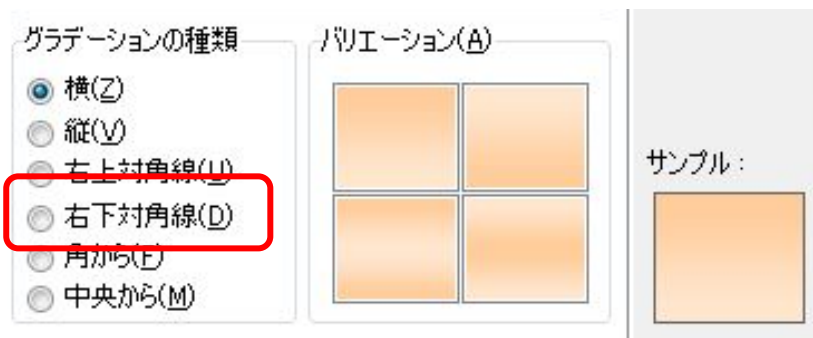
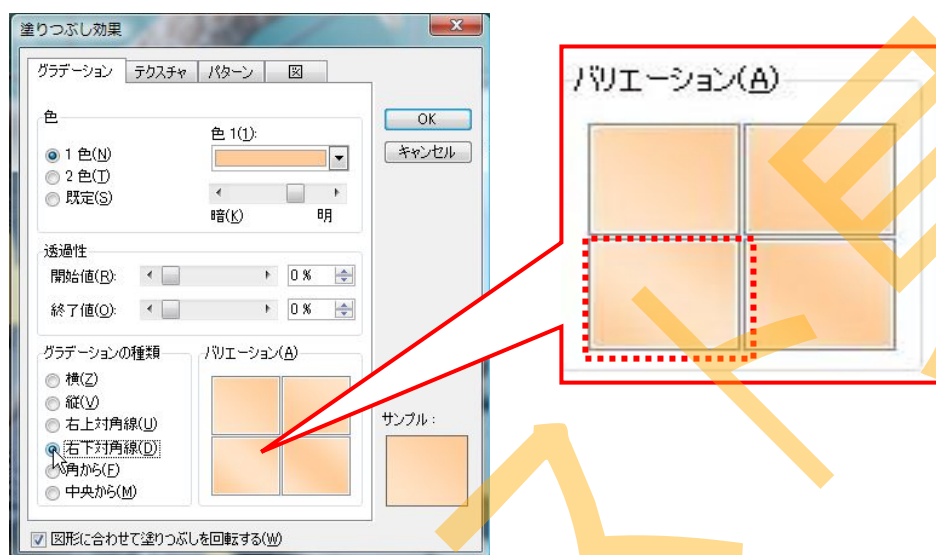
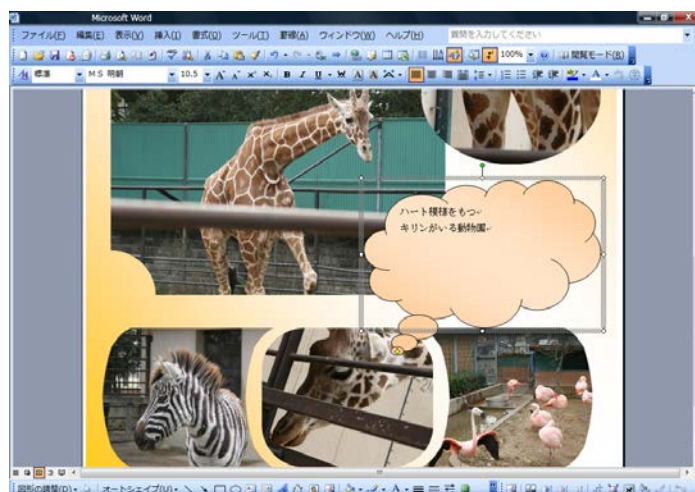
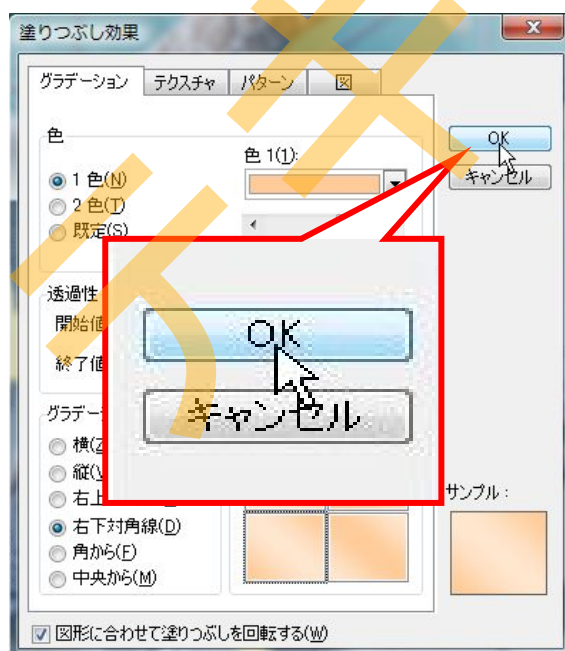
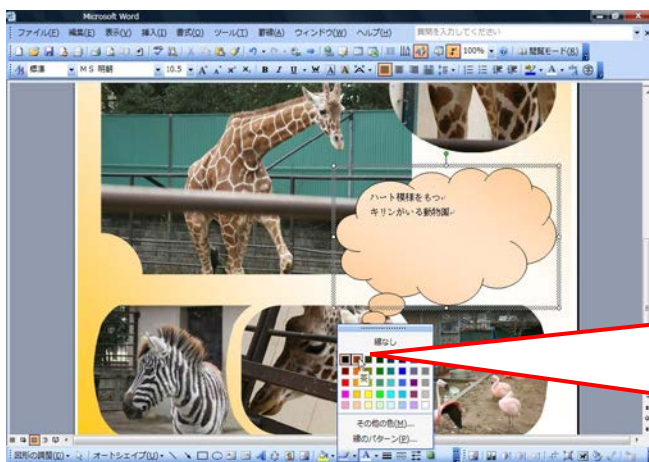
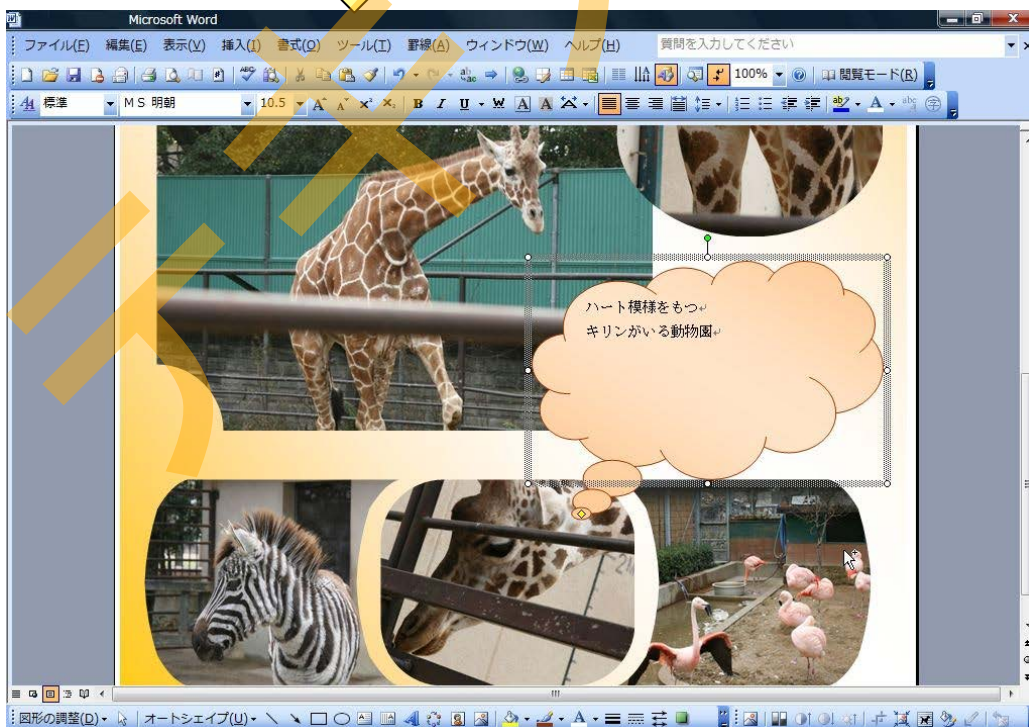
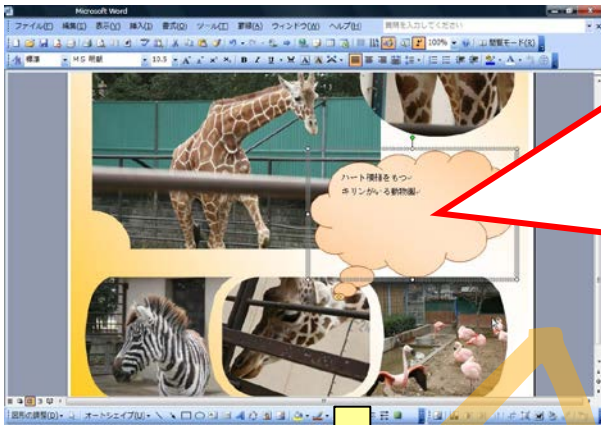
◆図形にスタイルを設定する方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　操作後の状態

吹き出しが選択されていることを確認したら、図形描画ツールバーの「塗りつぶしの色」の横の▼にポイントし、そのままクリックします。

「塗りつぶし効果(E)」にポイントし、そのままクリックします。

グラデーションタブが選択されていることを確認したら、色のところの「1色（N）の横の ◯をクリックします。文字の腕も OK です。

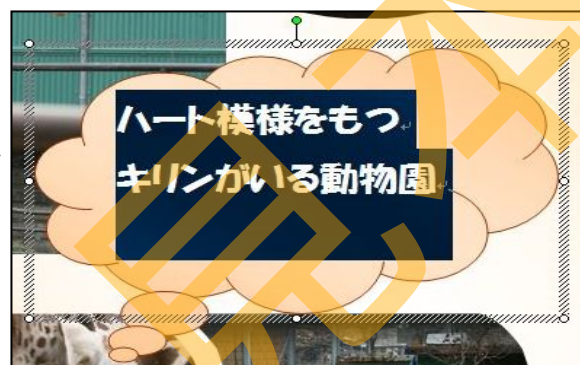
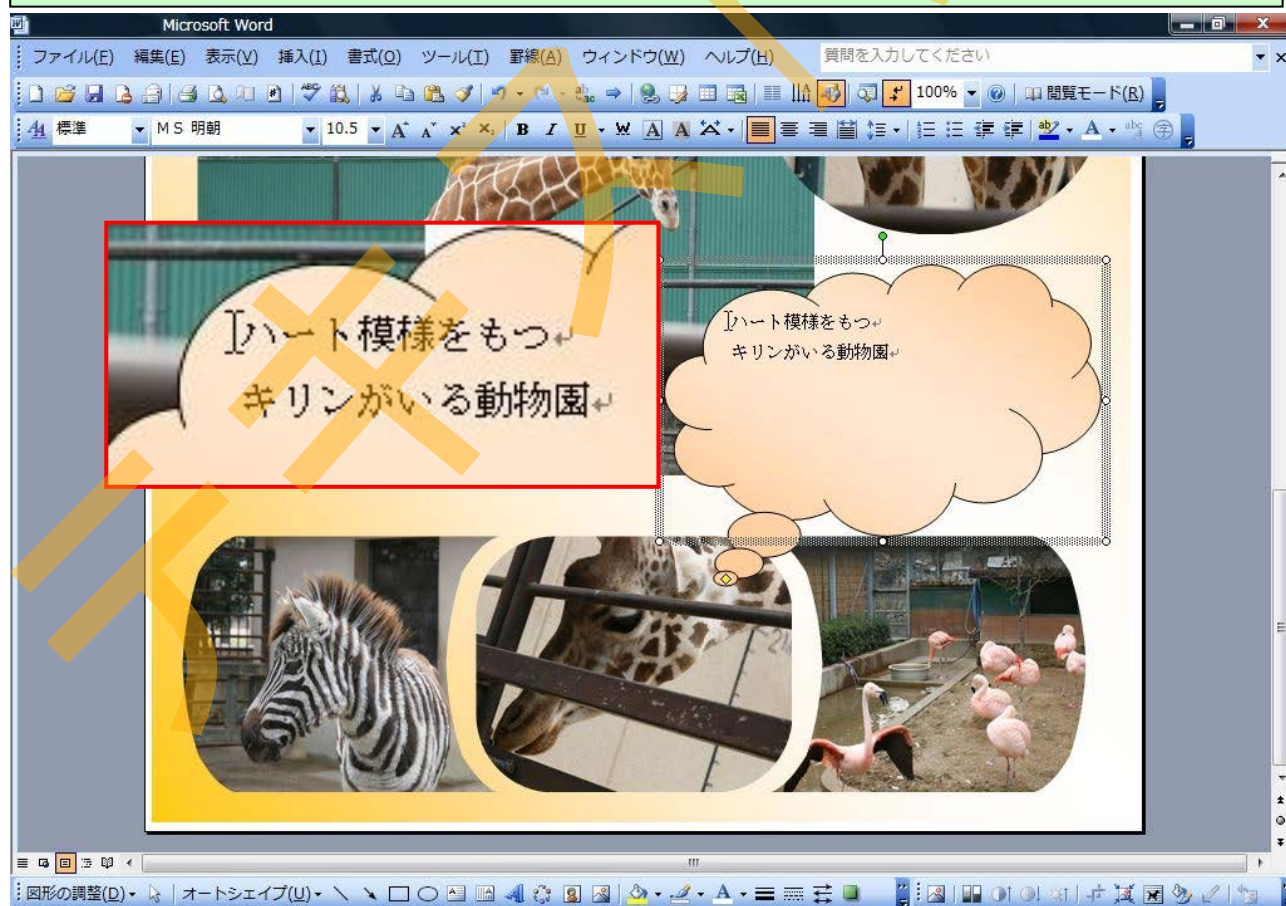
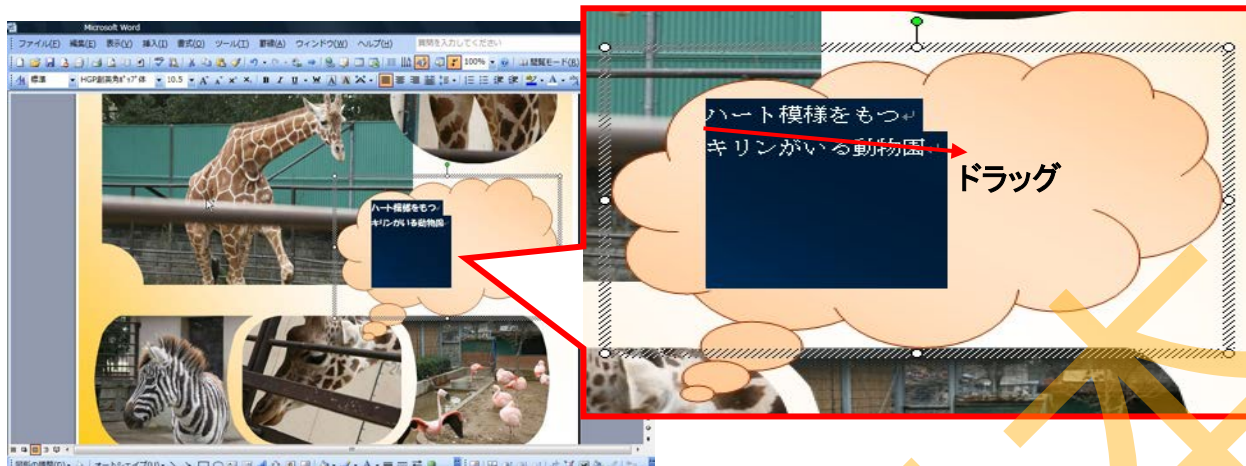
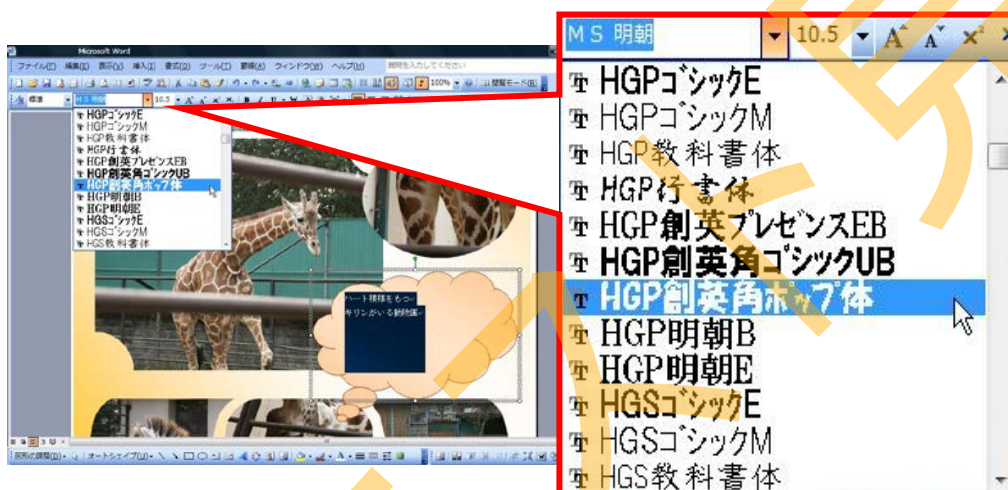
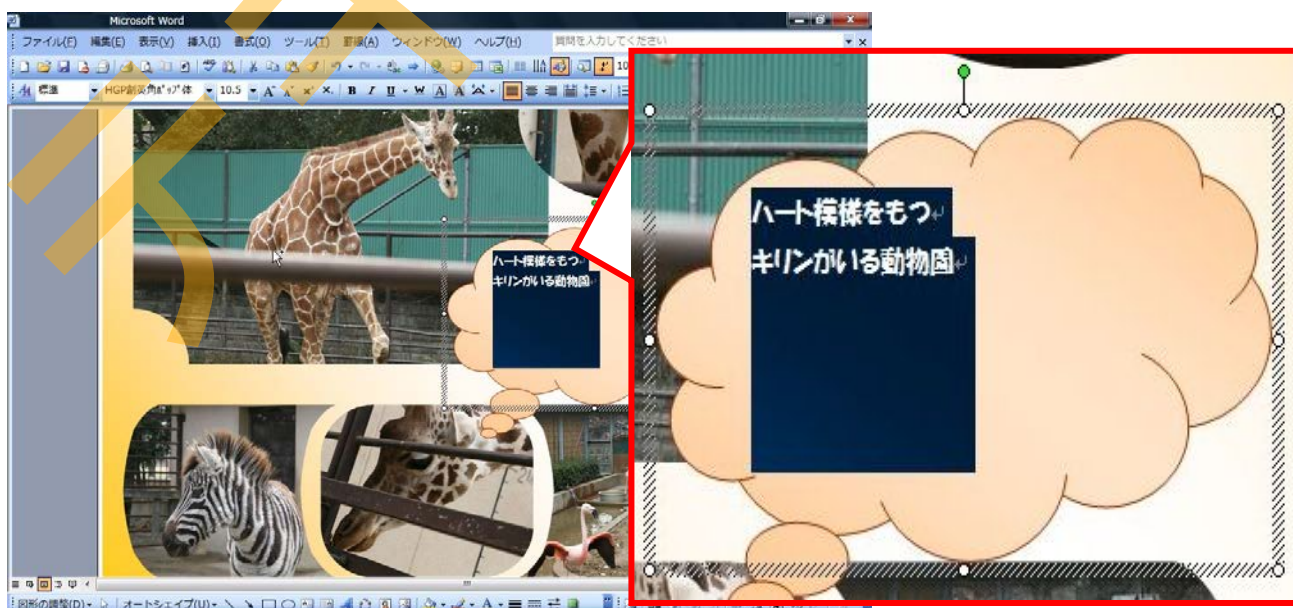
「色 1(1)」の横の▼ボタンをクリックしてカラーパレットを出します。

左から2列目、上から5番目の「ベージュ」を選択してクリックします。

明るさの調整の「暗（K）～明」のスライダーを右から3分の 1 くらいまでドラッグします

グラデーションの種類のところの「右下対角線(D)」をクリックします。

バリエーション(A)の左下をクリックしてサンプルを確認します。

「OK」ボタンをクリックします。

雲型吹き出しが選択されていることを確認したら、図形描画ツールバーの「線の色」の横の▼ボタンをクリックして、出てきたカラーパレットから左から2列目、一番上の茶色を選択します。

●色をクリックした時点で図形の周りの線の色が設定されます。

④入力した文字への書式設定

ここでは、吹き出しの中に入力した文字に対して、以下の書式を設定します。
文字の書体　　HGP創英角ポップ体
文字の大きさ　20pt

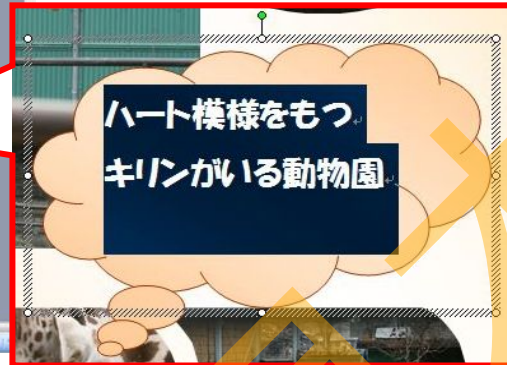
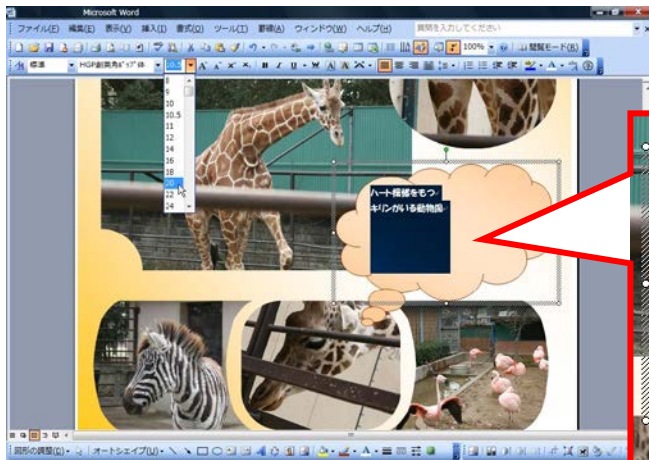
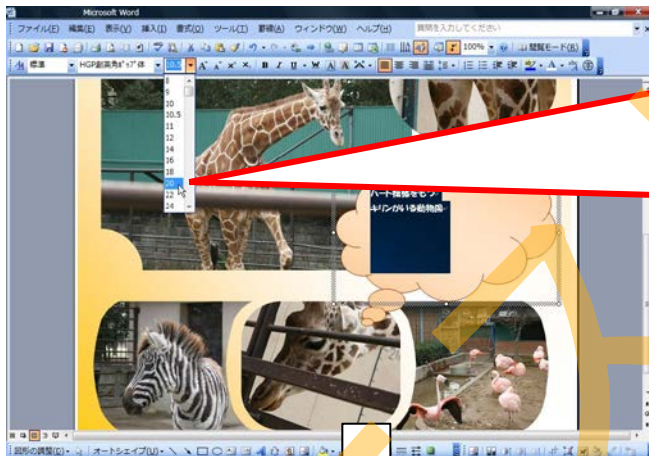
◆入力した文字に書式を設定する方法をマスターしましょう。

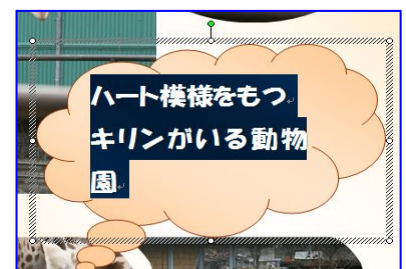
操作前の状態

操作後の状態

吹き出しの中に入力した「ハート模様をもつ」の「ハ」の左側にポイントします。

マウスポインタが I の状態で「キリンがいる動物園」の「園」の後ろまでドラッグして入力した文字をすべて選択します。

【書式設定】ツールバーの「フォント」ボックスの▼にポイントし、そのままクリックします。

表示されたフォントの一覧から「HGP創英角ポップ体」をクリックします。

続けてフォントサイズ（文字の大きさ）を変更します。

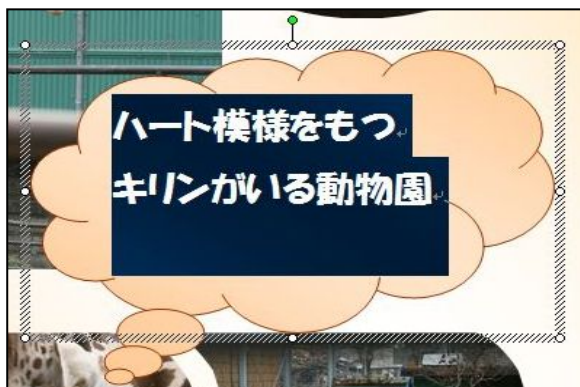
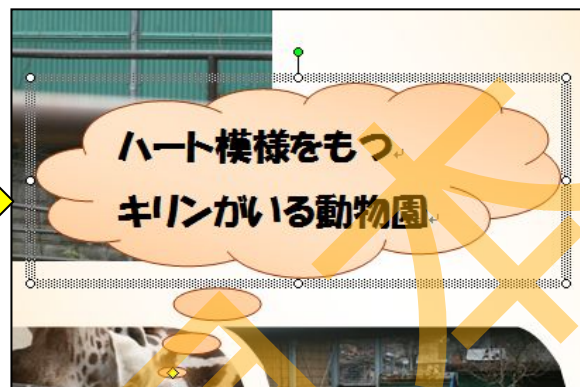
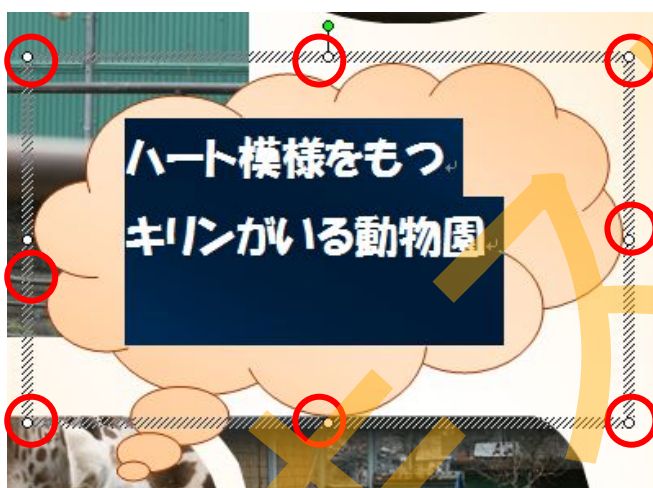
【書式設定】ツールバーの「フォントサイズ」ボックスの▼をクリックします。

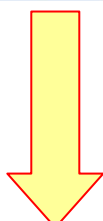
注意！

●吹き出しに入力した文字が黒く反転された状態（選択した状態）で操作しましょ

表示されたフォントサイズの一覧から「20」をクリックします。

注意！

フォントのサイズを「20」に変更したときに下の図のように吹き出しの文字のサイズが収まりきらなくなるかもしれません。次の工程で吹き出しのサイズを調整していきますので、そのまま操作してください。

⑤吹き出しのサイズ変更

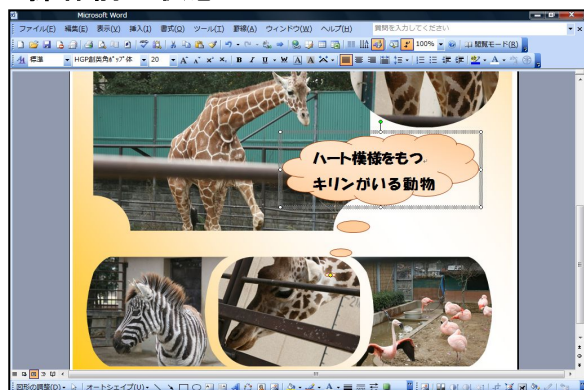
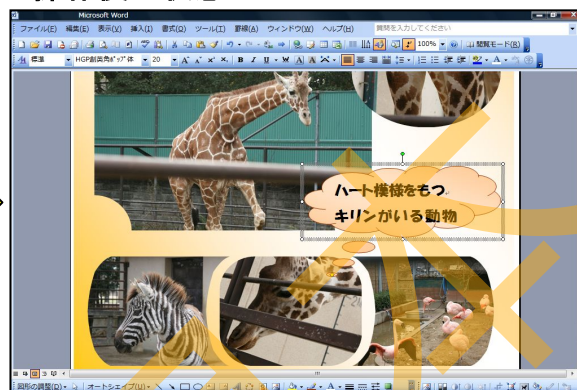
文字の書体、大きさを変更したところで、吹き出しのサイズを調整しましょう。

◆吹き出しのサイズを変更する方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　　　　　　　　　操作後の状態

吹き出しの周りにサイズ調整ハンドルが表示されていることを確認します。

吹き出しの右下のサイズ調整ハンドルにポイントし、マウスポインタが　に変わったことを確認します。

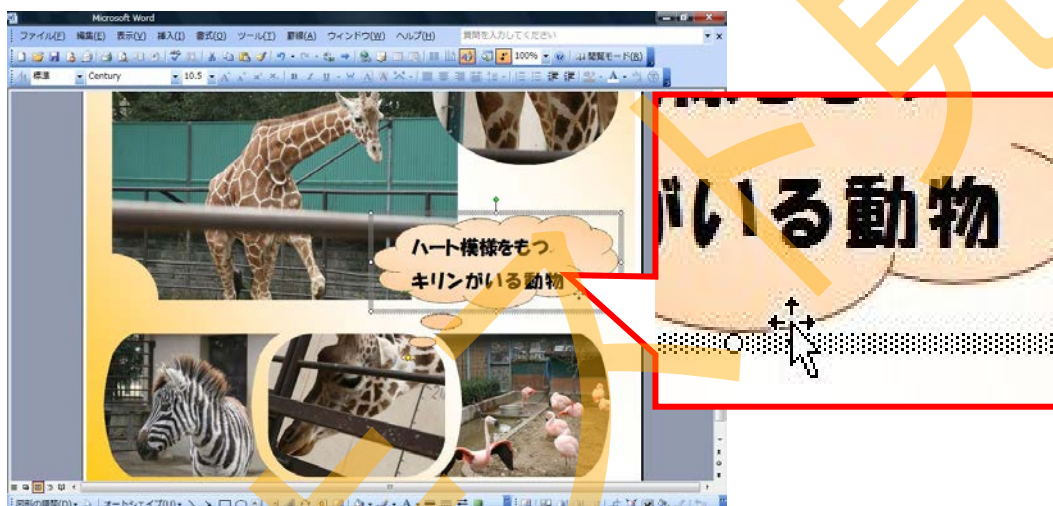
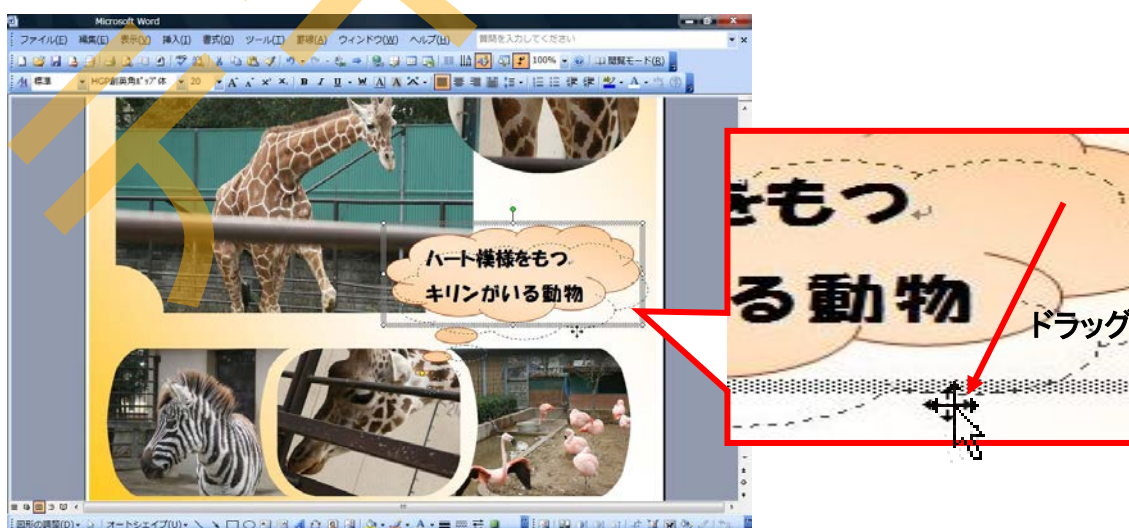
そのまま左上に向かってドラッグします。

皆さんが描かれた吹き出しのサイズによってドラッグする方向が違います。吹き出しのサイズに文字が収まっていない方はサイズ調整ハンドルで調整してください。

⑥吹き出しの移動

吹き出しのサイズが決定したところで、吹き出しを移動して配置を決定します。

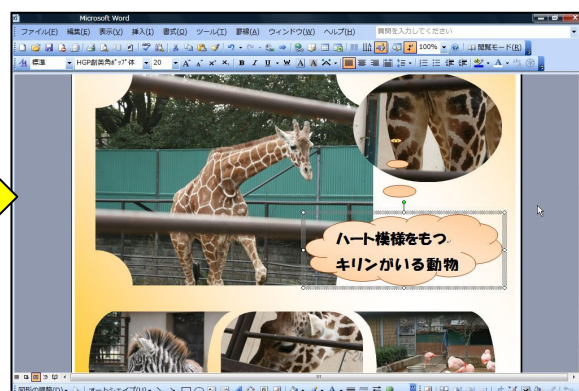
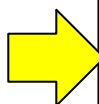
◆吹き出しのサイズを変更する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

吹き出しの周りの枠線にポイントします。

左下方向に向かってドラッグします。

⑦吹き出しの変形

吹き出しの配置が決まったところで、吹き出しの変形ハンドルを使って下の操作後の状態のように吹き出しの先を目的の写真にかぶせます・

◆吹き出しを変形する方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　　　　　　　　　　操作後の状態

吹き出しの先に表示されている◇(変形ハンドル)にポイントし、マウスポインタが に変わったことを確認します。

注意！

●変形ハンドルが表示されていない方は吹き出しの先端をクリックして変形ハンドルを表示させます。

下の図を参考に変形ハンドル◇を
楕円の図形の「キリン」の足のハートの模様あたりにドラッグします。

ここまできたら、上書き保存をしておきましょう。

6. 印刷

ここからは作成したアルバムの印刷を行います。

(1)写真を印刷するのに適した用紙

作成したアルバムを印刷する場合には、光沢紙(写真用紙)を使用することをお勧めします。光沢紙とは表面に光沢を持つ紙で、家庭用のプリンタ(インクジェットプリンタ)で写真を印刷する場合、普通の用紙(コピー用紙)に比べてインクのにじみが少なく、鮮やかな発色が得られます。

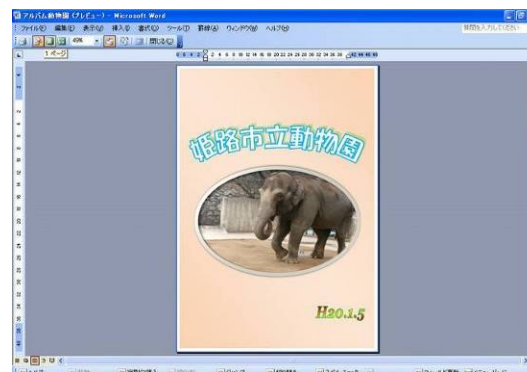
(2)印刷イメージの確認

印刷を実行する前にどのように印刷されるのかを確認します。印刷イメージを確認せずに印刷してしまうと、あとから全体的なイメージがおかしいことに気付くことがあります。印刷する際は、必ず「印刷イメージの確認」を行ってから印刷操作を行いましょう。

① 印刷プレビューの表示

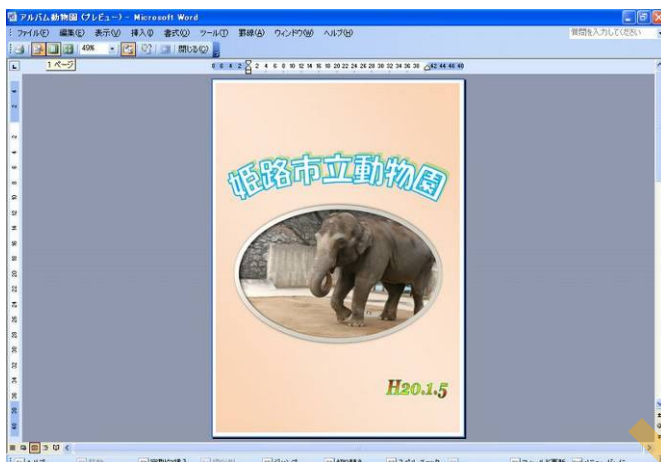
印刷イメージの確認は印刷プレビューで行います。

◆印刷プレビューを表示する方法をマスターしましょう。

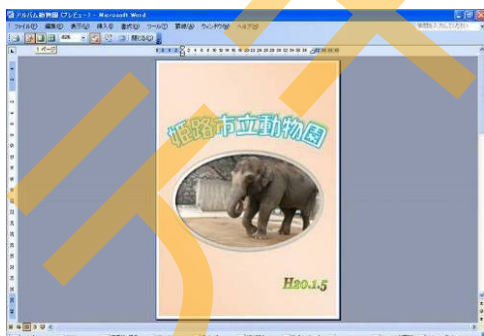
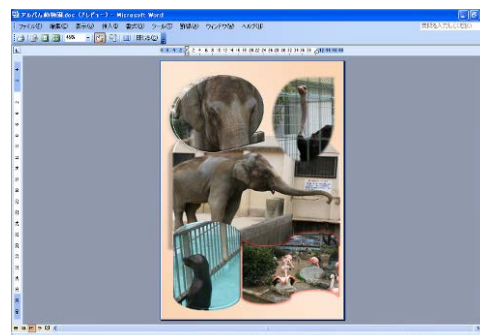
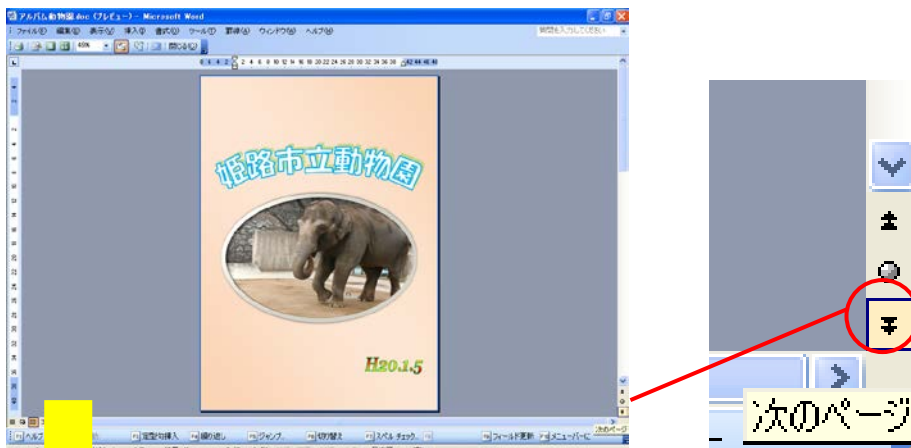
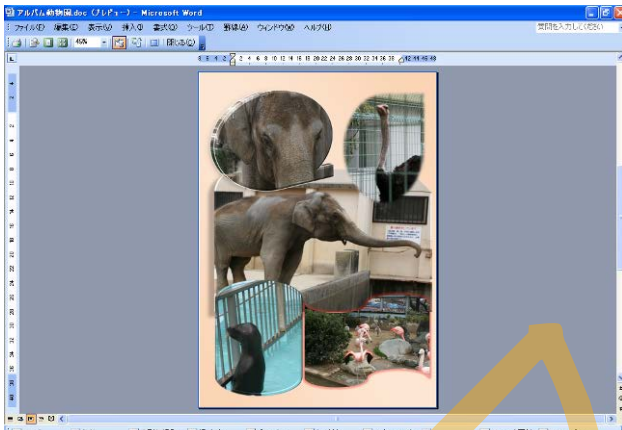
操作前の状態

操作後の状態

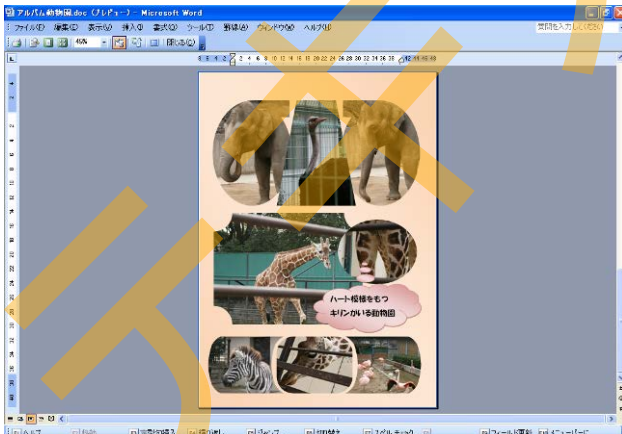
「アルバム動物園」の１ページ目を表示します。

標準ツールバーの［印刷プレビュー］ボタンをクリックします。

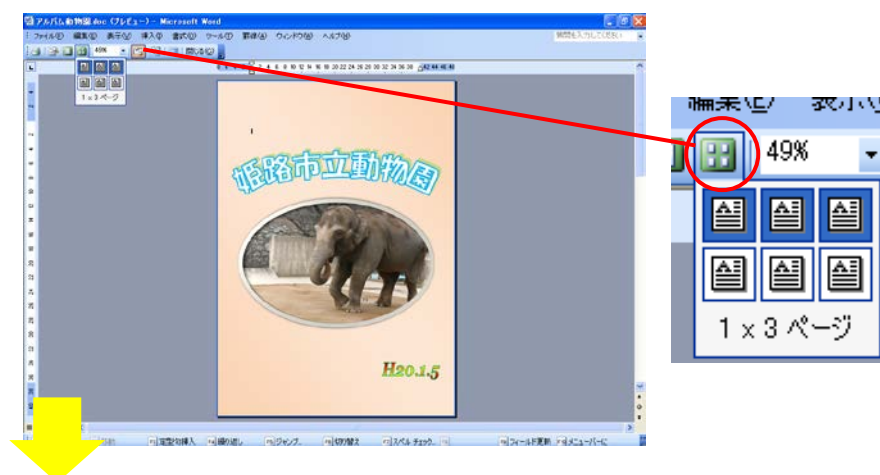
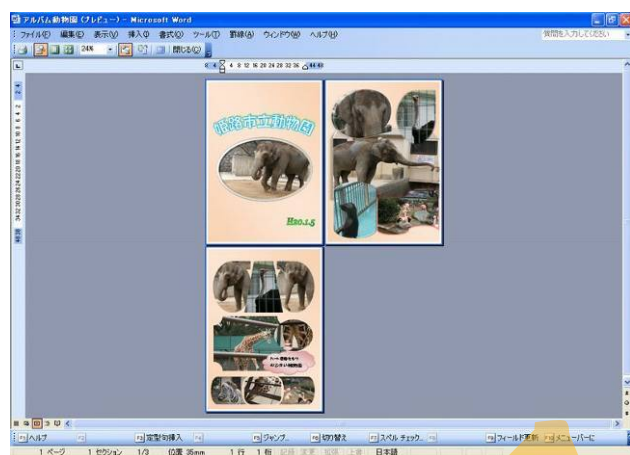
［印刷プレビューボタン］をクリックすると、作成したアルバムの1ページ目が表示されます。

② 2 ページ目以降の確認

［印刷プレビュー］ボタンをクリックして、1ページ目の印刷イメージの確認はできました。ここからは、2ページ目以降の印刷イメージを確認します。

◆２ページ目以降の印刷イメージを確認する方法をマスターしましょう。

操作前の状態 操作後の状態

画面右下の［次のページ］ボタンをクリックします。

［次のページ］ボタンをクリックすると、2ページ目の印刷イメージが表示されます。

再度、［次のページ］ボタンをクリックします。

3ページ目の印刷イメージが表示されます。

ご参考までに

■ 複数ページを同時に確認する

作成したアルバムは合計で3ページです。この3ページを同時に確認したい場合は、ツールバーの［複数ページ」ボタンをクリックして、3ページまで表示されるようにドラッグします。

ドラッグしたページ数だけプレビュー画面に表示されます。

③　印刷プレビューを閉じる

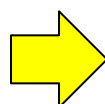
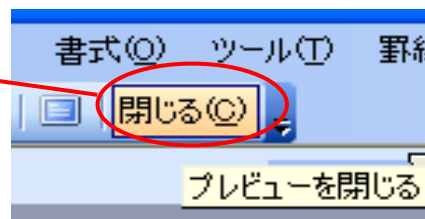
すべてのページの印刷イメージが確認できたら、印刷プレビュー画面を閉じて編集画面に戻ります。

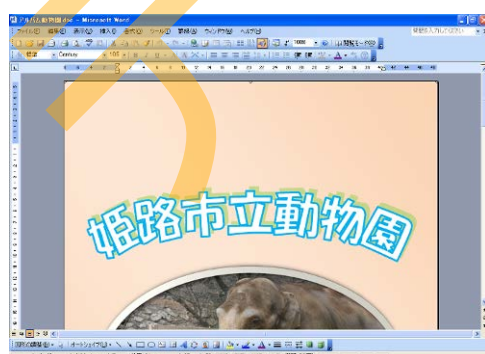
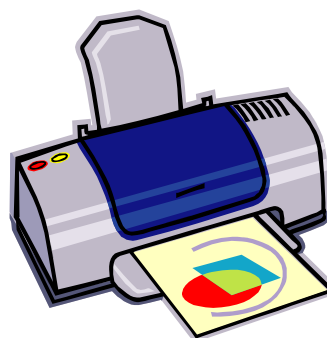
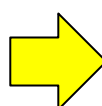
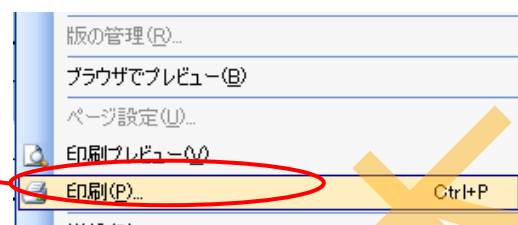
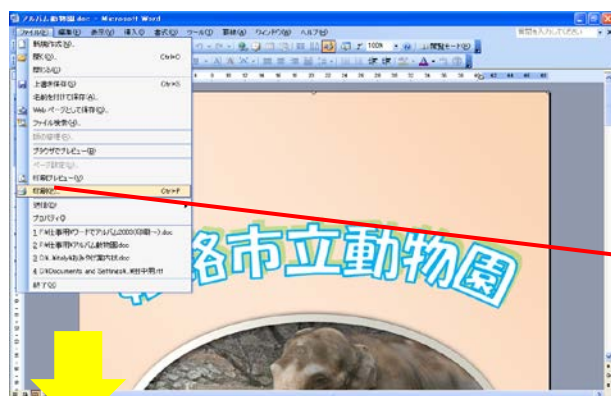
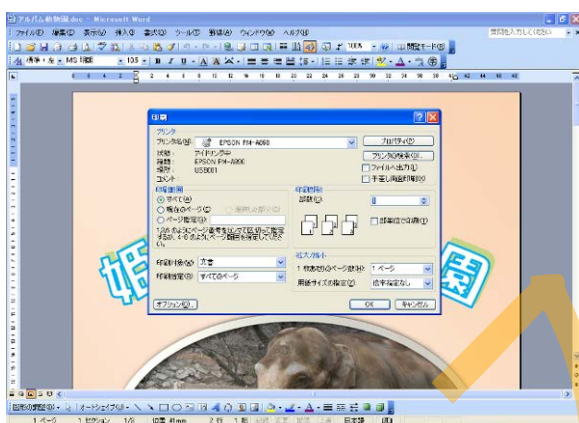
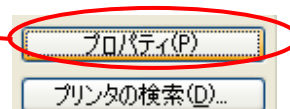
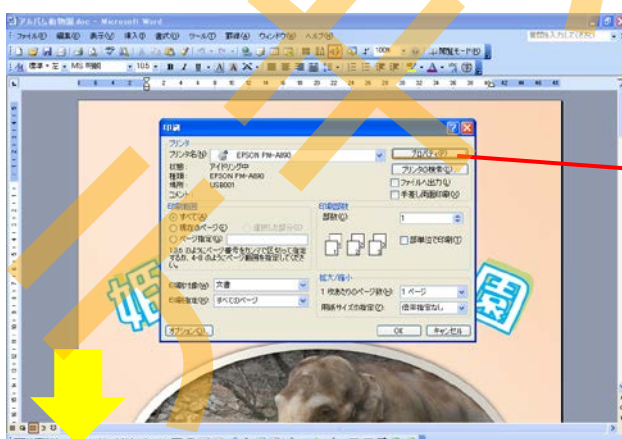
◆印刷プレビュー画面を閉じる方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　操作後の状態

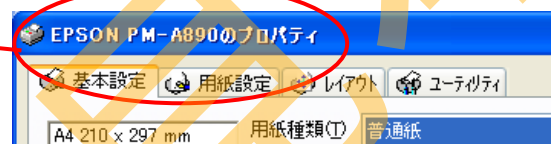
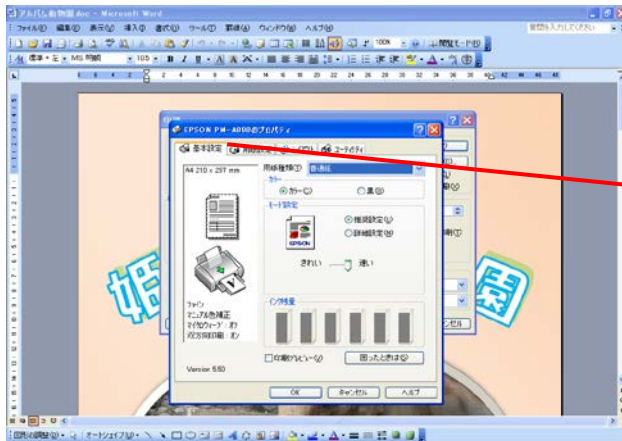
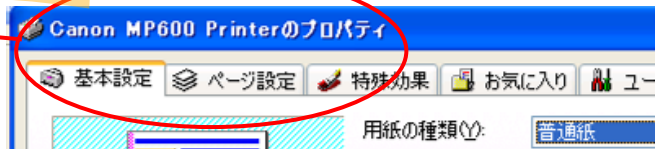
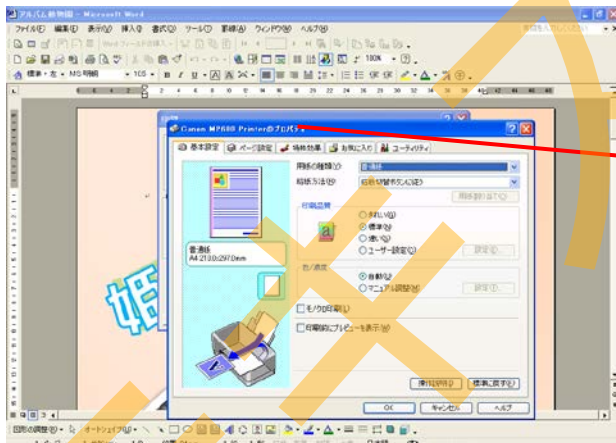
ツールバーの［プレビューを閉じる］ボタンをクリックします。

[プレビューを閉じる]ボタンをクリックすると、編集画面が表示されます。

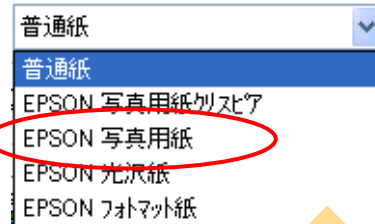
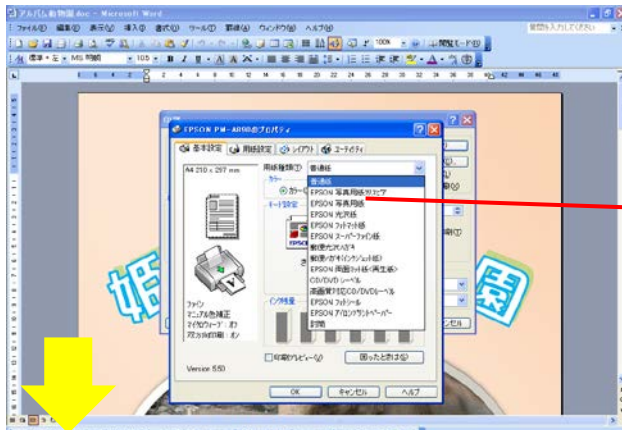
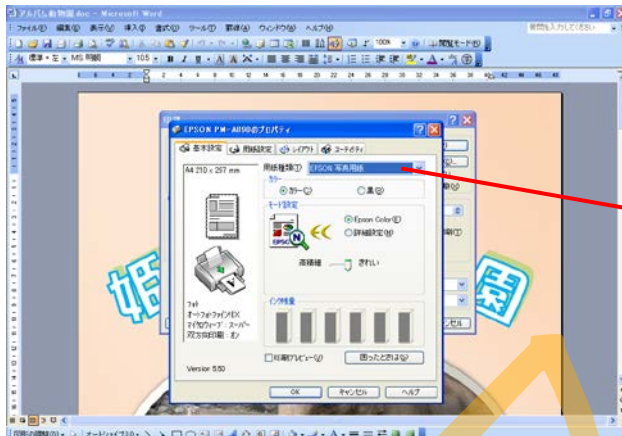
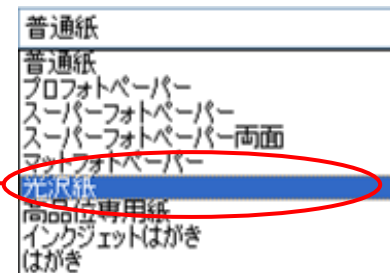
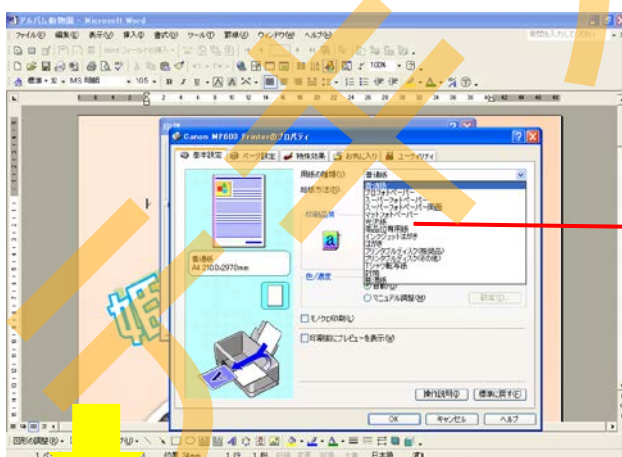
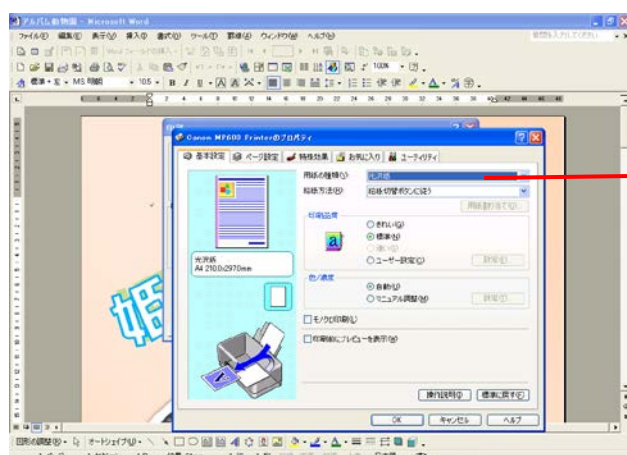
（１）印刷の実行

印刷のイメージが確認できれば、印刷を行います。ここでは、光沢紙（写真用紙）を使って印刷する場合を例にとって説明します。ここでは、エプソンとキャノンのプリンタでの印刷方法を説明していますが、皆さんが実際にお使いのプリンタと異なる場合はインストラクターにお尋ねください。

◆印刷を実行する方法をマスターしましょう。

操作前の状態　操作後の状態

メニューバーの［ファイル］をクリックし、表示されたメニューの［印刷］をクリックします。

[印刷(P)]をクリックすると[印刷]ダイアログボックスが表示されます。

［印刷］ダイアログボックスの右上にある［プロパティ(P)］ボタンをクリックします。

[プロパティ(P)]ボタンをクリックすると、[（プリンタ名）のプロパティ]ダイアログボックスの[基本設定]タブが表示されます。

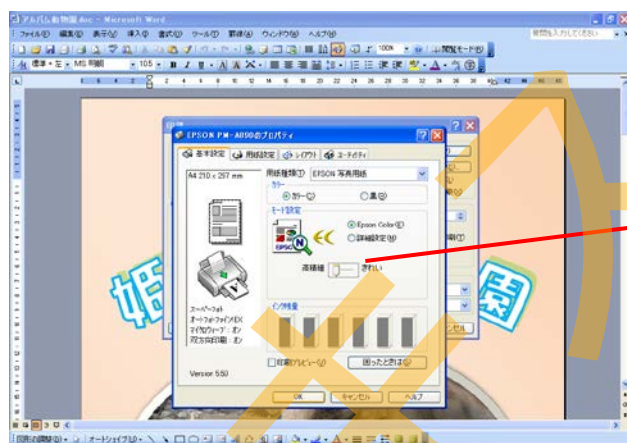
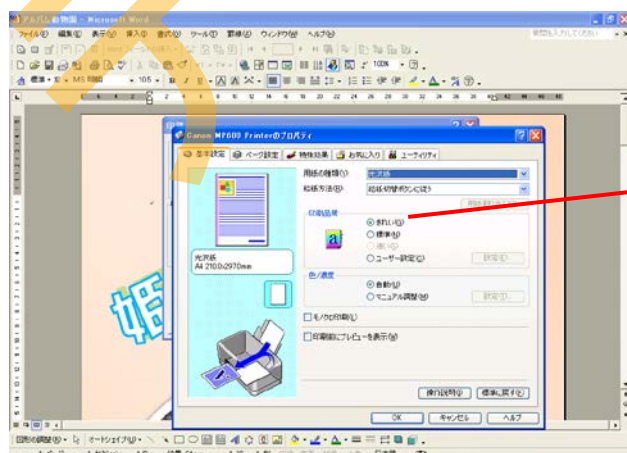
ここではプリンタの２大メーカーの
Canon と Epson で説明していますが、それ
以外のプリンタ（HP や Brother など）の
プリンタをお使いの場合、取扱説明書に従
って設定してくださいね

エプソンのプリンタの場合

キャノンのプリンタの場合

［用紙種類］ボックスの▼をクリックし、表示された一覧から、エプソンのプリンタの場合は［EPSON 写真用紙］を、キャノンのプリンタの場合は「光沢紙」をクリックします。

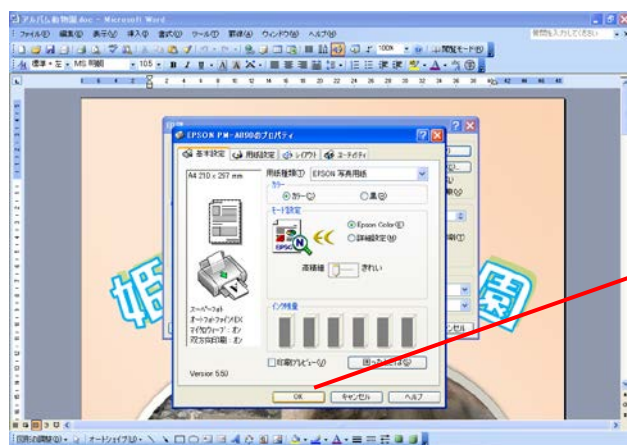
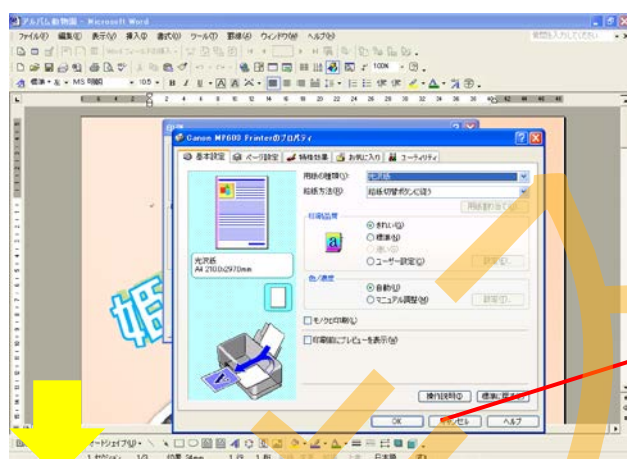
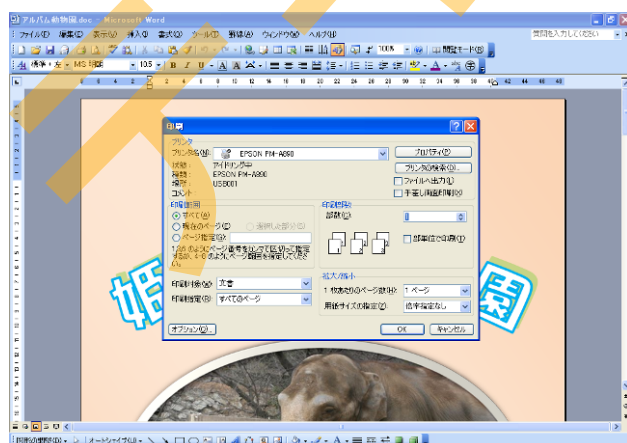
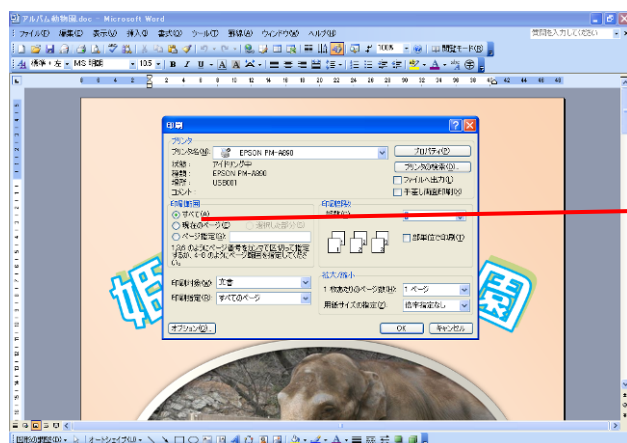
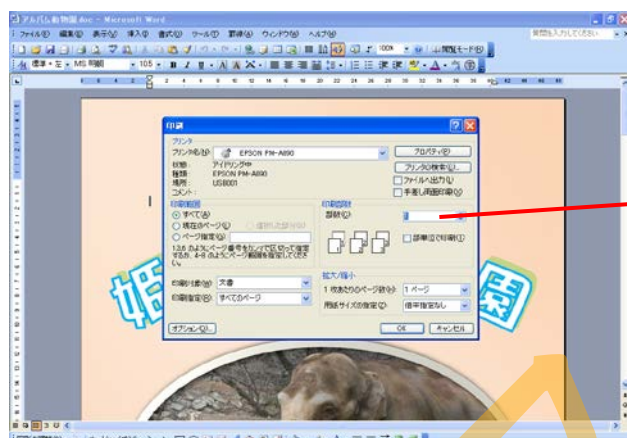
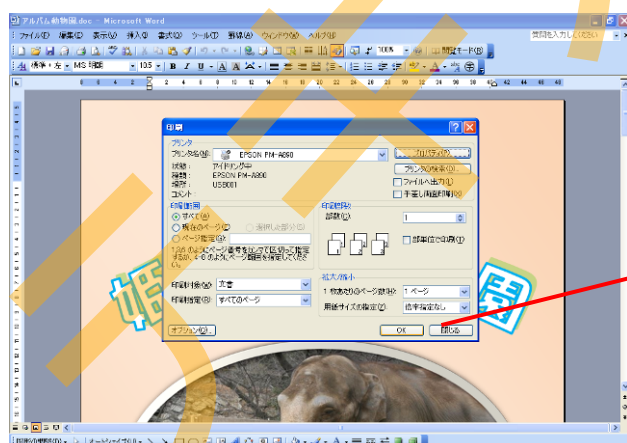
エプソンのプリンタの場合

[EPSON 写真用紙]が光沢紙にあたります。

[EPSON 写真用紙]をクリックすると、[用紙種類(T)]ボックスに[EPSON 写真用紙]が表示されます。

キャノンのプリンタの場合

[光沢紙]をクリックすると、[用紙種類(Y)]ボックスに[光沢紙]が表示されます。

エプソンのプリンタの場合は、モード設定で「高精細－きれい」のつまみを左にドラッグします。
キャノンのプリンタの場合は、印刷品質の「きれい」のボタンをクリックします。

写真を印刷する時には、「高精細」や「きれい」の方が写真に適した状態で印刷されます。

エプソンのプリンタの場合

キャノンのプリンタの場合

［(プリンタ名) のプロパティ］ダイアログボックスの下にある［OK］ボタンをクリックします。

エプソンのプリンタの場合

キャノンのプリンタの場合

[OK]ボタンをクリックすると[(プリンタ名)のプロパティ]ダイアログボックスが閉じます。

［印刷範囲］で［すべて(A)］が選択されていることを確認します。

［印刷部数］で［部数(C)］ボックスに「１」が表示されていることを確認します。

[印刷]ダイアログボックスの右下にある［OK］ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックすると、印刷が開始されます。

上書き保存して、ワードの画面を閉じておきましょう。

☆☆ここまでくれば、練習問題３で理解度を試して下さい。☆☆

7. その他の写真の挿入方法

前章までに作成した「アルバム動物園」は、主に以下の2つの方法で作成しました。

●図形を描いてその中に写真を挿入する。

●図形に挿入された写真に形状や効果などの設定、図形の変更、写真の変更、サイズ変更をする。

ここからは、新たな文書に上記以外の「表の中に写真を挿入する方法」をマスターしましょう。

【完成例】

（1） ページ設定

表の中に写真を挿入すると、前ページの完成例のように写真を整列させることができます。表の中に写真を挿入する場合、ページ設定を最初に行った方が、写真の挿入、レイアウトの調整が簡単にできます。

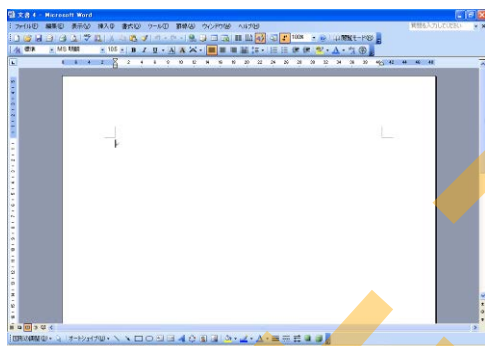
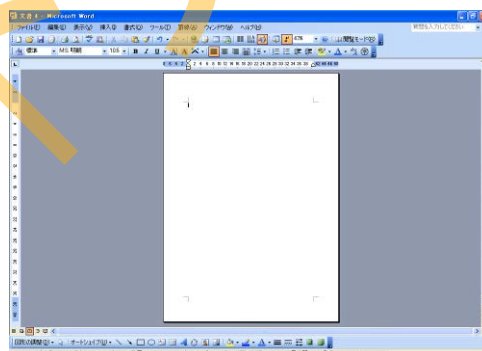
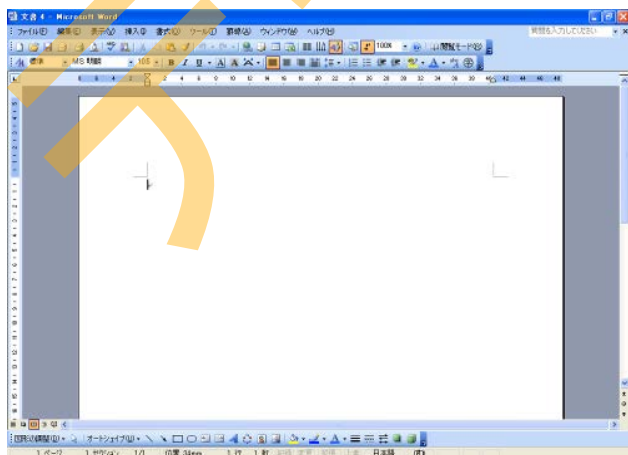
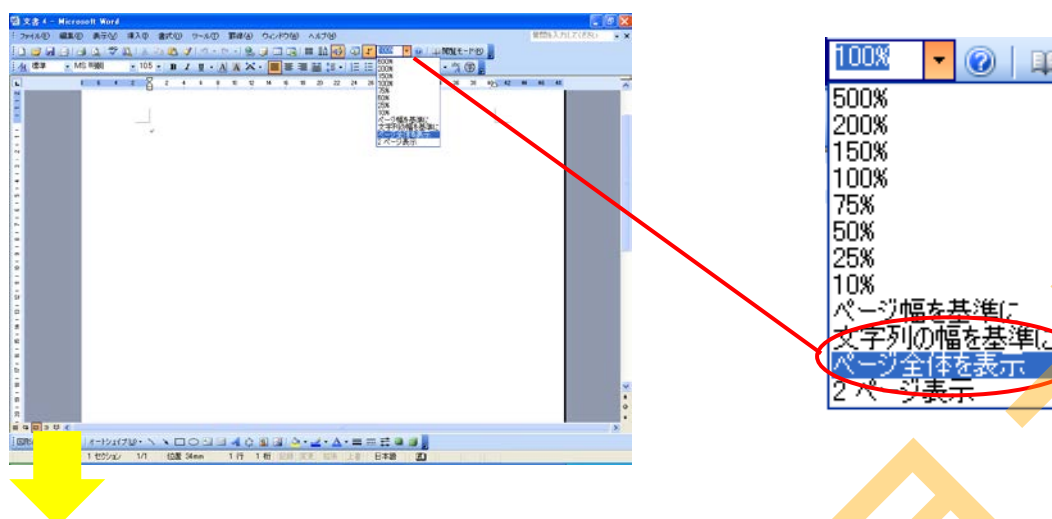
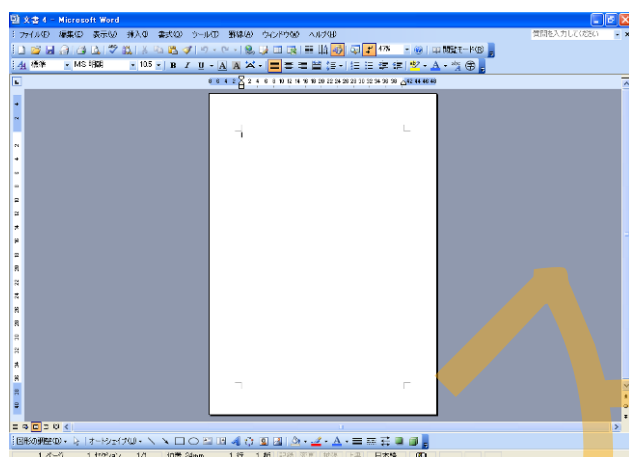
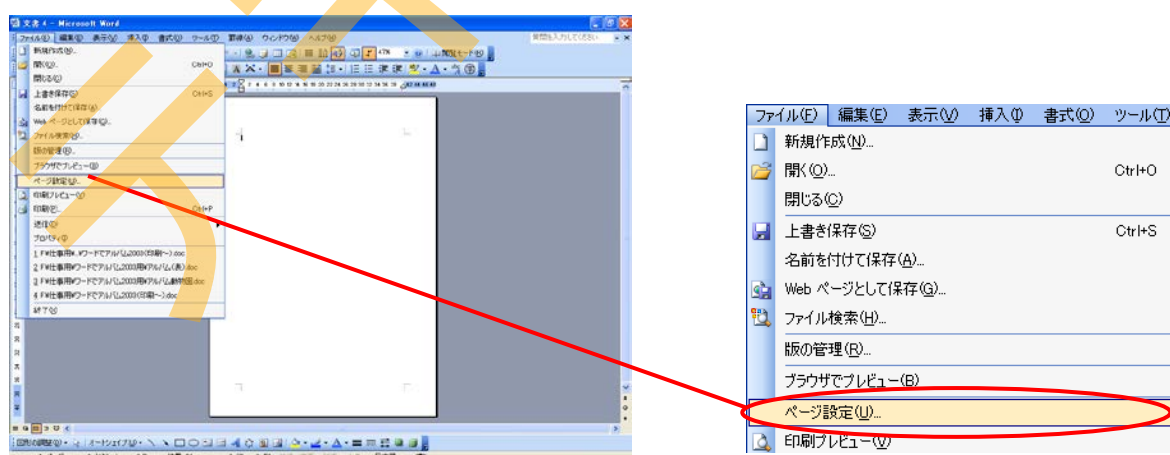
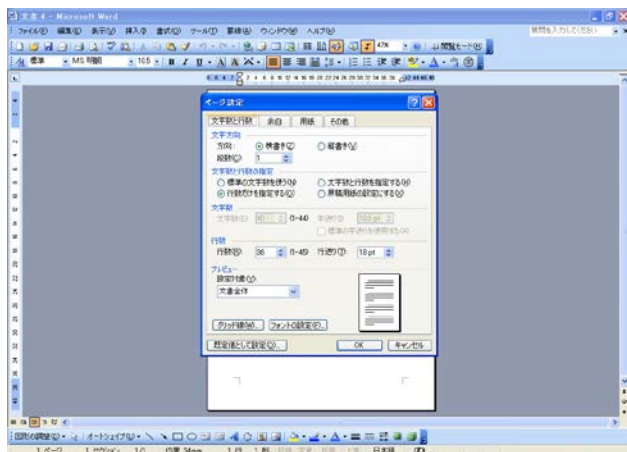
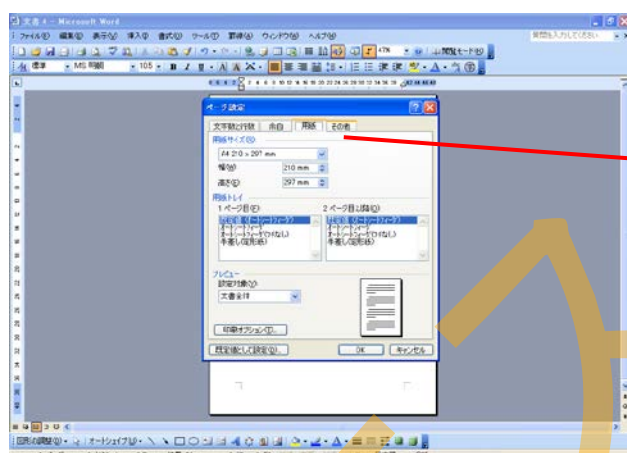
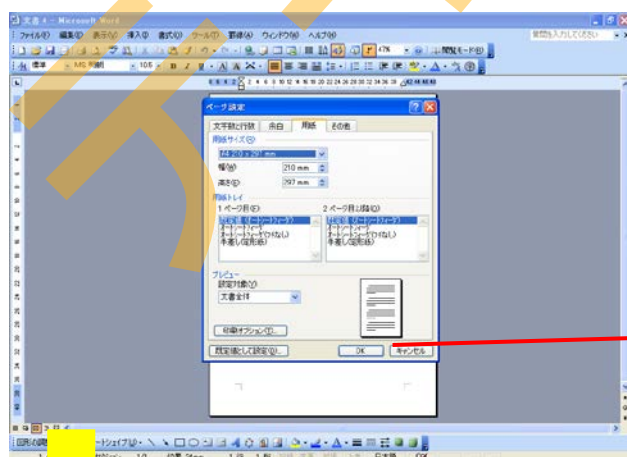
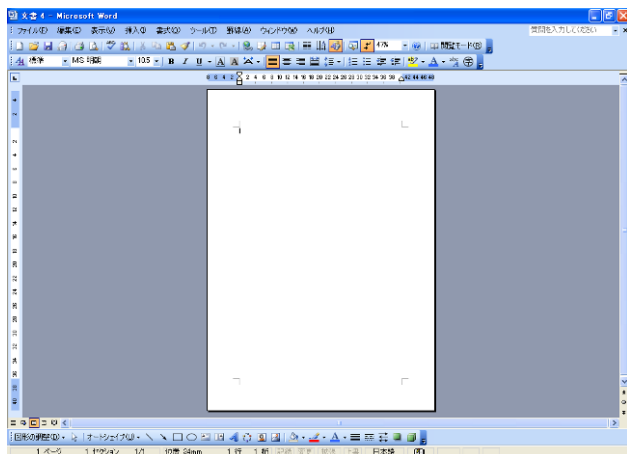
ここでは、以下の条件でページ設定を行います。

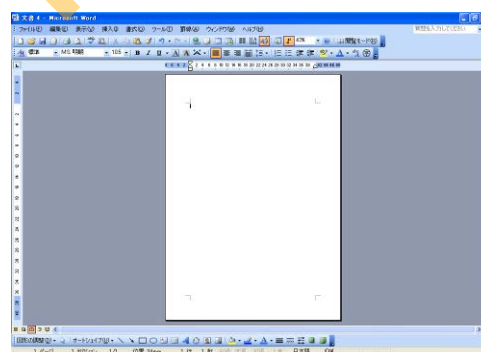
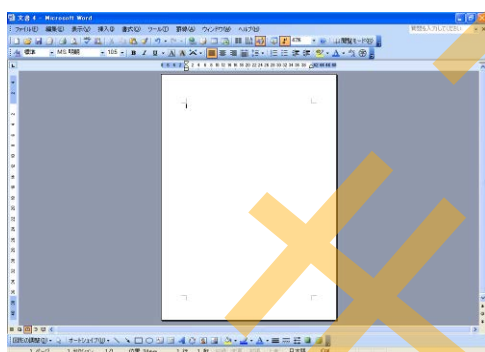
- 用紙サイズ　　A4
- 印刷の向き　　縦
- 余白　　上下左右 15mm

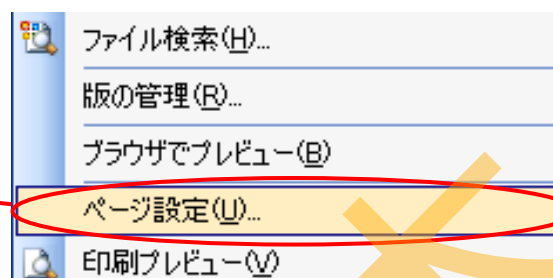
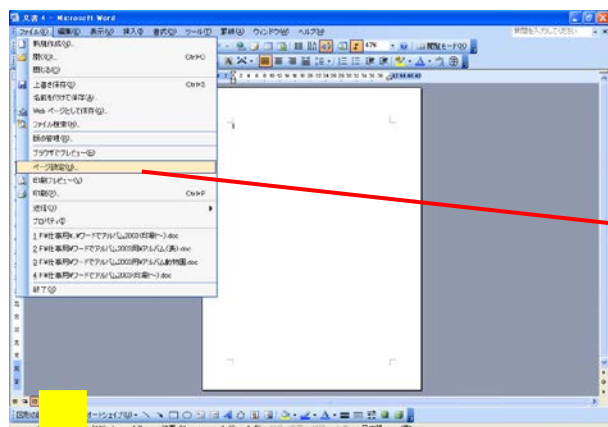
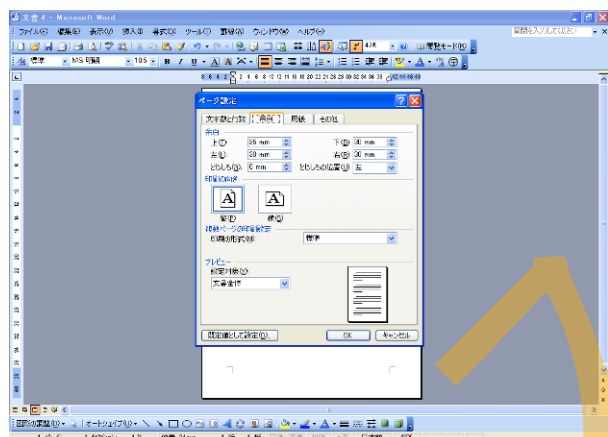
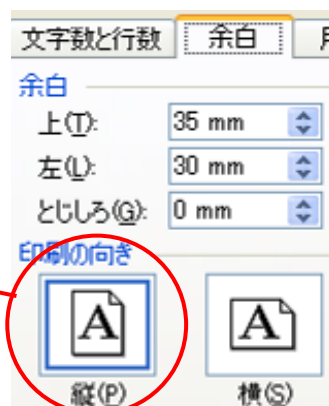
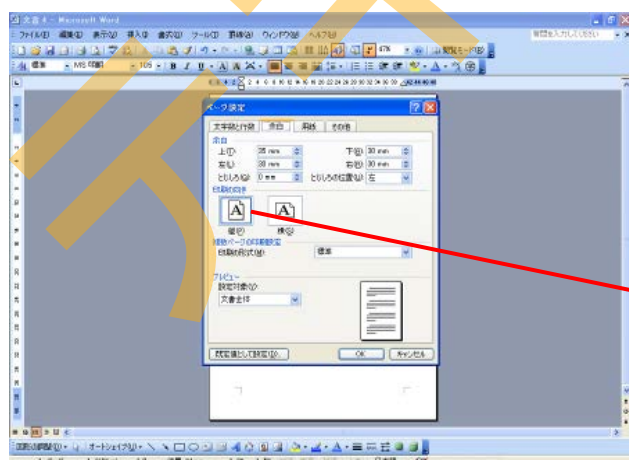
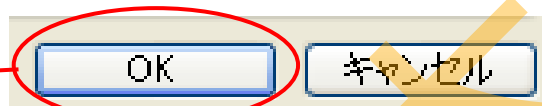
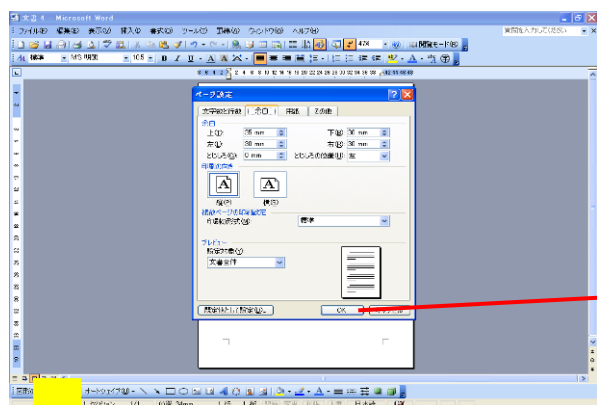
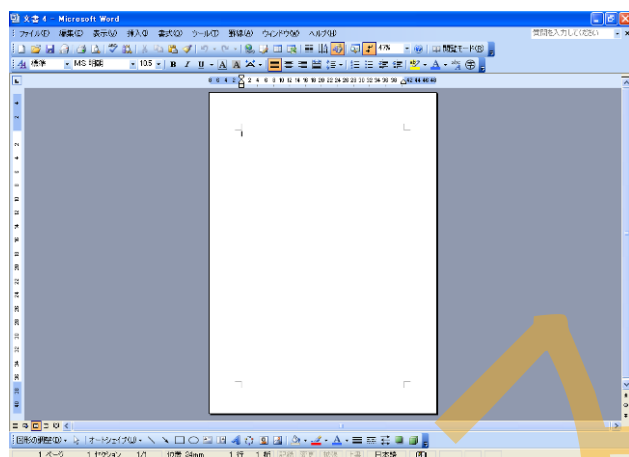
①用紙サイズの設定

ここでは、用紙サイズの確認をします。ワードの初期設定では、用紙サイズはA4になっています。初期設定を変更していなければ、ワードの起動時の用紙サイズはA4になっているはずです。

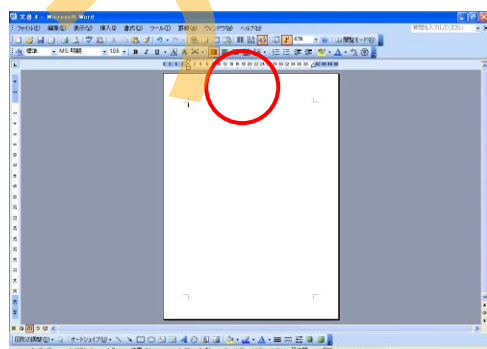
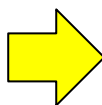
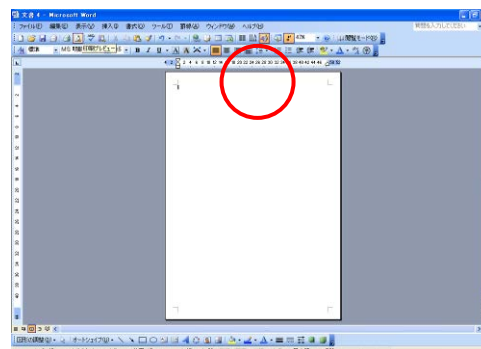
◆用紙サイズを設定する方法をマスターしましょう。

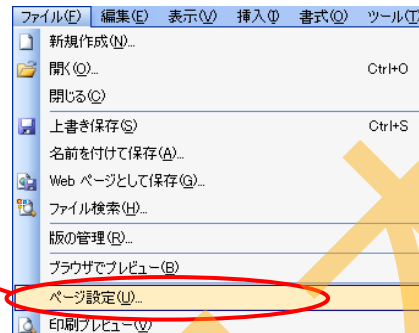
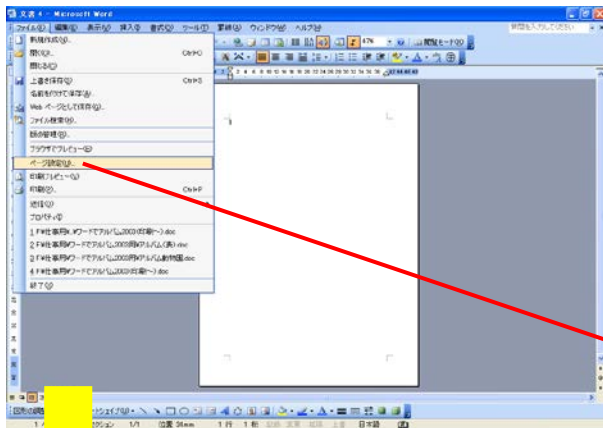
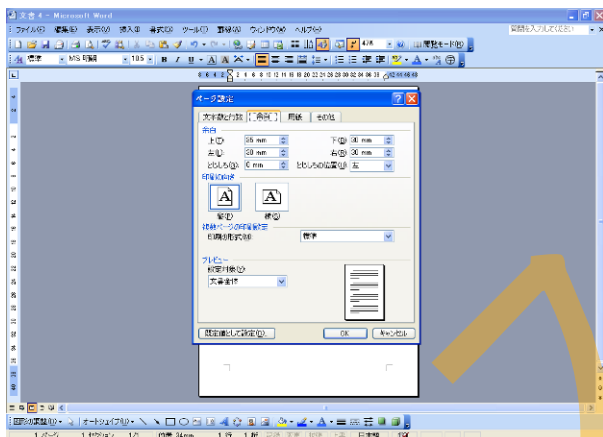
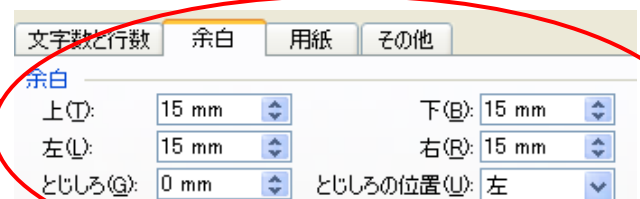
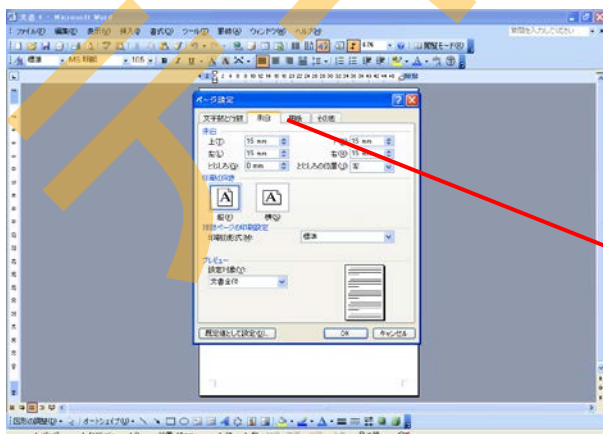
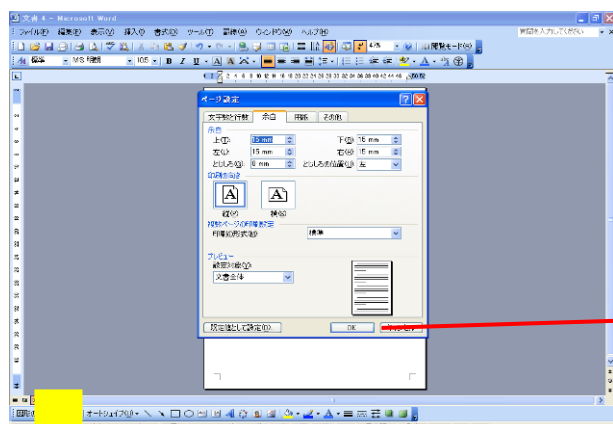
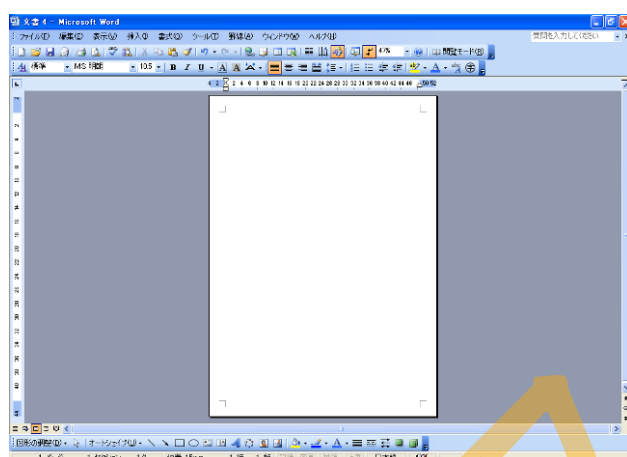
操作前の状態

操作後の状態

ワードを起動し、新規文書を用意します。

［ズーム］ボックスをクリックし、「ページ全体を表示」をクリックします。

[ページ全体を表示]をクリックすると、表示倍率が変更されます。

メニューバーの［ファイル］をクリックし、［ページ設定］をクリックします。

[ページ設定]をクリックすると、[ページ設定]ダイアログボックスが表示されます。

［ページ設定］ダイアログボックスの［用紙］タブをクリックし、用紙サイズが「Ａ４」になっていることを確認します。

確認ができれば、［ページ設定］ダイアログボックスの［ＯＫ］ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックすると、[ページ設定]ダイアログボックスが閉じます。

② 印刷の向きの確認

ここでは印刷の向きを確認します。ワードの初期設定では、印刷の向きは縦になっています。
初期設定を変更していなければ、ワードの起動時に印刷の向きは「縦」になっているはずです。

画面上は何も変わりません！

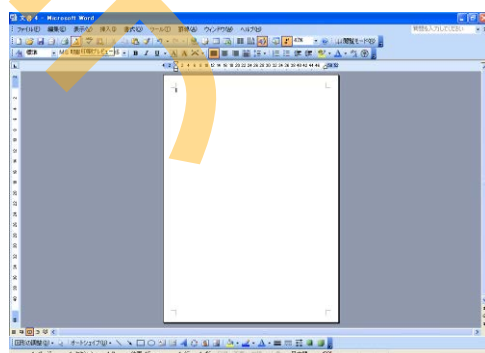
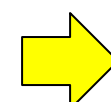
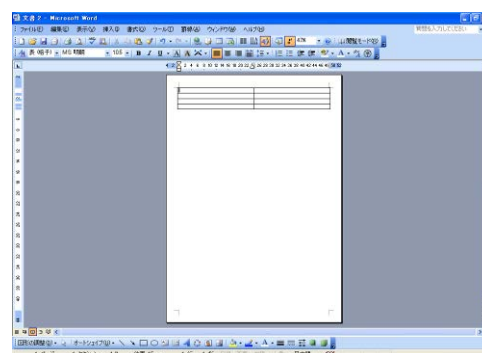
［ファイル］－［ページ設定］をクリックし、［ページ設定］ダイアログボックスを表示します。

[ページ設定]ボタンをクリックすると、[ページ設定]ダイアログボックスが表示されます。

［ページ設定］ダイアログボックスの［余白］タブをクリックし、印刷の向きが「縦」になっていることを確認します。

確認ができれば、［ページ設定］ダイアログボックスの［ＯＫ］ボタンをクリックします。

［OK］ボタンをクリックすると、［ページ設定］ダイアログボックスが閉じます。

③ 余白の設定

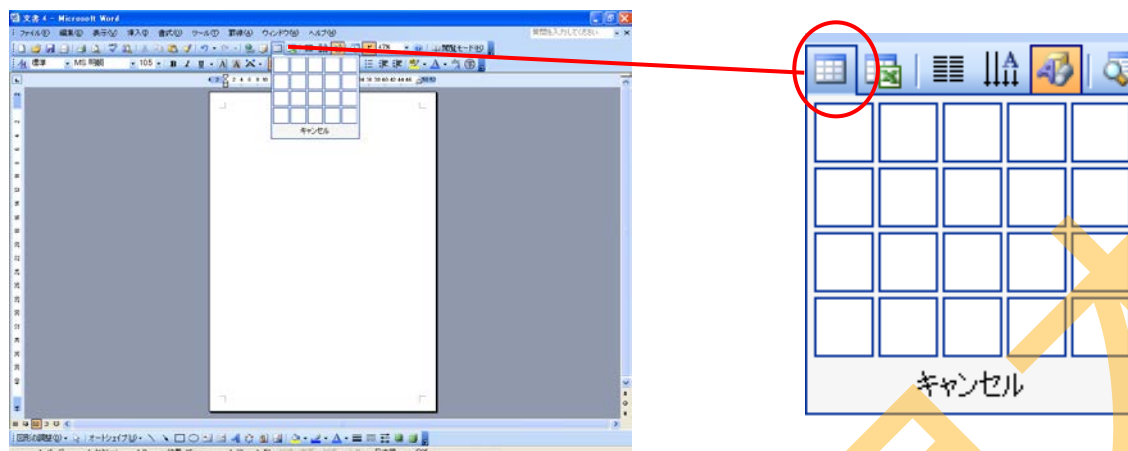
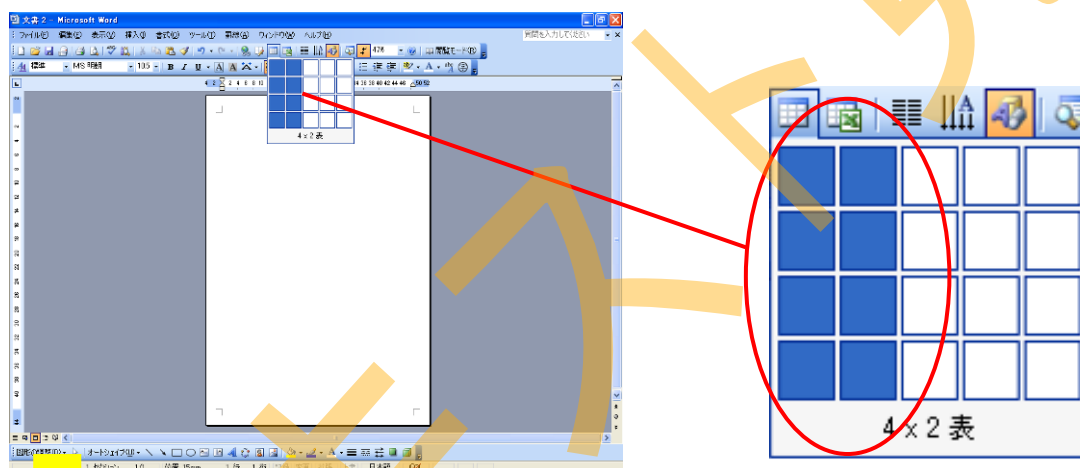
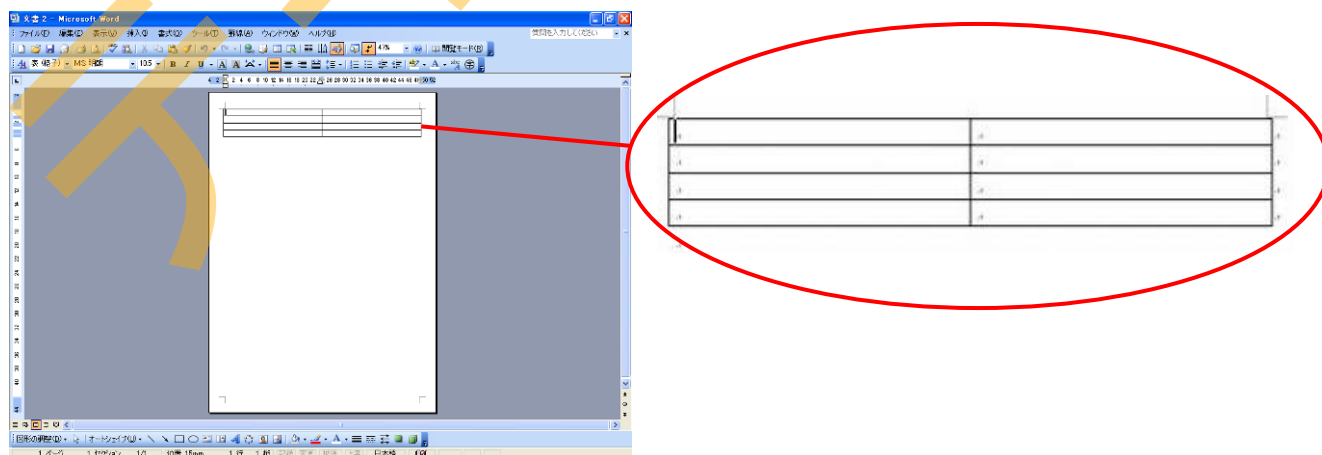
ここまでで、用紙サイズが「A4」、印刷の向きが「縦」になっていることが確認できました。ここでは、上下左右の余白をすべて「15mm」に設定します。ワードの初期設定で上下左右の余白は、上：35mm、下左右：30mm になっています。

◆余白を設定する方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　**操作後の状態**

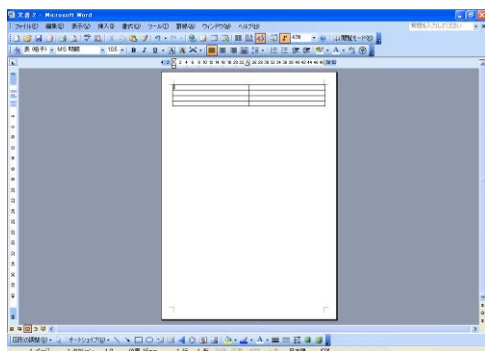
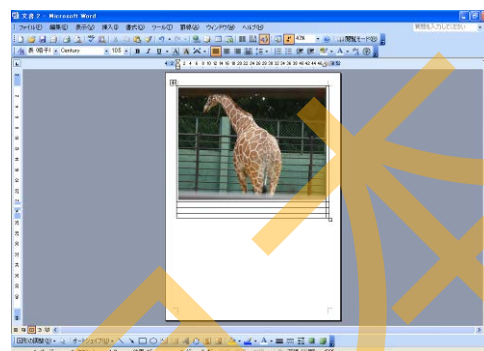
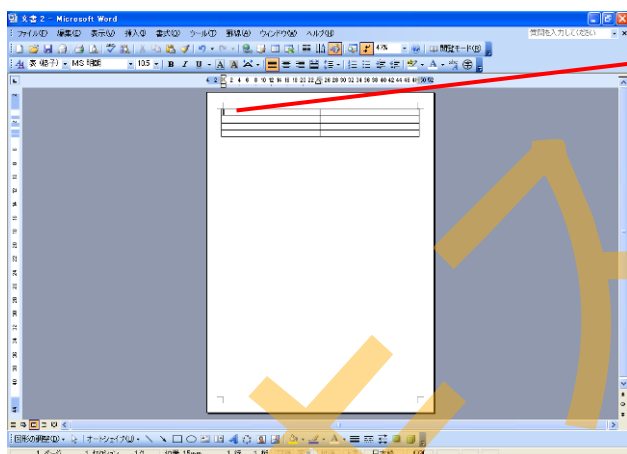
［ファイル］－［ページ設定］をクリックし、［ページ設定］ダイアログボックスを表示します。

[ページ設定]ボタンをクリックすると、[ページ設定]ダイアログボックスが表示されます。

［ページ設定］ダイアログボックスの［余白］タブをクリックし、［余白］で上下左右を「15mm」に設定します。

［ページ設定］ダイアログボックスの［ＯＫ］ボタンをクリックします。

[OK]ボタンをクリックすると、上下左右の余白が「15mm」に確定されます。

（2） 表の挿入

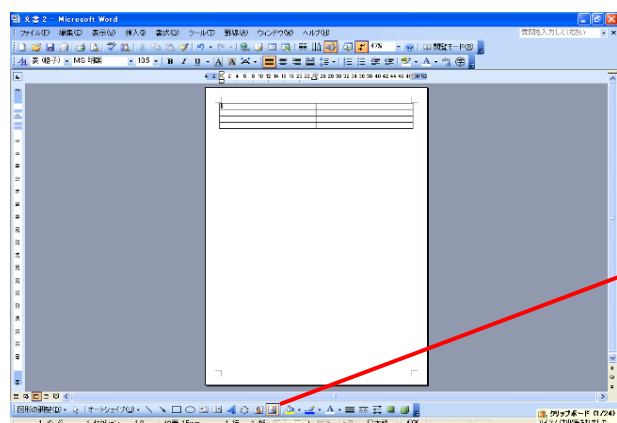
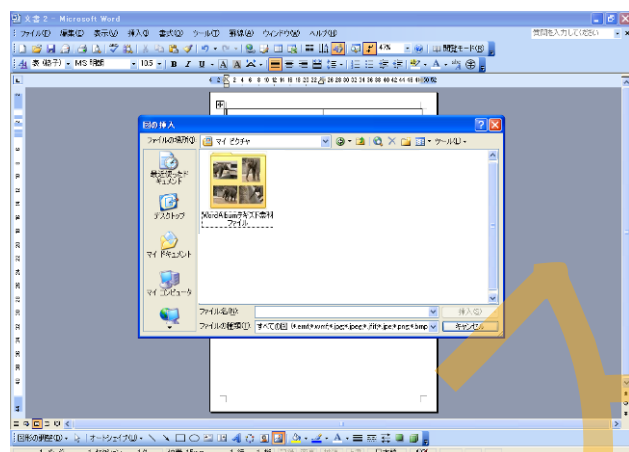
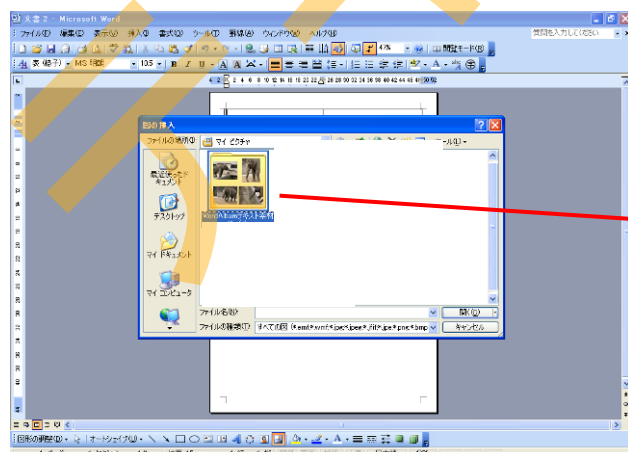
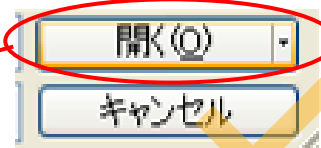
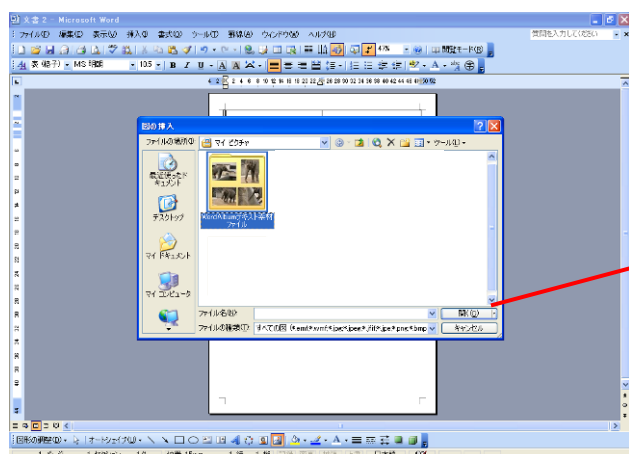
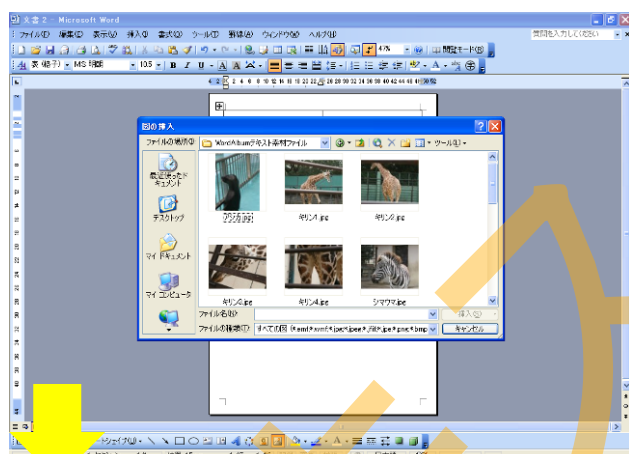
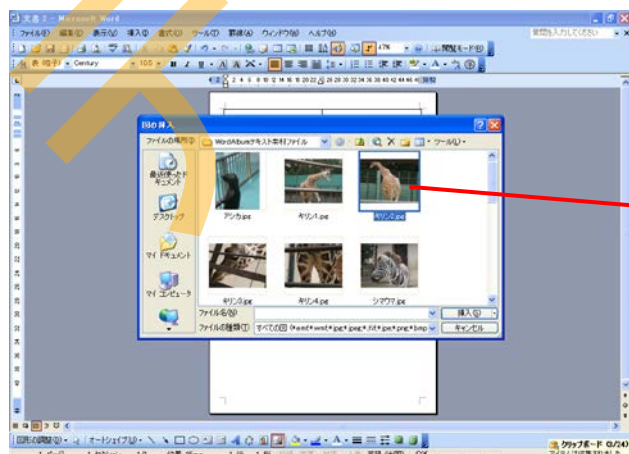
ページ設定が完了したところで、ここからは表を挿入していきます。今回は【完成例】のように4行2列の表を挿入します。

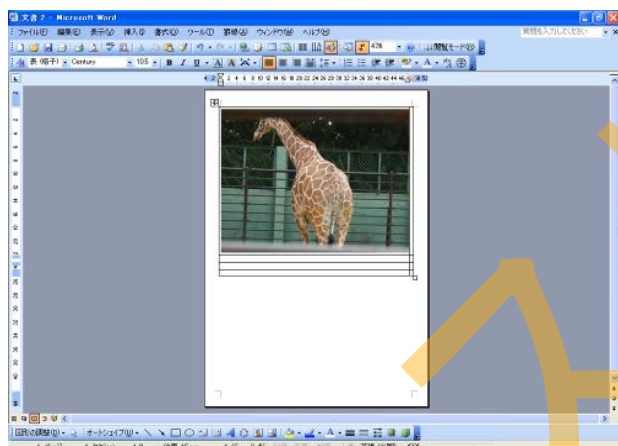
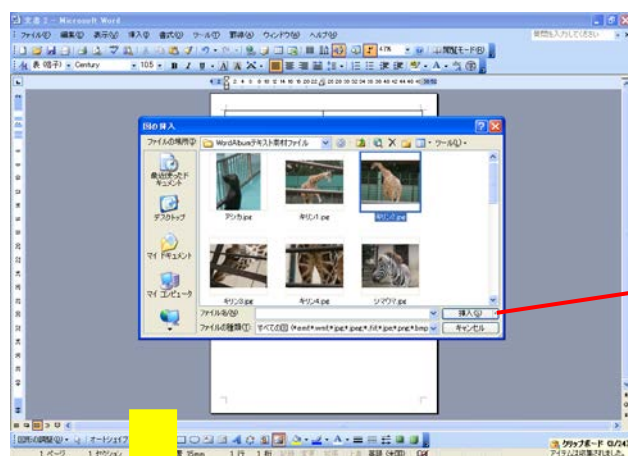
◆表を挿入する方法をマスターしましょう。

操作前の状態 **操作後の状態**

ツールバーの［表の挿入］ボタンをクリックします。

「４×２ 表」になる箇所でクリックします。

「４×２ 表」になる箇所でクリックすると、文書内に4行2列の表が挿入されます。

（３） 写真の挿入

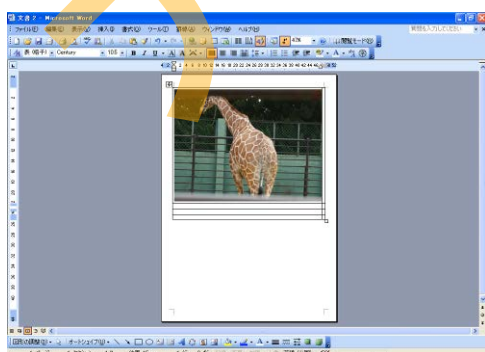
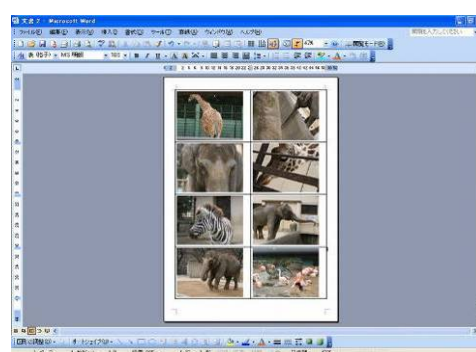
前節で4行2列の表を挿入しました。ここからは、表の中に写真を挿入していきます。

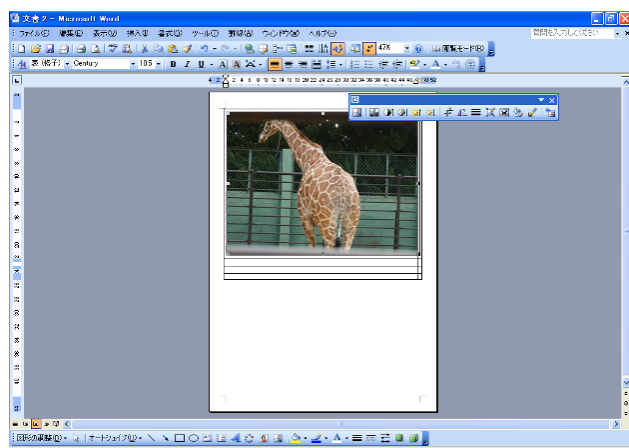
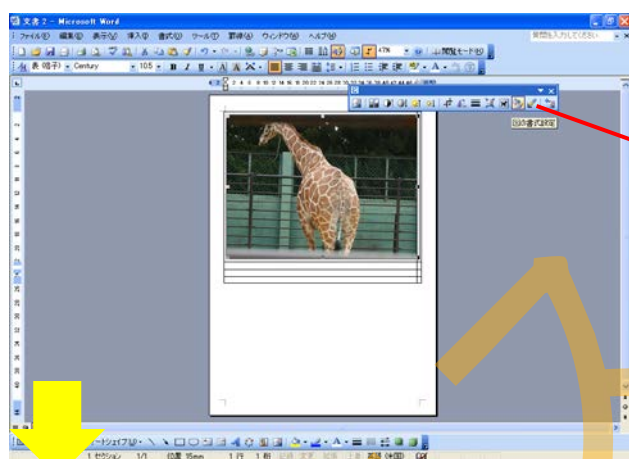
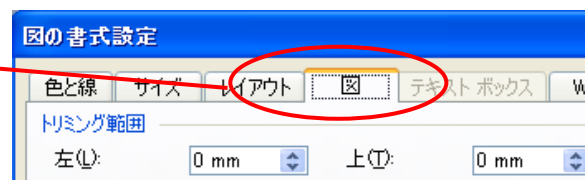
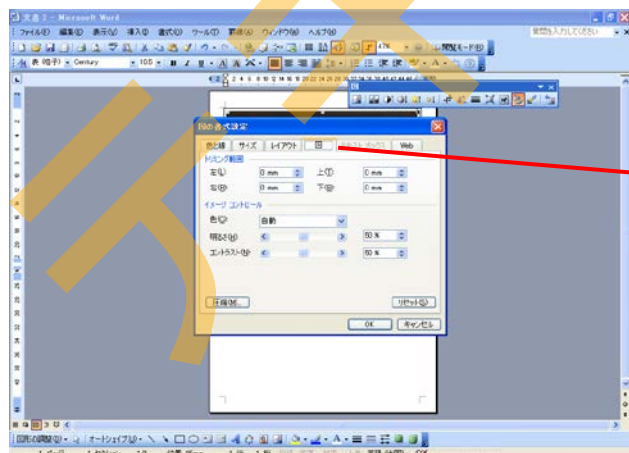
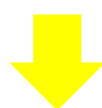
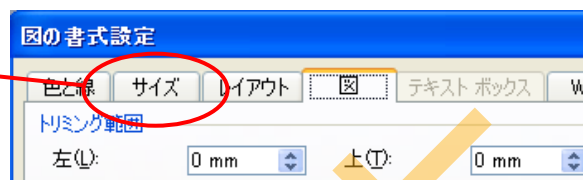
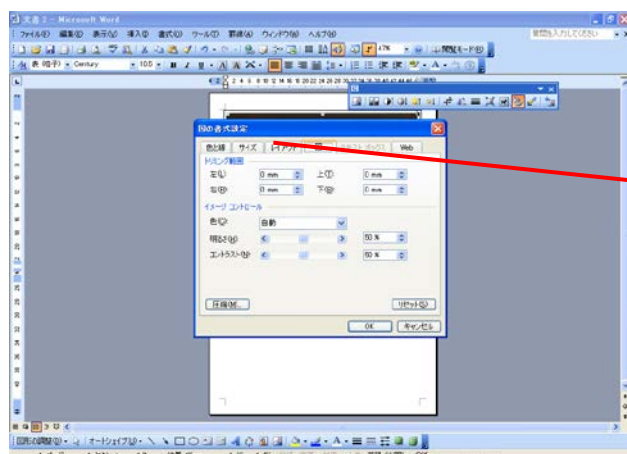
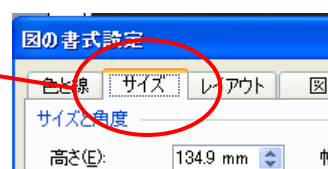
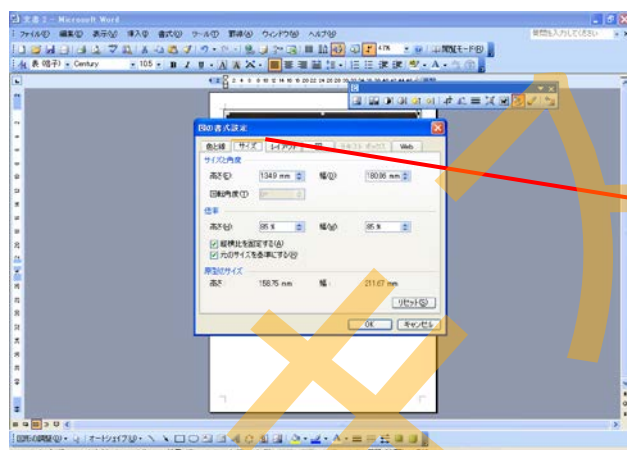
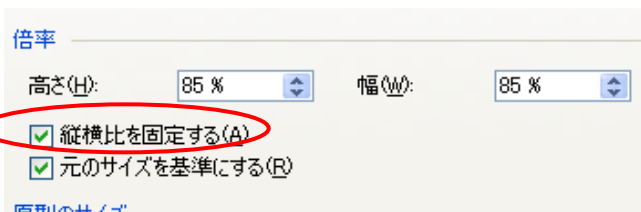
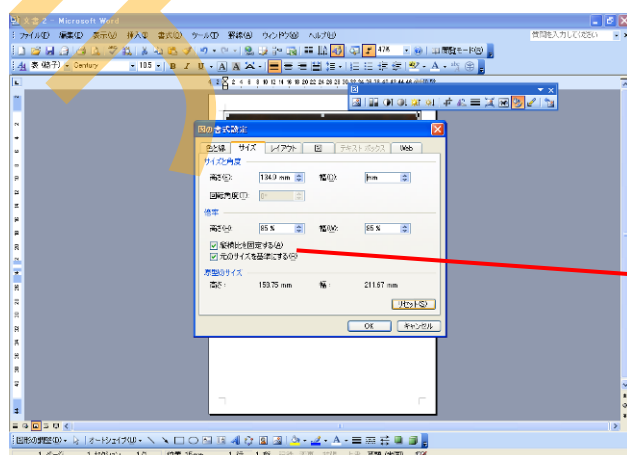
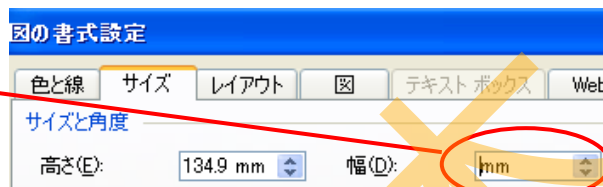
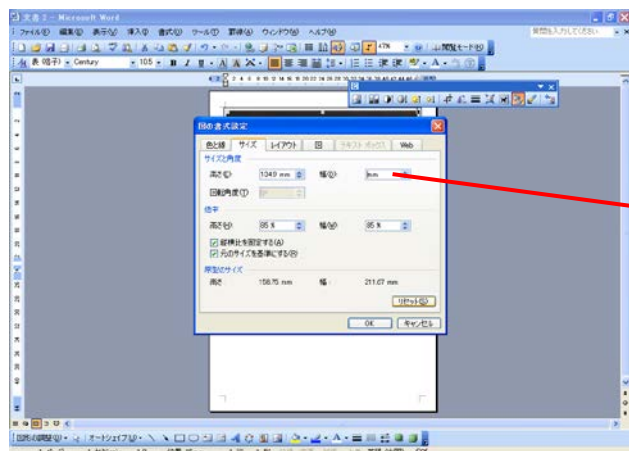
◆表の中に写真を挿入する方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　**操作後の状態**

表の 1 行目の左のセルにカーソルがあることを確認します。

- **1 行目の左のセルにカーソルが無い場合は、1 行目の左のセルをマウスでクリックしてカーソルを移動してください。**
- **写真はカーソルがあるセルに挿入されるため、写真を挿入したいセルにカーソルを移動します。**

図形描画ツールバーにある［図の挿入］ボタンをクリックします。

［図の挿入］ボタンをクリックすると、［図の挿入］ダイアログボックスが表示されます。

［ファイルの場所］ボックスが［マイピクチャ］になっていることを確認して、［Word Album テキスト素材ファイル］のフォルダをクリックします。

［図の挿入］ダイアログボックス右下にある［開く(O)］ボタンをクリックします。

［開く(O)］ボタンをクリックすると、［Word Album テキスト素材ファイル］フォルダの中身が表示されます。

表示された一覧から「キリン２」をクリックします。

［図の挿入］ダイアログボックス右下にある［挿入(S)］ボタンをクリックします。

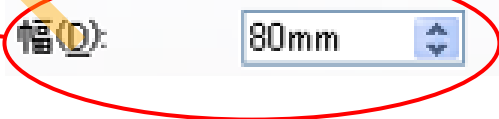
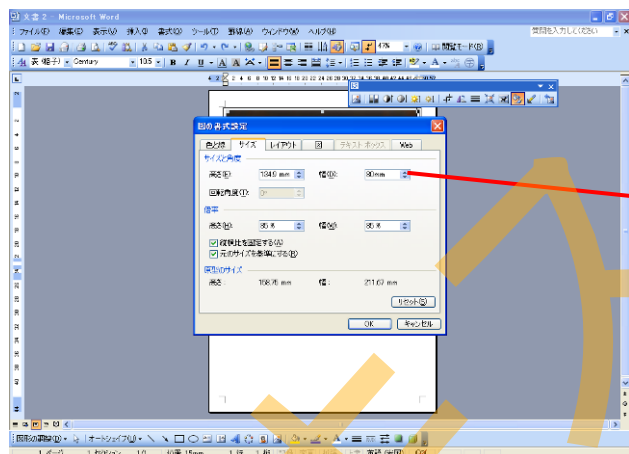
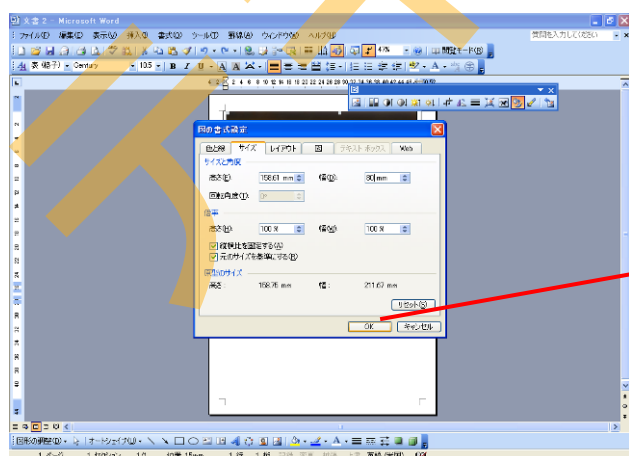
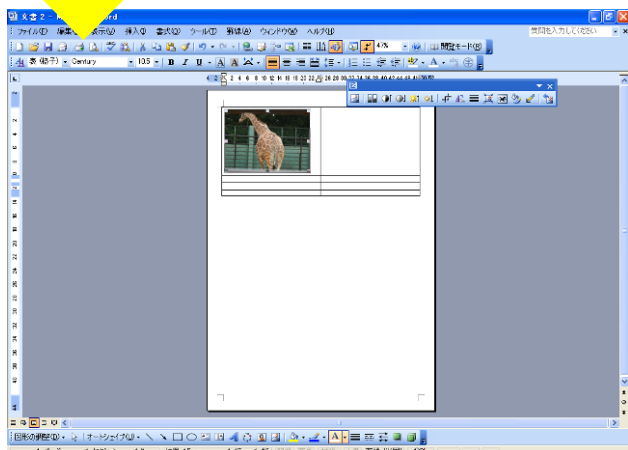
［挿入(S)］ボタンをクリックすると、「キリン2」の写真が挿入されます。

（4） 写真のサイズ変更

表の中に写真が挿入できれば、挿入した写真のサイズ変更を行います。

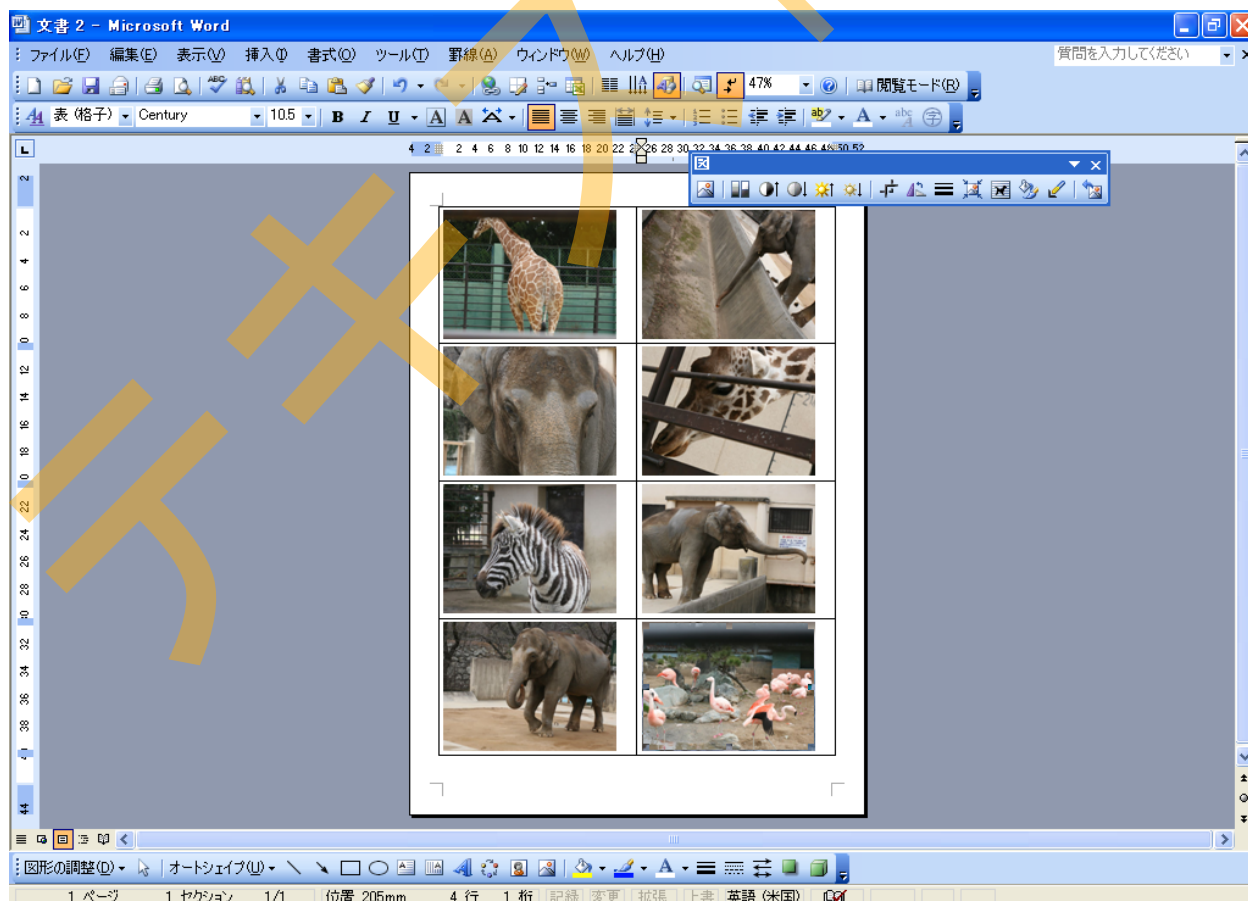
◆表の中の写真のサイズを変更する方法をマスターしましょう。

操作前の状態　　操作後の状態

表に挿入した「キリン２」の写真をクリックして選択します。

写真をクリックすると、写真の周りに■のハンドルが表示され、[図]ツールバーが表示されます。

［図］ツールバーの［図の書式設定］ボタンをクリックします。

[図の書式設定]ボタンをクリックすると、[図の書式設定]ダイアログボックスの[図]タブが表示されます。

［図の書式設定］ダイアログボックスの［サイズ］タブをクリックします。

［サイズ］タブをクリックすると、［図の書式設定］ダイアログボックスの［サイズ］タブの内容が表示されます。

［サイズ］タブの［倍率］の［縦横比を固定する(A)］にチェックがついていることを確認します。

［サイズ］タブの［サイズと角度］の［幅］のボックスをマウスでクリックしてカーソルを移動させ、表示されている数値を削除します。

●数値と一緒に「mm」を削除してしまっても大丈夫です。

［幅］のボックスに「80」と入力します。

80mm に設定する理由は「ご参考までに」で説明していますので、そちらを参考にして下さい。

［図の書式設定］ダイアログボックスの右下にある［OK］ボタンをクリックします。

［OK］ボタンをクリックすると、「キリン2」の写真のサイズが縦横比を維持したまま縮小されます。

同様にして、次ページの図を参考に写真の挿入とサイズ変更を行います。

挿入写真

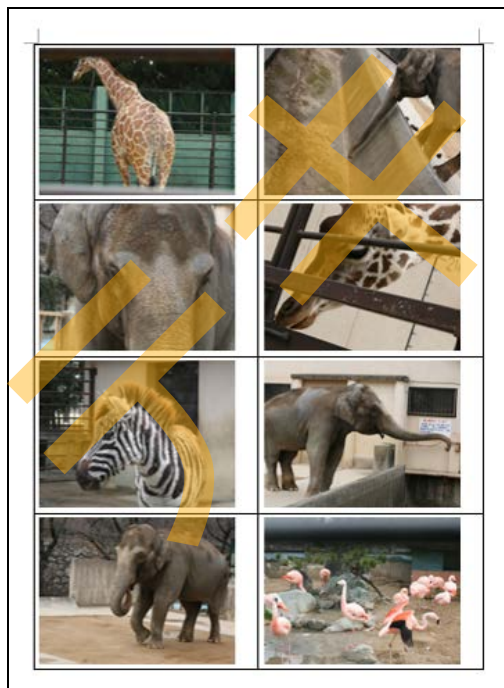
キリン2	象4
象3	キリン3
シマウマ	象2
象5	フラミンゴ2

ご参考までに

写真の幅を「80mm」に設定したのには理由があります。
今回はA4用紙を縦に利用してアルバムを作成しています。A4用紙のサイズは 210mm×297mm です。また今回は余白を左右 15mm ずつ、つまり合計 30mm に設定していますので、写真の入るスペースは 210mm－30mm で 180mm しかありません。さらに 4 行 2 列の表を挿入していますので、横方向に 2 枚の写真を挿入します。180mm÷2 枚で写真 1 枚の幅が 90mm となりますが、写真 1 枚の幅を 90mm に設定すると、写真2枚の間が狭すぎるので、写真と写真の間に少し余裕を持たせるために、今回は写真 1 枚の幅を[80mm]に設定しました。

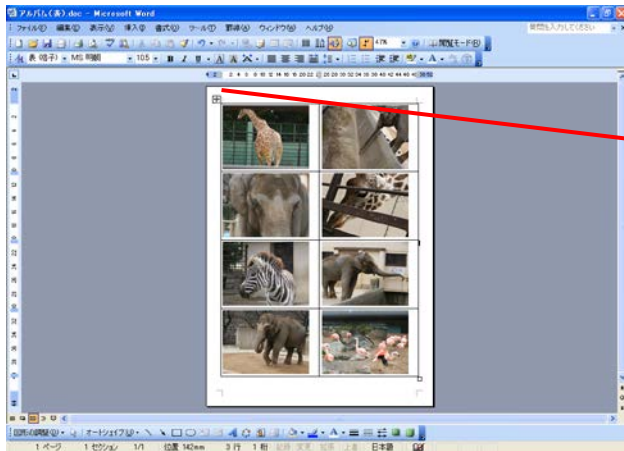
（５） 写真の配置

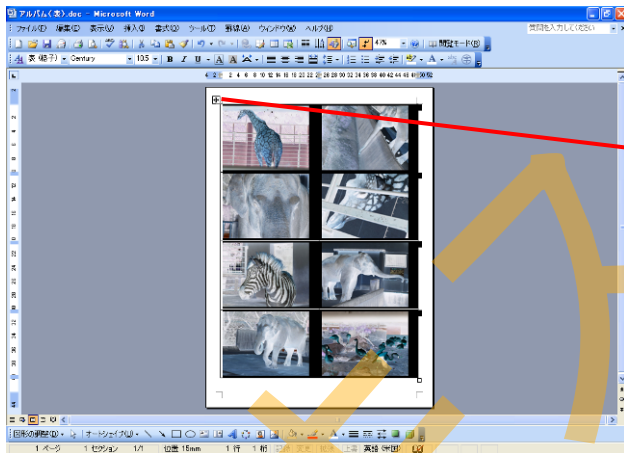
現在、表のセルの中に挿入した写真は左詰めで表示されています。この写真を表のセルの中央に配置します。

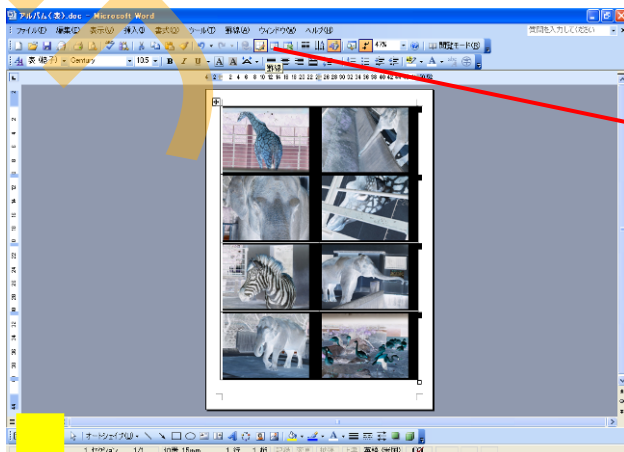
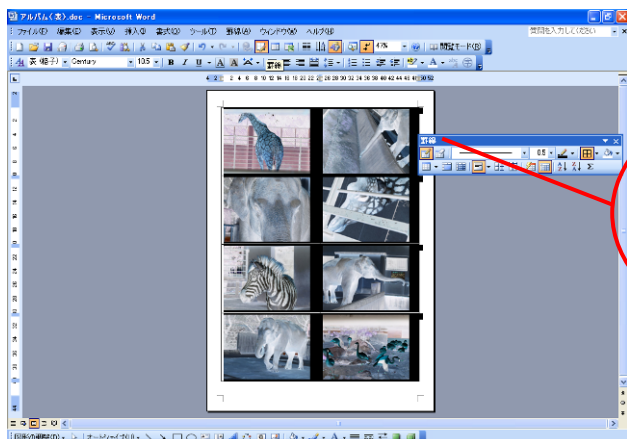
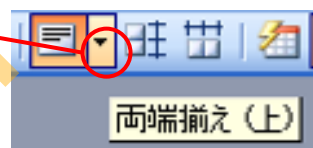
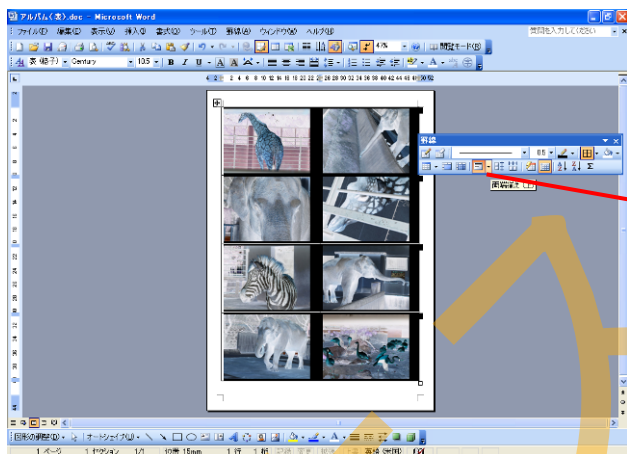
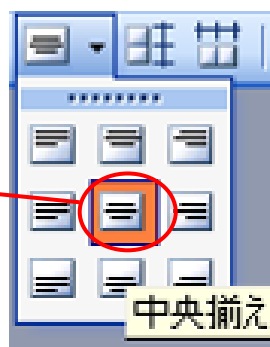
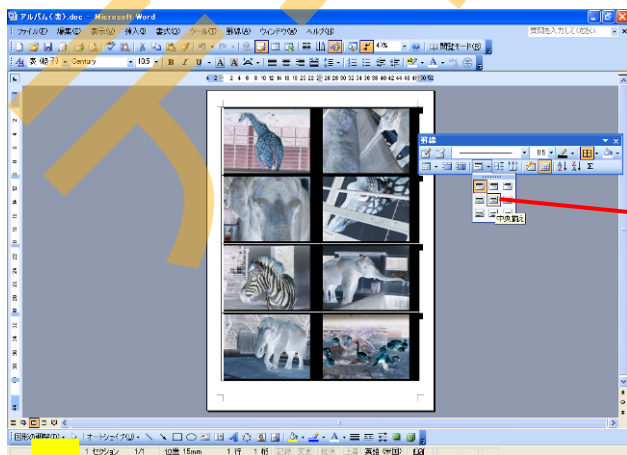
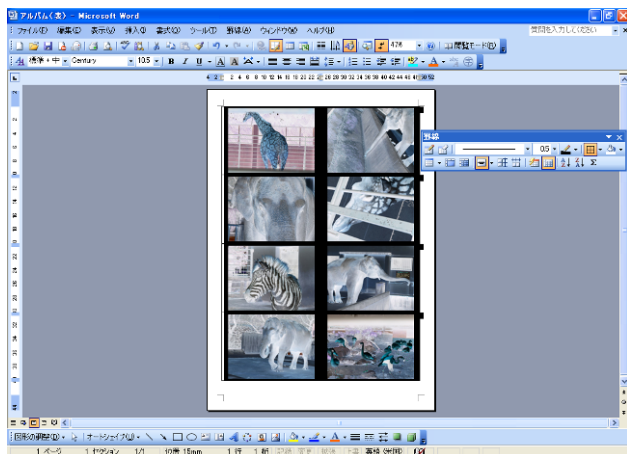
◆写真の配置を変更する方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

表内の任意の位置にポイントします。

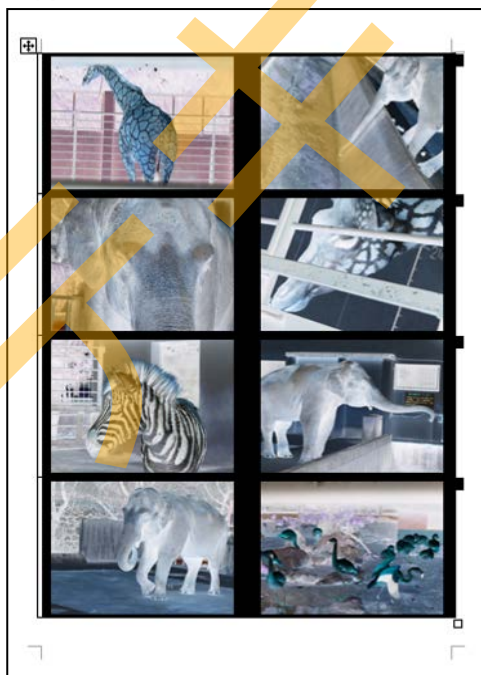
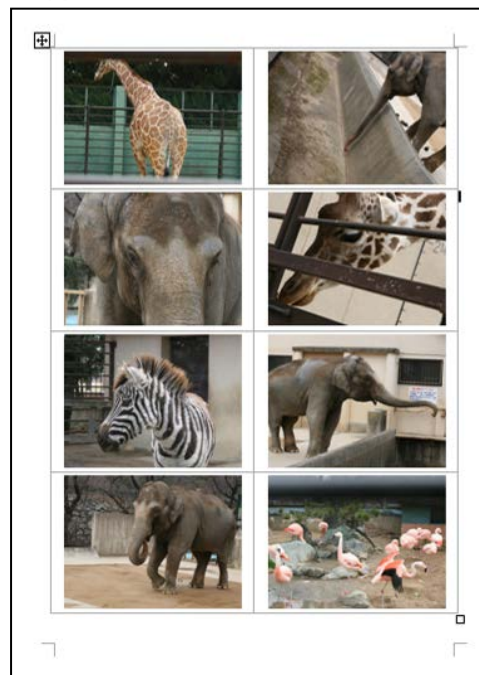
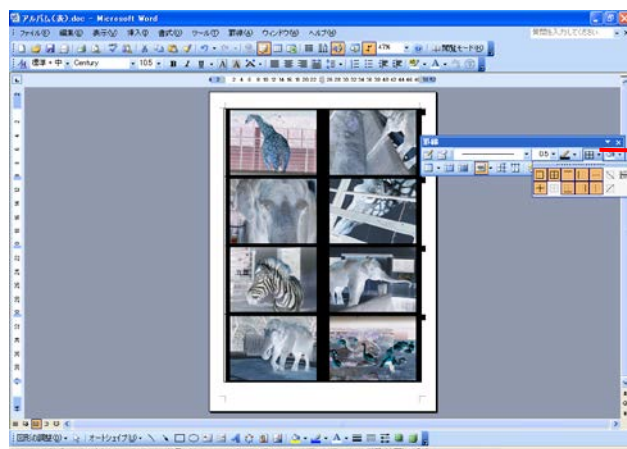
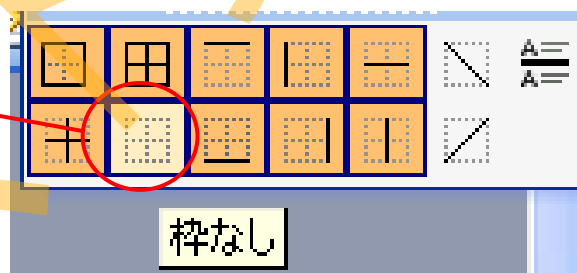
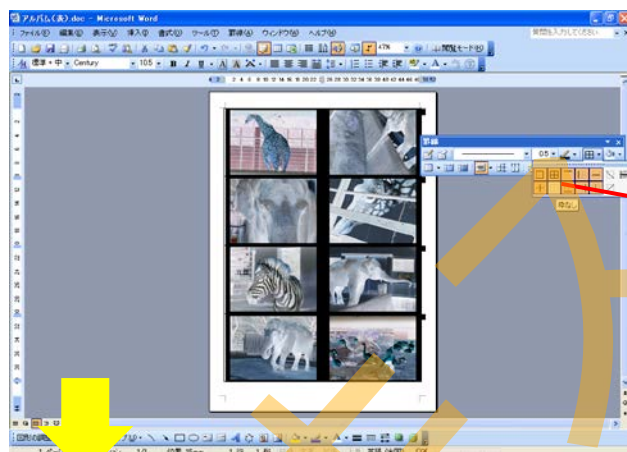
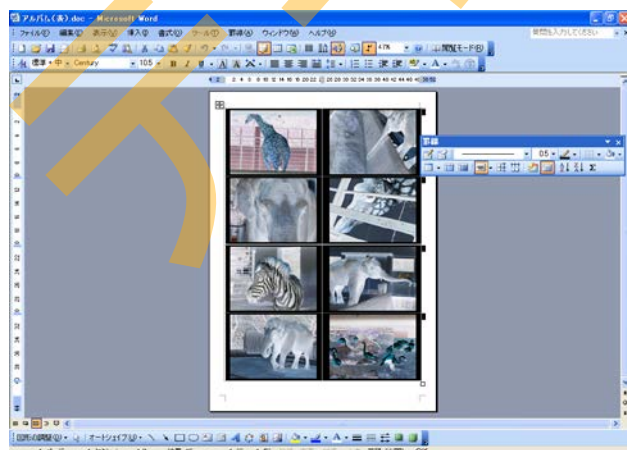
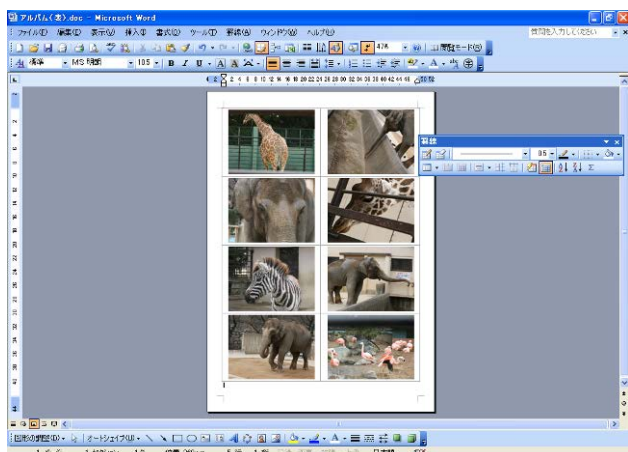
表内であれば、どこにポイントしても構いません。表内にポイントすると、表の左上に[表の移動]ハンドルが表示されます。

表の左上に表示された［表の移動］ハンドルをクリックします。

[表の移動]ハンドルをクリックすると、表全体が選択されます。

ツールバーの［罫線］ボタンをクリックします。

[罫線]ボタンが最初からオレンジになっている方は、既に[罫線]ツールバーが表示されていますので、クリックする必要はありません。

[罫線]ボタンをクリックすると、[罫線]ツールバーが表示されます。

［罫線］ツールバーの［配置］ボタンの▼（両端揃え(上)の隣のボタン）をクリックします。

表示されたボタンの中の［中央揃え］ボタンをクリックします。

[中央揃え]ボタンをクリックすると、写真がセルの中央に配置されます。

（６） 表の枠線を非表示にする

現在、表の枠線は黒に設定されていますが、ここでは表の枠線を非表示にします。

◆表の枠線を非表示にする方法をマスターしましょう。

操作前の状態

操作後の状態

表全体が選択されていることを確認し、［罫線］ツールバーの［罫線］ボタンの▼（［格子］ボタンの隣）をクリックします。

表示された一覧から［枠なし］をクリックします。

［枠なし］をクリックすると、表の黒い枠線が消えて、灰色の枠線が表示されます。この灰色の線は印刷されませんのでご安心下さい。

表の下をクリックして、表全体の選択を解除します。

ここまできたら、「アルバム（表）」という名前で、USB メモリに保存してください。

☆☆ここまでくれば、総合問題で理解度を試して下さい。☆☆